文科系ユーザーのための

HP100LX/200LX 活用ハンドブック

武井一巳★編著

モービルコンピューティングに新しい息吹を吹き込んだHP100LX――そして、さらなる変革を予感させる200LX。本書は、両マシンの現場に最も近い著者達が、その経験と思い入れの限りを尽して100LX/200LXの可能性と活用ノウハウを誰にもわかりやすく説明する。物語風あり、日記風あり、トラブルシューティングありと、読み易さに重点を置いた編集は、持ち歩けるDOSマシンを求める読者に、きっとある決断を迫る。

メディア・テック出版

文科系ユーザーのための
HP100LX/200LX
活用ハンドブック

武井一巳☆編著

メディア・テック出版

CONTENTS

Part 1

by 武井一巳

Part 2

by omimi

Part 3

by 武井一巳

by 西東万里

A:\PART03.TXT
……息が整うのを待って、おもむろに100
ファイルを開く。
高い空に、刷毛をさっとひいたような雲
陽に晒され薄くなりしか絹の雲
ちとお粗末であったか。まぁ最初の1句
さて、句の登録方法であるが、Memoを使
ろん一発でMemoは起ち上がる。しかし、い

by omimi

by SS1

by RIN

Part
10

Part 11

by IIYAN

Part 12

Part 1

by Kazumi Takei

HP200LXへの長い道のり

HP100LXを買う

いまでも、どうしてあれを購入しなかったのか不思議でならない。米国ヒューレットパッカード社（HEWLETT PACKARD）が出したパームトップパソコン**HP95LX**のことだ。ぼくはずっとこいつか欲しかった。

新宿・紀伊國屋アドホック店２階のガラスケースの前で、何度も手に取っては戻し、戻してはながめて嘆息をつき、しかしとうとう自分のものにしなかった。そんなコンピュータは、あれがはじめてだった。

ぼくはうるさいのだ、**モービル・コンピューティング**には。そのへんのモービラーとはわけが違うぞ。

最初に購入したのは、富士通の**FMR-10LT**だった。いまから思えば、なんであんなに大きなラップトップパソコンを購入したのか。でも、だいたいからしてあのころは、あれが一番小さかったのだ。いや、ワープロもいれたらもっと遍歴は長い。

最初にさわったマシンが、**OASYS Lite**――俗にいう**オアシス・クラシック**だ。これを購入するときに迷ったのが、エプソンのなんとかってマシンだった。これが小さいのだ。小さいけど、マイクロカセットを使って、ちゃんとデータのセーブやロードができた。もう10年以上も前の話である。

その後、長いことデスクトップパソコンを使ってきた。途中、**OASYS 30AF**なんてマシンにも手を出した。モデムカード内蔵で、３キロ以上あったけど、**トランスポータブル**と呼ばれた。実際に、友人の事務所まで持っていったけど、そのまま置いて帰ってきた。

本当に持ち運びできたはじめてのマシンは、エプソンの**ワードバンクNote**だった。当時はこれが、ネットワーカー御用達のマシンで、たくさんのネットワーカーが購入して、これでチャットまでしたものだ。画面表示は10行ぐらいじゃなかったっけ。ちょっと厚め、そう、ちょうど月刊アスキー程度の大きさと重さで、しかしちゃんと内蔵モデムもあった。旅先からアクセスした、はじめてのマシンだった。

NECの**98-LT**だって使ったぞ。いつも使ってるデスクトップと、同じ“98”なのにソフト互換がない。こんなのだって、当時は喜んで使ったのだ。

そのあとは、東芝初代ダイナブックだな。**J-3100SS**。これは借り物だったけど、2年近く使った。デスクトップ感覚で使える、けっこういいマシンだった。でも、アタッシェケースに詰め込んで持ち運んだことが5、6回。ちょっと遠くに行くと、肩が抜けそうだった。編集部で撮影をするために、家から持って行かなければならないのが苦痛で、編集部用にもう1台借りてもらった。

そんなとき見たのが、**アタリのパームトップパソコン**だった。見本をメーカーから借りてきて、あっちこっちいじった。よかった。これだ、と思った。手のひらにちょうどのる大きさで、ちょっと大きめの電子手帳といった感じだった。ちょうどAXマシンが出はじめたころだ。ただし、日本語は使えない。

ほどなくして、NECが**HANDY98**を出した。当時のモデムぐらいの大きさで、つまり弁当箱ほどの大きさだ。フロッピーディスクの代わりに、はじめてICカードを使ったマシンだ。デスクトップからソフトを移し、マクドナルドやデニーズに連れていって、けっこう利用した。あるソフトハウスのソフトのマニュアルを書いて、その原稿料の一部としてこのマシンを要求したのだ。原稿料よりマシンが欲しかった。

それから前後して、**OASYSポケット**が出た。買ったね、ぼくも。ちょうど同じころ、**FMR-CARD**も買った。いや、**エプソンのノートパソコン**も買った。ノートは重いから、これはデスクに置き、ここでソフトを走らせて画面を見ながら、もう1台で原稿を書くために使った。

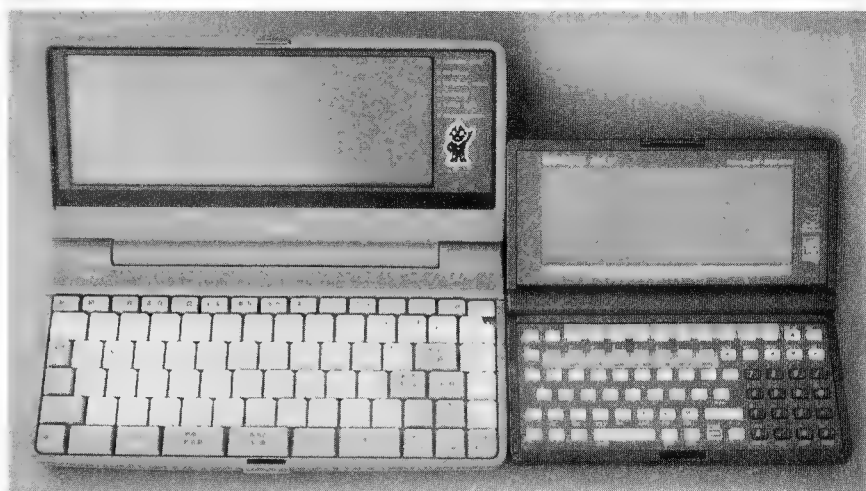
図1.1 OASYSポケットとHP200LX

FMR-CARDは、出先で原稿を書くために使った。印刷所、編集部、喫茶店、あっちこっちで使った。さすがに取材にまで持っていったことはないが、1キロを切るこのマシンは、バックに入れて持ち運んでもまったく気にならなかった。ちゃんと原稿を書くときには、これが最低線のマシンだ。

図1.2　FMR-CARDとHP100LX

OASYSポケットは、電子手帳の代わりにしかならなかった。通信カードを入れ、出先から通信したりしたが、やはりワープロでしかない。パソコンを使い慣れてしまうと、専用ワープロ機はどうにも不便さばかりが鼻についた。いまでもときどき取り出して触ってみるが、これで原稿を書こうという気にはならない。

そんなとき、仕事でアスキーに行った。月刊アスキー編集長の遠藤諭氏が、**95LX**を見せてくれた。アスキー誌でも、ロードテストの記事で95LXの話など書いていた。いっしょに六本木のベトナム料理屋に行ったときも、大事そうに95LXを特製ポーチに入れて持っていった。「クソ！」声には出さなかったけど、うらやましかった。

そうこうしているうちに、**HP100LX**が出てしまった。あこがれの95LXの後継機だ。大幅に機能アップして、しかも大きさは同じ。あっちこっちで話を聞くたびに、まだ持ってもいないのに「いいよ、あれはいいマシンだよ」と、誰かれなくいい触れまわった。

95LXのときから、これに日本語をのせて利用するというパワーユーザーがいた。食指が動いた。またまた虫が騒ぎ出したのだ。

「やりましょうよ、95LXってマシンの解説書」

実は、あっちこっちの編集部でそういう提案をし、企画書を出したのだ。でも、どこも乗らなかった。解説本を書くという名目さえ作れば、どうしたって購入しなくちゃならない。自分を追いつめて、購入しようとしたのだが、企画書が通らないのだ。通らないから、とうとう購入する機会を逸してしまった。

その解説書は、ラジオ技術社からちゃんと出たのだ。『**HP95LXハンドブック**』(藤森洋志・小川浩) という本だった。ほんとうなら、ぼくも出してたはずなのに……。

100LXが出ても、だから欲しかったのだが、どうしても踏ん切りがつかなかった。ATマシンを入れ、Windowsを走らせ、Macintoshを購入。デスクトップまわりの環境の変化が激しくて、モービルマシンにまで手が回らなかったという理由もある。なんてったってAT互換機のブーム、DOS/Vの突破的なブームだ。とりあえずATが、そしてMacが先決だった。

しかし、100LXが欲しいという気持ちはつのるばかり。この原稿が上がったら買っちゃおう、次が終わったら絶対買うぞ……。

100LXを買えば、**DOS/C**化だの日本語化だのと、首まで漬かりきってしまうのは目に見えている。そうやってまっさらなマシンを、自分の手に馴染ませていくのが、大きな声じゃいえないけどぼくは好きなのだ。締め切りに追われて、「これが終わったら絶対買うぞ」と何度も何度も、何度も何度も心に誓ったのである。

そして、とうとう買ってしまったのだ。ちょうどパソコン通信でHP100LXの話題が沸騰しているときだった。

ブツがない!

原稿が進まず、徹夜明けでボーッとした頭のまま、「ちょっと秋葉原に行ってくる」と妻に宣言した。

「クソ！　楽しそうだな」

NIFTY-Serveの「**本と雑誌クリエイターズ**」フォーラムの電子会議室を見ていて、そのとき書いていた原稿が終わったらぼくも100LXを買うのだと決めていたのに、原稿が上がるまで待ちきれなくなってしまったのだ。

実は、その前日にも打ち合わせで新宿まで出て、あっちこっち探したのだが、ない。**ブツがないのだ**。もちろん、紀伊國屋アドホック店にも行った。ガラスケースのなかには、95LXはあるが100はない。

「100LXの2MB版ありませんか？」

「すみません、**在庫がない**んですよ」

「いつ入ります？」

「来月早々には入荷しますから」

そうか、あと１週間くらいだな、とつぶやいたけど、＜**欲しい！**＞という気持ちを抑えられない。

「1MB版でいいから、ありませんか？」

こうなったら、1MB版でもいいや。まさか、このマシンで原稿を書くわけでもないし……。

「**1MB版もないんですよ、すみませんね**」

ない！　ないのだ。となるとどうしても欲しくなるのが人情ってものでしょう。でもないのだ。どこにいってもブツがない。

実は、あっちこっち探していたら、IBMの**Think Pad**が13万で出ているではないか。B5判で、メモリ4MB、80MBのHDD内蔵だ。100LXは2MB版に20MBのフラッシュカードをつけたら、それだけで20万円近い。しかも、一方は386、100LXは186。一方は日本語Windowsも難なく動くのに、100LXでは日本語化にも手間どる。

ちょっと食指が動く。新製品が発表されて、急激な値崩れが起こっているのだろう。でも、ぼくが欲しいのは100LXなのだ。小さなパソコンじゃない。高性能なパソコンでもない。100LXが欲しいのだ。

もんもんとした１日をすごし、徹夜明けのボーッとした頭で、「秋葉原に行ってくる」と宣言したというわけだ。

午前中の10時台だというのに、中央線はまだ通勤客で混み合っていた。お茶の水で総武線に乗り換え、秋葉原の改札口を抜けて、目指すは、**T-ZONE**。

T-ZONEの２階――ここでもHP100LXがガラスケースに入っているのを、ぼくは知っている。いつだってここに来ると、必ずケースのなかをのぞくのだ。あるある、HP100LX 56,000円……ん？　安いな～。なになに、FLASH PACKER……。おいおい、ぼくが欲しいのは本体だってば。

「すみません、100LXの2MB版はありませんか？」

「(奥に向って) お～～い、100は入ったの？」

(ゴニョゴニョ)

「あ、**いま入ったようですから**、ちょっと待ってくださいね」

やった！　あったぞ。ここになかったら、あとはぷらっとホームに行って、そっちにもなかったらオークビレッジで探し、さらにコンピュータジャパンに

行き……、そんなことを考えていたのだ。1軒目で、それも入荷したばかりのほかほかのやつに出会えたのだ。

待つこと10分。どうしちゃったんだろと、ソフトのパッケージを見るのにも飽きてきたころ、

「お客さん、はい」

とブツが出てきた。意外に小さい。小さいのだが、マニュアルだのなんだのがいっしょになっていて、意外にパッケージは大きいと予想していたのだが、小さい。

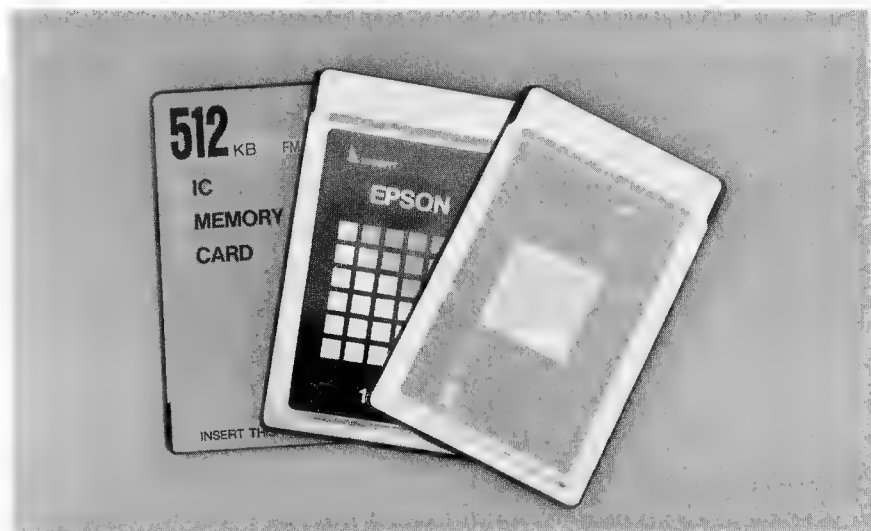
「あ、それと10MBのFLASHも」

「セットですね。セット価格は……」

本当は20MBを購入しようと思っていたのだ。いや、最後まで10MBにしようか20MBにしようか迷っていた。が、秋には40MBのカードが出るという情報もあった。

Windowsが動くわけでもないし、omimiさんの名著「**HP100LX HYPERゴク楽環境大作戦っ！**」には、1MB版+2.5MBMemory Cardで十分だと書かれていた。エディタと内蔵PIMと、日本語化だけなら、たしかにこれで十分だろう。十分なんだけど、やっぱり1MB版より2MB版が欲しい。

だいたいからして、ぼくが出先で使ってるFMR-CARDなんて、メモリは720

図1.3 PCカード

KB、2MBのメモリカードで、たいていのことが間に合っているのだ。それでもけっこうな量のソフトが入っている。日本語はもちろん、エディタも通信ソフトも、そのほか便利なフリーソフトも、実にたくさん入っている。それでちょうど2MBのカードがいっぱいで、もう1枚の2MBカードをデータ用に使っている。

100LXだって同じようなものだろう。日本語化のためには、フォントだのドライバだのといった領域が必要だが、それにしたって5MBもあれば十分だろう、と考えていたのだ。10MBカードを買って、それで足りないようなら、40MBを買えばいいのだ、わっはは。

待ちに待った**2MB版100LX本体**と、**10MBのFlash Packer**を買って、他の店にはわきめもふらずに電車に乗った。

家に帰ったら、今日は祥(しょう)(息子・次男)のプールの日で、しかも章(あきら)(息子・長男)がキャンプから帰ってくるから、国立まで行ってくれと頼まれる。やだよ、ぼくはこれから100LXと遊ぶのに忙しいのだ、と言いたいところだけど、ぐっとこらえて祥をプールに連れていく。章は4年生。3泊4日で学校が持っている信州の山荘に行っていて、夕方帰ってくるのを迎えに出なければならないのだ。こちらは妻が行くことになった。3人いっしょに国立までクルマで出る。プールの駐車場にクルマを置き、妻は電車で八王子に。ぼくは祥が泳いでいるあいだ、久しぶりに国立の本屋を回った。

国立は、さすがに学園都市といわれるだけあって、本屋がけっこういいのだ。駅前の東西書店の3階には、パソコン関係の本がかなりそろっている。大通りの増田書店は、文芸書が充実している。丸山健二の『まだ見ぬ書き手へ』と、花村萬月の新刊『風に舞う』を買ってモスバーガーに入る。

5時にプールに行き、祥を出していると、妻と息子がやってきた。リュックはクルマに置いてきたとか。クルマまで戻ると、どこかで食事して帰ろうという。おいおい、オレは早く帰って100LXと遊びたいのだ！　早く日本語化してやりたいのだ。アドホックでちょっとだけいじったことがある**PIM**(個人情報管理ソフト)を、存分にいじり倒したいのだ！　そして時間があまったら、書きかけの原稿を仕上げてしまわなきゃいかんのだ。

腹のなかで毒づきながら、哀れな中年男は、家族を引き連れてファミリーレストランに向ったのだった。

HP100LX事始め

パッケージを開くと、**厚いマニュアル**と**保証書**、それに薄めの**Quick Start Guide**が出てくる。Flash Packerのほうは、透明プラスチックケースに入っていた。

パッケージから本体を出し、いっしょに入っていた単3電池2本を入れ、さらにボタン電池を入れる。Flash Packerのほうは、すでにフォーマットされたハードディスクのようなもの。そのままカード挿入口に突っ込めば、フロッピーディスクと同じように使えるようになっている。

まず最初にするのは、電源を入れること。蓋を開け、右上の電源ボタンをONにする。すると、名前を入れろと出てくる。まだ日本語は使えないから、ローマ字で名前を入れる。次に**Title**を入れろと出るが、ここはそのまま。**Company**は？　ここもいいや。

ENTERキーを押すと、内蔵されている**PIM**(Personal Information Management：個人情報管理ソフト）が起動した。画面にはいくつものアイコンが並び、まんなかにいま入れた名前が表示されている。

ちょっといじってみようかな、とカーソル移動キーを押すと、ピッと怒られた。ん？　もう一度押すと、またピッと怒られた。アイコンを選ぼうと、カーソル移動キーを押しただけなのに、どうして怒られなきゃならんのだ。**ESC**キーを押してみる。ピッ。じゃあ、**TAB**はどうだ。ピッ。この黄色の矢印はどうかな。ピッ、ピッ。変だなあ、ピッ、ピッ、ピッ……。

キーボードには、**ブルーのアイコンつきのキー**がある。これならどうだ。そう思って押してみると、画面が変わるではないか。ふむふむ、で、**ESC**キーを押す。これでトップメニューに戻るかな――ビッ。今度はさっきより低い音のビッだ。

わからない。キーボードを子細に点検する。自慢じゃないが、キーボードはいくつも持っている。98もあれば、アスキーボードもある。AT用英語キーボードもあるし106型も、さらに日本IBM純正キーボードとAT用親指キーボードまである。そして、Mac純正だってある。たいていのキーボードには驚かない。

15.5cm×8cm×2.5cmの100LXには、80個のキーがのっている。小型のアス

キーボード（36.5cm×19cm）だって、88個のキーしかない。文字キーの並びは、いわゆる**QWERTY配列**で、右側には数字のテンキーまで並んでる。10個のファンクションキーに、8個のアプリケーション起動キー、それにカーソル移動キーやALT、Fn、MENUなどというキーまである。

ブルーのアプリケーションキーのなかの&...を押してみる。すると、PIMのアプリケーションがアイコンになった一覧画面になるではないか。この画面なら、カーソル移動キーを動かし、好きなアプリを選ぶこともできる。

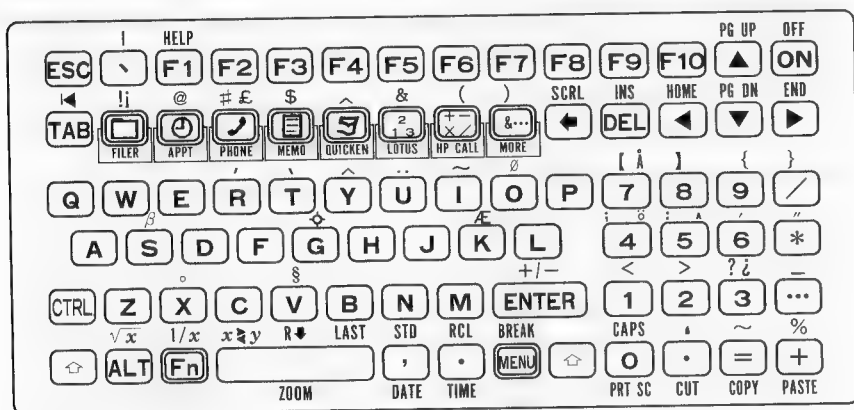
さらにアプリのなかでは、MENUキーを押せばメニューが表示され、そのなかからさまざまな機能を選ぶこともできる。

ひととおりPIMのアプリをいじってみたが、結局のところ英語だから面白くない。この小さなマシン、しかも英語マシンだというのに、日本語が表示され、なおかつこれを日本語で利用できるという点が面白く、それが100LXの醍醐味なのだ。

PIMを終了させる。アプリ一覧画面でMENUキーを押す。Quitだな……。あれ、トップカード画面になっちゃったぞ。じゃあここでMENUを……。ピッ！

終わらない！　電源をOFFしても、こいつには**レジューム機能**があって、次に電源ONすれば、OFFした直前の画面になってしまうのだ。さりとてリブートしても、やはりPIMが立ち上がってしまう。

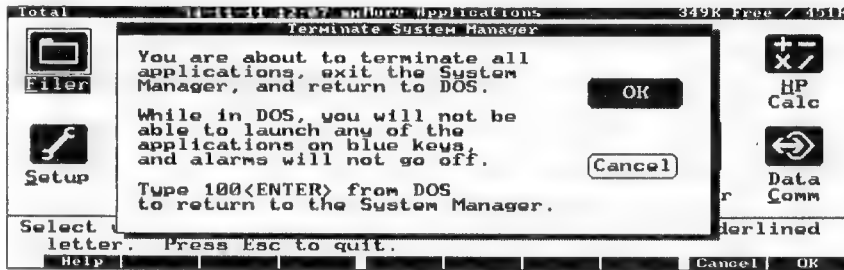
そこで&...キーでアプリ一覧を表示させ、ここでMENUを押して**Applica**

図1.4　HP100LXキーボード図

tionを選び、**Terminal All**を選択する。実は、omimiさんの「ゴク楽環境大作戦っ！」にちゃんと載ってるのだ。MENU - A - T で、PIMが終了する。

> **You are about to terminate all applications, exit the System Manager, and retern to DOS.**

なのだ。システムマネージャを終了して、DOSに戻るのだ。さらに、DOSからシステムマネージャを起動するには、「**100**」と入力しろと書かれている。

とりあえず終了する。DOSに降りる。見慣れたプロンプトが表示されている。ここで「**100**」と入力すれば、**システムマネージャ（シスマネと省略して呼ばれることが多い）**が起動され、PIMの各アプリケーションが使える。

図1.5 PIM終了画面

さて、100LXの日本語化だ。omimiさんの「HP100LX HYPER ゴク楽環境大作戦っ！」は読んである。BNN発行の『**HP100LX 徹底活用ブック**』（FMODEM携帯端末研究会）は、初版が出たその日に買っていた。3月末のことだから、なんと本体を手に入れる3か月も前に本だけは買っていたことになる。

PIMを日本語化するのは、なかなか煩雑だ。必要なのは、画面表示のための**ディスプレイドライバ**と、ここで日本語を表示するための**日本語フォント**だ。そして欲をいえば、このなかで**日本語を入力するためのシステム**が必要になる。

ディスプレイドライバは、**かづひ氏のKDISP100.COM**、日本語フォントは**恵梨沙フォントPJ**が手分けして作ったという**恵梨沙フォント（ELISA.FNT）**だ。日本語を表示するために、フォントを作ってしまったというところが何ともすごい。そういう有志が集まるというところが、100LX（95LX時代から）のすごいところなのだ。

日本語化する前に、まずファイルを転送しておかなければならない。が、100LXにはフロッピードライブなんてない。フロッピー経由という手は使えないのだ。そこで、通信を利用することになる。もちろん、ダイレクトにつなぐわけだ。通信ソフトそのものは、PIMのなかに入っている**DataComm**を使うことになる。

DataCommをのぞいてみると、CompuServeやGENIEにアクセスするための設定ファイルさえある。利用できるプロトコルは、**XMODEM**、**YMODEM**、**ZMODEM**、**KERMIT**などだ。

でも、実際にはぼくはこれを使わなかった。もっといい手があるのだ。

この100LXは、**PCMCIA Ver.2.0**を採用していて、この規格のICカードなどが利用できる。そして、このPCMCIA Ver.2.0では、日本のICカードの規格である**JEIDA Ver.4**に準拠するものが利用できるのだ。これまで使っていたFMR-CARDやOASYSポケットのICカードが使えちゃうのである。FMR-CARDと98をつないで、互いにデータをやりとりしていたから、この手を使ってFMR-CARDのICカードにソフトを入れ、そのまま100LXで読み取って内蔵のメモリに移してしまえばいい。そして、スロットにFLASH PACKERを入れ替えて、再びこちらに移しちゃえばいいのだ。

実は、100LXが便利に使えるようなら、思い切って(というほどじゃないが)ATマシン用にPCMCIAカードドライブをつけてしまおうと思っているのである。そうなると、ATのハードディスクと100LXのカードの間で、ダイレクトにデータやプログラムをやりとりすることができてしまう。

というわけで、必要なファイルをNIFTY-Serveの**FYHP**からダウンロードし、あるいは「HP100LX徹底活用ブック」付属のディスクからピックアップして、次々と100LXに移していったのである。内蔵の2MBがいっぱいになったところで、10MBのFLASH PACKERに入れ替えてこちらにコピーしなおし、コピーしちゃったやつは削除して、再びICカードに入れ替えてファイルをコピーする。3回ほどで、必要なファイルはすべてFLASH PACKERにおさまってしまった。さあ、日本語化だ。

内蔵アプリで日本語表示

AT互換機のブーム、というかDOS/Vのブームというか、とにかくPC-9801以外のマシンがここ3、4年ほど大きなブームになっている。

かつてPC-9801以外のマシンといえば、98互換機のエプソンのマシンが、さらにノートパソコンとして画期的な商品作りをした東芝ダイナブックが、ある時期大ブームになったことがある。Macintoshはブームではなく、根強い"人気"がずっと続いている。

DOSから**Windows**へという流れのなかで、必然的に98シリーズからATマシンのブームが起こり、結果的に**DOS/V**もブームになった。DOS/V雑誌が創刊されるたびに、記事を書いてくれませんかだの、連載しませんかだの、あるいはコラムを書きませんかだのといった注文がぼくのところにもきた。

「だから～、AT互換機なんて知らないのよ」

と最初は断っていたが、断りきれなくてブームになる寸前から、ぼくもAT互換機を入れ、連載やコラムを書きつづけた。最近、廃刊したけど。

AT互換機だから、当然ながらDOS/Vを使う。これが面白い。ATマシンという、いわば海外のマシン、というよりは**世界標準マシン**で、ソフト的に日本語を利用できるようにしたのがDOS/Vだ。この点で、国産マシンと大きく異なっている。

DOS/Vの原理を簡単にいってしまえば、おおもとのDOSの上に、画面表示用に特別の**ディスプレイドライバ**を乗せ、その上で走る**フォントドライバ**を乗せ、これで日本語を利用できるようにしているのだ。おおもとのDOSが同じだから、モードを切り替えれば英語ソフトが走るし、日本語モードにすれば日本語ソフトが走って、この上で日本語を表示したりかな漢字変換を行なったりすることもできる。

このDOS/Vは、日本で売られている国産マシン用に移植されたどのDOSよりも、おおもとの**ピュアな英語DOS**に近いだろう。その証拠に、英語DOSの上にDOS/Vのディスプレイドライバとフォントドライバ、それに日本語フォントを移して環境設定すれば、日本語が使える独自のDOS/Vになってしまうのだ。

DOS 6.0が出たときには、海外輸入品のDOS 6にDOS 5.2/Vのディスプレ

イドライバやフォントだけを移して、勝手にDOS 6/Vを作って使っていたユーザーも少なくない。ぼくもそうだったっけ。しかも、この独自DOS/V上から、なんと日本語Windows 3.1も起動できたりした。

こんなちょっと専門的な話をするのは、実はわが愛しのHP100LXを日本語化するために、知っておいたほうが話が早いからなのだ。HP100LXは、こんな小っちゃなボディながら、**IBM互換機**なのである。

ただし、IBM互換機のなかでも、**CGAモード**を持つIBM PC互換機だ。現在、IBM互換機とよばれるのはIBM PC/AT互換機、俗にいう**AT互換機**をさす。

AT互換機というのは、画面が640×480ドット以上で、CPUが80286以上のマシンになる。**PC/XT互換機**というのはその1つ前の互換機で、8086互換CPUを搭載し、640×200ドットのCGAモードを持つマシンだ。ちなみに、ダイナブックやAXマシンは、8086以上でEGA(640×350ドット)を拡張して日本語を表示するという規格のマシンだった。

これを640×480まで広げたのが**VGA**で、さらに現在主流となっているのは800×600、あるいは1024×768ドットなどの**S-VGA**(スーパーVGA)と呼ばれるものである。そして、DOS/VではこのVGAの上で640×480以上、1024×768などの画面モードで日本語を表示する**V-Text**が実現している。

そうなのだ、100LXではどうあがいてもV-Textは実現できないのだ。ここがポイント。80286以上のCPUでなければDOS/Vは走らないのだから、当然80186 CPUでCGAの100LXでDOS/Vは走らない。

走らないものの、しかしDOS/VはDOSの上で、ディスプレイドライバとフォントドライバを日本語対応のものにし、さらに日本語フォントを読み込むことで、日本語を表示できるようにしている。そして、V-TextはこのVGA上で640×480以上のモード、つまり1024×768ドットなどの上で132桁×50行といった日本語表示を可能にしたのだ。

では、その逆はどうか。つまり、640×200ドットというCGAの上で日本語を表示してしまうのだ——これが画期的な「**DOS/C**」の発想なのである。

というわけで、日本語化だ。100LXの日本語化には、実は2つの日本語化がある。1つは**シスマネ**、つまり**内蔵アプリ上での日本語化**。もう1つは、**DOS画面の日本語化**、つまり**DOS/C化**だ。

図1.6 PIM日本語入力画面

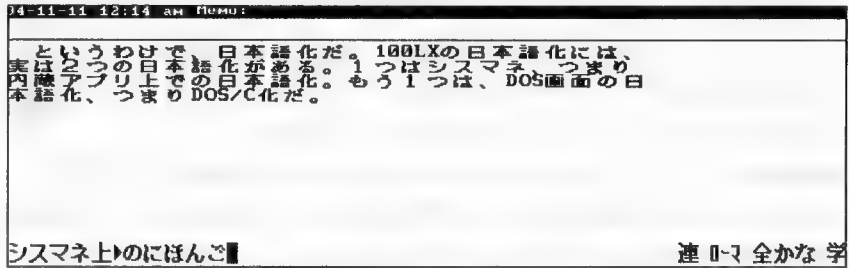
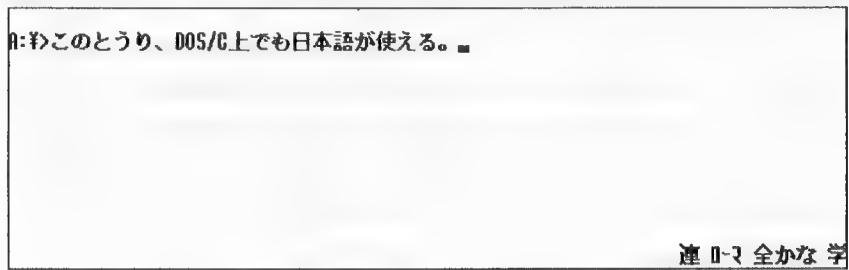



図1.7 DOS/C日本語入力画面

シスマネ上の日本語化を行なっても、DOS画面に戻れば日本語は表示できないし、もちろん日本語入力なんてできない。一方、DOS/C化を行なってDOS画面で日本語が表示できても、それだけではシスマネのアプリ内で日本語は表示されない。100LXを日本語で利用しようと思ったら、この両方を日本語化しなければならないのだ。

まず、シスマネ上の日本語化。これはわりと簡単にできる。もちろん、簡単に日本語化できるからって、やってることが簡単なわけではない。すごいソフトがあるからだ。

かづひ氏（寺崎和久氏）が作成している**KDISP100.COM**だ。このソフトは、HP95LXの日本語化から進められている日本語フォント「**恵梨沙フォント**」（恵梨沙フォントPJ作）を利用して、シスマネ上での日本語化を実現してしまったソフトである。**KDISP100.COM**を常駐させるだけで、シスマネの内蔵アプリ内で日本語表示が可能になるのだ。

というわけで、**KDISP100.COM**と恵梨沙フォントを**FLASH PACKER**にコピーし、コマンドラインで「**KDISP100**」と打ってみた。これで、日本語化されちゃ

うのだ……。

ところが、フォントがないとつれないエラー。ないわけ、ないんだよ。ちゃんと恵梨沙フォントをコピーしたんだから。それも、恵梨沙フォントを解凍して、**ELISA080.FNT**もちゃんと**ELISA.FNT**とリネームしてあるんだから。間違いないはずなんだよ……。でも、フォントがないってエラー。そこで、じっくり**KDISP100**のドキュメントを読んでみた。あったあった、**KDISP100.COM**はルートディレクトリに**KDISP100**というサブディレクトリを作成して、ここに恵梨沙フォントとともに格納しなくちゃならないのだ。とりあえずやってみようなんて思っていたから、全部ルートディレクトリに展開していた。

そこで、**KDISP100**というサブディレクトリを作成し、**KDISP100.COM**と恵梨沙フォントを移動し、Alt＋CTRL＋DELでリブートしてみた。今度はエラーメッセージは出ない。

コマンドラインで**100**と打つ。シスマネが立ち上がる。**MEMO**を起動し、日本語ドキュメントを読み込んでみた。大成功！　日本語の文章がちゃんと画面に表示されているではないか。しかも、Fn＋SPACEを押すとZOOM機能が働き、大きめのフォントと小さめのフォントなどが何段階か切り替わる。これはすごい。

と、ここまではほんの30分～1時間もあれば、誰だってできることなのだ。100LX日本語化、恐れることはないぞ。ファイルのコピーだの移動だのってのは、シスマネの**Filer**を使えばいい。**MEMO**を使えば、**CONFIG.SYS**や**AUTOEXEC.BAT**だって簡単に書き換えられる。とりあえずこれで、シスマネ上で日本語表示ができるようになったわけだ。

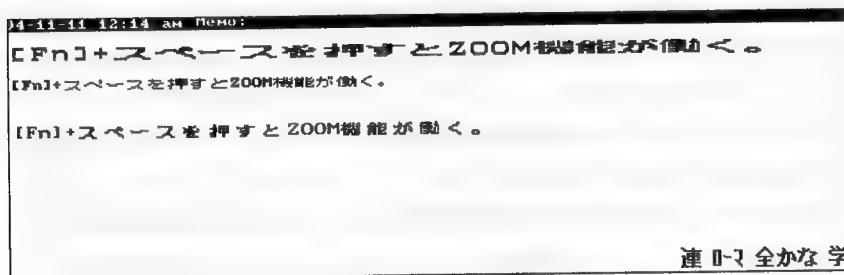
となると、このシスマネ上で日本語入力ができるようになりたいってのが人情というもの。次は、日本語入力への挑戦だ。

図1.8　ZOOM機能画面

```
)4-11-11 12:14 am Memo:
[Fn]+スペースを押すとZOOM機能が働く。
[Fn]+スペースを押すとZOOM機能が働く。

[Fn]+スペースを押すとZOOM機能が働く。




                                   連 0-9 全かな 学
```

シスマネ上の日本語入力に挑戦

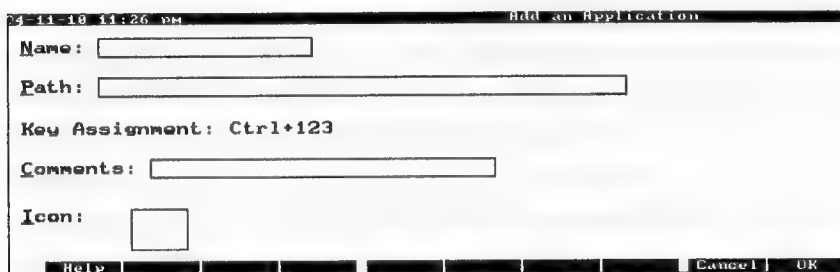
HP100LXの**PIM**上で、日本語を表示することができるようになった。こうなると、どうしたって同じPIM上で日本語入力も行ないたい。日本語入力といっても、ただ日本語が入力できりゃいいってもんじゃない。かな漢字交じりの日本語の入力だ。そう、**かな漢字変換**を行なおうというわけだ。

DOS上で日本語のかな漢字変換を行なうためには、**日本語かな漢字変換プログラム**、いわゆる**日本語FEP**を利用するというのが普通だ。デバイスドライバとして、DOSに組み込むわけだ。これはすでにDOSが用意しているキーボードの入力用ドライバの手前に割り込む形で動作し、キーボードから入力した信号を受け取ってかな漢字変換を実現するものである。

ところが、これはDOSが日本語に対応する日本語DOSだから可能なこと。いまではAT互換機上で日本語入力ができるじゃないか、と反撃されそうだが、これだってDOS/Vという日本語に対応するDOS上だからだ。AT互換機の英語DOS上では、いくらFEPを組み込んでも、正常な日本語入力なんてできない。

もっとも、この**英語DOS**に**日本語表示用のデバイスドライバ**と**日本語フォント用のフォントドライバ**を組み込むと、なんと日本語入力が正常にできるようになってしまう。実は、100LXの日本語化では、ここも重要ポイントなのだ。

まだ日本語化されていないDOSのプロンプトで「**100**」と入力すると、PIMが起動される。前述したように、日本語化されていないDOS上だから、このPIMで日本語入力を行なうには特殊な方法が必要になる。それを可能にしたのが、**NORI**氏が作成したシェアウェアの**FEP100**というソフトだ。

さらに、この**FEP100**を使った**日本語辞書**が、やはりNORI氏の作成したフリーソフトウェアの**JISHO_S**、**Tadayosi Koyama**氏が作成した**JISHO_M**といったソフトだ。SがSサイズ辞書で、MはMサイズ辞書なのはいうまでもない。どちらかを利用するが、使うときは**JISHO.IDX**というインデックス部と**JISHO.DIC**という辞書部が必要になる。

FEP100は、PIM上で動作する日本語変換プログラムだが、これは他のPIM上のアプリと同じように、**EXM**形式のプログラムになっている。これをやはり他のアプリと同じくPIMのメニューに登録して利用する。が、これがけっこう大

変なのだ。

FEP100には**FEP100.ENV**という環境ファイルがあるが、インストールするときに自分の環境に合わせて、この環境ファイルを作成・変更しなければならない。もっとも、最初から設定されている**FEP100.ENV**があるから、環境に合わせて必要な部分を書き換えればいいだけ。親切この上ないからだいじょうぶだ。大事なのは、辞書やフォントファイルがどのディレクトリに入っているか間違えないことと、「1」だの「8100」だのといった数字が書かれているが、それを削除したり訂正したりしないといったこと。

PIMにアプリを登録するには、青い&...キーを押して**More Application**画面にし、ここでF2キーを押す。**Add**と書かれているが、つまりアプリケーションを追加するキーだ。

図1.9 アプリケーションの登録画面

4-11-10 11:26 PM　Add an Application
Name:
Path:
Key Assignment: Ctrl+123
Comments:
Icon:
Help　Cancel　OK

画面は一転して、「**Name:**」「**Path:**」「**Comments:**」「**Icon:**」といった登録画面になる。**FEP100**と記入し、**FEP100.EXM**ファイルを絶対パス名で書き込む。さらにF4キーを押して、**FEP100**を立ちあげるべき起動キーを設定する。

実は、ここからが**FEP100**の裏技ともいうべき部分なのだが、ここで起動キーとしてALT＋F2を押すのだ。とりあえず、これで登録画面に戻るから、ここでF10を押して登録を終了する。

実際は、このままでもいい。**Appointments**や**Phone Book**画面で、ALTキーとF2キーを同時に押すと、最下行に見慣れたFEP入力行が出る。ローマ字で入力してSPACEバーを押せば、なんとかな漢字変換が行なわれるではないか。こいつはすごい！

早速、Phone Bookで登録してみた。ぼくがこの手のソフトを使うとき、まっ先に入力するのは、自分の名前と住所だ。

ところが、「武井」が出ない。しかたないから1文字ずつ変換させる。「一巳」も出ない。これも1文字ずつ変換していく。もちろん、だからってFEP100の欠点ではない。PIM上で日本語入力が行なえるだけで大感謝ものなのだ。自分の名前が出ないなんてことで文句をいったら、罰があたるってもんだ。

FEP100の起動キーとして、ALT＋F2を登録した。これは実際に使うには、あまり便利なキーではない。そこでPIMを終了させ（MENU-A-T）、DOSプロンプトでFEPSETを実行する。これもNORI氏の作成したフリーソフトで、FEP100の起動キーを書き換えてくれるプログラムだ。

DOSプロンプトでFEPSETと入力・実行する。ただ、それだけ。それだけなのだが、実はもちろんFEPSETはちゃんと動いてくれる。

Aドライブのルートディレクトリ、またはC:¥_DATディレクトリに、APNAME.LSTというファイルがある。これはPIMにアプリを登録したときの、登録情報ファイルだ。Aドライブにあるプログラムを登録すればAドライブのルートディレクトリに、Cドライブにあるアプリなら C:¥_DATディレクトリに、それぞれAPNAME.LSTファイルが作成される。

このAPNAME.LSTファイル内に、FEP100も当然記述されている。PIMに登録したのだから当然なのだが、その記述には起動キーに該当するキーコードが記述されている。そのコードを、「8100」に変更してくれるのがFEPSETプログラムなのだ。

8100？　そう、これはALT＋Oキーのキーコードだ。つまり、FEPSETを利用してAPNAME.LSTのFEP100のキーコードを変更すると、PIM上でFEP100を立ち上げてかな漢字変換を行なうとき、ALT＋Oを押せばいいことになる。どのキーだろうが、慣れてしまえば同じような気がするが、実はPIM上でAdd機能を使ってアプリを登録すると、このキーコードがころころと変わってしまうのである。この変更を、FEPSETが即座に元に戻してくれるというわけだ。

再び、PIMを立ち上げる。Phone Bookを起動して、ALT＋Oを押すと、最下行にFEP100のかな漢字変換行が表われる。友人の名前を入れ、電話番号を記入し、住所を入れていく。喫茶店でふと思いたって100LXを取り出し、ポッポッポとキーを押して友人の電話番号を表示させ、電話をかける。あるいは、ホテルのバーのほどよく落とした照明の下で、100LXを取り出して恋人の電話番号を表示させる。そんな光景を思い浮かべて、ぼくはひとりニマ～と笑いがこ

み上げてくるのを堪えることができなかった。ビョ～キだな。

図1.10　Address日本語入力画面

いよいよDOS/C化！

PIMの日本語化に成功したら、今度は**DOS/C化**だ。HP100LXのPIMは、たしかによくできている。だが、ぼくがこのマシンを選んだのには2つの理由がある。

ひとつは、これまで遍歴してきた電子手帳を、なんとかパソコンに置き換えたいためだ。仕事柄か、それとも趣味なのか、ぼくは学生時代からシステムノートを利用してきた。最初に使ったのが、ナラコンピュータシステム研究所というところが出していた**System Diary**、通称**SD手帳**というやつだ。よくできた手帳で、8穴式の、いまでいう小型のシステム手帳のはしりだった。もう20年以上も前のことだ。20年前からリフィル式だったというのが驚きではないか。

これが4、5年。ちょっと小さくて、仕事をしていて不便を感じるようになったため、まだ出はじめたばかりの聖書版システム手帳、**ファイロファクス**に換えた。これが10年くらい。実は、100LXを使っているいまでも、ファイロファクスも併用している。二段構えなのだ。いや、デスクトップには**ロータスOrganizer**が入っていて、これもちゃんと使っているから三段構えともいえる。パソコンというのは、いくら注意していても、データは消えるもの。消えてしまって泣く前に、ぜったい消えない紙での保存も必要なのだ。

ご多分にもれず、ぼくもシステム手帳と併行して、電子手帳を利用していた。出先でちょっと電話をしたいとか、ちょっとスケジュールを確認したいなんて

とき、分厚い手帳よりも電子手帳のほうがスマートなのだ。手軽なのだ。

ところがこの電子手帳は、データは電子的に蓄えられているというのに、パソコンとデータのやりとりをしようとすると、なんとも不便なのだ。できないわけじゃないが、煩わしいのだ。ちょっとしたメモや電話番号やスケジュールなら、パソコンにも電子手帳にも、どちらにも打ち込んでしまったほうが早い。片方に打ち込んだものを共有しようなんて思うから、煩わしくなる。

しかし、データがそのまま共用できたらどうか。**デスクトップとデータを共有できること**、これが100LXを選んだ理由の1つだ。この共用を手軽にするために、デスクトップにカードドライブも装着したが、これについては後述する。

2つ目は、デスクトップでやっている作業とまったく同じことを、電車の中や喫茶店や公園のベンチでもやりたい、という理由だ。つまり、手軽に持ち運べるパソコンが欲しかったのである。

ひとつ目の理由は、100LXのPIMでだいたい解決した。が、2つ目の理由は、100LX本来の英語DOSでは解決しない。これを解決するためには、ぜひとも100LXのDOSの日本語化が必要なのだ。これがDOS/C化なのである。

前述したように、100LXは**IBM PC/XT互換機**だ。AT互換機では、DOS/Vを入れることで日本語化ができる。

だが、これはDOS/Vを入れたから日本語化ができるわけではない。前述したように、英語DOSでもDOS/Vのディスプレイドライバとフォントドライバ、さらに日本語フォントをのせることで、日本語化ができる。英語版DOS 6が出た当初は、ぼくもこの英語DOSにDOS 5/Vのディスプレイドライバとフォントドライバ、日本語フォントを流用してきて、日本語化はもちろん、このシステムで日本語Windows 3.1をも動かしていた。これで何の不自由もなかったのだ。

このDOS/V、実は日本語を表示するには、メモリ上に疑似的なテキストVRAMを用意し、この**疑似テキストVRAM**に書き込まれた文字コードに対応するイメージデータを、**グラフィックVRAM**に書き込み、これがビデオ信号に変換されてディスプレイに表示されるようになっている。

ソフト的に日本語を表示するわけだから、システム的には大きな負荷がかかる。DOS/Vの必要システムは、80286以上のCPUで、プロテクトメモリ2MB以上が要求されている。推奨されるのは、80386以上のCPUだ。

この贅沢なシステムの上で、組み込んである日本語フォントをグラフィックVRAMに展開するのを、ディスプレイドライバが担当し、このフォントのイメ

ージデータをフォントドライバが管理している。

つまりDOS/Vの場合、ごく簡単に書いてしまえば、次のような**CONFIG.SYS**の記述が必要なのだ（PC DOS J6.3/Vの場合）。

```
DEVICE=C:¥$FONT.SYS /P=C:¥      (1)
DEVICE=C:¥$DISP.SYS             (2)
```

このうち、(1)は**フォントドライバ**で、あえて書いた「**/P=C:¥**」というのは、日本語フォントファイルのあるディレクトリだ。(2)は、日本語を表示するための**ディスプレイドライバ**。

この2つのドライバ（と日本語フォント）を組み込むことによって、はじめて日本語表示が可能になる。

さらに**ANSI.SYS**やDOS/Vに対応する**日本語FEP**、それに**KKCFUNC.SYS**（または**$IAS.SYS**）を組み込むことで、日本語を入力し、かな漢字変換を行ない、それを画面に表示するといったことが可能になる。面倒なのだ。国産マシンや国産DOSと比べ、この点が煩雑なのだ。

面倒なのだが、逆にいえば、だから世界標準の英語DOSの上でさえ、これら日本語を表示・入力するためのデバイスドライバを組み込むだけで、いとも簡単に日本語に対応するシステムになってしまうのである。そして、モードを変更すれば、そのまま英語ソフトだって走ってしまう。最初から日本語化され、ディスプレイドライバやフォントドライバをハード的に組み込んである日本語マシンでは、だからモードを変更したり英語ソフトをそのまま走らせたり、といったことが不可能なのだ。

ところがこのDOS/V、もともと286以上のCPUで2MB以上のプロテクトメモリを要求するだけあって、それ以下のシステムでは動作しない。186のCPUでプロテクトメモリなんか持たない100LXでは、だからDOS/Vなんて動作しないのだ。

ではどうするか？　ここが先進的100LXユーザーのすごいところだ。なんとこの186CPU上でDOS/Vと同じように日本語を表示してしまうためのプログラムを作ってくれたのである。

日本語利用のために必要なのは、日本語フォントドライバと日本語フォント、それに日本語表示用のディスプレイドライバの3つだった。100LX用の日本語フォントドライバと日本語表示用ディスプレイドライバは、それぞれ次のもの

になる。

fontman.exe …… **$FONT.SYS**準拠のフォントマネージャ(みゅう氏作)
YADC.EXE …… 日本語表示用ディスプレイドライバ(みゅう氏作)

さらに、**fontman**が対応している日本語フォントとしては、次のようなものがある。

JPKHN14X.LZH（おおはた氏）
恵梨沙フォント（恵梨沙フォントPJ）
h2_font.lzh DOS/C 半角フォント修正版（井筒政弘氏）
FONT14.LZH（Tadayoshi Koyama氏）

fontmanは**fontman.ini**ファイルを読み込み、ここで設定されているフォントをロードする。

YADC.EXEは、システムにデバイスドライバとして組み込まれている**fontman**と日本語フォントを、英語DOS上で表示してくれるディスプレイドライバだ。DOS/Vでは通常**COUNTRY.SYS**によって国別情報を設定するが、**YADC**では国別情報も管理しているため、**COUNTRY.SYS**による国別情報の設定も不要になる。

これらのプログラムやファイルを用意したら、**CONFIG.SYS**にデバイスドライバとして登録する。次のような行を加えればいい（いずれもファイルがAドライブの**DOSC**ディレクトリにある場合)。

```
DEVICE=A:¥DOSC¥FONTMAN.EXE -FA:¥DOSC¥FONTMAN.INI -B20
DEVICE=A:¥DOSC¥YADC.EXE -V70 -S8,14 -D14,14 -L14 -6 -BD -AV
```

前述したDOS/Vのときの、日本語フォントドライバとディスプレイドライバとの登録と、同じ意味を持つものだ。この２つのデバイスドライバを登録し、日本語フォントをそろえれば、めでたく100LXのDOSの日本語化、つまりDOS/C化となるのである。

それぞれの行に加えられたスイッチ類の意味は、各プログラムのマニュアルを見てほしいが、簡単にいってしまえば、**fontman**の場合は**fontman.ini**ファイルの指定（**-F**スイッチ）と、フォントバッファサイズの指定（**-B**）だ。フォントバッファを大きめに設定することで、全角フォントの表示速度が速くなる。

さらに、全角フォントをCドライブに置けば、メモリダイレクトアクセス機

能が働いて、より高速な読み出しが行なわれる。

また、**fontman.ini**は自分の使用したいフォントを、事前にそれぞれ記載しておく。すでにファイルが梱包されているから、内容を変更しておけばいい。

YADCのほうのスイッチ類は、**-V**がビデオモードの設定（**V3**でCGAモード）、**-S**、**-D**がフォントの大きさの設定などだ。BIOSワーク上のビデオモードの設定やBELLコードの設定などもあるが、マニュアル通りに記載しておけばいい。

YADCは**INI**ファイルを持ち、これによって画面表示行数を変更することができる。25行モード、20行、14行、12行、それに英語モードなどをダイレクトに変更することができるのだ。100LXの640×200ドットという狭い画面でも、自分の見やすい行数で日本語を使用できるようになっているのである。

さらに、あとあとのことも考えて、DOS/V付属の**ANSI.SYS**も組み込んでおくといい。この**ANSI.SYS**は、画面やカーソルの制御、文字属性や色の変更、キーの再割り当てなどを行なうANSIエスケープシーケンスの使用を可能にするドライバだ。

もしDOS/V付属の**ANSI.SYS**がないときは、あるいはコマンドラインから組み込みたいとか、メモリが足りないというなら、**SHOZO**(伊藤省三)氏の**PANSI.SYS**を利用するといい。この**PANSI.SYS**または**ANSI.SYS**を組み込むと、キーの再定義もできるようになる。ぼくはファンクションキーを再定義して、[**F1**]を押すとVzエディタが立ち上がり、[**F10**]を押せばシスマネが立ち上がる、といった具合に定義している。

こうしてAドライブに**CONFIG.SYS**と**AUTOEXEC.BAT**を作成し、[**ALT**]＋[**CTRL**]＋[**DEL**]キーを押してみよう。

100LXがソフトリセットされ、最初に次の記述が出てくる。

Press ALT for Boot Options...

ここですかさず[**ALT**]キーを押すと、**デフォルトドライブの選択メニュー**が表示される。１番から７番までのメニューがあり、Aドライブをデフォルトにするか、Cドライブをデフォルトにするか、といった選択ができる。デフォルトに設定したドライブが、すなわち**起動ドライブ**となり、選んだドライブのルートディレクトリ上にある**CONFIG.SYS**と**AUTOEXEC.BAT**が読み込まれて、100LXが立ち上がることになる。

図1.11 ドライブ選択画面

```
      *** Select Default Drive Option ***

Unless changed at this screen, the default drive will be the
the first of drives A, C, and D found to contain a config.sys
file in the root directory.  The options below allow control
controls this reboot only.

  1. Make A default drive; process startup files.
  2. Make C default drive; process startup files.
  3. Make D default drive; process startup files.

  4. Make A default drive; do not process startup files.
  5. Make C default drive; do not process startup files.
  6. Make D default drive; do not process startup files.

  7. Use normal default drive determination.

  Enter selection [7]:
```

ここでAドライブがデフォルトとなるメニュー番号を選択する。これでいま作成した**CONFIG.SYS**と**AUTOEXEC.BAT**が読み込まれて、100LXが立ち上がるわけだ。ちゃんとDOS/C化されていれば、あなたの100LXは、無事に日本語化されたのである。

DOS/C化されたHP100LX、さらに日本語化されたPIMがあれば、この100LXは実に頼もしい相棒に変身する。そして、100LXを道具として、あるいは相棒として、はたまた伴侶として、なかには愛人として、肌身離さず持ち歩いているユーザーが、実は世界中にいるのだ。日本標準の国産パソコンがいくら普及しているからって、世界中にユーザーがいるわけじゃない。そんなものは単なる**ローカルマシン**でしかないのだ。

だが、100LXのユーザーは世界中にいるのだ。米国最大のパソコン通信ネットである**CompuServe**には、**HPHAND**というフォーラムがあり、ここには世界中から100LXの情報が寄せられ、また100LXのためのフリーソフトやシェアウェアが集まっている。

日本では、100LXのメッカといえば、**NIFTY-Serve**の**FYHPPC**(YHP PC Users' Forum)ということになるだろう。本章に紹介したソフト類も、この**FYHPPC**のデータライブラリに収録されている。

だが、世界中にユーザーのいる100LXだから、できればCompuServeにもアクセスして、高度な情報や便利なフリーソフトなどをダウンロードしてくるのも楽しい。ぼくがCompuServeからダウンロードしたソフトのなかで、便利に活用しているものをいくつか紹介しよう。

ターボ付き100LX

HP100LXの**クリスタル**を交換すると、劇的な高速化がなされる——そんな話題が、いま100LXユーザーの間で沸騰している。100LXのCPUは、80186で8MHzで動作している。この周波数を管理しているクリスタルを**32MHz**のものに交換する。これが**100LXの倍速化**である。**クロックアップ**ともいう。

もっとも、クロックアップを行なうと周辺回路の動作タイミングにズレが出てくるため、これを正常に動作させるためのソフトが必要で、NIFTY-Serveの**FMODEM**（モデム＆移動体通信フォーラム）のユーザーによって作成されている。

これはすごい。まさに100LXを骨の髄までしゃぶってしまおうというユーザーの、高度な技術だ。実は、CompuServeの**HPHAND**フォーラムでも、Japanese UserがTurbo 100LXを作り、これを見て非常に驚いた、という報告があり話題になっていたのだ。

100LX倍速化は、「PC WAVE」（電波実験社刊行）という雑誌の94年9月号に具体的な手順の報告があり、**FMODEM**では**クロックアップオフ**も開催されている。

パソコンを使っていると、もっと速いパソコンが欲しいという欲求が起こる。利用するソフトがトロトロと動くより、きびきびと動作してくれたほうがいいのは当然だ。そのために、ソフトを作る側も苦労するのだが、ソフトでは限界もある。同じソフトでも、ハード側が高速化されれば、当然ソフトだって高速化されるのだ。高速なVzが、より高速になり、ちょっとトロいWXII＋の変換だって速くなるのだ。

クロックアップの話題が出てから、ぼくも100LXを倍速化したいと思っていた。いまの100LXに、それほどの不満があるわけじゃない。あるわけじゃないけど、もっと速くなるといわれれば、無条件に速くしたいと思ってしまうのだ。

ところが、この倍速化には**専用のクリスタル**と**ソフト**が必要になる。これも購入すればいいのだが、100LXの蓋を開け、クリスタルを交換するとなれば、ハンダゴテを握らなければならない。ハンダゴテなんて、もう20年以上も握っ

たことがないぞ。交換に失敗して100LXが動かなくなってしまうというリスクだってある。クロックアップした100LXは、メーカー保証も受けられなくなる。

リスクを負うのはいい。メーカー保証が受けられなくなるのも、まあいい。でも、コテもなければハンダもないのだ、うちには。もちろん、クリスタルを交換する技術だってあるはずがない。誰かぼくの100LXのクリスタルを交換してくんないかな。

倍速化とまではいわないが、実は、ソフトによって100LXを高速化するというプログラムが、CompuServeにアップロードされている。**HPHAND**のライブラリにある「**TURBO.ZIP**」というフリーソフトウェアだ。

Robert S. Williams氏によって作成されたこのソフトは、ZIPを解凍すると6本のプログラムが出てくる。

TURBOCPU.COM
MAXCPU.COM
NORMCPU.COM
TURBO.COM
TURBORAM.COM
TURBOROM.COM

それぞれのプログラムがどのようなものかは、付属のドキュメントを読んでいただくといいが、早い話が、**TURBOCPU**や**MAXCPU**というのはクリスタルの周波数を変更して高速化してくれるものだ。逆に**NORMCPU**は、デフォルトの状態に戻してくれるもの。**TURBO**と**TURBORAM**、**TURBOROM**は、RAMカードや内蔵ROMを高速化してくれるもの。

驚くべきことに、これら6つのプログラムのサイズは、**TURBO.COM**が18バイトで、あとはすべて10バイトしかないのである。しかも、メモリ常駐型のプログラムではないため、**AUTOEXEC.BAT**などに記述しておいて一度実行すれば、それだけで100LXが高速化されてしまう。メモリも食わないし、ディスク容量も食わないという、とんでもなく100LXにふさわしいソフトなのだ。

どくらい高速化されるか、実験してみた。話題の「**EVA**」だ。でじやま氏が作成したフリーソフトの動画再生ソフト。動画データとして**CAR.EVA**が付属しているが、これを100LXの画面で再生すると、まさに100LXが液晶テレビのような雰囲気になってしまう。WindowsのVideo for WindowsやMacのQuick-

Timeなどの動画再生と比べても、まったく遜色ない動画が表示される。

いや、画面の動きなどは**EVA**のほうが上ではないかとさえ思える。自然なのだ。もちろん100LXだからモノクロだが、もしこれがカラーだったら、そして音声も再生できたら、WindowsもMacも、動画は全部EVAにしてもいいとさえ思える。

図1.12 EVA

EVA (Ver.1.96) のベンチマークモード (**-B**オプション) で、付属の**CAR.EVA**を動かしてみたところ、次のような結果が出た。

ノーマル時	**19.1フレーム／秒**	**8.2秒**
TURBOCPU	**27.6フレーム／秒**	**5.7秒**
MAXCPU	**41.7フレーム／秒**	**3.7秒**

ノーマル時には、1秒あたり19.1フレームを表示してくれる。これが**TURBOCPU**を入れただけで約1.5倍に、**MAXCPU**を入れればなんと2.2倍にもなってしまった。

ただし、**TURBOCPU**や**MAXCPU**は、たいていのベンチマークをあざむいてしまうそうだ。だからこの数値も、残念ながら速度を表わす指針にはならない。外部ストップウォッチで計測すると、**TURBOCPU.COM**で７％、**MAXCPU.COM**

で16%の高速化にとどまる。が、それでもハードの改造なしで、ソフトだけでこれだけの高速化がなされるのだから、“もっと速く”というユーザーなら利用してみるといい。

ただし、いくつかの問題もある。**TURBOCPU**を入れると、ちょっと画面が乱れるのだ。もちろん、実用上ではほとんど問題がなく、しかもすぐに慣れてしまうだろう。

MAXCPUを入れると、かなり画面が乱れる。時代遅れのテレビ画面のように、波が走るのだ。実用上は問題がないかもしれないが、ぼくはこの乱れが気になって、**MAXCPU**の使用はあきらめた。

PC WAVEの９月号に、やはり**EVA**（Ver,1.95）を使ったベンチマークの結果が掲載されているが、クリスタルを交換して２倍速にクロックアップしたときの数値が、非圧縮時で28.4フレーム／秒、圧縮時で34.7フレーム／秒となっている。**EVA**のバージョンが異なることや、使用環境の違いで一概にはいえないが、それでも**TURBOCPU**や**MAXCPU**の威力もわかっていただけるだろう。

100LXを高速化したい、でもクリスタル交換なんてウデに自信がない——そんな100LXユーザーなら、**TURBO**を利用してみるのもいいだろう。そして、ウデに自信があれば、クロックアップしてみるのもいい。パソコンは、パーソナルなコンピュータなのだ。あっちこっちいじって、自分好みの働き者に教育するのもまた、パソコンを使う上での楽しみのひとつではないだろうか。

100LXリモコン化作戦

HP100LXには、右側面に２つのポートがある。小型の独自の形態のシリアルポートと、もう１つは**IR**ポートだ。

IRポート、マニュアルには「**Infrared Radiates through the plastic**」と書かれている。小さなプラスチックの板を通して、**赤外線**を発光するポートなのだ。つまりは、そのへんのテレビやビデオと同じ、**リモコンの機能**を持っているのである。

だがこのリモコン、別にテレビのスイッチが入ったり、ビデオの早送りができたりするわけではない。実際にはたとえば100LX同士を並べ、**Filer**を使ってファイルのやりとりを行なったりするにすぎない。いや、ほんとうのところこ

れしか使い道がない。100LX同士でなく、たとえば100LXと95LX、あるいは100LXと同じHP社のデスクトップマシンとの間で、この赤外線ポートを使ったデータのやりとりをすることもできるが、なにせHP社の製品といったら、ぼくはこの100LXを1台しか持っていないのだ。HP社は高機能電卓で有名で、最近ではプリンタでもお馴染みになってきたが、文系出身のぼくにとっては無縁のものだった。

100LXがあるのに、赤外線ポートを利用する機会がないというのは、実に残念だ。ほんとうに残念だ。悔しいくらい残念だ。残念でたまらないのだ……が、ムフフッとなぜか笑いがこみ上げてきてしまう。

そうなのだ。実はまだ95LXしか出ていないとき、この95LXのIRポートを利用して、なんと95LXをテレビやビデオのリモコン代わりにしてしまうというソフトがあると、あるネットの会議で読んでいたのだ。ぼくが95LXを購入したら、あるいは95LXは断念したが100LXを購入したら、ぜひともやってみたいと思っていたもののひとつである。

IRポートの利用は、100LXではシスマネ上でしか考慮されていない。だから、DOSでこれを利用するプログラムは付属していない。シスマネ上での利用だって、たとえば**Filer**でファイルを選択し、これを並べて置いた100LXに飛ばすといった利用法しかない。IRポートを制御し、たとえばクーラーの風向きを変えたり、テレビのスイッチを入れたり、などということができるわけじゃない。

ところが、これを可能にしてしまうソフトがあるのだ。それが**CompuServe**にアップロードされていると、頭の片隅にこびりついていた。だから、100LXの日本語化にひと息ついたところで、ぼくは早速CompuServeにアクセスし、この夢のソフトをダウンロードすることにした。

CompuServeでHPの製品を話題にしているフォーラムといえば、**HPHAND**がある。**GO HPHAND**でフォーラムに飛んで、ライブラリをのぞく。「**95LX New Users**」や「**100LX Datacomm**」だの、あるいは「**100LX Hardware**」「**100LX Software**」など全部で15ものライブラリが並んでいる。さて、どこを選んだらいいか。100LXだから、ライブラリ名に100LXとついたところがいいのか。でも、リモコンソフトは95LXのときから出ているのだ。だから95LXとついたライブラリがいいのか。

結局ぼくは、まずすべてのライブラリのデータ一覧をとってしまうことにした。どうせ目当てのソフト以外にも、きっとダウンロードしたくなるようなソ

フトがいくつもあるに違いない。

HP95LX、100LXは、いまでこそ日本でも大きな話題になりつつあるが、本場アメリカでは真の携帯端末として、日本でいえば電子手帳がブームだったころのような、流行のしかたなのだ。便利なプログラムも、たくさんあるに違いない。それに、HP社からアップロードされたものだってあるだろう。

データ一覧を表示させ、それだけではわからないから結局補足説明まで表示させ、ひとつずつ中身を類推していった。

IRポートを制御するソフトは、2つあった。1つ目は、**REMTEST.ZIP**だ。さっそくダウンロードし、解凍してドキュメントを読む。

ドキュメントによれば、これはACE Technologies, Inc.が発売しているソフト「**myREMOTE**」というプログラムが、自分の95LXや100LXなどで動作するかどうかテストするプログラムなのだそうだ。myREMOTEというのは、95LXをテレビやビデオのリモコンとして利用できるようにしたプログラムなのだそうだ。そうなのだ、すでにそういうソフトが、アメリカでは市販されているのである。

この市販ソフトが、自分のマシンで動くかどうか、あるいは自分のマシンで動かして、それによって制御したいテレビやビデオやクーラーなどが、ちゃんと動くかどうか、それをテストするためのプログラムが、**REMTEST**なのだ。

さっそく実験してみる。

だが、動かない。使い方が悪いのか、ちゃんと信号を記憶できるのに、記憶した信号を飛ばしても、テレビがつかないのだ。

ちなみに、最初にやったのは、デスクの上にのせてあるテレビの制御だ。このテレビは、テレビとパソコンのCRTとをかねたもので、ノートパソコンにつないで利用している。ノートパソコンでソフトを動かし、その画面を見ながら、別の原稿書きをメインにしているパソコンで、ソフトの解説を書いていく。もっとも、最近ではテレビとして利用することのほうが多くなってしまったが。

CompuServeの**HPHAND**のライブラリには、もうひとつリモコン用ソフトがアップロードされていた。**RC.ZIP**だ。

RC.ZIPの掲載タイトルは、「**RC 1.0 : HP100LX universal remote control**」となっていた。これだけで十分期待できるぞ。

さっそくダウンロードした。ギリシャのDiomidis Spinellisが作成したこのプログラムには、DOS上でIRを制御するものと、シスマネに登録してIRを制御す

図1.13 RC

```
Remote Control 100 Version 1.0.
(C)Copyright 1993,94 Diomidis Spinellis._
```

るものとの2つが入っている。さらに、リモコンの信号を記録させたファイルをコンバートするプログラム、キーコードをコンバートするプログラム、それにサンプルが2本。

解凍するのももどかしく、さっそく動かしてみる。まずやることは、制御したい機械のリモコンを持ってきて、その信号をファイル化することだ。DOS(/C) のプロンプトで

RC -r ファイル名

とタイプする。

100LXのキーボードには、小さなテンキーがついている。テレビのリモコンと100LXのIRポートを向き合わせにして、リモコン側の「ON/OFF」ボタンを押す。これでリモコンから100LXに「ON/OFF」の信号が渡されるはずだ。その信号を、今度は100LXの[+]キーを押して記録する。「ON/OFF」を[+]に割り当てた。

実は、この操作にはコツがいる。ぼくの場合は、まずリモコンのスイッチを押し、続けて100LX側のボタンを押し、1、2秒後にリモコン側のスイッチから手を離してみた。一瞬画面がビビッと揺れ、

Type key, finish with ESC

の文字が出る。これでいま押したキーが記録されたのだ。

ON/OFFの次はチャンネル。これは100LXのテンキーにそのまま割り当てる。10～12chは、それぞれ「ー、*、／」に割り当てた。音量は「小」が[↓]、「大」が[↑]。まだいくつかボタンがあるが、とりあえずこれで[**ESC**]キーを押して**RC**を終了させる。

図1.14 RC

```
Remote Control 100 Version  1.0.
(C)Copyright 1993,94 Diomidis Spinellis.Recording codes to file tes
Type key, finish with ESC_
```

このファイルは「**TV**」というファイルにした。ちゃんとファイルができているか確認し、今度はDOSプロンプトで「**RC TV**」とタイプ。

画面が一転し、

Remote Control 100 Version 1.0

の表示とコピーライト表示とがあり、まるで通信画面のようにプロンプトが小さくなっている。

ここでテレビに向けて、[+]キーを押してみた。と、なんとテレビの電源が入るではないか。テンキーの「**1**」を押すと、ちゃんと1チャンネルに変わる。[↑]キーを押すと、ボリュームも上がる。そう、100LXがリモコンになってしまったのである。

「おおっ！」

ほんとうに100LXが**リモコン**になる。これはすごい。夢にまで見ていた100LXリモコン化作戦の完成だ！

テレビに続いてビデオ、さらにクーラー、CDコンポなど、手当たりしだいリモコンに記憶させてみる。なかにはどうしてもうまく記憶できないものもあったが、おおむね良好だ。キーの数のほうが少なく、すべてを1つのファイルにすることなどできないが、それでも、たとえばテレビのチャンネルを変え、そのまま100LXの方向を変えてクーラーのスイッチを入れ、さらにCDの曲を変更する、なんてことができてしまう。リモコンを換えることなく、100LXの向きを変えるだけで、そんなことが可能なのだ。

RCを一度終了し、信号ファイルを交換してもう一度**RC**を立ちあげるだけで、別の信号を出して別の機器を制御することだってできる。1つのファイルにどのくらいのリモコンが記録できるかわからないが、少なくともテレビとクーラ

ーとCDコンポとビデオくらいなら楽勝だ。割り当てるキーが思いつかず、それ以上記録させられなかったが……。

100LXは面白い。かつて子どものころ、リモコンを向けてボタンを押すだけで、たとえば家のドアが開き、あるいは天井が開いて、地下から小型飛行機が出てきて、これに乗って出発するなんて図を想像していたことがある。サンダーバードの世界かもしれない。パソコンを使いだすようになり、あるいは大人になるにしたがって、それにはひどく大がかりな仕掛が必要だとあきらめていた。いや、そんなことを実行しようなんて、考えもしなかったのだ。

電気製品が発達し、多くの製品にリモコンがつくようになった。が、複数のリモコンを制御するリモコンを別途購入しないかぎり、テレビを見るにもビデオを再生するにも、あるいはクーラーを調整したりするためにも、ひとつひとつ別々のリモコンが必要になる。それが100LXさえあれば、リモコンは1つですむのだ。

100LXを向けてボタンを押すと、部屋の電灯がともり、テレビのスイッチが入り、そしてドアがひとりでに閉まる。別のスイッチを押すと、電動のイスが静かにやってくる。これに腰をおろして、ぼくはまた別のスイッチを押す。デスクトップパソコンが立ち上がり、留守中の電話が再生され、自動的に通信ソフトが立ち上がって画面には電子会議室画面が現われる……。

100LXは、ぼくにそんな子どものころのような夢を、ふたたび見させてくれるようになった。

流行のPCMCIAカードドライブと連携

PC-9801で原稿を書き、Macintoshでゲームをしたり画像を表示したりし、AT互換機のWindowsでプログラムを組んだり通信をしたり、あるいはデータを管理したり、そんなことをやっているぼくが、HP100LXというマシンにすんなりと入っていけたのは、AT互換機を導入してDOS/Vを組み込むのに、けっこう苦労した経験を持つからだろう。

そんな環境だから、98からATに、ATからMacへと、データを移動するのは

日常茶飯事。いずれはどのマシンもケーブルで結び、いわゆるLANを敷いてデータを共有しようとも考えているが、マシンがすべて手近にあるから、早急な必要性を感じていない。

ところが、100LXを購入してから、データの移動にかなり不便を感じるようになった。

前述したように、ぼくが100LXを購入した目的のひとつに、デスクトップと同じ環境を持ち歩きたいというのがあった。デスクトップでは、すでにWindowsがバリバリに動いている。これと同じものを持ち歩くのは不可能だが、そのベースとなるDOSマシンとしてなら、100LXはまさに**“持ち運べるデスクトップ”**なのだ。

だが、デスクトップマシンそのものが持ち運べるわけではない。持ち運ぶのは、あくまで100LXなのだ。つまり、デスクトップの環境とデータが持ち運べるのである。

データを共有するためには、当然ながらデータのやりとりが必要になる。まさか持ち運ぶ先々で、デスクトップと100LXをケーブルで結ぶわけにはいかない。デスクトップから100LXにデータを移動させ、これを持ち運ぶわけだ。

そして、フロッピードライブのついていない100LXにデータを移動させるためには、2つの方法しかないのだ。1つはシリアルポートまたはIRポートによるデータの転送。もう1つは、フロッピーディスクと同じ要領で、カードによる転送だ。

100LXを購入し、これは使えると思ったときから、ぼくは**カードによるデータの転送**を目論んだ。AT互換機にカードドライブを接続すれば、タワー型デスクトップであるAT互換機と、手のひらに乗るパームトップパソコンの100LXとの間で、いとも簡単にデータの交換ができてしまうのだから。これなら画期的に便利になる。

HP100LXに使われているカード、つまり**PCMCIAカード**は、**TYPE** IIという規格のものだ。日本では**JEIDA Ver.4.1準拠**などともいわれる。どちらも同じ規格だと思っていい。

このPCMCIAカードには、**TYPE** I、II、それにIIIの規格がある。ややこしいのは、同じカードでありながら、スロットの厚さが異なっていることだ。しかもPCMCIAカードというのは100LXが利用しているメモリカードだけでなく、SRAMカードや最近ではハードディスクカードまである。いや、FAXモデムカードからSCSIカード、はては音源カードやLANカードまで、それこそいま

やPCMCIA流行なのだ。

ところが、130MBのハードディスクカードが出た、なんて報を聞いて喜んでいると、それがTYPE IIIのものだったりする。TYPE IIにまでしか対応しない100LXでは、残念ながら使えないのだ。

それはともかく、すでにディスプレイカードだのSCSIカードだのでスロットがいっぱいになってしまったATマシンは、PCMCIAカードによって拡張性を備えることができるようになったのだ。ノートパソコンやサブノートパソコンが次々と出てきて、これらの新製品はたいていPCMCIAカードドライブが装備されるようにもなった。ボードの代わりに、今後はカードで拡張するのが主流になるだろう。

そう踏んで、ぼくはATマシンにカードドライブを増設することにした。ちょうどデスクトップに増設するカードドライブが出はじめたときで、これ幸いとばかり購入してきて増設したのだ。内蔵、外付けのどちらにも対応する製品だったが、ぼくは使わなくなった5インチフロッピードライブをはずして、ここに内蔵してしまった。

いいのだ。何がって、100LXとATマシンとの間で、いとも簡単にデータの転送ができてしまうのだ。フロッピー感覚だが、もちろん100LXで使っているのは10MBのカードだから、こりゃもう10MBのフロッピーなのだ。デスクトップマシンをメインに使い、100/200LXをサブシステムとして利用しているユーザーなら、PCMCIAカードドライブをぜひとも増設するといい。データ転送がウソのように楽になる。

ただし、カードドライブを最初から導入してしまったため、後に200LXの日本語化で痛い目にあうことになるのだが……。

そして、200LXがやってきた！

94年7月後半から8月にかけて、ネットワーカーの間で衝撃的な話題が駆け抜けた。HP社はHP100LXの後継機として**HP200LX**というマシンを出す、という情報が流れたからだ。しかも、これまでの**100LXは製造中止**される……。

混乱した、などといえばウソになる。混乱はなかった。パソコン業界では日

常茶飯事のできごとだ。ただ、新しいマシンに対する興味、そのスペックがどうなっているのか、どこが変わるのかといった話題が盛り上がった。そして、製造中止になる100LXに対する若干の不安が走っただけだ。

図1.15 クイックスタートガイド

新マシン200LXの全貌は、なかなか見えてこなかった。100LXのメッカといえば、米CompuServeの**HPHAND**フォーラムなのだが、ここでも200LXのスペックの予想は出ていたものの、正式な発表が出たわけではない。

そうこうするうちに、最初にスペックが発表されたのは、NIFTY-Serveの**FMODEM**だった。100から200へと名前が大きく変わるのに(その前は95から100)、スペック的にはほとんど変化がない。100LXのユーザーは、ほっと胸をなでおろしたというのが正直な話だったかもしれない。

日本で本格的な100LXのブームになったのは、94年の春から夏にかけてなのだ。その夏が終わらないうちに、いや、猛暑だった94年夏まっ盛りのときに、突然の200LXの発表だったのだから、心中穏やかではない。

HP200LXは94年9月になって、まずアメリカで発売された。日本での発売は、それからちょうど1か月あとの10月。

発売されてすぐに手にしたいという悪い虫が、また身体のなかで蠢いた。ニューヨークにいる友人に電話をした。何とか手に入らないものか、と。

驚くべきことに、ニューヨークではディスカンウトショップに行列ができ、新製品である200LXの値段を聞くためだけに、えんえん1時間も並ばなければならないほどだという。その値段も、ニューヨークで700ドル。西海岸なら670ドルほどだが、そちらから取り寄せると700ドル近くなり、さらに日本に送れば700ドルを超えてしまうだろうとも。

実は日本では早々と、2MB版が約7万5000円ほどで予約を開始していたのだ。

いつ手に入るかわからないとはいうものの、値段的にはアメリカから購入してもほとんどメリットがない。それなら日本語のクイックスタートガイドが添付されるという日本発売のものを購入したほうがいいではないか。

ぼくは最後まで悩んだ。手元には100LXがある。スペック的にほとんど変わらない200LXは、だからできれば実際に触れ、100LXとの違いを調べ、他のユーザーの声も聞き、それでも欲しいようなら購入したいと思ったのだ。欲張りだな。

そんなとき、ひょんなところで200LXに触れる機会を得た。小さなコラムを連載している雑誌で、200LXが発売されるから紹介記事を書きましょうよと話をしたところ、すでにモノを借りてあるというではないか。

無理をいって編集部から借り出した。交換条件として、1ページのレビュー記事を書く約束をして、送ってもらった。

送ってもらったHP200LXは、なんと発売前の「**HP200LX日本語化キット**」のベータ版ものっていて、すでに日本語化が行なわれていたのだ。どのへんが変わったかは、次章のレポートに詳しく報告されているからそちらを参照していただきたいが、いいのだ。実にいい。

デザインや色が変わったり、いくつか内蔵ソフトが増えたこともさることながら、**Appointments**や**PhoneBook**などの内蔵PIMが変わっていた。より使いやすく、ビジュアルにもなっている。

「ほ、欲しい！」

レポートを1本書いても、その原稿料では足が出る。でも、そんなこと知ったことじゃない。ぼくはPermtop PaperのACEの広告を見て、あまり値段が変わらないからとNIFTY-Serveのオンラインショッピングで早速注文してしまった。

思えば、短い命だった。いや、これからも使うつもりだから、100LXはまだ死んだわけじゃない。だが、もはや100LXは製造中止なのだ。6月に購入してわずか3か月。

HP200LXは10月に入ってすぐ、宅急便で送られてきた。

その10月末には、100/200LXを日本語で利用するための「日本語化キット」も発売された。パソコン各誌だけでなく、一般誌までもがこぞってこの小さなパソコンを紹介した。ぼくはちょっぴり寂しかった。隠していたおもちゃを、みなの前で公表されてしまったようで、それなりにうれしいのだが、何だか遠

くに行ってしまったような気さえしたのだ。

だが、日本語化されたHP200LXは、いま、ぼくの手元で元気に働いている。この可愛いパソコンが、ぼくのいまの最愛の相棒だ。

Part 2

by omimi

HP200LXパワーレポート

「究極の携帯マシン」として一部の熱狂的マニアの間に広まり、世間を騒がせた**HP100LX**。急速に認知度が高まり、市民権を得ようとした矢先に製造が中止され、HP100LXに替わる機種が発表された。それが、**HP200LX**である。

HP200LXとはどんなマシンなのか、どんな可能性を秘めているのか。その全容をレポートしてみたい。

P200LXの外観

HP200LXの最大の特色は、その大きさと軽さである。16×8.64×2.54cm――シングルCDとほぼ同じ大きさで、厚さがタバコの箱くらい。既存の電子手帳よりは一回り大きいが、サブノートパソコンよりは、はるかに小さいサイズである。背広の内ポケットからでも楽に出し入れできる。

重量は、電池込みで312g。電子手帳として見ると、かなり重い部類に属する。が、キーボード仕様のワープロ・パソコンとして見ると、驚異的な軽さだ。最初に手に取った時は、「若干重いかな」と思うが、慣れてしまえばまったく気にならない。ノートパソコンなどが、購入当初「これは軽い」と思って持ち歩くうちに、「常時持ち歩くにしては重すぎる」と感じるのと正反対である。

色はHP100LXの黒から、青みがかった深緑に変更された。オシャレ路線を狙ったパソコンもいくつか登場しているが、それらよりは派手さのない、落ち着いた色である（金色のエンブレムは、ちょっと鼻につく感じだが……）。

本体左側面には、カードスロットがある。**PCMCIA Version2.0 TYPE Ⅱ**仕様の**PC**カードスロットである。反対の本体右側面には、奥から順に

- **ACアダプタージャック**
- **10ピン（実際に使用するのは9ピン）のRS-232Cポート**
- **赤外線ポート**
- **バックアップ電池のトレイ**

が配置されている（赤外線ポートとバックアップ電池トレイには、カバーがかかっている）。

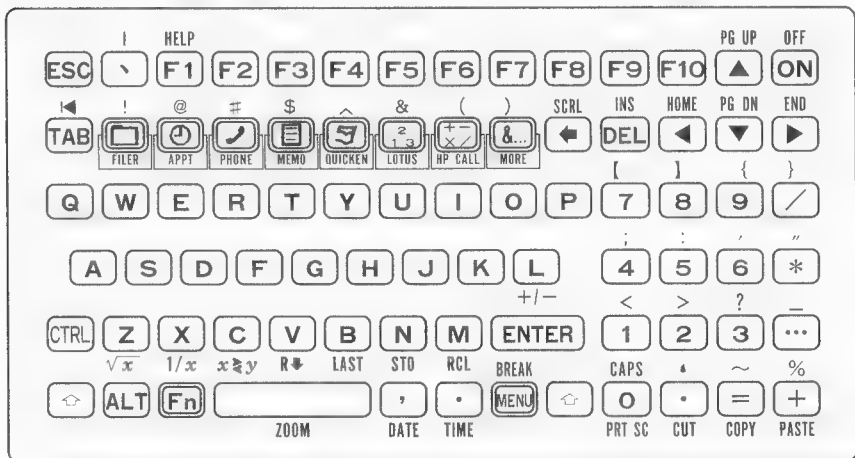
ディスプレイを開けると、蓋の裏にディスプレイ、手前にキーボードというノートパソコンなどでお馴染みのスタイルである。

キーボードは、**JIS配列**と同等のものである（もちろん、カタカナなしの英字のみであるが）。キー数は合計で**82個**。通常のIBM-PC（いわゆるDOS/V）のキーボードが101個とか106個だから、かなり少ない。しかし、ちゃんと代替できるようになっているので、ご安心を。

200LXのキーのなかには、ほかのパソコンでは見慣れないキーが並んでいる。ファンクションキー（F1～F10）の下に並んでいる、キートップが青い**アプリケーションアクセスキー**である。このキーを押せば、1発で内蔵アプリケーションが起動するという、とっても便利なキーだ。

キー数自体は8個だが、CTRLやALTと同時に押すことにより、**21の内蔵ソフト**や、NIFTY-Serveなどで配布されている**専用のソフト**を起動することもできる。ほかには、Fn（キーボード上の紫で表示されたキーを動作させるのに使用）やMENU（内蔵ソフトや専用ソフトでMENUを呼び出すのに使用）が、200LX固有のキーである。

なお、キーボードに必須のシフトキーは、↑と表示されているので注意したい。

図2.1　HP200LXキーボード

ペックを検証する

外見の話はこれくらいにして、中身を紹介していこう。

CPUはインテル社の**80C186（8MHz）**である。日本では馴染みのないCPUだが、NECのV30（PC-9800VMや初代98ノートに使用）と同等と思っていただいて間違いない。80186をカスタマイズしたものがV30なのである。

ふた昔前のCPUだが、内蔵ソフトがROMであるのに加え、FDDなどがない（ソフトなどはRAMカードにインストールせざるをえない）などの条件がそろっているので、速度的には、ほとんどストレスも感じないはずだ。たとえ遅く感じたとしても、**禁断のクロックアップ**という奥義がある。

それよりも、高速CPUを採用した場合の、連続使用時間の低下のほうが問題である。200LXは、80186というCPUを使用しているからこそ、**驚異的な使用時間**を実現しているのである。

その電池だが、使用するのは**単3アルカリ電池**（または**充電式ニッカド電池**）を**2本**である。アルカリ電池での連続使用時間は、計測方法や使用ソフトなどの環境によって変化するので確定はできないが、**約30〜50時間**くらいだろうといわれている。ニッカド電池の場合は、その半分くらい。

頻繁にRS-232Cポートを使用しなければ、2週間から1ヶ月は無交換で使用できる。また、メインバッテリーの低下を示す警告が出てから、平気で1時間近く使用できるので、電池交換に気を使う必要は、まったくない。警告が出たら、コンビニやキオスクを探せば済むのである。サブノートパソコンでの電池による平均使用時間が1時間前後なのを考えれば、「電力消費をまったく考えないでいい初の携帯型パソコン」といっても問題ない。

さらに、アルカリ電池の代わりに**リチウム電池**を使用すれば、さらに連続使用時間は延びる。リチウム電池は、アルカリの3倍以上の価格と販売店が少ない（ほぼカメラ販売店に限られる）などの条件はあるが、重量が軽いことと、**連続使用時間が3倍近**くになることを考えれば、かなりお得な製品である。

連続使用時間については、残念ながら断言はできない。というのも、7月に導入して10月15日現在も、ほとんど減ることなく使用できてしまっているからだ。途中には、NIFTY-Serveの北海道OFFに参加し、当時の使用機種である100

図2.2 リチウム電池

LXで頻繁にアクセスし、日常はスケジューラや電話帳、テキストエディタとしてフルに活動しながら、3ヶ月経過したいまも、なんの問題もなく使用できている。ポータブルCDプレーヤーだと、かなり損をする計算になるリチウム電池だが、200LXに関しては、理想の電池といえそうだ。

メモリ環境は、一般のDOSマシンより特殊である。200LXにはメモリ容量の違いにより**1MB**版と**2MB**版の2タイプが販売されているが、いずれもメインメモリとして使用できるのは**352KB～636KB**の間で、残りは自動的に**内蔵RAM**ディスクとして認識される。その内蔵RAMディスクを**EMS**メモリとして使用することもできるが、そのためにはフリーソフトの**EMM200**や、後述する「日本語化キット」が必要となる。

HP200LXの環境（アーキテクチャ）として、DOS/Vマシンであると紹介されることもあるが、これは間違いだ。DOS/Vは「**IBM PC/AT**アーキテクチャ」と呼ばれるものであるのに対し、HP200LXは「**IBM PC/XT**アーキテクチャ」というATより前の規格を採用している。ATとXTの最大の違いはディスプレイの大きさである。

HP200LXのディスプレイは、

文字で半角80文字×25行
グラフィックで640×200ドット（CGA）の4階調

の**FTN白黒液晶**である。ATは、文字数が一緒だがグラフィックが640×480ドット（VGA）と、HP200LXの倍以上である。つまり、DOS/V用（AT互換機用）のソフトがHP200LXの上で動くはずがない、ということになる。

だが実際には、いろんなフリーソフトを組み合わせたり、「日本語化キット」を組み込んだりすれば動作するDOS/V用のソフトもあるので、その仕組みなどについては、「日本語化」で解説したいと思う。

充実の内蔵ソフト

内蔵ソフトを紹介する前に、HP200LXの仕組みについて説明しておきたい。

HP200LXの内蔵ソフトは、オリジナルの「**システムマネージャ**」(シスマネと省略して呼ばれることが多い) という**シェル**の上で動作する。シェルというのはWindowsと同じようなもので、それ自体、**MS-DOS**のアプリケーションである。シェルという言葉の意味がわからなければ、「**ソフトの登録が自由自在な統合ソフト**」といったイメージでとらえて欲しい。

図2.3 トップカード

初期設定では、自動的にシステムマネージャが立ち上がるようになっているが、**AUTOEXEC.BAT**や**CONFIG.SYS**を書き換えれば、普通のMS-DOSマシンと同じように起動させることも可能である。もちろん、システムマネージャもDOSのアプリケーションのひとつだから、その後にシステムマネージャを立ち上げる時もリセットをかける必要がなく、

A>200

と入力するだけである。

――と基本的なシステムを理解していただいたところで、各内蔵ソフトを紹介していこう。200LXには、25個のソフトがあらかじめROMに内蔵されている。

スケジューラ (Appointments)

図2.4 スケジューラ

このスケジューラの使い易さゆえにHP100/200LXを購入したという人が多いという、とても優秀なソフトである。

表示画面は、次の5種類。

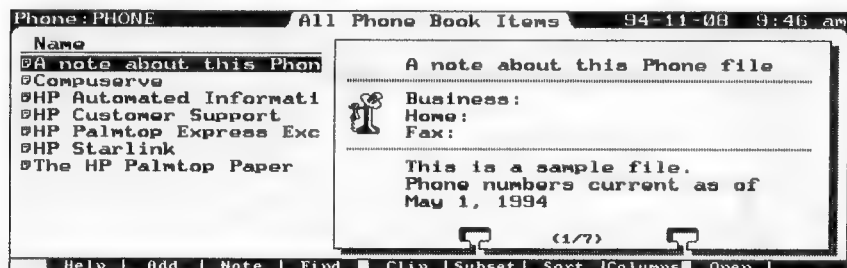
- 1日のスケジュール
- 週間スケジュール一覧
- 月間スケジュール一覧
- 6ヶ月カレンダー
- To-Doリスト（忘備録と呼ばれているもの）

時間のないスケジュール（誕生日など。イベントと呼ぶ）や、ダブルブッキング（時間の重なるアポイント)、毎週､毎月第3水曜日といった繰り返しの設定も可能である。ただし、日をまたいだアポイントは設定できない。

To-Doリストの使い易さも特筆もので、いままでの**PIM**（パーソナル・インフォメーション・マネージャ）では出来なかった「**持ち越し**」が設定できる。To-Doリストには､締め切りなど期日のあるものを設定することが多いが､過去のPIMでは、期日を過ぎると表示されなくなっていた。

しかし200LXは、処理済みのチェックをしないと、いつまでもTo-Doリストに表示するのだ。しかも、ご丁寧に怒った顔のマークをつけて。プライオリティ（優先順位）も、数字とアルファベットを合わせた**1296段階**設定可能である。これをうまく使えば、仕事のTo-Do、プライベートのTo-Doを区別することができ、なおかつそれを優先順位ごとに並べる、といった技も使える。

電話帳（Phone Book）

図2.5　電話帳

スケジューラと並んで使用頻度の高いのが、電話帳である。これは内蔵ソフトのひとつである「**データベース**」の特殊カスタマイズ版である。

最初から設定されているフォーマットは、**名前・電話番号4種・住所2種・会社名**などの項目だが、もちろんカスタマイズも可能である(その時には、「データベース」を利用する）が、デフォルトのままでも充分使える。

この電話帳の使い易さは、**検索の容易さ**にある。例えば「omimi」の電話番号を調べようとした場合、o を押せばすぐに一覧の「o」から始まるデータにカーソルがジャンプし、続いて m を押せば「om」で始まるデータにジャンプする。通常は、頭の3文字程度を入力しただけで、目的の電話番号にたどり着くことができる。

パソコンのPIMは、「検索」機能を利用するか、ひたすらカーソル移動をしなければならないし、電子手帳にしても「さぁ、ジャンプしなさい」というキー入力が必要な分だけ、多くキーを叩かねばならない。

ノートテイカー（Note Taker）

一般に、**テキストデータベース**と呼ばれているものである。これも電話帳と同じように、特殊カスタマイズされたデータベースである。フォーマットは、**タイトル・カテゴリー・ノート（メモ欄）**の3つに固定されている。

サンプルとして、200LXのQ&Aが添付されている。そういえばNIFTY-Serveで、今回「トラブルシューテイング」を担当しているIIYANさんが発表し

た「**HP100LX Q&A集**」もノートテイカー形式にコンバートされて、好評を博した。

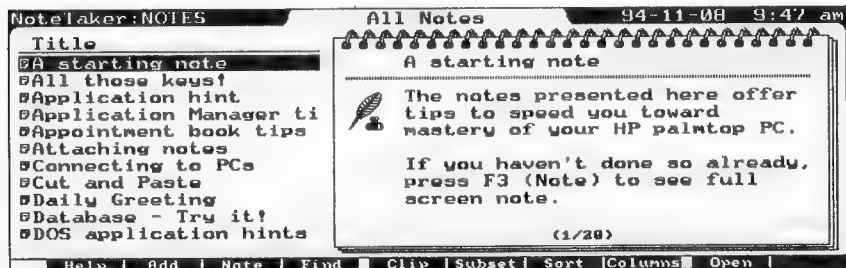
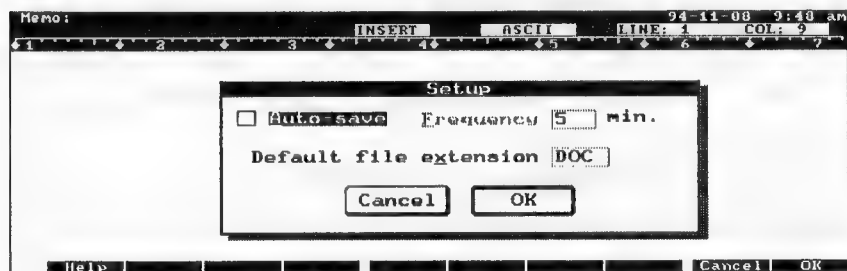
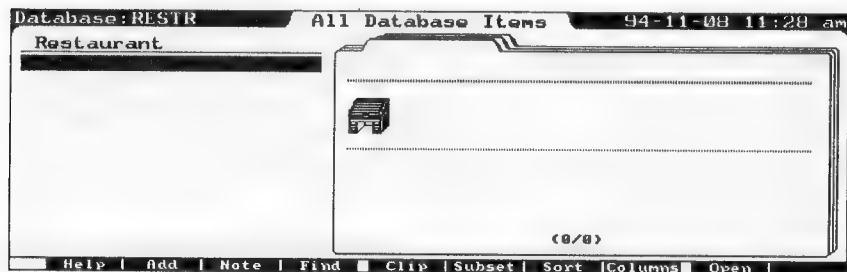
図2.6 ノートテイカー

メモエディタ（Memo）

図2.7 メモエディタ

ボールド（強調）書体やアンダーラインが使えたり、アウトラインプロセッサ機能がついてたり、ヘッダーやフッターも設定できる、と機能盛沢山のエディタだが、ユーザーのほとんどはそれらの機能を使わず、**単なるテキストエディタ**として扱っている。

アウトラインプロセッサというのは、日本では嫌われものだが、それはいままでまともなアウトラインプロセッサがなかった（あの一太郎ですら、まともなアウトラインプロセッサ機能を持っていない！）のが原因である。アウトラインプロセッサは、文章や企画書を作る際に、便利な道具である。200LXは、簡単な操作でアウトラインプロセッサとして動作する（**F7** or **F8** を押すだけ！）。ぜひ、HP200LXでアウトラインプロセッサを体験していただきたい。

データベース (Database)

図2.8 データベース

いわゆるカード型データベースである。初期画面は、電話帳などと同じ一覧表画面である。機能・動作としては、電話帳とまったく同じである。

唯一違うのは、**カードのデザインが可能**という点である。ここで特筆しておきたいのは、そのカードの設計が非常に簡単である点と、画面を3つ設定できるという点である。市販されているカード型データベースは、カードの設計に丸1日費やすことも希ではないが、200LXのデータベースは30分もあればそこそこのものができてしまう。

この柔軟さゆえか、NIFTY-Serveの(旧) **FYHP**でもデータベース形式のデータが多数登録され、**FYHPPC**への拡張の際には、専用のライブラリまで設置されるほどの賑わいを見せている(発表されているデータベースに関しては、190ページを参照のこと)。

リレーショナルデータベースの機能もあり、電話帳やノートテイカーに共通の機能である**SmartClip**(テキストファイルへの出力フォーマット指定)や**Subset**(データの絞り込み指定)を駆使すれば、個人的なデータの管理は、このデータベースでほとんど収まってしまう。

ポケットクイッケン (Pocket Quicken)

アメリカでベストセラーの収支会計・税務管理ソフトのコンパクト版である。アメリカで200LXの前身である100LXが発売されると、ユーザーの間から「クイッケンは100LXで使えるのか?」という問い合わせが殺到したという、スタ

ンダートなソフトだ。

「クイッケン」そのものは、アメリカと日本の税制の違いで使用できないが、この200LXに内蔵されているクイッケンは、**金銭収支の記録機能**のみなので、日本でも充分に使用できる。

お金の在処（銀行の口座や、財布の現金など）を設定して、それぞれのお金の出入りを記録していくというもので、「収支会計」というより「**家計簿**」や「**お小遣い帳**」のイメージに近い。

図2.9 ポケットクイッケン

ロータス1-2-3（Lotus1-2-3）

図2.10 ロータス1-2-3

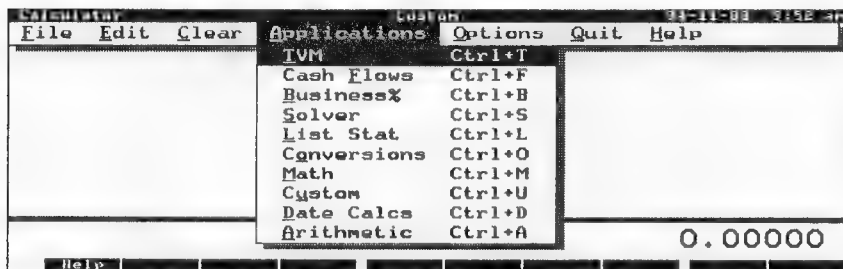
言わずと知れた、日本でも大ベストセラーの表計算ソフトである。機能的には、削ってあるところはまったくない（日本語版と英語版の違いは、随所に見られる）。それどころか、HP電卓とのリンク機能が付加されている。

ワークシートの大きさは、メモリからの制限により256×8192が最大となっている。ファイルの大きさでいうと、300KBが限界だが、それ以上の大きさのワ

ークシートを使用するとなると、処理速度の関係で、200LXを使うメリットがなくなる。もし「1-2-3が内蔵されていますから、仕事でも使えますよ」と販売店でいわれても、そのことが購入動機の第１位というのならちょっと考えなおしたほうがいい。簡単なワークシートなら200LXでも大丈夫だが、本格的な業務用のワークシートは処理できない。

HP電卓（HP Calc）

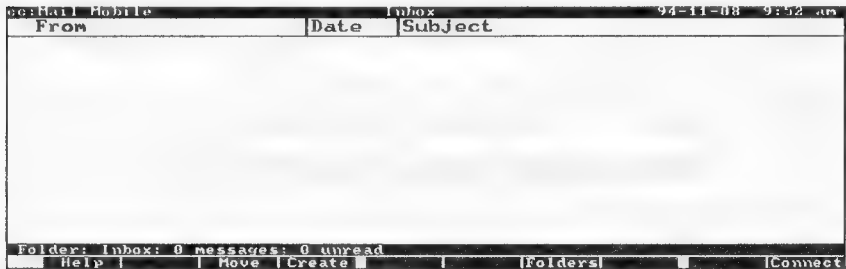
図2.11　電卓

```
File  Edit  Clear  Applications  Options  Quit  Help
                   TVM            Ctrl+T
                   Cash Flows     Ctrl+F
                   Business%      Ctrl+B
                   Solver         Ctrl+S
                   List Stat      Ctrl+L
                   Conversions    Ctrl+O
                   Math           Ctrl+M
                   Custom         Ctrl+U
                   Date Calcs     Ctrl+D
                   Arithmetic     Ctrl+A
                                                0.00000
Help
```

HP12CというHPの電卓がある。これは、非常に優秀な**金融電卓**で、ウォール街で働く人々には欠かせないアイテムとなっている。主役の座は、後継機種に譲ってはいるものの、HPの金融電卓はいまだに活躍を続けている。日本では、70年代の電卓戦争で電卓が普及しつくして、もとからの学校教育による計算能力の高さとあいまって、ついぞHPの電卓は普及していないが、外資系の銀行などでは、いまだに新入社員にHP電卓を配布していたりもする。

そういった欧米では絶大なる信頼を獲得している金融電卓の究極の発展形として、200LXが登場してきた経緯もあり、200LXにはHPの金融電卓機能が搭載されている。

このHP電卓、普通の電卓とは雰囲気が違うので、なかなか使っている人を見掛けないのは残念だ。だが、使い出せば手放せないアイテムになることは必死である。単位換算などは、その一例である。ぜひ、西東さんのレポート（83ページ）を熟読してほしい。

cc:Mail (cc:Mail)

図2.12 cc：Mail

cc:Mailは、LANなどで使われている通信ソフトの一種である。cc:Mail同士で接続し、テキスト（メール）の交換を行なう。が、日本の企業では、このcc:Mail自体を採用しているところが少なく、利用価値はあまりない。

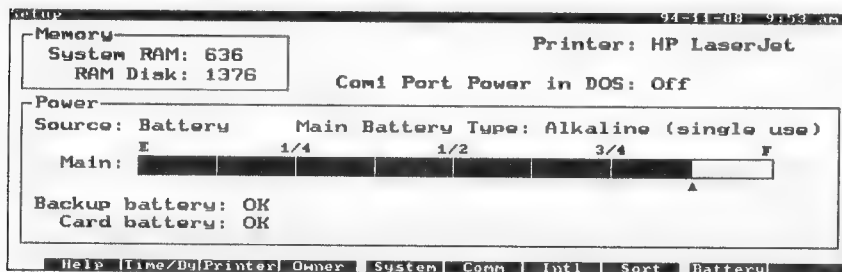
ファイル管理 (Filer)

図2.13 Filer

```
Filer                          File List                      94-11-08  9:52 am
C:¥*.*                             Local | D:¥*.*                           Local
 ..                          ▲View Up▲  |  ..                        ▲View Up▲
 FONT                           <DIR>   |  BIN                          <DIR>
 QUICKEN                        <DIR>   |  DOS                          <DIR>
 SYS                            <DIR>   |  _DAT                         <DIR>
 WX2                            <DIR>   |  ‾SYS                         <DIR>
 _DAT                           <DIR>   |  123        dyn             15,589
 autoexec  bat                  1,067   |  123        set             20,794
 config    sys                     79   |  123us      ri              43,135
 phone     pdb                  4,096   |  autoexec   bat              1,067
                                        |  config     sys                 35
Dirs: 5   Files: 3     Bytes: 5,242      Bytes Free on Disk: 322,048
 Help | Copy | Move |Filter| Goto |Remote| Full | View | Tree |Connect
```

FDや**FILMTN**、**GF**といったものと同じ**ファイラー**である。200LXのFilerは、左右に２つのドライブが表示でき、相手側へファイルのコピーができたり、Filer上からDOSプログラムが起動できたり……、となかなか便利なソフトである。200LX同士での赤外線接続やコネクティビティパックでのDOS/Vマシンとの接続でも、このFilerを利用する。

セットアップ（Setup）

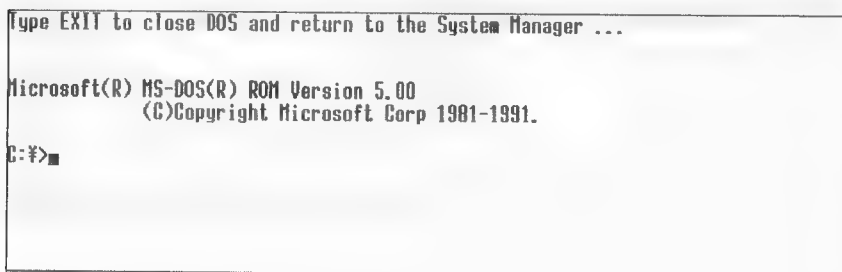
図2.14　Setup画面

日付や時間の設定、使用者の名前の設定、メモリなどのシステム環境を設定するアプリケーションである。セットアップを開くと、画面中央にバッテリーの残量を示すグラフが表示されるので、バッテリー残量が気になるようなら、ここで確認をしておこう。

DOS（DOS）

図2.15　DOS画面

```
Type EXIT to close DOS and return to the System Manager ...

Microsoft(R) MS-DOS(R) ROM Version 5.00
             (C)Copyright Microsoft Corp 1981-1991.

C:¥>
```

Windowsでいうところの「**DOS窓**」である。それにならって、200LXでも「DOS窓」と呼ぶユーザーは多い。これはアプリケーションというより、一時システムマネージャから、おなじみの

A>

を表示させて、RAMドライブに転送したソフトを実行する時などに使う。200LXを販売店に見に行って、したり顔でDOSプロンプトに降りて、

A>DIR

などと打ち込んでムフフと喜ぶ人が多いが、これはやめたほうがいい。そういった動作は、すべてFilerでできるからだ。

このDOS窓を使うのは、常駐ソフトの動作の変更を命令したり、パラメータの指定をしなければならない場面などに限定される。

世界時計（WorldTime）

図2.16　世界時計（世界地図）

図2.17　世界時計（リスト画面）

WorldTime:WORLD　　All Cities　　94-11-08 9:54 am

Local City			
Tokyo	Japan	✓	9:54 am
All Cities			
Aarhus	Denmark		1:54 am
Abadan	Iran		4:24 am
Abidjan	Ivory Coast, R. of		12:54 am
Abu Dhabi	United Arab Emirates		4:54 am
Acapulco	Mexico		- 6:54 pm
Accra	Ghana		12:54 am
Addis Ababa	Ethiopia		3:54 am
Adelaide	Australia	✱	11:24 am
Aden	Yemen A.R.		3:54 am

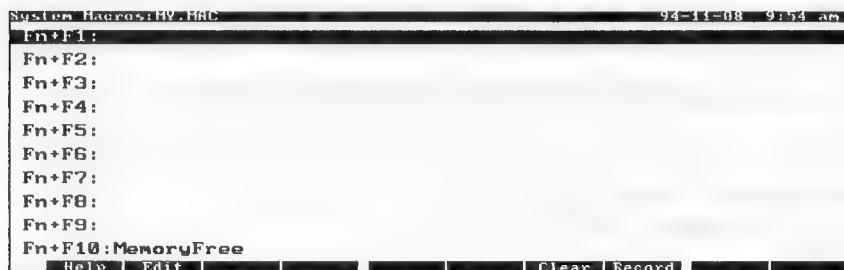
Help | Add | Note | Find | Clip | Subset | →Local | Convert | Custom | Map

見た目にはインパクトがあるが、意外と使い道がないのがこの世界時計。たとえば、電子手帳ユーザーに、「それも世界時計ついてるんだよね。でも、地図ま

では表示できないだろ？」などと優越感にひたり、なおかつその友人を200LX教へ入信させる際の布教ツールとしては、かなりの威力を発揮する――らしい。

システムマクロ（SystemMacros）

図2.18　システムマクロ

```
System Macros:MY.MAC                                  94-11-08  9:54 am
Fn+F1:
Fn+F2:
Fn+F3:
Fn+F4:
Fn+F5:
Fn+F6:
Fn+F7:
Fn+F8:
Fn+F9:
Fn+F10:MemoryFree
  Help | Edit |    |    |    |    | Clear | Record |    |
```

200LXを使っていくと、「そういえば、いつも同じキー操作をしている」という場面に出くわすようになる。そんな時に、**システムマクロ**が威力を発揮する。つまり、一定のキー操作を200LXに覚えさせて楽をしよう、というのがシステムマクロだ。

システムマクロは、Fn＋F1～Fn＋F10までの10個登録できる。

登録はとても簡単で、F8(Record)を押してから、覚えさせたいキー操作をするだけ。市販ソフトで「マクロ」というと、プログラミング言語並みに、コマンドを記述しなければならないが、200LXのマクロは、そんな手間など必要ない（そのかわり、キー入力を覚える以外の高度なことはできないが)。

このマクロを使うようになれば、胸を張って「HP200LXの達人」ということが出来る。

通信ソフト（DataComm）

200LXの前身の100LXのそのまた前身の95LXから搭載されている「**由緒正しき通信ソフト**」が、**DataComm**である。WTERMや「まいと～く」といったパソコン通信用のソフトと、機能的には一緒である。

PCMCIAのカードスロットがない機種（98やMacなど）からデータを転送しようとすると、１度はこのソフトにお世話にならざるをえない。

転送プロトコルも**XMODEM、YMODEM、ZMODEM、KERMIT**といった基本的なものをそろえており、ファイル転送には、意外と重宝する。ただ、このソフトでパソコン通信をしようとすると、設定がかなり難しくなるのでお勧めしない。DataCommは、**ファイル転送手段**と割り切って、外出先からのパソコン通信ネットへのアクセスは、**KTX**など評判のいいフリーソフトにしたほうが賢明である。

図2.19 DataComm

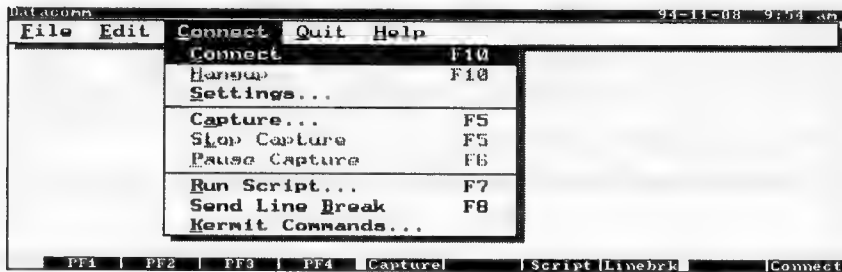
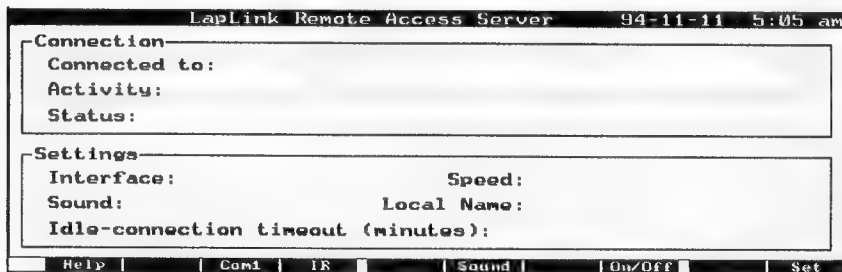
```
Datacomm                                                94-11-08  9:54 am
 File   Edit   Connect   Quit   Help
               Connect                 F10
               Hangup                  F10
               Settings...
               Capture...              F5
               Stop Capture            F5
               Pause Capture           F6
               Run Script...           F7
               Send Line Break         F8
               Kermit Commands...
   PF1 | PF2 | PF3 | PF4 |Capture|      |Script|Linebrk|      |Connect
```

ラップリンク（Lap Link Remote）

図2.20 LapLink

```
           LapLink Remote Access Server        94-11-11  5:05 am
 Connection
   Connected to:
   Activity:
   Status:
 Settings
   Interface:                          Speed:
   Sound:                         Local Name:
   Idle-connection timeout (minutes):
   Help |     | Com1 | IR |      | Sound |      | On/Off |     | Set
```

これも通信ソフトのひとつだが、DataCommとは、かなり動作が違う。

まず、ラップリンクを使ってファイルを転送するには、双方にラップリンクが用意されている必要がある。その上で、ラップリンクで接続すると、相手方から200LXがあたかも**増設ドライブ**のように見えるものである。もちろん、ファイルの転送も、増設ドライブからのコピー、として処理する。

ファイル転送の手段としては一番早いのだが、持っている人が少ない。が、

落ち込む必要はない。**RDISK**という同じような動作をするフリーソフトがあるからだ。98とDOS/Vユーザーは、**RDISK**を使うという選択肢もある。

アプリケーションマネージャ（App Manager）

図2.21　アプリケーションマネージャ（アイコン表示）

More Applications　94-11-08　9:55 am

Appoint ments　Phone Book　Note Taker　Memo　Data base　Pocket Quicken　Lotus 123　HP Calc

Filer　cc: Mail　Setup　DOS　World Time　System Macros　Data Comm　LapLink Remote

312K Free / 346K Total

Help | Add | Edit | Delete | Open | Close | Order | List | Page Up | Page Dn

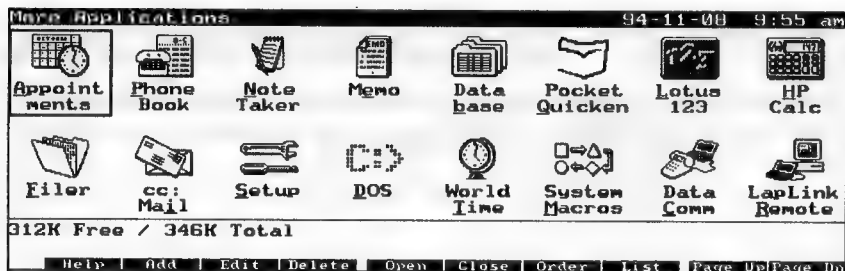



図2.22　アプリケーションマネージャ（リスト表示）

More Applications　312K Free / 346K Total　94-11-08　9:55 am

Application	Status	Memory	Key	Comments
Appointments	Closed		Appt	
Phone Book	Closed		Phone	
Note Taker	Closed		Ctrl+Memo	
Memo	Closed		Memo	
Database	Closed		Ctrl+Phone	
PocketQuicken	Closed		Quicken	
Lotus 123	Closed		123	
HP Calc	Closed		Calc	
Filer	Closed		Filer	
cc:Mail	Closed		Alt+123	
Setup	Closed		Ctrl+Filer	
DOS			Ctrl+123	

Help | Add | Edit | Delete | Open | Close | Order | Icons | Page Up | Page Dn

200LXのメニューである。内蔵ソフトは、アプリケーションアクセスキーでも起動できるし、この**アプリケーションマネージャ**から起動することもできる。また、200LX専用（システムマネージャ対応）のソフトやDOSアプリケーションもここで登録する。

通常は**アイコン表示**だが、**リスト表示**にすると各アプリケーションの使用メモリもわかる。DOSアプリケーションを実行しようとして、「メモリが足りません」といわれた場合には、そのリストでチェックして、大量にメモリを使用しているアプリケーションを探して、それをクローズすればよいのである。

ストップウォッチ (Stopwatch)

図2.23 ストップウォッチ

Stopwatch. Timer. Alarm Clock　94-11-08　9:55 am

Stopwatch　0:00:00.0

Timer [ ]　Message [ ]　☐ Repeat

Time Remaining　0:00:00.0

Alarm [ ]　☐ Alarm On

Help | Stopwatch: Reset | Start | Timer: Reset | Start | Alarm: On/Off

ストップウォッチには、3つの機能がある。**ストップウォッチ**と**タイマー**と**アラーム**だ。それぞれの用途に関しては、説明もいらないと思う。

なかなか使う機会のないアプリケーションだが、旅先では意外なほど重宝したりもする。思わぬ時に役に立つのが、このストップウォッチだ。だが、それも肌身離さず200LXを持ち歩いていないと、その恩恵に預かれないことが多い。200LXは、常に持ち歩いてこそ威力を発揮する——そんな魅力を再認識させてくれるアプリケーションだ。

ハート&ボーン (Hearts&Bones)

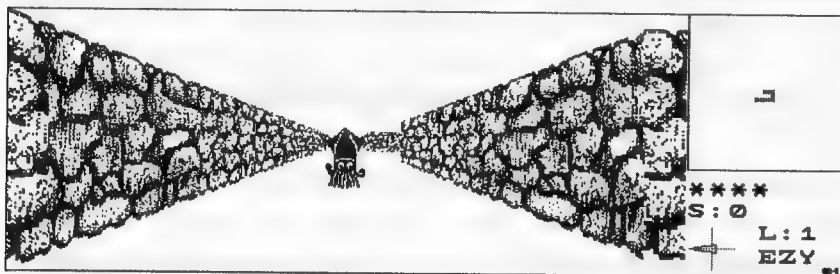
図2.24 ハート&ボーン

「マインスイーパ」などと同じような探索&爆発モノの**パズルゲーム**である。実はこのゲーム、95LXには内蔵されていて、100LXには内蔵されていなかっ

た。いわば「復活したアプリケーション」である。

これも見事にハマるゲームである。購入した日などは、データを打ち込むのも面倒で、ついついハート&ボーンで遊んでしまい、気がついたら、付属の電池がなくなるまでハート&ボーンで遊んでいた、という症状も報告されている。

*迷路 (Lair of Squid)

図2.25 迷路

ハート&ボーンともうひとつ内蔵されているゲームがこれ。RPGの雰囲気の**3D迷路**である。これがとんでもなく難しい。
「パスワード」を拾って次々と迷路を渡り歩いて脱出するのだが、そのパスワードがはるか奥にあったりして、発見するのに苦労する上、イカもどき(火星人とのウワサもある)に襲われれば、画面が溶けてThe END。このイカ野郎が正面から襲ってくるだけならまだしも、いつのまにか背後に迫ってて、なにもしていないのに画面が溶ける、という場面もしょっちゅうだ。

cc:MADE (cc:MADE)

cc:Mail Automatic Directory Exchangeの略で、cc:Mailで受け取った電子メールの数が多くなったときに、それを移動させるユーティリティー……らしい。cc:Mail自体使ったことがないので、これ以上はマニュアルからも読み取れない。

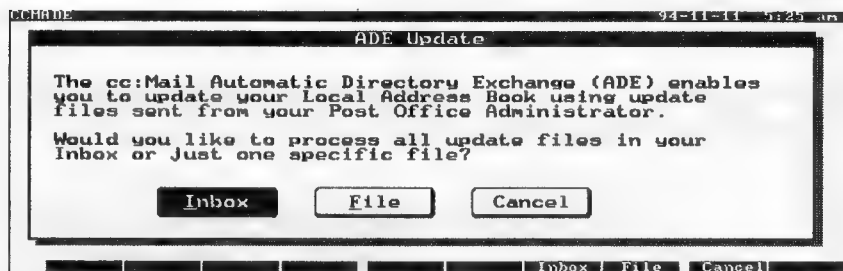
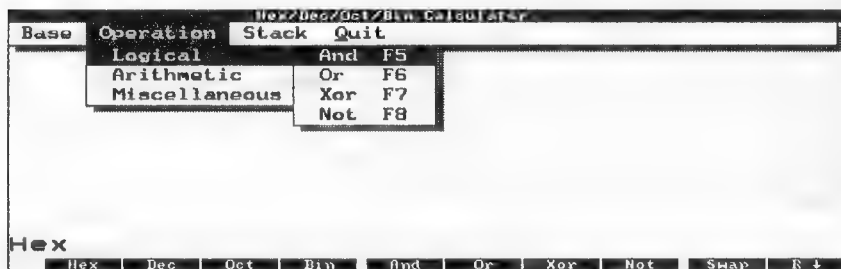
図2.26 ccMADE

+16進電卓（Hex Calc）

図2.27 16進電卓

10進法、2進法、8進法、16進法の数字を相互に変換したり、計算したりするソフトである。

HP電卓の項でも書いたが、HPは金融電卓のメーカーとして有名なのだが、もうひとつ「**科学技術電卓**」のジャンルでもかなり有名で、研究者や大学生にとっては、HPの科学技術電卓はかなり高い人気を持っていた。だが以前は、高嶺の花で、泣く泣くSHARPやCASIOの関数電卓を購入していたものだった。

200LXには関係ない話に思えるかもしれないが、実は欧米や日本でも、HP95/100LXを支えたのは、そういったHPの科学技術系関数電卓を愛用していた人達であることに注目したい。そんな理由から、95LXの時代から専用の16進電卓がフリーソフトとして、オンラインで公開されていた。

それが200LXには、堂々とROMに内蔵されているのである。

*デモンストレーション（Demo）

図2.28　デモンストレーション

```
A QUICK TOUR OF THE
HP PALMTOP PC

ESC to exit, Space Bar for next screen, other keys to hold
```

読んで字の如く、200LXのデモンストレーションである。

実行すると、200LXの性能や特色が次々と表示される。もちろん、アメリカ生まれの200LXは、デモも英語である。

+キーボードセット（keybez）

図2.29　キーボードセット

```
        Keybez version 1.1a
(c) Hewlett-Packard - LEC - 1993

Please specify one of the following parameters:
        bl      for Byelorussian
        cr      for Croatian
        cz      for Czech.....
        cz      for Czech
        gk      for Greek
        he      for Hebrew
        hl      for Hebrew based Latin
```

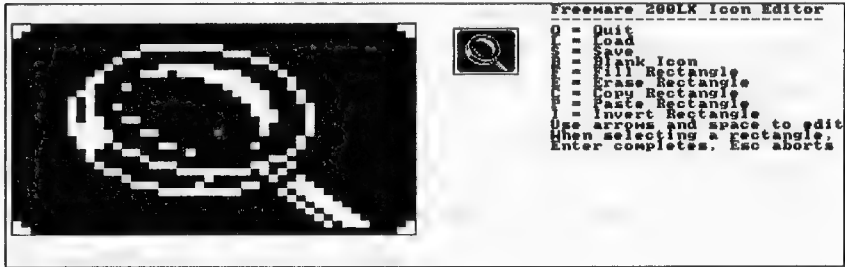
200LXのキーボードの動作を入れ替えるユーティリティである。

例えば、クイッケンはそんなに使わないけど、データベースはよく使うから、アプリケーションアクセスキーだけで起動したい、という場合などに使用する。が、そのためには設定ファイルを作成しなければならず、この設定がちょっとややこしいのだ。

しかし、キーを入れ替えたいというのは、かなり切実なニーズであったりす

るので、**EXKEY**というフリーソフトを使ったほうがよいようだ。

⁺アイコンエディタ（ICN200LX）

図2.30 アイコンエディタ

アプリケーションマネージャで表示されるアイコンを自作するためのツールである。NIFTY-Serveの**FYHPPC**のライブラリにも、多数のアイコンのサンプルが登録されているが、やはり自作のアイコンを使うのも、オツなものである。

さて、このツールを起動すると、一番上に「**Freeware**」と表示される。実はこれ、本当にフリーソフトだったのだ。もともとHP100LX用のフリーソフトだったのだが、どういう経緯かは知らないが、内蔵されていたのである。いくら出来がいいとはいえ、フリーソフトをROMに書き込んでしまうなんて……つくづく、アメリカというのは、スケールの大きい国である。

P200LX 日本語化キットの概要

HP200LXというのは、アメリカやヨーロッパで発売されているマシンである。当初このパームトップパソコンのシリーズは、日本での発売予定はなかった。しかし、200LXの元祖である95LXというマシンの可能性を感じ取った当時

注）アプリ名に ＊ がついているのは、アプリケーションアクセスキー（CTRL や ALT と同時に押すものも含めて）で、一発で起動できないので、アプリケーションマネージャかファイラーから起動すること。

アプリ名に ＋ がついているのは、購入時にはアプリケーションマネージャに登録されていないので、**D:¥BIN** のディレクトリに入っている実行ファイルをアプリケーションマネージャに登録するか、ファイラーから直接実行すること。

りYHPの電卓部門の担当者が、日本での発売に踏み切り、少しずつ普及させていったという、いまのブームからは考えられないような経緯を持ったマシンである。

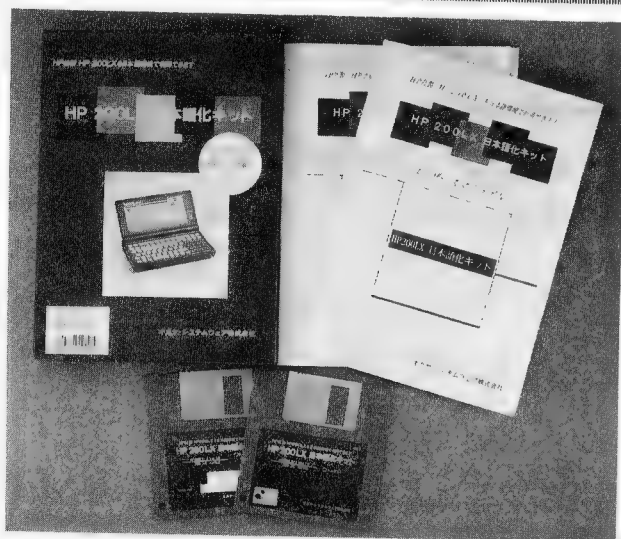
当然、マシンの日本語化対応はもとより、マニュアルすらも英語である。

ところが、そのマシンで日本語を使えるようにしてしまったもの凄い人達がいた。そのあたりは、SS１氏のレポート（117ページ）を読んでいただくとして、過去の95/100LXでは、そういった人達の尽力の上に日本語化というものが成り立っていた。

ところが、そのソフトのメンテナンスやサポートといったものがフリーソフトの範疇を越え、またマシンの普及の妨げになってもいるとの判断から、200LXの発売を期に、日本語化をするための一連のソフトをまとめて、さらなるパワーアップを施して、パッケージ化することになった。それが、「**HP200LX 日本語化キット**」である。

この日本語化パッケージには、３種類のバージョンが用意されている。

- **基本セット**
- **フルセット（基本セット、WXⅡ＋、MIFES mini）**
- **フラッシュメモリ版（EPSON フラッシュパッカーに「フルセット」がプリインストールされたもの）**

図2.31　日本語化キット

中身はどれもいっしょであるから、はじめて200LXを購入するユーザーには、プリインストール版をお勧めする。これなら、ファイル転送時にありがちなトラブルを避けられるからだ。そして、200LXを活用するためには、なにしろRAMカードが必要になる。

もし、いま何がしかのRAMカードを持っていて、それを200LXに流用したい場合に、ソフトのセットを購入すればよいだろう。残念ながら、現時点(94/10/20）では、製品版が完成していないので、インストール試験は行なえなかったが、ケーブルで接続すれば自動的に転送されるようなインストーラが付属する予定だと聞いている。もし、インストーラが使えない機種でも、1つ大きなファイルを転送して、それを展開すればインストールが完了するようになるだろう。フリーソフトを組み合わせて日本語化した場合の障壁がインストールであったことを考えれば、それなりの対応はするものと思われる。

さて、その日本語化キットのβ版を使用した感触をレポートしよう。

日本語化キットは、いくつかのモジュールからなり、それらを組み合わせることにより、HP200LX上で、

①MS-DOSの日本語化（V-TEXT対応）
②内蔵ソフト（システムマネージャ）の日本語化

の2種類の日本語化を実現している。では、それぞれについて説明しよう。

・MS-DOSの日本語化（V-TEXT対応）

いわゆるDOS/Vというのは、本来英語の表示機能しかないIBM PC/AT（とその互換機）へ、日本語のフォントを扱えるような機能とそれをディスプレイへ表示させる機能をソフトウェアで追加させる（フォントドライバとディスプレイドライバを組み込む）ことにより、日本語化を実現している。

HP200LXも立派なIBM PC互換機なのだから、同様に日本語化できるはずだ。その考えのもとに、日本語化キットもHP200LX上で日本語を扱えるようにしている。

日本語が扱えるようになっても、同じソフトが動作するかどうかは、また別問題である。しかし、DOS/Vは広い画面上で通常の80桁×25行以上の文字を表示できるような規格を採用している。これを**V-Text環境**と呼ぶ。

HP200LX日本語化キットもV-Text環境の規格を採用しており、V-Text対

語のDOS/V用アプリケーションなら、原則として問題なく動くようになっている。ただし、「V-Text」という名前の通り、文字のみで動作するソフトに関してのみ互換性があるのであって、グラフィック画面で動作するものは、HP200LXの画面に合わせるための機能（**CGA対応ディスプレイドライバ**）がないと動かない。だから、ゲームやワープロなど、グラフィックを駆使して華やかな画面構成を使用しているソフトが動く見込みはないと思って間違いない。

・内蔵ソフト（システムマネージャ）の日本語化

そこで問題になるのが、システムマネージャである。システムマネージャというのは、テキスト画面ではなくグラフィック画面を用いて表示を行なっている。つまり、MS-DOSの日本語化（V-Text化）では、日本語を表示させることができないのである。そこで、システムマネージャに対しては、MS-DOSと別な日本語化を施すことになる。

また、欧米にはFEPというものの概念すらないので、FEPを使用するためにも、ソフト的に対応する必要がある。

もちろん、インストールが終わった時点で、両方の環境がセットアップされているわけだから、必ずしも必要な知識というわけではないが、なにかのトラブルが起きた時のために、知っておいて損はない。

では、実際にHP200LXで日本語を入力してみよう……と思ったら、日本語を入力するためのキーがない。

98なら、FEPを起動するなら［CTRL］+［XFER］と大方決まっているし、IBM PCなら［ALT］+［全角/半角］だろう。ところがHP200LXには、［XFER］も［全角/半角］もない。そこで日本語化キットでは、

［ALT］+［SPACE］

でFEPを起動する。これはMS-DOS上でもシステムマネージャ上でも共通である。起動後は、ローマ字で入力、［SPACE］で変換、［ENTER］で確定、とほかのパソコンと同じである。もちろん、ひらがな入力もできるが、キーボードに表示がないし、JIS配列の１番上の列がないのでやめたほうがいい。

気になる動作速度だが、かなり速いと思う。もちろん、絶対的速度は486CPUを搭載したサブノートと比べるべくもないが、186などという超低速なCPUの割には、ストレスなく入力できるというのは、驚異的だと思う。一世代前のノートパソコン程度の漢字変換速度は確保している。

エディタでのスクロールも、ビュアーとして使うには辛いが、入力は可能な程度のものではある。それよりも、普段パソコン上で使い慣れたFEPとエディタがそのまま使えることのメリットを強調したい。

図2.32 DOS/C上のVz日本語入力画面

```
P 口    1|1  [8145h]    1627   0% (    0) 424K 1  A:¥MY¥NIHON.TXT
 内蔵ソフト（システムマネージャ）の日本語化↵
 そこで問題になるのが、システムマネージャである。システムマネージャというのは、
テキスト画面ではなくグラフィック画面を用いて表示を行っている。つまり、MS-DOSの日
本語化（V-Text化）では、日本語を表示させることができないのである。そこで、システ
ムマネージャに対しては、MS-DOSと別な日本語化を施すことになる。↵
 また、欧米にはFEPというものの概念すらないので、FEPを使用するためにも、ソフト的
に対応する必要がある。↵
 もちろん、インストールが終わった時点で、両方の環境がセットアップされているわけ
だから、必ずしも必要な知識というわけではないが、なにかのトラブルが起きた時のため
                                                        連 ﾛｰﾏ 全かな 学
```

部アプリは何が使えるか？

今度は、PIMとしてではなく、DOSマシンとしてのHP200LXの機能をレポートしてみよう。DOSマシンとしての機能ということは、どれだけ一般に流通しているソフトが使用できるかということでもあるので、ここではフリーソフトを中心に、ソフトのジャンル別にレポートする。

・エディタ

Vzエディタは、かなり初期からV-Textで動作していたこともあり、使用に際してはなんの問題もない。[F12]（200LXでは[Fn]＋[F2]）のブロック指定がなぜか使えないが、これは[CTRL]＋[B]で代用できるのでよしとしよう。

Vzと2大派閥を築いている**MIFES**も、かなり早い時期から対応している。今回日本語化キットに同梱される**MIFES mini**も、HP200LX用にチューンアップされたものであるとのウワサもあり、HP200LX上でも、ほかのDOSマシン同様にエディタの盟主をめぐる両者の争いが展開される模様である。

それ以外のエディタを使用しているユーザーはほとんど見掛けないので、エディタに関してはなんの心配もいらない、ということになる。

・**FEP**

日本語化キットに同梱される**WXⅡ＋**が、事実上HP200LXでの標準FEPとなるだろう。その他の動作FEPでは、**VJE-β**がある。VJEも早い時期からV-Textに対応していたので、当然といえば当然である。

FEPの代名詞ともなっているATOKだが、NIFTY-ServeでATOK8の動作報告があったものの、かなり細かい設定が必要であるし、CPUパワーを要求するAI変換、そして大きいサイズの辞書などの問題から、使用は現実的でないようだ。

・**ワープロ**

ワープロに関しては、ソフトの動作以前の問題がある。プリントアウトだ。

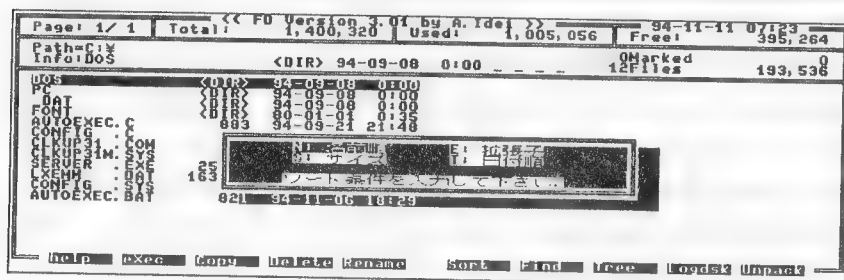
HP200LXには、**シリアルインタフェース**しか出力ポートがない。シリアルポートがプリンタポートでもある欧米ではなんの問題もないが、日本では「**パラレルポート**」がプリンタポートとなっている。当然、シリアルポートに対応したプリンタもほとんどない（高級プリンタに限られる)。

シリアル－パラレルの変換器を購入すれば、200LXからプリントアウトできないこともないが、シリアル－パラレル変換器が２～３万する以上、現実的な選択とはいいがたい。

・**ファイラー**

ファイル管理というより、メニューツールとして重宝がられているファイラーであるから、エディタやFEPよりファイラーの対応が気になるという方も多いだろう。

一番メジャーである**FD**は、文句なしに動く。ついでユーザーの多い**FILMTN**も

図2.33 FD

問題ない。システムマネージャのFilerと同様に2画面モードの**MF**というファイラーも動作する。

市販品では、98版とDOS/V版とWindows版を1パッケージにして話題になっているオーツーの**GF**も、動作する（もっともGFは、ツリー表示がウリなので、25行以下だと使い物にならない）。

・通信ソフト

現在の100/200LXユーザーに一番評判がいいのが、**KTX**というフリーソフトである。高機能なのに高速で動作する、と200LXにうってつけの通信ソフトである。余談であるが、**FYHP**の定例RT（チャット）では、必ず1人か2人、HP200LXから**KTX**でアクセスしているメンバーがいる。

いくつもの本が出版されるほど人気の**WTERM**だが、200LX上では分が悪い。25行モードなら動作することはするのだが、動作がかなり遅くなってしまう。NIFTY-Serve専用としてすっかり定着した感のある**Air Craft**も、WTERMと同様である。

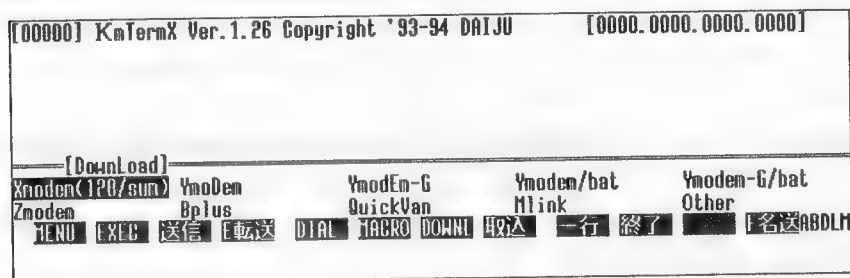
市販品に関しては、グラフィック画面を使用したり、高速CPUが使用の前提になっているものが多く、ユーザーを見掛けない。

通信ソフトには、パソコン通信ネットにアクセスするためのソフトであると同時に、パソコン同士でファイルをやりとりするソフト、という側面も持っている。

図2.34 KTX

```
[00000] KmTermX Ver.1.26 Copyright '93-94 DAIJU        [0000.0000.0000.0000]




――[DownLoad]――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――
Xmodem(128/sum) YmoDem        YmodEm-G        Ymodem/bat       Ymodem-G/bat
Zmodem          Bplus         QuickVan        Mlink            Other
 MENU  EXEC  送信  E転送  DIAL  MACRO  DOWNL  取込  一行  終了        F名送ABDLM
```

上に挙げたソフトでもファイル転送は、もちろん可能なのだが、それ以上に評判なのが**RDISK**というフリーソフトである。これは既述のとおり、ラップリンクと同様に、双方で**RDISK**を準備すれば、HP200LXが相手方の増設ドライブと

[illegible]携[illegible]る、という便利なツールである。ちなみにVer4.2とVer5.0では、操作法が別物といってもいいくらいに変更されているので、必ずVer5.0を入手しよう。

図2.35　RDISK

```
A:¥>rdiskv
Remote-Disk (Disk Redirector) Program for IBM-PC  Version 5.00.
Copyright (C) Shigenori 1992-1994.  All right reserved.

Remote-Disk クライアント・プログラムを導入しました。
ドライブＩＤ : F,G,H.

A:¥>■
```

・**FAX**ソフト

FAXモデムの普及とともに注目を集めつつあるのが、**FAXソフト**だ。そういえば、ライバルのザウルスは、FAXでの転送を売り物にしている。

100LXの頃は、シェアウェアの「**たぬきFAX**」のフリーソフト版が使用できて話題を呼んだが、現在では、**FYHPPC**にアップされている**MKFAX**の評判がよい。

さて、FAXソフトの使い道だが、200LX上で作成したテキストをFAXとして送信するのはもちろんのこと、**簡易プリンタ**としても使用できる(FAXと電話の回線が別れているなら、という条件付きだが)。

ほかのパソコンからすれば、確かにソフトのラインナップは少ないと思えるかもしれない。しかし、200LXは携帯が前提になっているマシンであると考え

図2.36　MKFAX

```
A:¥>mkfax sample.txt
A:¥MKFAX.cfg not found
Font size=32x32  Line/page=57  Linespace=8
Page  1 Line 11
```

れば、これだけ動くほうが驚異的といってもいいだろう。そして、携帯目的なら、ほとんど過不足ないラインナップがそろっている。

まとめ

HP200LXは、どの点をとってみても「最優秀」なマシンではない。

携帯するのに一番重要な要素である「軽さ」は、ザウルスには及ばない。PIMの使い勝手にしても、機能的には優秀だが、非パソコンユーザーには、なかなか理解できない部分もあり、ザウルスやOASYSポケット３に比べれば、導入への障壁があるといえる。

日本語の入力環境にしても、キーの小ささは重要な問題で、アポイントや電話帳のデータを入力するにはなんの支障もないが、大量の文章を入力するなら、OASYSポケット３かThink Pad230CSのようなサブノートパソコンだろう。

パソコンとしての機能は、Windows使用を前提にしたサブノートに及ぶべくもない。

しかし、である。

それらの要素を総合的に見た場合、HP200LXは、非常に魅力的なマシンとなってくる。手頃な大きさと軽さ、優秀な電子手帳（PIM）機能、DOSマシンとしての機能、そして驚異的な連続使用時間――。

いままで最大の障壁であった、「英語のマシン」も、日本語化キットの発売によって取り除かれた。

それぞれの要素は、電子手帳やサブノートパソコンに負けているかもしれない。しかし、それらの抱えている「欠点」すべてをクリアーしているHP200LXというマシンの存在は、大きいと思うのだ。

すべての電子手帳ユーザー、すべての携帯型ワープロユーザー、すべてのパソコンユーザーに手にとっていただきたい。それらすべてのユーザーの期待を裏切らないだけのポテンシャルを持ったマシン――それがHP200LXである。

●ついに登場、HP100LX戦士！

HP100LXが、ほかのパソコンと違うところは、なんといっても「小説になってしまう」という点でしょう（笑）

——とはいっても、その小説を描いているのは、ワタクシなんですけどね。

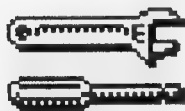
しかしこの小説、意外とひそかなブームになっておりまして、イラストが多数発表されてたり、キャラクターグッズまで作成されてたり……。

いっそのこと、葉月里緒菜ちゃん主演でドラマ化しませんか？> YHP

《在処》FBOOKC MES17にて連載中　HP100LX戦士　キューティー・ピンク
FBOOKCで推進中の「電脳草子」に収録予定
FBOOKR MES6にて、CG企画進行中

Part
3

by Kazumi Takei

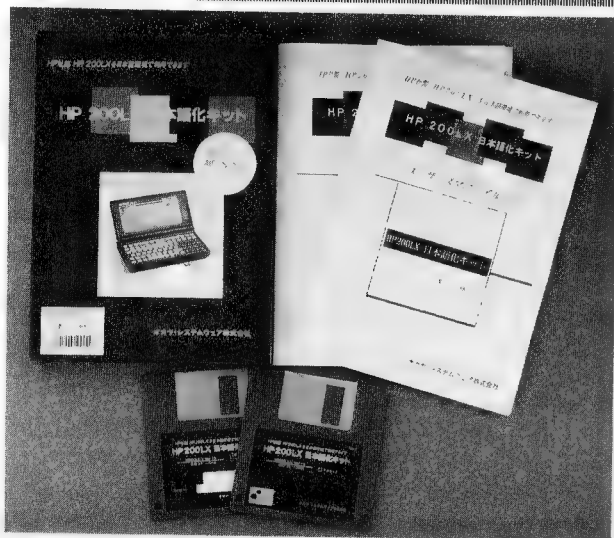
HP200LX日本語化キットのインストール

94年10月25日は、日本のHP100/200LXユーザーにとって記念日となるだろう。この日、100/200LXを日本語で利用できるようにするソフト「**HP200LX 日本語化キット**」(オカヤ・システムウェア株式会社) が発売されたからだ。

発売されたばかりの日本語化キットを、早速導入してみた。といっても、実は導入するまでにかなりの悪戦苦闘があったのも事実だ。その悪戦苦闘をも交えて、日本語化キットの導入とその内容を紹介しよう。

1 日本語化キットの特長

日本語化キットの正式名称は、「**HP200LX 日本語化キット**」という。オカヤ・システムウェア株式会社の製品だ。付属のマニュアルの巻末に、STAFFとして名前が上げられているのは、次の方々だ (敬称略)。

Producer：北角権太郎
Programmer：まるは、みゅう、**KaZoo**、かづひ、関谷博之
Font Designer：**YAFO**、**BYMF**、**O.S.W**

図3.1 日本語化キット

それに、Special Thanksとして**清成啓次**さん、**NORI**さん、**Natrium**さんといった方々の名前も並んでいる。

なぜ、わざわざスタッフを紹介したのか。すでに100LX時代をご存じのユーザーならわかるだろう。そう、これらの作者は、100LXの日本語化をフリーソフトウェアで可能にした**偉大なるフリーソフト製作者たち**なのだ。

つまり、200LX日本語化キットは、まさしく100LXの日本語化を可能にしたフリーソフトウェア時代の精神を、脈々と受け継いでいるといえるのだ。

前述したように、100/200LXの日本語化は2つの特長がある。1つは、その大きな特長である**PIMの日本語化**。もうひとつは、ROMで搭載されている**英語MS-DOS（Ver.5.0）の日本語化**だ。そのためのディスプレイドライバ、フォントドライバ、さらに3種類の日本語フォントなどがキットの中心になる。また、この日本語化されたDOSの上にソフトを常駐させることで、PIM上でも日本語化を可能にしている。フリーソフト時代と比べると、このへんの連携が非常にわかりやすくなった。また、日本語のかな漢字変換を行なうためにFEPを組み込むことになるが、このFEPがメモリをできるだけ圧迫しないよう、EMSを作成して利用できるようにもしている。

これらを盛り込んだのが**基本キット**。さらに日本語化キットには、**フルセット版**と呼ばれるものがあり、こちらには基本セットのほかに日本語かな漢字変換ソフト(FEP)のWXII＋と、日本語エディタであるMIFES-miniが添付されている。

さらにフルセット版には、**フロッピー版**と**フラッシュパッカー版**とがあり、フラッシュパッカー版はEPSONのフラッシュパッカーにプリインストールされた形で販売されている。

100/200LXをはじめて購入するなら、フラッシュパッカー版のキットを購入すればいいだろう。

すでにフラッシュメモリを持っているなら、フルセットのディスク版を購入して、自分でインストールするといい。

さらに、すでにWXII＋や他のエディタを持っていて、こちらを利用したいというなら、基本セットで十分だといえる。

ただし注意しなければならないのは、フラッシュパッカー版をのぞいて、フロッピーで提供されている基本セットとフルセットは、インストールするためにAT互換機またはPC-9800シリーズが必要になる点だ。100、200LXにはMacintoshユーザーも少なくないが、Macintoshではインストールできない。イ

ンストールプログラムがMacに対応していないのである。

さらに、これらのマシンと200LXとを接続するために、**HP社製ケーブル（F1015A）**が必要になる。PC-9800シリーズの場合は、加えて**アダプタキット（F1023A）**も必要だ。

既述のとおり、ぼくは100LXを購入した時点で、即座にATマシン用に**PCMCIAカードドライブ**を増設してしまった。これはデータの転送を考えたとき、カードtoカードのほうが楽だからだ。今後のPCMCIAの動きを予想するまでもなく、まもなくパソコンでは必須アイテムになるだろう。

カードドライブを増設したため、ぼくはケーブルを持っていなかった。200LX(100LXも)のコネクタは特殊な形状のため、専用ケーブルでなければ接続できない。他のケーブルを流用するなどということはできないのだ。

同様に、PCMCIAドライブの搭載されているノートパソコンのユーザーも、日本語化キットをインストールするためには専用ケーブルを購入する必要がある。

後述するが、日本語化キットを導入するためには、**インストールプログラム**を起動する必要がある。インストールプログラムを走らせて、はじめて日本語化をセットアップするためのプログラムが作成され、最も重要なデバイスドライバが作成されるのだ。インストールプログラムを起動しなければ、これらのプログラムが作成されず、単純にフロッピーからファイルをコピーしたのではインストールできないのである。

図3.2　ケーブル

このような形式にしたのには、さまざまな理由もあるだろう。ケーブルだってそう値が張るものではない。だが、日本語化キットをインストールするためだけにケーブルを購入しなければならなかったり、確実にユーザーの存在するMac用インストーラーが付属していなかったというのは、なんともお粗末な話ではないか。この点は、ぜひとも次回バージョンでは改めていただきたい。

2 インストールの手順

ATマシンまたはPC-9800シリーズとHP200LXをケーブルで接続し、日本語化キットのフロッピーをドライブに入れて「**INSTALL**」と入力すると、日本語化キットのインストールが始まる。

ただし、その前に確認しておかなければならない点がある。まず、200LXのほうは[CTRL]＋[ALT]＋[DEL]キーを押してリブートし、Dドライブから立ちあげておくことだ。実はCドライブから立ちあげてもとくに問題はないが、なるべく素(す)の状態で起動しておくのがベスト。

また、もしクリスタルを交換して倍速化しているなら、シリアルポートの転送に問題が出るから、**CLKUP31M.SYS**だけをデバイスドライバとして読み込んでおくか、または**CLKUP31.COM**を実行しておくといい。

画面はシステムマネージャの画面になっているはず。システムマネージャになっていなければ、**200**と入力してシステムマネージャにする。さらに、**Filer**を起動して、[MENU]－[C]－[R]でシリアルポートのセッティングを確認しておくといい。**Interface**が**Com1**になっているかどうかだ。また、**Setup**の[MENU]－[O]－[C]で、**Com1 Port**がDOSで利用できる（Enable）ようセットされているかどうかも確認したい。

RS-232Cが利用できるかどうかは、実はシステムマネージャを利用しているうちに勝手に変更されてしまう。筆者の環境ではRS-232Cが利用できない設定に替わっていたため、これで日本語化キットのインストールを何度も失敗した。

デスクトップマシンのほうでフロッピーディスクをカレントドライブにし、「**INSTALL**」と入力して[Enter]キー、またはリターンキーを押すと、日本語化キットのインストールが始まる。

まず、**製品のシリアル番号、製品のバーコード番号、ユーザ名**を入力する。

シリアル番号は、フロッピーディスクに貼られたシールに書かれた番号だ。製品のバーコード番号というのは、日本語化キットの**化粧箱の表**に刷り込まれているバーコードの下に書かれた番号だ。4から始まる13桁の番号だが、この番号を入力しなければならないから化粧箱を捨ててはならない。これもちょっと通常と異なる処置だから、くれぐれも化粧箱を捨てないように。

名前は、**半角アルファベット**で入力すればいい。全角文字でも支障はないが、あとで所有者の名前が文字化けしてしまう可能性もある。

正しく入力が終わると、インストーラーが働いて、画面にさまざまな指示が出る。200LXのシステムマネージャで**DetaComm**を立ち上げ、転送速度などのセッティングを行なえと出る。

実はこのインストーラーは、デスクトップパソコンと200LXとをケーブルで接続し、**DataComm**を利用してファイルを転送するのである。転送するファイルは、Cドライブのルートディレクトリに送られる**SERVER.EXE**というファイル転送プログラムだ。

SERVER.EXEが正しく送られたら、画面の指示にしたがってシステムマネージャを終了し、いま転送された**SERVER.EXE**を起動する。この**SERVER.EXE**を利用して、今度は日本語化に必要なファイルがフロッピーディスクから200LXのAドライブに自動的に転送される。

このへんの操作は、すべて画面に表示される指示にしたがっていればいい。その点ではよくできたインストーラーなのだ。自動的にAドライブに**JKIT**というディレクトリを作成し、日本語化に必要なファイルを転送し、さらに**FONT**というディレクトリを作成して、フォントファイルを転送してくれる。

すべてのファイルの転送が終わると、最後に**SETUP.EXE**というファイルを転送する。

実はこのファイルこそ、日本語化のための最も重要なファイルなのだ。というのも、この**SETUP.EXE**を起動することによって、日本語化の最も基本となるドライバが作成され、フラッシュメモリの環境を読み込んで、日本語化の環境を作成してくれるからだ。

ただしそれは、インストーラー任せの日本語化を行なう場合だけだ。自分だけの環境を設定しようと思えば、日本語化が終わった時点で再度ファイルを移動したり環境を再構築する必要がある。

日本語化キットのフルセット版でインストールしたときは、さらにWXII＋とMIFES-miniも転送され、インストールが終了する。

3 最後の仕上げはセットアップ

インストーラーは日本語化に必要なファイルを転送すると、自動的に終了する。終了したら、ケーブルを抜いてしまってもいい。あとは転送されたファイルの中の**SETUP.EXE**を起動するだけだからだ。

ここまでの操作は、ケーブルでファイル転送を行ない、インストーラーまかせのファイル転送を行なおうというユーザーなら、画面の指示に従って操作していくだけで実に簡単に終わる。

ところが、ひとたび何らかの問題が起こると、このインストーラーは脆弱なのだ。前述したように、専用ケーブルを持っていなければインストールができないし、RS-232Cが何らかの理由でクローズされてしまっていると、インストーラーも途中で止まって終了してしまう。すべてのファイルをケーブル経由で転送することによって、はじめて日本語化キットのファイルが転送され、日本語化が行なわれるのだ。それ以外の方法はない。一番重要な**SETUP.EXE**ファイルは、インストーラーが終了する間際に作成されるもので、フロッピーの中に入っているわけではない（正確には、インストールプログラムのなかに入っているが、**SETUP.EXE**だけを取り出すことができない）。

他のアプリケーションのインストールと比べ、いろいろと異なっている点にまごつくかもしれない。これは、ソフトの不正コピーを防止するための措置だといえるが、このプロテクトはあまりにユーザーに不利だといえる。次版ではぜひ改善していただきたい点だ。ユーザーに不利な点は、まだある。それについては後述する。

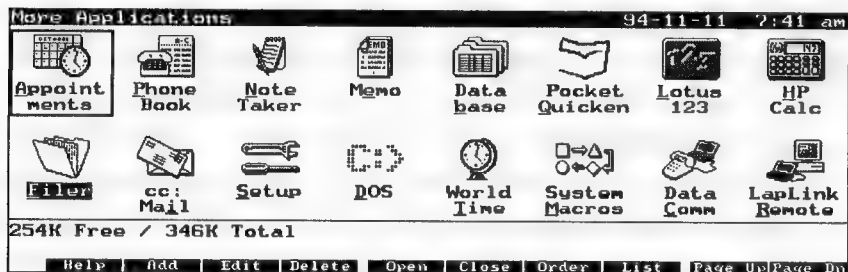
ファイルの転送が終わったら、Aドライブに作成された**SETUP.EXE**を起動する。

A:¥＞SETUP

こう入力して Enter キーを押せばいい。最初にユーザー名を確認してくるから、 Enter キーを押す。すると、**SETUP**はCドライブに**EMS**ファイルを作成し、環境を調べ、Aドライブの**CONFIG.SYS**と**AUTOEXEC.BAT**を書き換えて終了する。もともとあった**CONFIG.SYS**と**AUTOEXEC.BAT**は、ともに**OSW**という

拡張子のファイルに変更されて残される。

これで終了だ。CTRL＋ALT＋DELキーを押して200LXをリブートすれば、次に立ち上がるときは日本語化された200LXなのだ。また、**SM**と入力すれば（**SM.BAT**を起動する）システムマネージャが立ち上がるが、やはり日本語化されたシステムマネージャになっている。

図3.3　画面では判然としないが日本語化されたPIM画面

何も考えずに、インストーラーまかせ、SETUPまかせでここまでできる。問題が出なければ、これは優れたインストーラーだ。

が、再三述べるように、ケーブルを持っていて、しかも問題が出なければの話なのだ。問題が出たときの対処は、ほとんど考えられていない。たとえば、**SETUP**を起動すると**EMS**ファイルを作成するが、このときCドライブに**EMS**ファイル（10ページ分）を作成するだけの容量がなければ、**EMS**ファイルは作成されない。

それはいい。だが、たとえば**SETUP**が作成した**EMS**ファイルをもっと大きな、たとえば20ページ分のファイルにしようと思えば、**SETUP**が作成したものを削除することになるだろう。このEMSファイルは**読み出し専用**で、しかも**不可視属性**がつけられている。ファイルメンテナンスのようなツールがなければ、初心者がこのファイルを削除するのは大変なのだ。

いや、そもそもこの**SETUP.EXE**は、起動回数を管理していて、**最大7回**までしか起動できないようになっている。また、**SETUP.EXE**はフラッシュメモリの環境を読んでいるため、一度インストールしたフラッシュメモリの内容を他のフラッシュメモリにコピーしても、不正使用だとみなされて日本語環境が起動されないのだ。

図3.4 EMSエラーメッセージ

```
EMSINST Version 1.00
Copyright(C) 1994. Hiroyuki Sekiya
Produced by  OKAYA SYSTEMWARE Co.,LTD  All rights reserved.

Error: EMS-file is in use. Please restart non EMS environment.
rename config.sys to config.osw.
rename autoexec.bat to autoexec.osw.

Setup error: CODE[201]Disk full or Disk error

A:¥>_
```

これではフラッシュメモリの内容を別のフラッシュメモリやデスクトップのハードディスクにバックアップしておいても、いざというときに何の役にも立たないではないか。

100/200LXは、ポケットに入れてどこにでも持ち運べるパソコンだ。それだけに、何かのショックでファイルが壊れることだってある。あるいはメモリの内容が壊れてしまうことがないわけではない。これまでも日本語化の影響で、**Appointments**や**PhoneBook**のファイルが壊れてしまったことも、1度や2度ではない。インストールそのものがケーブルを使ってしか行なえず、また**SETUP**に回数制限が設けられているのは、不正使用防止という意味では理解できるものの、やはり正規ユーザーにとっても不利だといえまいか。これらの点は、早急に改善していただきたいものである。

とはいっても、この日本語化キットそのものの内容は、非常に優れた満足できるものである。辛口のレポートを書いたが、キットの内容についてはいくらでも賞讃をおしまない。

英語版のまま、日本語で使用されることをまったく考慮されていなかったHP100/200LXが、この日本語化キットによって新しく日本語マシンとして生まれ変わるのである。“手のひらにのるデスクトップ環境”さえもが、100/200LXと日本語化キットによって実現するのだ。このマシンとソフトによって、きっとパソコンの利用法そのものが、大きく前進するはずだ。日本語化キットは、100/200LXのためというより、むしろ日本のパソコンシーンを、大きく塗り替える威力を秘めたソフトなのである。

Part 4

by Mari Saito

文系人間の生活必需品

「HP100LXと暮らすプライベート・ライフ」

某月某日：

100LX——ヴィクのディテールに迫る!?

今日はまことに悲しくも、何も予定がない１日である。

仕事がない、というのを不安がっていても仕方がない。せっかく空いた時間、せいぜいぶらぶらごろごろしよう。普段の寝不足を解消するいい機会でもある。

ごろ寝の友は、もちろん**HP100LX**。**Appointments**や**PhoneBook**のデータのチェック、いらないテキストファイルを整理したり、テトリスなどに手を出せば、それだけで数時間は潰せる、お手軽な友である。

だが、今日はまとまった時間があるから、**ヴィク**もお供に加えることにする。

ヴィク、正式には**V.I.ウォーショースキー**。シカゴの私立探偵である。サラ・パレツキーの生んだ、タフでめちゃくちゃカッコいい女だ。今日の彼女の舞台は「ダウンタウン・シスター」。出身高校を訪れ、バスケットボール部の懐かし

図4.1 サラパレツキーの本

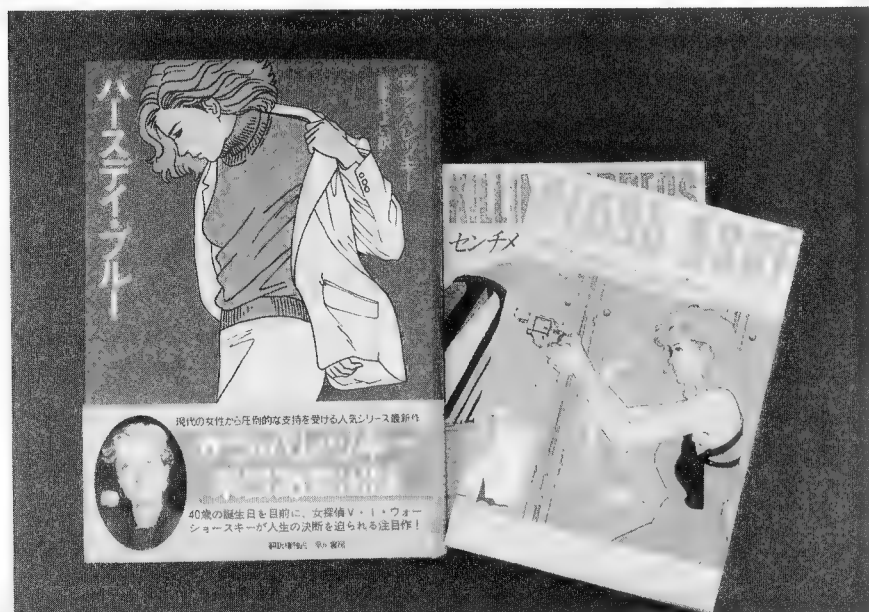
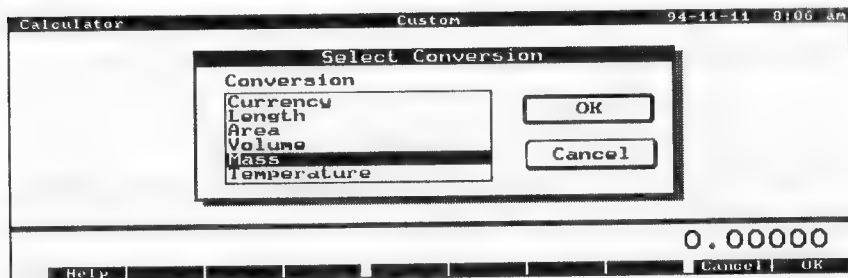



図4.2 カルクメニュー

いメンバーと顔を合わせるシーンから始まる。

ハードボイルドを読むとなれば、100LXは枕にしかならない、なんてことはまったくない。何をするにも、100LXは手放せないのである。

ヴィクは**5フィート8インチ、140ポンド**。これがどのくらいの背丈、体重を指すのか、センチとグラムを単位として暮らす私には、多分私よりは大きいんだろう、とぐらいしかわからない。

100LXを開いて、**Calculator**を呼び出す。普段、単純な計算機としてはよく利用するが、このカルク、さすがヒューレット・パッカード社の製品だけあって、ツカエルやつなのだ。といっても、逆ポーランドがどうとかいわれても、一般人の私にはどう使っていいやらわからない。

MENUキーを押し、'**A**'pplicationsのメニューを出す。ここで使いたいのは、C'o'nversions。**Currency**、**Length**、**Area**、**Volume**……それらの換算機能なのである。

まず、ヴィクの背丈を換算してみよう。

Lengthの画面を呼び出す。

下向きアローキーを押し、**feet**にカーソルを合わせる。「**5**」と入力し、リターン。さまざまな単位で、5フィートがどれだけかが一発で現われた。センチをみると、152.40となっている。はしたの8インチも同じ方法で、まず5フィートの結果を**DEL**で消し、インチにカーソルを合わせ、**8**と入力、リターン。20.32センチと出た。2つの結果を足して、つまりヴィクの背は、約172.7センチとわかった。

体重も同様。**Length**画面で**ESC**を押すと、先程の**Conversions**メニューになるので、ここから**Mass**を選ぶ。**pounds**にカーソルを合わせ、**140**と入力。ヴィ

クの目方は63.5キロ。

ううむ。本人は最近の女子高生に比べたら小柄だとかいっているが、どこが小柄なんだろうか。タフなのもわかるというものだ。

しばらく、小説に没頭する。

「4マイル四方の土地」「彼らが15ヤード以内に近づくまで」「ウィスキーを1インチ」……これまでなら読みすごしていた数字にひっかかっては、100LXを開く。そして「なるほど、6.4キロ四方か」「13.7メートルの距離ね」「2.5センチぐらいウィスキーをついで飲んだんだな」と、具体的なイメージを頭の中に思い浮かべる。これだけで、どれだけヴィクが生き生きと、私の中に起ち上がって来ることだろう。ディテールを書き込むことが肝要だというのが、こんなところで実感できる。

さて、ページを繰っていると「2500ドル」という数字が出てきた。

先程の**Conversions**から、**Currency**を選ぶ。これが**外貨換算のメニュー**である。

Dollarの項に1とあり、円は123となっている。いったいいつの数字だ。

日経を見ると、昨日のレートは99円58銭。細かいが、せっかくだからこの数字を入れてみたい。

その画面から、**F2** **EDIT**を選ぶ。マルクやポンドはおいといて、とにかくドルと円の関係を、現状に合わせよう。**Yen**のRateを99.58と入力し、**ESC**。すると、**Currency**の画面に戻った。さて、2500ドルは何円だ？　¥248,950。

満足して、再びヴィクへ。いつしかすっかり日も傾いて、平和な1日が終わる。

そういえば、寝不足解消計画は、実行されないままであった。100LXを持つと、何をやるにも中身が濃くなる……ということにしておこう。

某月某日：

モーニングコールは100LXのチャイム

目覚ましがなくなった。

正確にいえば、同居する妹が取り返していったのだ。私は彼女の物を不法に所持していたので、文句はいえないのである。

さて、明日から唐突に困ってしまうぞ、これは。私は体内時計というものを

持たない、自堕落フリーランサーである。目覚まし時計がなくては、朝、起きられっこないのだ。起きたらすでに取材の約束時間を2時間過ぎていた、なんてことになったら。かろうじてあった信用も完膚なきまでに打ち砕かれ、今後仕事は一切取れないであろう。死活問題なのである。

しかし。

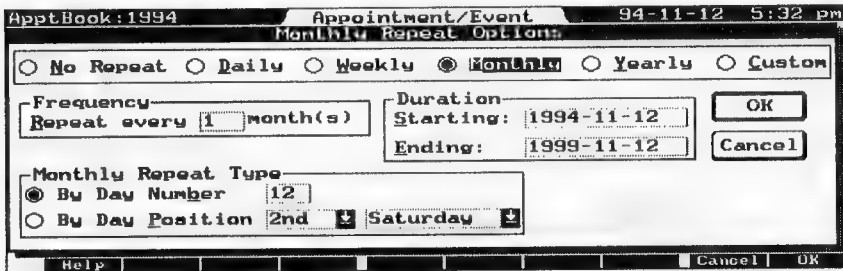
これまでの私なら、妹にタッグマッチを挑んで、力づくで時計を取り返す(正確には奪う、だが)に違いない。いまの私には、いつでもどこでも愛人以上に私のそばにいて、私に(時たまゴネるとはいえ)尽しぬいてくれる、100LXがある！

100LXを開き、**Appointments**を呼び出す。明日の日付にカーソルを合わせ、**F2** **ADD**を押す。

、ここで使うのは、リピート機能である。**F8** **Rpeat**を押す。

Daily、**Weekly**、**Monthly**……今回は、**Daily**を選ぶ。

起床というのは1日1回であるから、**Frequency**は**1**。**Duration**は、明日から1年後の明日の日付までが、すでに記入されている。いつまで100LXだけを頼りに目を覚ますかなんて、わかろうはずがない。飽きたら、その日、起床の項にカーソルを合わせて**DEL**し、**All Occurrences**を選べばよいのである。その日限りで、「起床」予定は**Appointments**から抹消される。そこで、OK。

図4.3 Appointmentsのリピート

すると、見慣れた**Appointments**の記入欄に変わる。ここで「起床」と入力し、時間を朝7時とする。10時に起きたければ、10時とすればよい。**Leadtime**は**0**としておく。これで、OK。1日のスケジュール画面が現われ、7：00に「起床」が登録された。**Alarm**は、もちろん、Ena'**b**'led。

試しに月間スケジュール画面を出すと、明日からえんえんと、毎日「起床」

が記入されている。おお、壮観！　しかし、ちょっとうるさい。予定がたくさん詰まっている日は、全部の予定がこの画面では入りきらなくなってしまう。人に見られたとき、「起床」がえんえん書かれているのも、なんだか自己管理がヘタクソみたいに見られそうで、ちと恥ずかしい。

１日のスケジュール画面に戻り、起床時間にカーソルを合わせて、再びリターン。

右下、**Views**とある項目に見える、**Week**と**Month**。どちらもチェックマークが入っているので、これを消してやる。念のため、月間スケジュール画面を見ると、ちゃーんと「起床」の字が消えている。ちょっと不安になって、１日のスケジュール画面を見てみると、そこには**7：00起床**、とちゃんと入っている。

これでよし。私は安心して布団にもぐりこんだ。

おっと、待て。いくらなんでも、**ビープ音**で起こされたくはないじゃないか。ここはひとつ、さわやかに**チャイム**が鳴ってほしい。

再び、**Appointments**を呼び出す。

今度は**MENU**キーだ。そして、'**O**'ption、続いてAlerm '**B**'eep。**Volume**は**High**、**Sound**は、**Beep**にマークしてあったのを、**Chime**に移動。**Test**で音を聞いてみる。なかなかよろしい。

今度こそ、私は安心して眠りに落ちた。

図4.4　アラームテスト

7時。「ぴぷぴぷーぷぴぴぷー……」

はっ、として、時計を探す。あ、目覚まし時計の音じゃない。ええと……そうだ、**100LXのチャイム**だ。

手探りで、一番下の幅広のキーを押す。**Space**キーを押すと、いったん音は止まるが、５分後にまた鳴ってくれる**スヌーズ機能**が働くのだ。一発で起きら

れない、低血圧症の人間には、こういう機能がありがたい。ESCキーを押すと、そこでアラームはクリアされるので、無意識にも器用にあの小さなESCキーを狙えてしまう人は、気を付けよう。

……それから何度、キーを手探りで押しただろうか。

いつの間にかチャイムが聞こえなくなったのに気付き、さすがの私も、寝過ぎた不安に襲われて、100LXを手にとった。

「7時起床の予定だよ！」

てなことが、英語で出ている。Spaceキーだけを押していられればよかったのだが、どうも別のキーを押してしまったらしい。そうすると、それきりスヌーズもオフになり、画面上でしか確認できなくなる。

最上部のバーの右端を見ると、そこには9：23という時間が表示されていた。

「しまったあああああっ！」

その日、私は仕事に遅刻した。

ま、たまにはこういうことも、ある。

某月某日：

システムマクロで100LXが「電脳句帖」と化す

仕事に行くには、あまりに素敵な小春日和。

こんな日に、公園の芝生に寝っ転がっていられれば、いろんな句が浮かぶことだろうに……。

実は、俳句作りが私の趣味、である。

取材記事ばかり書いていると、たまには純粋な創作というものをやってみたくなる。この夏、ある人が、電子メールのタイトルに句をつけてよこした。それがにわかに私の詩心を刺激し、以来、毎日一句が習慣となった。無論、イメージがほとばしりでる日は、その限りではない。

公園の芝生が私を手招きする。が、仕事へ行かねばならぬ。こんな時には、100LX。

ばたばたと支度をし、駅へ走る。ちょうど、電車がホームに滑り込んできたのが見える。2段飛ばしで階段を駆け降り、一番近いドアに飛び込む！

……息が整うのを待って、おもむろに100LXをバッグから取り出し、わが「電脳句帖」ファイルを開く。

高い空に、刷毛をさっとひいたような雲。柔らかな日差し。酷暑の夏が嘘のようだ。

陽に晒され薄くなりしか絹の雲

ちとお粗末であったか。まぁ最初の一句はこんなものだ（自分を慰めてどうする）。

さて、句の登録方法であるが、**Memo**を使ってみよう。ブルーキーの**Memo**を押せば、もちろん一発で**Memo**は立ち上がる。しかし、いちいち「電脳句帖」ファイルの名を入力するのは、ちと面倒である。

こんなとき、**システムマクロ**を登録しておくといいのだ。

シスマネ**MORE**画面から、System '**M**'acroを選ぶと、[**Fn**]＋[**F1**]～[**F10**]というのが現われる。ここではとりあえず、[**Fn**]＋[**F1**]に「電脳句帖」のファイル・**KUCYOU.TXT**を開くまでを登録してみよう。

[**Fn**]＋[**F1**]のラインにカーソルを合わせ、[**F8**]'**R**'ecordを押す。

「記録を終了するときは、[**SHIFT**]＋[**Fn**]＋[**F1**]を押してね」と出るので、わかった、とOKで答える。

さあ、登録開始だ。

トップ画面から開くことを考えて、まずブルーキー[**&...**]を押す。ピッと鳴るが気にしない。

次に、**Memo**だから、**e**を押す。**Memo**が立ち上がった。

フルパスで、**KUCYOU.TXT**と入力し、リターン。「電脳句帖」ファイルが開いた。ここで、[**SHIFT**]＋[**Fn**]＋[**F1**]。ピプッと鳴って、これで登録終了である。

システムマクロの画面を見てみると、ここまでの操作が全部書かれている。私のおたおたする操作を、忠実に記録してくれているのに、なんとなく感心する。

トップ画面に戻って、登録がうまくいったか試してみよう。

[**Fn**]＋[**F1**]を押すと、パタパタパタッと画面が移り変わって（これを見るのが、また気持ちいい。働き者だなぁとますます100LXに愛着がわくではないか）、ほーら、ちゃんと「電脳句帖」ファイルが開いた。

いくつか句がたまったら、**縦書き表示**の**LOG EXPRESS**で読み返す。なんといっても、これが最大の快感である。

やはり、俳句は縦書きでないとムードが出ない。

図4.5 縦書きLE

```
A:\PART03.TXT                                   8/ 29  Line :  186   2:27a
```

100LXを新書のように縦に片手で持ち、自作の俳句を縦書きで読む。100LX以外の何で、こんなことができようか。まさに「電脳句帖」の名にふさわしい。100LXがなければ、私は決して、俳句作りを習慣などにはしなかっただろう。いにしえの俳人たちが、ふと興を感じて立ち止まり、矢立てを取り出す。それと同じことを、100LXは可能にしてくれた。

わが「電脳句帖」に限りない愛をこめて、一句。

水晶を抱く小さき愛娘

……最後まで、お粗末さまでございます。

某月某日：

秘密を持つあなたにはノートテイカーがオススメ

「ひどいでしょぉ。あんなことをする奴とは思わなかった！　もう絶対帰らないっ」

この2時間ほど、友人Kの愚痴を聞いている。

彼女は数ヶ月おきに派手な夫婦喧嘩をしては、離婚するのしないのと大騒ぎするのだが、今回は深刻なようだ。

嫉妬深い彼女の夫が、毎日仕事で忙しい彼女の行状を疑って、日記を盗み読んだという。そしてあろうことか、他の男と結婚直前まで付き合っていたことを知り、それを責めてきたという。

「冗談じゃないわよ。もう2年も前のことよ。それに、私はあいつを選んだっていうのにさ。それがわかんないのかしら。あの人とは、もうきれいさっぱ

り別れたのよ。それよりなにより、人の日記を勝手に読むなんて、人間として最低よね！　夫婦なんて信頼関係で成り立ってるのに、それを踏みにじって、反対に人を責めるなんて。あーっ、もう愛想が尽きたわ！」

「まぁまぁ、落ち着いて。そんな簡単に見つかるような場所に日記を置いておくのも問題よ。鍵付きのにするとか、工夫しなきゃ」

「鍵付き？　そんなの、よけいにヤバいこと書いてあるんじゃないかって、刺激しちゃうでしょ。相手を信頼できないって、態度で示してるようなもんだし」

実際、信頼に足らない相手なんだから、しょうがないじゃないの、といいたいところだが、ここは黙っておこう。

それにしても……。

「あなたが100LXで日記をつけていれば、こんなトラブルは避けられたのにねえ」

「ええ？　あのちっこいやつ？　そりゃエディタが使えるってのは知ってるわよ。MEMOなら日付や時間も一発で入れられるってのもね。でも、私の日記って**『10年日記』**なのよ。そんな真似、できるの？」

カタログハウス社が発行している**『通販生活』**というカタログがある。

読み物としても面白いので、ついつい定期購読してしまうのだが、ここのヒット商品に『10年日記』というのがある。

１ページが１日で、３行程度ずつ10年分、記入できるようになっている。「３年前の今日は、何をしていたんだろう」ってのを同じページで楽しめる、アイディア物の日記である。彼女はこれを愛用しているのだ。

だからこそ、そんな数年前の出来事を、読まれてしまったわけなのだが……。

「それができるんだな」

ふふふ、と笑う私に、彼女は身を乗り出して、

「えーっ？　どうやるの？」

離婚だなんだと騒いでいたのが、すっかり100LXに興味を奪われた様子だ。

３年おきぐらいにしか日記をつけない私にとっても、この『10年日記』はそそるものがあった。

だが、サイズがちょいと大きい。家に置いて使用するというのを前提としている。日記というのは、彼女のような深刻な問題に発展するような内容でなくとも、なにかと人に見られたくはないものだ。

こで私は、常に肌身離さず持ち歩く100LXを、10年日記にしてしまうことにした。

これが、実に簡単なのである。

10年日記には、**NoteTaker**を使う。

ブルーキー[**&...**]から、'**N**'oteTakerを立ち上げる。

[**MENU**]、'**F**'ile、で新規ファイルオープン。**DIARY.NDB**というファイルを作る。

ここに日記をつけていく。本家「10年日記」は3行程度しか書けないが、こちらは書こうと思えばもっと書ける。

図4.6 ノートテイカー

```
NoteTaker:DIARY.NDB          All Notes(3/3)          11/13/94  3:02 am
 Title          Note
+11/11/94  10年日記を、100LXで書きはじめる。
+11/12/94  100LX日記の優れた点は、パスワードをも設定できるところ

 Help  Add  Note  Find    Clip  Subset  Sort  Columns  Open
```

タイトルに、日付を入れる。[**Fn**]+[**DATE**]。

ポイントは、**MM/DD/YY**と設定しておくこと。こうすれば、日付順に自動的にソートしてくれる。この設定は、'**S**'etupの'**O**'ption、**Date/Time**でできる。

さて。こうして日記をつけていけば、本家10年日記と同じ使い方ができるわけだが、秘密を持っているアナタ向けに、さらに嬉しい機能があるのだ。

パスワードである。

MENUから'**F**'ileを選び、Pass'**w**'ordへ。「パスワードを入れてね」という画面が出る。内緒のパスワードを入れ、OK。すると「もう1度パスワードをいれてみて」といわれるので、入れて確認する。大文字と小文字の区別もある。

これで登録終わり。

次回から、NoteTakerはこのパスワードなしでは開けなくなる。これで、盗み読まれる不安から解放される。まったく、こいつは、日記のために作られたんじゃないかと思うほど、よくできているではないか。

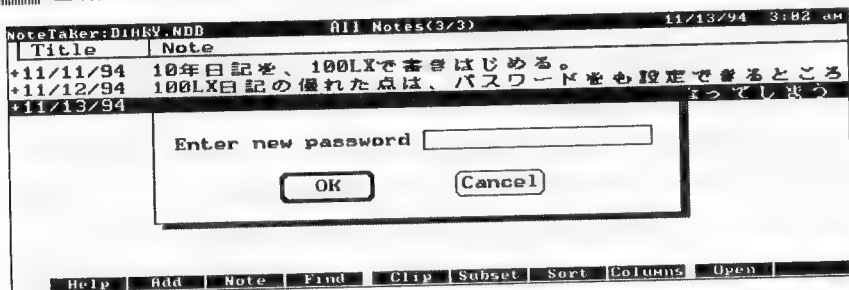
「うわぁ、ほんとだぁ……。これはいいわねぇ。うーん、やっぱり私も欲しくな

図4.7　パスワード設定

```
NoteTaker:DIARY.NDB          All Notes(3/3)          11/13/94  3:02 am
 Title       Note
+11/11/94   10年日記を、100LXで書きはじめる。
+11/12/94   100LX日記の優れた点は、パスワードをも設定できるところ
+11/13/94                                                  なってしまう

        Enter new password [                    ]

                 OK               Cancel

  Help  Add  Note  Find  Clip  Subset  Sort  Columns  Open
```

っちゃった。キーは打ちにくそうだけど」

「あ、それは慣れよ。私の打ってるの見て、そう思う？」

「そうね、結構速いわよね。３本ずつ、６本指打法なのね」

「そそ。これで原稿だって打つんだから。立ったままでも打てるし、いいわよー」

ついつい布教してしまう私である。

「これがあれば、もうあいつに、昔のことをとやかくいわれないで済むわね。あはは、当分平和だわあ」

彼女はすっかり100LXファンとなって、帰って行った。

あれ、そういえば、家に帰らないとかいってなかったっけ？

日記を替えることで離婚原因がなくなったとも思えないが、とりあえず目先を変えることで、危機は回避されたようだ。

100LXがこんなご利益まで隠し持っていたとは、思った以上に奥の深いヤツである。

某月某日：「実況文学」で100LXのタフさ加減を検証する

「100LXの意外な使い方って、どんなのがあるだろうね。こう、難しいのでなくてさ。100LXって奥が深いから、探すといろいろありそうだよね」

私の言葉にＯ君はそっけなく、

「カップラーメンを食べるときにはこれ１個で済みますしね」

といった。

図4.8 本体まで使った究極の活用法

「う、うーん。でも私は、そういう堕落の極みの食いもんは食べないからねえ」

……とはいったものの、こういう使い方もある、ということで、一応紹介しておいて損というものでもないだろう。独身男性には、これが一番使いでがあるかもしれないし。

そう考えて、私はあくまで実験のために、カップラーメンを数年ぶりに購入した。

お湯を沸かし、カップラーメンの蓋をぺりぺりとはがす。

100LXを開き、Stop'**W**'atchを立ち上げる。**Time**に「**3**」と入れる。かやく類を入れて、熱湯を注ぐ。

F8 **Start**！

そして、ここが肝心。100LX本体を、蓋の重しにする。

内蔵アプリを使い倒す方法はあれこれ提案されているが、本体をも活用するというのは、あまり聞かない。そういう点でカップラーメン作りは、100LXを隅から隅まで使いこなす方法の筆頭といえるかもしれない。

アラームが鳴るまで好きなことをしていればいいのだが、100LXの画面を見ていると、ただ数字がどんどん減っていくだけなのに、つい飽きずに見とれて

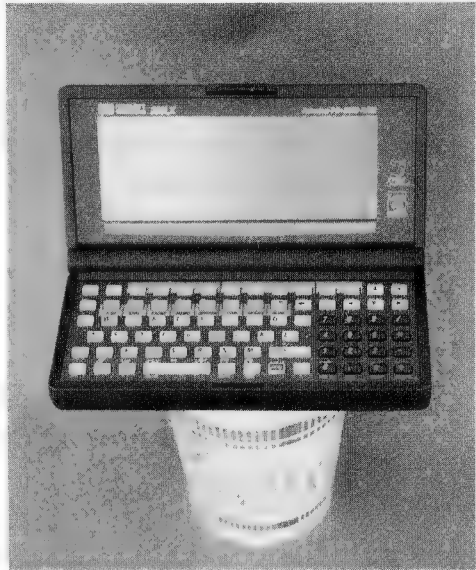



図4.9 ストップウォッチでタイマーを3分間にセット!!

```
              Stopwatch, Timer, Alarm Clock          11/13/94   3:08 am
  Stopwatch        0:00:00.0

  Timer [3        ]   Message [                    ]     [ ] Repeat
  Time Remaining        0:02:56.4

  Alarm [          ]                [ ] Alarm On

            ------Stopwatch------            ------Timer------        -Alarm-
  Help   Reset              Start          Reset            Stop      On/Off
```

しまう。
「ぴぴっ」
　はい、できあがり。
　100LXの底が熱くなっている。悪影響はないかって？　大丈夫、大丈夫。こいつは実にタフな奴なのである。

ここで、100LXがどれだけタフかの１例を挙げよう。
　低温については、すでに実験済みなので多くは語るまい。雪に埋もれても平気であるとだけ、いっておこう。
　水については、ビニール袋に入れて、入浴中やプールで使用されたという例がある。プールでは、ストップウォッチとして利用するそうだ。
　土埃や煙草はどうだろうか？
　私のデスクトップ機のキーボードは、煙草の灰で実に汚い。もう何年も、カバーを買おうと考えているのだが、その手の店に行くと、キーボードカバーよりもほかの品物に目を奪われて、目的を達したことがない。
　原稿を書くときは、煙草が手放せない。よく、ハードディスクやMOには煙草は大敵というから、せめてマシンの前では禁煙しようと思いはするのだが、これまたできた試しがない。最近のパソコンは大丈夫といわれ、その言葉に安易にすがり、MOは購入しないことにした。
　それはともかく、100LXに煙草の煙を吹き掛けながら原稿を打ち続けても、これまでのところ、まったく影響は出ていない。
　煙草が大丈夫なら、土埃も当然大丈夫……のはずだ。粒子は土埃のほうが大きいはずだから。しかし、もうもうと土埃を浴びながら使うのは、なかなか勇気がいることではある。
　そこで、実験してみた。
　毎年８月の終わりに、山中湖でジャズフェスティバルが開かれる。これを聴きに行くのが、私のこの数年来の夏の恒例イベントとなっている。
　今年のお供は100LX。これを使っての「**実況文学**」を試みようというのである。「実況文学」というのは、何かのイベントに参加しつつ、同時進行でそれのレポ

※注：実況文学に興味を持った人は、ニフティサーブ「本と雑誌・クリエイターズフォーラム（FBOOKC）」18番会議室をたずねて欲しい。ここは100LXを使った実況文学の発祥の地であり、いくつかの実況文学の実例を読むことができる。ちなみに、私のこのジャズフェスレポートは別会議室に書き込んで、すでに怒涛の発言の彼方に押しやられ、フォーラムには残っていない。

ートを行なうというものである。たいして内容はないが、臨場感は他の追随を許さない。

今回、山中湖は晴天であった。酷暑の夏は、8月末といっても容赦はなかった。

そのうえ、乾燥していた。

昼間4時間、夜2時間の野外コンサート。いつもならおとなしく、座ったまま音楽に聞き入るパターンだったのだが、今回はクラブ系のニューウェーブジャズが加わり、乾ききった土の上で、数千人が立ち上がり踊りまくる事態と相成った。

……いやはや、すごかったです。もうもうたる土煙があたり一面を襲い、すべての光景が赤茶ける。そのただなかで、100LXを両手で握り締め、ぷちぷち実況ブンガクしながら踊る私。

昼の部が終わって横に積んであった荷物を見ると、どれもが茶色に変わっていた。土を被って、見るも無残である。

夜の部が始まるまで、私はさきほどの実況の前後関係の整理や補足をしようと、湖を望む小道で100LXを開いた。ところが、である。Vzを立ち上げるとすぐ、白目をむいてしまうのだ。つまり、何もしないのに電源が切れてしまうのである。

「ま、まさか、土埃が悪さをしたのでは……」

私は青くなった。

実況文学なんぞせずに、ひたすら踊ればよかった。そんなことを思いながら、何度も無駄な努力を繰り返す。だめだ。ああっ、どうしよう……。

やはり、土埃は100LXをだめにするのか。煙草でなんともなかったのは、幸運に過ぎなかったのか？

やがて日暮れて、ついに100LXの液晶画面も見ることができなくなった。私は諦めきれぬ思いを抱きながら、100LXの蓋を閉じた。

もちろん、100LXがこんな土埃程度でおシャカになるはずがないのである。

単なる電池切れであった。

もしや埃で異常が出るのでは、という疑念を抱いた私の弱さが招いた、笑い話である。

100LXを信じられない人間は、こんなしっぺ返しを受けるというわけだ。

某月某日（番外編）：

転ばぬ先の「コネクティビティ・パック」

ファミレスやドーナツ屋で原稿を打つライターは多い。コーヒーはお代わり自由だし、なんたって仕事場兼寝室だったりすると、気を散らすゴミが視界に入り過ぎるのだ。

私はもっぱらドーナツ屋で原稿を書く。使うのは、もちろん100LXである。

なぜか、仕事場のデスクトップ機より、100LXで原稿を打つほうが、能率がいいから不思議だ。ある人は、100LXのディスプレイの小ささが集中力を生むのだという。なるほど、説得力のある説である。

打った原稿はどうするか。

これまで私は、H.Inoue氏に食事を何度かおごってもらったよしみで、**WTERM**のリバースモードを使って、100LXとデスクトップ機間のファイル転送を行なっていた。

WTERMは誰だって持っているし、お手軽なのがなんたっていい。

通信ソフトを使ってのファイル転送は、**DataComm**を使う。

プロトコルを**ZMODEM**にすれば、どちらかで送信ファイルを指定してスタートさせると、もう片方は自動的に受信してくれ、楽なのだ。もちろん、最初の設定は大切だ。ボーレート、通信ポートなどは、［**MENU**］キーから'**C**'onnect、そして'**S**'ettingの画面で指定してやる。ボーレートは**19200**程度が無難なようだ。38400だと取りこぼして、転送したはずのファイルが開けないことがある。プロトコルは［**MENU**］キー、'**F**'ile、'**P**'rotocolで指定。

図4.10　WTERM

```
WTERM   < AX-DOS/V > SP VerJ 2.26 94-09-12





ｺﾏﾝﾄﾞ ・2400 一 行 ﾌﾞﾚｰｸ    ﾀﾞｲﾔﾙ<ﾘﾀﾞｲﾔﾙS 設 定P 終 了2.26 転 送- 記 録<
```

今日も、私はドーナツ屋にやってきた。締め切り間際の原稿があるのだ。

コーヒーを受け取って席に着き、一服してから、おもむろに100LXを開く。

……う。日本語が使えなくなっている！

昨日、Vzを使っていて、窓を行き来しているうちに、FEPがおかしくなったのだが、なぜだかわからない。一晩寝れば直ってるんじゃないかという、安易な考えが通用するはずもない。仕方なく、**APNAME.LST**やら**CONFIG.SYS**やら**AUTOEXEC.BAT**やら何やらをいじるが、マシン音痴の私が、何等かの有効な手段を講じられるとは、我ながら思えない。

締め切りは刻々と迫って来る。

そうこうするうちに、私は100LXのRAMをぶっとばしたのだった。

WTERMの転送は時間がかかるからと、バックアップを取っていなかったので、マシン音痴の私は1週間ほど復旧に費やした挙げ句、結局人に頼って再び100LXを使えるようにしてもらった。この間、あらゆる仕事に支障をきたした。大事な**Appointments**と**PhoneBook**のデータも一緒に飛ばしてしまったのには、とくに参った。データ類は、Aドライブに置くのがお約束なのだが、デフォルトのまま、Cに置いておいたのだ。馬鹿にも程がある。

これに懲りて、ついに「**コネクティビティ・パック**」をインストールすることにした。

これを使うと、ケーブルでつないだパソコンのドライブが100LXの別ドライブ扱いとなり、シスマネの**Filer**で、コピーや移動などが簡単にできる（らしい）。つまり、100LXのRAMの全ファイルをハードディスクへ転送、というしんどい作業も一発（らしい）。

デスクトップ機を立ち上げ、コネクティビティ・パックの英語マニュアルを見ながら、インストールしようとした……が、

「あんた、ちょっと読めないわよ、これ」

なんていうエラーメッセージが出るばかり。なんでだよー、書いてある通りにやってんのにっ、と一通り怒ったあとで、あ、こいつ外人じゃん、と気付いた。

英語しか話せない人には、英語で応対してあげねばならない。

私は「ごめんね、怒ったりして」と謝って、英語モードに切り替えた。

久々に見る、英語モードのDOSSHELL画面である。

外国製品のいいところは、どんな人間でもその用途を全うするために、懇切

丁寧なマニュアルや注意書がくっついていることである。

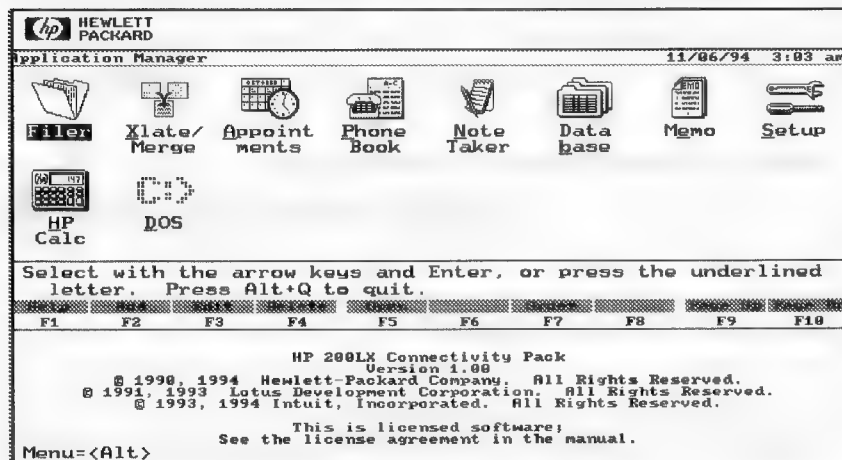
以前、外国製陶器を知人に頼んで現地で買ってきてもらったとき、商品を包んであるビニール袋に「頭に被らないでください」と書かれていて、さすが製造物責任が徹底しているなぁと感心したことがある。電子レンジに洗った猫を入れて乾かそうなどと考える奴が、そういう注意書がなかったといって訴える国である。日本では、平成７年のPL法の施行で企業が戦々恐々としているようだが、損保がPL保険を売り出すそうだし、予防策としても、もうちょっとおばかな消費者に親切にしてくれないものだろうか……なんてことは、ここでは関係はない話であった。

コネクティビティ・パックに戻る。

そう、外国製品だけに、やり方は逐一書いてあるのだ。これは助かる。さらに、まともに英語が読めなくても、初心者はただリターンさえ押していけば、作業は完了する。すべて機械がやってくれたことではあるが、英語ソフトをインストールした、というので、私はすっかり鼻高々である。コネクティビティ・パック、恐るるに足らず。

ふんふん、と鼻歌まじりに、DOSSHELL画面の、自動的に作られた**CPACK100**というディレクトリに移動、バッチファイルにカーソルを合わせて、リターン。

おおっ。シスマネの画面がでかい（私のモニタは17インチである）！

図4.11　コネクティビティパック画面

Filerにカーソルが合っているので、そのままリターン。ここで、まずは設定をしてやる。

[**MENU**]キーは[**ALT**]キーである。

私のパソコンでは、左右にある[**ALT**]キーの左側しか、効かない。でも別に右の[**ALT**]をどうしても使いたい、というこだわりはないから、左の[**ALT**]を押し、[**MENU**]バーを出す。

'**C**'ommunication、次に'**R**'emote Settings。**DataComm**でのSetting画面と同じものだが、あちらとは違う設定を記録できる。できる、が……ここから少しダケ、悩んだ。

私の場合、モデムは**COM1**につないである。だから、100LXのケーブルは**COM2**につないだ。パソコンの裏に回るのが面倒なので、そのまま**COM2**で設定したいのだが、マニュアルには「**COM2はダメよ**」とある。確かに、**COM2**ではパソコンと100LXは他人の関係のまま、[**F6**]**REMOTE**を押しても、互いに知らんぷりしている。

仕方がない。ここは素直に**COM1**に設定しよう。

パソコンを置いてあるスチールラックをずるずると動かし（と一言で書いたが、このラックには、パソコン本体と17インチモニタの他に、レーザープリンタ、バブルジェットプリンタ、ファクス、ソフト類、資料や書籍の山、なぜかアイロン、といった雑多な物どもが乗っかっていて、1cm動かすのも大仕事なのである）、モデムと100LXのケーブルを差し替える。ふぃー、これでダメだったらどうしてくれよう。

しかし、既述したとおり、マニュアルは親切だ。どんな愚かものも、マニュアルの言う通りにしていれば、動かせるようにしてくれるのである。

かくして、デスクトップ機と100LXは、**縁続き**となった。デスクトップ機の[**F6**]を押して、100LXの画面に「**リモードでつながってるわよー**」というメッセージが出たときの感動は、なにものにも代え難いものがある。

つながりさえすれば、あとは簡単。いつも100LXの**Filer**でやっているように、**Space**キーでだだだっとCドライブの全ファイル（ディレクトリ）を指定し、デスクトップ機のハードディスクへコピーしてしまおう。さすがに全ファイルともなると時間がかかるが、これまでWTERMのZMODEMでひとつずつ転送していたのに比べれば、格段の差である。十数分の後、悲願のCドライブのバックアップが終了した。この間、私は寝転がってマンガを読んでいた。なんて楽なんだ！

実をいえば、100LXを購入したとき、私はコネクティビティ・パックを一緒には買わなかった。
「これ、何に使うんですか」
「これをインストールすると、家のパソコンに、100LXと同じ画面が出るんですよ」
……よくよく考えてみれば、この言葉は、家のパソコンで100LXを（あるいは逆に）**遠隔操作**できることを指していたのだが、まだ100LXを自分のものとしていなかった私に、理解できなかったことはいうまでもない。
「転送なら、手持ちの通信ソフトでできるって聞いたんですけど」
「できますよ」
「じゃあ、こんなんいりませんよね」
「……まぁ、そうかもしれませんね」
「んじゃ、買いません」
こんなやりとりを店の人とした私だが、いまは確信を持ってこういう。
「家のパソコンにカードスロットがついているならともかく、そうでないなら、コネクティビティ・パックは絶対にお勧めである」と。
RAMをぶっとばす前に、ベストの環境を作り上げた時点で、必ずバックアップを取っておくこと。初歩的なことだが、つい億劫で後回しにしがちである。特に、自力で環境を構築できないパソコン音痴にとっては、これは生命線となる。
時間が死ぬほど余っている人は、通信ソフトでひとつひとつ転送すればよろしい。
だが、この愛すべきパームトップパソコンを買う人は、きっと１日が30時間あれば、なんて思っているに違いない。
時間短縮に、これは欠かせない。英語モードにSWITCHするぐらいの時間は、許してもらおう。
……というわけで、現在、私は日々満足感に安心感を加えて、100LXライフを楽しんでいるのである。
こいつは本当に、なんて可愛い奴なんだろうか！

Part 5

by omimi

紀伊國屋書店アドホック店'94年７月31日

ドキュメント「HP100LX 最期の日」

1 HP100LXのメッカとしての紀伊國屋書店アドホック店

'94年夏、早々に梅雨前線が消え、ぼちぼち水不足の話題が取り沙汰されはじめた7月31日、**新宿・紀伊國屋書店アドホック店**を訪れた。日曜の開店間際の店内は人影もまばらで、強めの冷房がうっすらと汗ばんだ汗を急速に蒸発させる。時折、階上のスポーツ店を目指す小学生たちの声が響いては消え、新宿のド真ん中の店とも思えぬ落ち着いた雰囲気をかもし出している。

この紀伊國屋書店アドホック店が、1年前から始まった、**HP100LX**の静かだが異常に熱いムーブメントの発震源であり、HP100LXユーザーの間では、「**新宿教会**」という愛称がつけられている「**メッカ**」なのである。

紀伊國屋書店アドホック店は、**文房具専門店**である。新宿のメインストリートに巨大デパートと軒を並べる紀伊國屋書店新宿本店――その裏手のビルの中2階と2階の2つのフロアーからなるのが、**アドホック店**である。

フロアー構成は、中2階が画材・プリント・レコード、そして電子ブックを中心としたニューメディアコーナー、2階が文房具のフロアーとなっている。その文房具売り場の片隅に、事務機売り場がある。タイプライター売り場として出発したこの事務機売り場であるが、いまは電卓や電子手帳なども扱う売り場となっている。

余談ではあるが、タイプライターに関しては、補充品がまともに手に入る日本唯一の店といっても過言ではない。

だが、その売り場に、パソコンの姿はない。10年近く前までは、パソコン(当時はマイコンと呼ばれていた）を扱っていたが、いまは周囲のデパート同様、パソコン市場からは撤退している。それがなぜ、HP100LXのメッカと呼ばれるまでになったのだろうか。

HP社は、いまでこそUNIXコンピュータメーカーとして、またはパソコン用のプリンタメーカーとしてメジャーな存在になってきたが、もとは**関数電卓のメーカー**として有名だった。**41C**という**科学技術系関数電卓**は、理工系の学生や技術者たちの羨望の眼差しを集めていたし、**12C**という**金融系電卓**は、証券業界・銀行員の必需品といわれ、いまでもスタンダードなツールとしてその方面の業界では定着している。その金融電卓の発展形として、**HP95LX**という機種が登

場した。言わずと知れた、HP100LXの前身機種である。

そのHP95LX、当初は日本での発売予定はなかったと聞く。理由のひとつは、**英語しか使えない機種**であるということであったろうし、またパソコンとしても日本ではまったく普及していない**IBM PC互換機**であった、ということもあろう。

ところが、この95LXの可能性を信じて、日本発売を実現させた人物が、当時のYHPの電卓部門担当の**田中正清**氏と、紀伊國屋書店アドホック店事務機担当の**植木正道**氏であった。そのような経緯から、HP95/100LXに関していえば、日本の最先端をいくショップとなったのである。

店内にて

植木氏によると、この紀伊國屋アドホック店でのHP100LXの総販売数は、**1000台**を超えるという。日本での総販売数が１万台前後だから、この数は驚異的であるといえよう。HP100LXは、大型コンピュータの端末として、YHPから直接大量に導入されることもあるし、競合店には大手コンピュータ販売店がそろっている。94年に入ってから、HP100LXブームに火がついてからは、安売りパソコン通販店も参入して、各種パソコン雑誌上で広告を展開しているのだ。

本来「書店」という肩書きを持つアドホック店が、一般に対してHP100LXを販売しているというイメージを持たれにくいというハンディキャップを考えれば、日本での**HP100LXユーザーの10人に1人**がこの店から購入したという事実は、社会的に見ても注目に値する。

午前11半、その植木氏の出社を待っていたかのように、売り場が賑わってきた。すっかり植木氏の勤務時間を把握している常連客が、集まりはじめたせいである。常連客と軽い世間話をはじめたところで、植木氏はお客さんに声をかけられた。１ヶ月前にこの店でHP100LXを買ったというそのお客さんは、

「今日は、友達を連れてきたんですよ」

その言葉に植木氏は、意気揚々とHP100LXを片手に説明をはじめる。

そうして、たちまち小さな売り場いっぱいに、人が隙間なく連なる状態となった。朝のホームの立ちそば屋もかくや、といった雰囲気である。

そのお客さんに、インタビューしてみた。

「HP100LXを買ったのは、98NL/R (B5サイズの携帯型98ノート) が、あまりにも重くて、持ち歩けなくなったからなんですよ。けれども、電子手帳のザウルスやオアシスポケット3は、機能的にちょっと物足りないし……。そこでバランスのいいHP100LXにしたんですよ。軽いのももちろんですけれども、使ってて楽しいのがいいですよね」

購入して一ヶ月、すっかりHP100LXにベタ惚れしてしまっているようである。HP100LXを見初めさせたのは、もちろん植木氏である。そしてまた、そのお客さんが今度は、友人・知人にHP100LXを普及させ、アドホック店を訪問させる。植木氏は、その心意気に応えていく……。そうしたコミュニケーションの繰り返しが、今日の「HP100LXのメッカ」という地位を築き上げたのであろう。

2 HP100LXとユーザーのインタフェースに徹した男

お昼も過ぎた頃、システムエンジニア風の中年の男性が、HP100LXのパンフレットをもらいに来た。店頭品でのデモを見ながら、

「コレ、おいくらになるんでしょう？」

「すいません、**100LXは製造中止**になっちゃったんですよ」

ぺこりと頭を下げた植木氏に対して、その男性は、

「はぁ……遅かったか」

と肩を落としながらも、どこか無駄遣いをせずに済んだという安堵の表情。

そんなところへ、植木氏にご指名で電話が入った。

「ダイナブックですか？　省電力の設定で、RS232Cポートを使わない設定にしてあると……通信ソフトは……その時はファイラーで……」

なんと、HP100LXの操作の説明は、一切ない。

これもこの店の特徴である。決してほかの店員さんが商品に対する知識を持っていない、ということではない。すくなくとも、植木氏以外の店員さんも、

ほかのHP100LX販売店以上の知識を持っているだろう。しかし、それでも植木氏指名の電話はなくならない。それは植木氏が、直接自分の販売している商品以外のものまで説明をしてしまうからだろう。

少なくとも普通の販売店なら、

「ダイナブックは、当店では扱っておりませんので……」

やんわりと断る場面だろう。しかし、植木氏は、絶対にいわない。それどころか、

「そういう目的でしたら、100LXよりサブノートのほうが……」

なんていいながら、秋葉原のお店を紹介してしまうこともあるそうである。これは絶対に、販売店のマニュアルにはないことだ。そういった植木氏の「心意気」が、ユーザーをこの店に導くのだろう。そのネットワークは、都内に限らず、北は北海道、南は鹿児島までに広がっている。その誰もが、長距離電話で植木氏へ注文をし、植木氏にトラブルに関する相談をもちかける。

紀伊國屋書店アドホック店の販売価格は、競合店と同レベルではあるものの、安くなることはまずない。それを承知で、高い電話代を払って、植木氏のもとへと電話をかける。その誰もが、植木氏の「心意気」に魅せられた人々である。

その心意気を感じているのは、なにもユーザーだけではない。

HP100LXは、英語しか使えないマシンだ。それを**日本語**を使えるようにしてしまった人々がいる。そうした**フリーソフトウェア**は、**NIFTY-Serve**上で公開され、大きな反響を呼んだ。しかしその一方で、NIFTY-Serveへアクセスしていない人の手には渡らない、というデメリットも持つ。そして、アドホック店の顧客の半数近くは、非パソコン通信ユーザーなのだ。

そんな顧客に対して、

「このソフト持ってます？　じゃ、コピーしておきますね」

植木氏は、そうした心配りを見せる。販売店でのコピーという作業は、パッケージソフトはもちろんのこと、たとえそれがフリーソフトだったとしても、**著作権侵害**にあたる場合がある。とくにHP100LXは、フリーソフトによって商品力のアップした製品であるから、フリーソフト添付がそのまま営業活動ということになり、大抵のフリーソフトの作者が禁止している「**営利目的の配布**」となる可能性を否定できない。

だが、植木氏の場合は、ソフトそのものも作者から直々に配布を受け、「**植木氏なら**」という条件で、**配布の許可**をもらっている。

余談ではあるが、HP100LXのあるバージョンから、HP100LX上で日本語表

示を実現するための「**KDISK100**」というフリーソフトが動かなくなったのを発見し、作者に報告したのも植木氏であるのは、HP100LXユーザーの間では、有名なエピソードである。

そういえば、こんなエピソードもある。動作不良として持ち込まれたHP100LXであるが、よく見たら電池の容量低下だった。当然、電池を交換すればもと通り、である。

ところで、アドホック店の周囲には、カメラ系の家電量販店がずらりと並んでいる。当然、その電池もアドホックよりかなりの安値で販売している。

それを承知で、どのお客さんも、アドホック店で電池を購入する。植木氏も、「高くてすみません」などといいながら、「じゃあ、ついでに……」と、やおらメンテナンスをはじめる。

そう、植木氏が販売しているのは、価格ではないのだ。

HP100LXが雑誌などで紹介されて、知名度もあがってきて、アドホック店にHP100LXを検討にやってくるお客さんが増えた。通常なら、チャンスとばかりに過剰なデモンストレーションを行ない、有無をいわせずクレジットカードを差し出させてしまう場面だろう。しかし、一通りのデモンストレーションが終わったところで、植木氏はやおらとHP100LXの弱点を並べはじめる。ほかに検討している商品があれば、それらのメリットを並べる。

「使ってもらえなきゃ意味がない」

植木氏はいう。「100LXというのは、便利だし使ってて楽しい機械なのだから、その楽しさをわかって使って欲しい」

だからこそ、植木氏の周りには、いつも人垣ができる。ひょっとしたら、HP100LXの最大の魅力は、植木氏の存在なのかもしれない。

3 わずか1年の喧噪が残したもの……

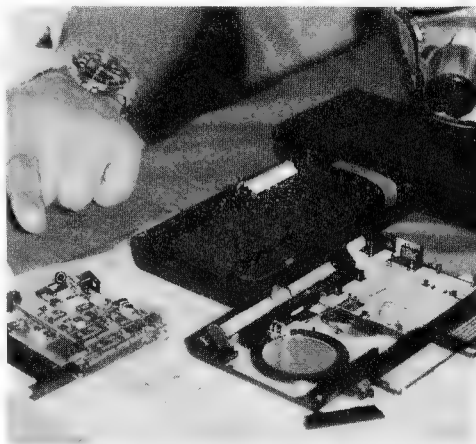
お昼もかなり回った午後3時。植木氏が集まっている常連さんに軽く頭を下げて、お昼の休憩に入った。予定より1時間遅れの休憩だ。ほかの店員さんに話を聞くと、今日は早いほうだという。

94年の2月に体調を崩してからはそうでもないが、93年後半のHP100LXのブームの最盛期には、お昼の休憩をとる日のほうが少なく、とれたとしても、

店内の事務所でお弁当を詰め込んですぐ戻ってくるという日々が続いたという。

この事務機売り場には、小さなテーブルと2脚の椅子がある。その椅子に陣取っていた常連さんが、

「さぁ、はじめるか」

やおらドライバーを取り出した。なにがはじまるかと思っている内に、すでに常連さんの手元のHP100LXは見事に分解され、メインボードがむき出しになっていた。どうやら、**クロックアップ**がはじまったらしい。

禁断のクロップアップがいま……

巷のパソコン業界では、CPUの載せ替えなどで、本体のスピードアップを図る。しかしそのCPUが、専用のカスタマイズをされているHP100LXでは、そうもいかない。そこで発見された**究極のスピードアップ術**が、クロックアップである。

クロックアップを施すと、いままでHP100LXでは荷が重かったような大型アプリケーションも、なんのストレスもなく動作するようになる。

海外の100LXユーザーの間では、そうした動きはないようだが、「**日本語化**」という足枷があることを考えれば、クロックアップという発想が日本で生まれたのも必然という気がする。そういえば、HP100LX上でEMSを実現するソフトも、日本では必須になった感があるが、海外での反響は鈍いそうだ。これも「日本語化」をソフトで実現している日本ならではの現象といえよう。

さて、基盤の分解というデリケートな作業中にも、常連客のヨタ話は続く。

「今度出張で、飛行機に乗るんだけど、100LXは持ち込めるのかな？」

「たぶん大丈夫じゃないかな。出す電波も微弱だし」

「でも、飛行機の計器って、デリケートだしね」

「100LXのせいで、計器が狂って、墜落しちゃったりして」

「そしたら、100LXで実況中継しちゃうよな」

「『いま飛行機が落ちてます』とかって」

「日航機墜落の時、乗客の書いた遺書が話題になったけど、100LXで遺言って、

なんか恥ずかしいよね」
「そんでもって、その遺言に誤変換があったら、もっと恥ずかしい」
「『では、さよう奈良』とか（笑）」

際限なくヨタ話は続いてゆくのだが、こうした話を聞いていると、いかに100LXが生活に密着しているかが実感できる。個人でパソコンを購入する人は増えたが、仕事で使う目的だとか、Macを持ってるとオシャレ、といった理由に終始する。そういった意味でHP100LXは、はじめての「**パーソナルな**」パソコンなのではないだろうか。

午後4時。アドホック店自体もかなりの混雑になってきたが、さらに輪をかけるような熱気が、事務機売り場を包んでいる。午前中に感じた冷房の肌寒さはどこへやら、いまは蒸し暑くすら感じる。

人波を分け入って、改めてショーケースを眺めてみる。

事務機売り場の一番手前には、2つのショーケースが並んでいる。ひとつはHP商品のケースで、もう一方が電子手帳やポケコンなどのショーケースである。普通なら電子手帳などのほうが大きく扱われるところであろう。だが、その電子手帳のケースの上には、HP100LX徹底活用ブック、Win/V、NIFTY-Serveデータライブラリー一覧、アスキー、PC WAVEなど、100LX関連商品が並べられ、電子手帳には照明すらあたっていない。ここに、アドホック店のポリシーが見える。

たしかかに電子手帳の類は、メーカーの積極的な宣伝活動が行なわれており、販売店からすれば、「売りやすい商品」だろう。しかし、それらは「100LXのほうが高機能だし、使い易いから」という理由で、文字通り「陽のあたらない」存在になっている。お客さん本意の仕事をすれば、当然こういう結果になるのだろう。もちろんこれは、電子手帳などが使い物にならない商品だということではなくて、たまたまここには、同じような役目をするもっと高機能な商品が存在したということに過ぎない。

またまた話は外れるが、電子手帳などのメーカーが、湯水のごとく宣伝費用をつぎ込んでいるのに対して、HP100LXを受け持つYHPの電卓部門の宣伝費用は、ゼロなのだそうである。販売開始直後は、パンフレットすら作れない状態で、紀伊國屋書店はオリジナルのパンフレットを作成したり、製品の箱をカラーコピーし、それを拡大してポスターを作り、アドホック店の店内はもちろんのこと、新宿本店の階段部分にそのポスターを掲示して、独自の宣伝活動をしたという。

そこまで力をいれているHP100LXだが、いまショーケースには並んでいない。HP製品のショーケースには、数種類の電卓と、100LXの前身機種である95LXが、さびしそうに肩を並べている。世間的にはごく一部での出来事とはいえ、ユーザーを熱狂させたHP100LXの姿がないとは、なにか感慨深いものがある。

そんな折り、植木氏が突然脚立をカウンター内に運び込んできた。なにをするのかと尋ねると、植木氏は背後のポスターを指差した。件の紀伊國屋特製ポスターである。

「商品がないのに、ポスター貼っているのも、変でしょ？」

自作のポスターともお別れ……

ゆっくりゆっくりと、慈しむようにそのポスターを剥がした植木氏は、
「こうしたほうが、キレイに映るだろ」
とポーズを決めたあと、
「早かったなぁ……」
ぽつりと、呟いた。

100LXが発売されたのが、93年の5月。発売当初は入荷数も少なく、日本語化にも目処がたっていない状態だった。それが、**DOS/C化（V-Text環境化）**による日本語化が可能になり、内蔵ソフトの日本語化にも目処が立ってきたのが7月頃。それから急激な上昇カーブを描いて、HP100LXは販売数を伸ばしてきた。ちょうど1年、である。

怒濤のように過ぎたこの1年を、植木氏はいま、どのように感じているのだろうか。

4 100LXが「新宿教会」に課した使命が幕を閉じる一そして、新たな旅立ちのはじまり

夕方6時を回ると、この店のピークとなる。

俗に「2・8枯れ」という。2月と8月は、全般的に消費活動が停滞することから、このような言葉が生まれた。8月も程近く、史上空前の不況風が吹き荒れているにもかかわらず、アドホック店にはかなりの人が入っている。年末の手帳・カレンダーを販売している時期は、それこそ身動きのとれない状態になるというが、それを先取りするかのように、事務機売り場は身動きのとれないような混雑ぶりである。その誰もの手に、100LXがある。NIFTY-Serveなどで、

「通勤電車の中で、ログ（パソコン通信でやりとりした文書）を読んでます」

という報告をよく見かけるが、それがまんざらウソではないと実感する。たしかに、両手で挟むように100LXを持てば、すし詰めのラッシュアワーでも使えるし、親指でキーボードも打てる。

そうこうする内に、植木氏が周囲の人数を数え始めて、

「みなさんでお茶しにいきましょう」

植木氏を先頭に、ぞろぞろとお客さんたちが店内から出ていく。傍目から見ると、まるで“はとバス”ツアーのようである。

これも植木氏の重要な「日課」なのである。

そうしたお客さん達とのくだけた情報交換が、植木氏とお客さん達との結びつきを強くし、そうして結果的に蓄積された情報が、ほかのお客さんへと還元されていく。こうしたコミュニケーションがあるからこそ、この店へと足を運ばせる。

そういえば誰かが、「植木氏とお茶をするのは、洗礼だね」といったことがある。アドホック店が「新宿教会」と呼ばれているのに引っ掛けたのだろうか。しかし「洗礼」を受けたが最後、気づくと月に1回は植木氏のもとに足を運んでいるあたり、あながち間違っていないのかもしれない。

閉店の8時が近づくと、さすがに人影もまばらになってくる。

入れ代わり立ち代わり日曜日の「新宿教会」に「礼拝」に訪れた人々の数は、50名を下らない。HP100LXという商品が市場に流れていないことが、広く知ら

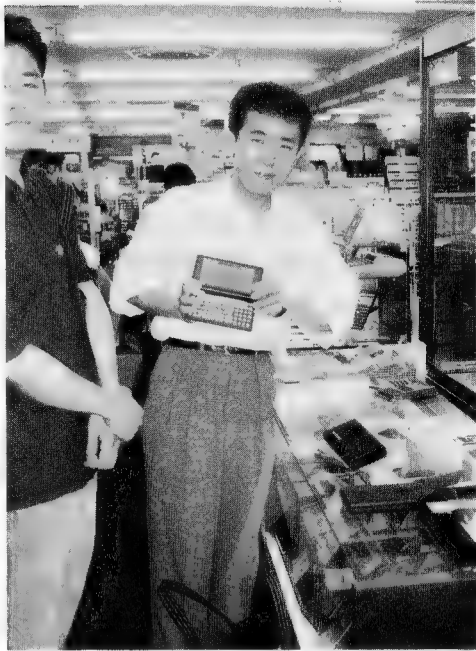
れてしまっているにしては、多いだろう。

いや、たとえ商品があったとしても、この接客数は並みではないといえる。ましてやこの売り場は、長時間にわたる細かい接客が必要なのだ。その上、ひっきりなしに、ご指名電話がかかってくるのである。

それを笑顔を絶やさず、所狭しと走り回る植木氏に、HP100LXとは何だったのかを尋ねてみた。

植木氏は、うーんとしばらく唸った後、

「いいオモチャだよ、これは」

短く、そういった。それから、こうつけ加えた。

100LXへの思いが募る

「**DOSの入門機**として、最適なんじゃないかな。俺が95LXでDOSを勉強したから、いうわけではないけれど」

そこまで聞いたところで、新しいお客さんが来店して、インタビューは中断となった。しかし、その短い言葉の端々から、100LXへの思いが見える気がする。

個人情報の管理というのは、現代人の必須事項である。ファイロファックスを代名詞としたシステム手帳のブームもその現われだろう。しかし、そのシステム手帳は、導入は容易でも、情報の整理には膨大な労力を必要とする。そこで、その処理をデジタル情報にして容易にしてしまおう、というのが電子手帳だ。

しかし、情報がデジタル化されても、その電子手帳の処理能力は、小・中学生には最適でも、社会人の持つ膨大な情報量に追いついているとはいいがたい。そこで、処理能力の高いパソコンで、という方向性が出てくるのだが、いかんせんパソコンというのは導入が容易ではない。基本的なDOSの知識も、慣れればどうということはないが、しかしその慣れるまでにかなりの時間を要するのもまた、事実である。

だが、近年注目を集めつつある**マルチメディア――ビデオ・オン・デマンド**(ディスプレイの上で、すべての要求を満たす)が実現されるとしたら、それはパソコン以外にはなく、パソコンをいかにして習得するのかが、現代人の課題であるともいえる。

そこで、100LXの存在がクローズアップされてくるのだ。

個人情報の管理に関していえば、その分野の先進国であるアメリカで洗練されただけのことはあり、100LXは電子手帳よりはるかに高度なポテンシャルを持つ。そして、パソコンのインタフェースに関しても、オリジナルのインタフェースを被せることにより、過去のイメージが嘘みたいに、容易にその仕様を理解できるものに仕上がっている。

しかも、その100LXというマシンは、インタフェースが人に優しい上に、かゆいところに手が届くほどの配慮がなされた高機能のソフトを内蔵しているから、使うことそのものが楽しくなってくる。

「遊びが勉強になればいい」

そんなキャッチコピーで宣伝されたパソコンがあったが、それが100LX上で実現されているのである。

だが、その100LXも、すでに市場には存在しない――。

「パソコンのことは、あんまりわかんないし……」

先程のお客さんが、植木氏に相談をもちかけているようだ。

「本体はどこかで都合して、RAMカードをここで買ったら、ソフトをインストールしてくれないかなぁ。静岡からわざわざ来たんだし……」

この台詞を聞いて、もしあなたが店員ならどう答えるだろうか。

本体を別なところで買って、ここでインストールしろだんて、冗談じゃない！そう返事をするだろうか。

はたして、植木氏の返事は、こうだった。

「ソフトのインストールは簡単ですけれども、無条件インストールはできないんですよ」

そして、こう付け加えた。

「ソフトそのものはコピーしますが、インストールは、ウチのお客さんが書いてくれたこのマニュアルを参考にして、御自分でなさってください」

これぞまさに、植木氏の親心である。確かに、ソフトそのものは、一般の流通ルートでは手に入らないから、入手するための協力は、惜しまない。しかし、インストールという作業を経験することにより、100LXというマシンそのもの

を理解することができるから、ぜひインストールは御自分の手でなさってください、と……。

そのお客さんも、植木氏の言葉に深く肯いて、

「本体が入手できたら、また来ます」

といって、引き上げた。

植木氏は、そのお客さんを出口まで案内した後、

「ありがとうございました。またよろしくお願いします」

腰を90度に曲げて、最敬礼をした。

階段の向こうにお客さんの背中が消えて、ようやく植木氏が背中を上げたとき、閉店の音楽が流れ始めた。

こうして、紀伊國屋書店アドホック店の暑い、熱い1日が終わった。

翌日——'94年8月1日。

アメリカのHP社は、HP95LX、HP100LXの製造中止と、後継機種HP200LXの販売を発表した。

Part 6

by SS1

HP100LXを育んだ神々たち

序　章

1980年代に、ふと立ち寄ったパソコンショップやショールームで、私はこんな光景をみたことがある――。

BitINNで、**COMPO-BS**にBASICを打ち込んでゲームをする中学生。

マイコンショップ**COSMOS**で、**LOAD**と**SAVE**を打ち間違えて、あわててASCIIのバックナンバーのページを繰るハッカー。

APPLE II 最盛期、怪しげな**ジャンクボード**をあさっていた高校生。

東大脇の**ESD**ラボラトリで初めて見たMacintoshに興奮する大学生。

TRON協議会に集まった、ベンチャー企業のビジネスマン。

DOS/V登場前夜の台湾中華街で、社員旅行を抜け出して**Windows用のビデオカード**をつたない英語で買い求める日本人観光客。

――このような、まったく新しい概念をともなう、未知の市場に向けて発売された製品のまわりには、頭にバカがつくような人々がより集い、そのコミュニティには、火傷するような**情熱**に触れることが出来た。

いまの秋葉原では、それを探すことはとても困難なことである。

いったい、彼らは何処へいったのだろうか。

パーソナルコンピュータの世界は、その情熱がマーケティングを越えてつき動かしてきた世界である。

その熱気に触れてしまった人々の多くは、失意の内にこの世界から去っていった。

そして、中でも幸運な人々だけが社長になり、スーパープログラマになり、そしてあるものは買収され倒産においこまれた。

いまでこそ、こうして**200LX**をオモチャにしたり、気楽に**PIM**を使いこなし、**モービルコンピューティング**するのが自然に行なえる時代になった。が、**HP100LX**の登場の時点では、ましてその前の**HP95LX**の登場時には、ポケットサイズのコンピュータというものが、いったいいままでのポケコンやパソコンとどこが異なるものなのか、それを販売する担当者ですらわからなかったのだ。

たとえ大企業が多量の宣伝費を投入し、まったく新たなコンセプトの製品を市場に投入したとしても、それが功を奏するか否かはその広告宣伝費とは比例

しない。新しい市場が開拓されるとき、よくいえば先端的な、悪くいえばオタクなユーザー達が使いこなしを見つけていくものである。そして、その多くの新製品といわれるものは宣伝むなしく、市場から消え去っていく。

ところが、**HP100LX**の場合は、まったく正反対だった。

HP100LXは、メーカーがカタログを印刷する費用すらなく、なんら宣伝の行なえないなかから、ユーザー自身がその存在を発見し、ユーザー自身が使いこなしを案出し、ユーザー自身がそれを伝えることで、多くの仲間を得ることができた。

そして、今回の**HP200LX**の販売に際して、日刊スポーツに200LXの広告が掲載されることとなったのである。それも、HP200LXの知名度を利用して**横河ヒューレット・パッカード社（YHP社）**の宣伝をするという、まったく正反対の目的のものだった。

こんな信じられないことが起きたのが、HP95LXから200LXまでの物語なのである――。

HP95LX登場前夜――売れない超高級電卓

17BII	1990-01	発表
19BII	1990-01	発表
48SX	1990-03-16	発表

昔、HP社の技術電卓は、その高機能と独特のユーザーインタフェースと高度なプログラム機能を持つ超高級電卓として、エンジニアとサイエンティストの憧れの的であった。

その高度な機能と独特のインタフェースは、ごく一部の限られた熱狂的なユーザーに受け入れられていた。後に、YHP社でHP100LXのマーケティングを担当することになる**田中正清**氏も、そんなHP電卓エンスーのひとりであった。

HP電卓にあこがれてYHPに入社した田中正清氏は、やっとのことで憧れの電卓事業部に配属されたが、当時販売されていた主力商品は、**HP19B**と**28S**。この二つの製品は、大きなアルファベット入力用のキーボードがついているのはいいのだが、それは逆に電子手帳と直接比較されることになるわけで、日本語

の入力の出来ない両電卓は、あまりパッとした存在とはいえなかった。

ワークステーション（WS）の営業から、HP電卓のマーケティングに移った彼の初めての仕事は、そのころHP電卓のマーケティングを担当していた**綾部光男**氏とともに、新宿から高井戸本社へ移転することだった。まさに、**「撤退」**という印象を与えるものであった。

念願のHP電卓を担当することになった田中氏ではあるが、**HP48S**というグラフ電卓の予想を**大幅に下回る失敗**が、電卓部門のリストラを促進することになった矢先だったのである。

いきおい、HP48Sからマーケティング担当は綾部光男氏と田中正清氏の二人に絞られることになった。二人は協力して、いままでに見たこともないちっぽけなPCを売り込むため、手探りで市場開拓をすることになった。

綾部氏は、宣伝費が皆無といった状況のなかで、手弁当でもなんとかメディアに載せなければならないと考えた。そこで着目したのが、**パソコン通信**だった。そして、**日経MIXにYHPのベンダー会議**を作ることになり、これを綾部氏が担当することになった。

自分自身プログラマである綾部氏による、ソフト開発者への適切な情報提供が、その日経MIXにおいてsanta氏による最初の**日本語エディタ「KTYPE」**を育むきっかけとなった。

もう一人の担当者の田中氏は、根っからの営業マンである。プログラマの綾部氏との役割分担は、自然にプログラマのサポートとショップのサポートへとわかれたようだ。その彼に、しつこいほど電話をかけて質問してきたのが、**紀伊國屋書店アドホック店**の事務機売り場を担当している**植木正道**氏であった。

植木氏はそのころ、ようやくグラフ電卓のHP48SXの販売を軌道にのせることに成功し、HP電卓の販売に自信をつけてきたころだった。そこに持ち込まれたのが、HP95LXだ。植木氏は、

「こんなもの、いったいどうやって売ればいいのだろう」

と途方にくれた。おまけに彼はDOSに関する知識をまったく持ち合わせていなかった。

似たようなもので売ったことがあるのは、ワープロと電子手帳だけ。そして理解できたのは、これがHPのビジネス電卓の19Bの後継機であること、シャープの電子手帳のような機能を持っていること、LOTUS1-2-3が使えること、そしてDOSが使えるらしい、ということだけだった。

彼はわからないことはメーカーに聞けというわけで、田中氏にDOSのディレ

クトリの概念からはじまって、そのすべてを電話で質問しまくることにした。そして、植木氏自身も根っからの営業マンであったため、二人の間に熱い友情が生まれることになった。

プログラマに愛されたHP95LX(1991年4月)

48S	1991-04-02	発表
95LX	1991-04-23	発表

このシリーズの初代を飾るHP95LXは、その**サイズ**と**IBM-PCとの互換性**が、日本ではDOS/Vと呼応して多くの優秀なプログラマの注目を集めることになった。

ともかく、コンサイス英和辞典ほどの小さなコンピュータで、DOSが動いてしまうということそのものが驚異の対象だった。この95LXをみた**Vz Editor**の作者の**兵藤嘉彦**氏が、あっという間に移植してしまったというエピソードがある。それくらいの高い互換性が95LXにはあったのだ。

そしてなにより、その高密度なデザインと小さなボディゆえに、カバンに忍ばせ、いつでも、どこでも携帯でき、必要とあればLotus1-2-3までが使えてしまうということが、魅力的な存在として先進的なユーザーに迎えられたのである。

この当時から、HP95LXに注目していた人物がいる。一人は、日本IBMの竹村氏である。彼は、DOS/Vの仕掛け人の一人であり、なおかつ、**ThinkPad 220**をプロデュースした人物だといえば、パソコン通の人でなくともそのスゴさをご理解いただけるだろう。

彼は当時、モービルコンピューティングの概念をいかにして普及させるか、その戦略に頭を悩ませていた時期だった。そして、その一つの先行マーケティングのサンプルとして、HP95LXのオーガナイザーとしての優秀さにいち早く着目した人物である。

竹村氏は、データショーでHP95LXの説明をしていたYHPの田中氏を捕まえた。そのときの田中氏は、彼から名刺を渡されてビックリし、そしてさらに彼のペンネームを聞いてもう一度驚いたそうである。

その後、HP95LXの普及のためにさまざまな影の援助をしていくことになる。たとえば、パソコンショップのT-ZONEでYHP社製PCを扱うようになったのも、竹村氏が仲介してくれたからである。以後も、さまざまなキーパースンと田中氏を引き合わせてくれたらしい。

彼があっさりとメーカーの垣根を越えられたのは、**IBM-JX**という8bitパソコンの大失敗という屈辱を生涯忘れぬ教訓として記憶の片隅にとどめていたからであろうか。おそらく、ここで日本のサブノート市場を育てることが、どれだけ重要なことかを理解していたのではないかと私は思っている。

そして、もう一人、現在**FYHPフォーラムシスオペの三橋**氏の存在も忘れることができない。

彼は、Macintoshユーザーとして、当時メジャーになったばかりのインクジェットプリンタ**HP　DeskWriter**の人気を知っていた。また、USのパソコン通信**Compuserve**で、HP95LXの話題が盛り上がっていることも知っていた。さらにHP電卓のコレクターでもあった。そこで、NIFTY-Serve上で、このようなテーマをもとにフォーラムを開催すれば、充分成り立つものと考えた。

三橋氏は偶然にもYHP社との取り引きがあったため、持ち前の社交術を活かし、YHP社の全面協力を取り付けてNIFTY-Serveプロモーション部に企画を持ち込み、ユーザーフォーラムとしてオープンすることに成功したのだった。

YHPユーザーズフォーラム誕生(1992年1月)

FYHP、YHPユーザーズフォーラムは、綾部氏がサブシスとして実務をこなし、三橋氏がユーザーフォーラムの顔ともいえるシスオペとしてスタートした。そして、にぎやかし（?）として**R90CK**氏と**はる**氏の2名も、FYHP開催当時からの参加である。

フォーラムは当初から、サブシスのすべてがYHP社員であるという体制だったが、それを秘密にしてユーザーフォーラムとしてオープンしたため、逆説的に、純粋にユーザーの自発的なコミュニティを育む結果となった。

ここで、95LXユーザーの**石澤則昭**氏が登場する。彼はホビープログラマで、新たなポケコンとしてHP95LXに興味を持った。何がいいって「通勤途中にプログラムできる」ということが気に入っていた。FYHPのオープンは、ニフテ

ィのお知らせによって知り、FYHPのオープンのごく初期から95LXユーザーとして発言を始めている。

いまでも、**FYHPPC**のライブラリをのぞけば、当時の彼の初々しい発言が残る会議室の記録を閲覧することができるが、彼は純然たる95LX初心者だったようだ。

95LX1MB 1992-03-02 発表

日本語環境の誕生

当時、日経MIXにおいて、santa氏の日本語エディタKTYPEが開発途上であったが、同年3月に主記憶1MBの95LXが発表され、いままでの512KBから640KBのコンベンショナルメモリを確保できるようになり、95LXの**日本語環境**がにわかに現実味を帯びてくることになった。

もちろんそのとき、YHP社は何もしていなかったわけではない。日本語エディタの開発をしていたフリーウェア作家へのサポートを行なっている。YHPは、ロータス・ジャパン社やマイクロソフト・ジャパン社へも日本語化の交渉を行なっていたが、さすがに折り合う金額ではなかったようだ。もちろん、YHPの人間も日本語が使えないままであれば、先の見えていることは承知していた。彼らは、藁にもすがる気持で、フリーウェア作家による日本語環境の開発に賭けたのである。

そして5月になり、次第にその成果が現われはじめた。

コロンブスの卵

「1992年5月は日本語化が大きく進んだ月でした。**KTYPE**がようやくNiftyにアップされました。そして、すぐにもう一人の師匠と思っているmani氏がJMEMOをライブラリに登録しました」(『FYHP日本語化への>道』1993.08.13, NORI,FYHPPC LIB 2,NIFTY-Serveより)

それまで、日本語の使えない単なるマイナーなマシンでしかなかったHP95LXが、ニフティのPCユーザーの耳目を集めるようになる。それまでは、1-2-3電卓かプログラミング用のエディタとしてしか見られていなかったものが、突然、**日本語ワープロ**としての機能にも目覚めたようなものである。

NORI氏、**かづひ**氏他のアマチュア・プログラマには、95LXの実用的なプログラミングに挑戦するきっかけとなった。

まさかと思っていた日本語が動いているのである。やればできることと、実際にやってみせることの間には大きな隔たりがある。これに感動し、勇気づけられたことはいうまでもない。

KDISP登場――1992年12月

それからの日本語環境整備の発展には、めざましいものがあった。

FYHPフォーラムに集う95LXのユーザー達が、自分自身でよりよい環境作りに着手しはじめたのである。

そのなかでも大きなトピックスが、**日本語フォント**の充実である。

95LXは、標準表示が８ドッドフォントで、16行×40字しか表示できず、フリーウェアとして流通していた14ドットフォントでは大きすぎた。それが、まずはじめにMacintosh /PC-98用のフォントを流用するコンバータを作ることで、第一の壁が破られ、さらにかづひ氏作による８ドッドフォントを利用した95LXの内蔵ソフトそのものを日本語化するソフト「**KDISP**」が公開される。

フォントPJ正式スタート――1993年２月

年が開けると、KDISPのための８ビットフォントを作ろうという有志が、新たなプロジェクトを旗揚げした。**YAFO**氏をリーダーとするこのプロジェクトは、地道ではあるが一歩一歩フォント作りの作業をこなしていった。

このような気運と、その結果としてもたらされたソフトウェアが起こしたイ

ンパクトは、さらに多くのユーザーを95LXに引きつける要因となったのである。

当時、ディスプレイ・ディスパッチ・ドライバが話題を呼んでいた**CF.Computingの西川和久**氏もこのような気運にのせられた一人である。彼がWin/Vを開発するきっかけになったのも、竹村氏を通じて紹介された田中氏からOmuniBook 300を日本語表示されたものを自慢されたのも一つの要因ではないだろうか。

この時期は、フォーラムの登場人物の大きな入れ替わりがあった時期でもある。『HP 95LXハンドブック』を執筆したsanta氏や、mani氏は、かづひ氏、NORI氏へ日本語環境プログラムの開発をゆずり渡した。フォーラムサイドでもYHP社員である、DeskWriter, DeskJet 等を扱うハードコピーマーケティング部の中村和広氏がドライバアップデートおよびユーザーサポートを開始し、電卓／パームトップPCを扱う田中氏は、それまでのMICHY氏を引き継ぐように活動を開始する。

この二人のYHP社員が、ユーザーフォーラムに参加することになったのは、それぞれ別の目的を持っていた。プリンタを扱う中村氏はプリンタドライバの配布が目的だった。本来ならベンダーフォーラムを作りたかったのだが、ネットワークコンサルタントに相談したところ、ユーザーサポートを行なう充分な体制がないことを指摘され、ユーザーフォーラムであるFYHPを間借りすることを計画したのである。田中正清氏はそのパートナーとして登場することになった。

100LX発表――1993年5月

YHP社内での、当時の100LXをめぐる状況は、最悪の状態だった。

HP100LX の登場は、いまにして思えばとても地味なものだった。派手にしたくとも、その広告予算がないのだから当然である。その中で、大騒ぎをしていたのは唯一**FYHP**フォーラムの**95LX会議室**と、**FMODEM**フォーラムの**世界の移動体通信端末会議室**だけだった。コンピュータ雑誌で注目していたのは、月刊ASCII誌とPC WAVE誌の２誌。この２誌は、広告なんか関係なしに面白いと思う話題を記事にする雑誌だった。

YHP社はHP社の子会社なのだが、HP社は事業部単位の独立採算性をとり、その事業部の部長にはそのマーケットに対して社長と同様の意思決定と責任が要求される。

この年のYHPのパームトップ部門は崩壊寸前であった。その理由は、そもそもパームトップと電卓のための部門が、HP社全体で縮小に向かっていたこと、これらHP製品のライバルメーカーがすべて、日本のメーカーであったことなどが大きく災いした。

HP社全体として見れば、日本でパームトップPCの市場を作る必要はないし、また、そんな市場を作ってしまって日本から逆襲されるくらいなら、売らないほうがまし、と誰もが考えるのではないだろうか。

マーケティングに大量の予算が必要なのは、いまでは誰もが知っている事実である。カタログを一部作成するだけでも、百万単位の予算が消えてゆくのである。データショー、ビジネスショーに出展するとなれば、それこそ数百万単位の予算が必要となる。

この前年、YHP社は95LXのためにすでに多くの予算を費やしていた。その上、翌年度の予算にもくい込んでいたのである。HP社が提示してきた新年度の予算は、その借金返済どころか、新年度に一人の担当を置くことすら不可能な額だった。これは円高が災いしたとしかいいようがない。困ったのはYHP側だった。

予算の使い方としては二通り考えられた。ひとつは100LXのカタログを作成し、担当者はなしとする方法。もう一つは、宣伝媒体を作ることなしに担当者を一人おくことだ。結局、YHP社が選択したのは、担当を一人おき、ただしその給与を半分しか持たず、残りの半分は別の部で持ってもらうという方法だったのである。

こうして、ほとんど絶望的な状況で、**HP100LXのマーケティング**はスタートすることになった。　そして、ただ一人の担当となった田中正清にできることは、いまあるパソコン通信でがんばることだけだった。

この田中氏という人が、ネットワーカーとしてみると、なかなかの困ったちゃんなのである。おそらく、彼の営業として培われた執念深さのためだろうが、ちょっとでもウケると同じことを何遍も何遍も、それこそ「いいかげんにしろ！」といわれるまで繰り返すのである。

そうやっているうちに彼がネットで出会ったのが、現在、『**HP200LX日本語化**

絶望的な状況からスタートした100LXではあったが……

キット』を販売しているオカヤ・システムウェア株式会社の代表取締役、**北角権太郎**氏であった。

当時の北角氏は、個人でシステムハウスを運営し、Windowsのプログラムからアナログ回路の設計まで行なってしまうという、とてつもない才能を持った人間だった。

北角氏はそのとき、まさか自分が日本語化キットを販売することになるとは夢にも思わなかったが、商売としてHP100LXを使ったシステムを売ってみたいと考えていた。そのため、YHPの担当者とどうしてもコンタクトが取りたかったのだ。

その北角氏からメールを受け取った田中氏は、こいつはいった何者だろうか、と心配したそうである。

この出会いは、月刊アスキーに日本語化ソフトが掲載されるきっかけともなった。というのも、北角氏は学生時代にアスキーでバイトしていたことがあり、どのようにすれば雑誌に掲載してもらえるか、よく知っていたのだ。

こうして、日本語パッケージの前身である95LX、100LX用の日本語ソフトが誕生することとなった。このパッケージの作成には、アスキーのおまけディスクの小さなスペースに無理矢理押し込むために、大変な苦労をした。この小さなフロッピーディスクでは、辞書だけでもかなりの大きさを占めてしまう。そこでフォントを削り、辞書を削り、ありとあらゆることを行なった。だが、それに追い討ちをかける事態が持ち上った。

用意したソフトが、HP100LXのROMの新しいバージョンで動作しないのである。それは紀伊國屋アドホック店の当時の店員が見つけ、植木氏に報告したのである。すでにそのとき、締め切りまで1週間しかなかった。そのため植木氏は、急遽会社を退社し、作者のかづひ氏、NORI氏などすべてが北角氏の自宅に集まり、デバッグをすることになった。

数時間の後、デバッグが完了した——。

それから半年後、『**HP100LX徹底活用ブック**』が発売された。これにより100

LXの日本語化ソフトは、さらに一段の進歩を遂げることになるのである。

この本で書けるのは、残念ながら、ここまでである。

いまも、情熱につき動かされた面々は、フォーラムやベンチャー企業や、その他さまさまざまな場所で活動を続けている。

私のように、何をしたというわけでもなく、ただ横で見ていただけの人間にとっても、なぜそのようなイバラの道を歩むのか、少しだけだが判ったような気がしている。ここにいたるまで、何度も繰り返し「パソコンは、つまらなくなった」といわれてきたが、まだまだ面白いことが続いているのである。

これからHP200LXによって、なんらかの成功があったとしても、最後に歴史に残るのは、最後までやり続けた人間のみである。

そうして消え去る前に、彼らを、そして100LXを育てた“神々”を、少しでもここに書き留めておければと願っている——。

Part 7

by You Mizuki

電子ネットワークの世界で具体化する

「電脳草子」計画とは？

デジタル読書を現実のものとする
HP100/200LXの可能性

活字出版に未来はない……。

いきなりこういうことを書くのもナンだと思うが、実感だからしかたがない。

実感というのは、つまり、水城雄という無名で売れない娯楽小説作家の実感、ということだが……。

たとえば、いま、ぼくが一冊の本を書いたとする。

『パソ通殺人事件』オケラノベルス／700円／1月1日発売

こういう感じ。いわゆる新書ノベルスという版型の本である。

1万部刷られて、1月1日に書店の店頭にならんだ。

ふつう、本の印税というのは定価の**10パーセント**というのが標準である。この『パソ通殺人事件』で得られるぼくの収入は、70万円ということになる。ここから源泉徴収だのなんだのを引かれた60万ちょっとぐらいの額が、出版社の決算日にぼくの口座に振り込まれることになる。

原稿用紙にして400枚も500枚も書いたあげく、見返りがたったの60万円とは、あまりに寒いとは思わないだろうか。小説の書き下ろしだけで生活していくためには、1年に10冊も20冊も本を書かなければならないことになる。はっきりいって、**死ぬと思う**。

まぁ、たしかに、作家の中には1年に5冊も10冊も本を書いて死なないやつがいることはいる。しかし、

おれはそんなに仕事したくないぞ！

理想的なことをいえば、1年に2冊ぐらいで食えればうれしい。『パソ通殺人事件』が10万部ぐらい売れてくれればいいわけだ。

ところが、現実には、1万部しか売れない。

増刷ということがあることはある。売れ行きがよければ増刷され、収入は増える。しかし、現代の活字出版の店頭回転率はおそろしいまでに早い。新書ノベルスの場合だと、書店の平台に積まれている期間が、長くて1か月。短ければ1週間ぐらいで消えていってしまう。正確には返品されるわけだ。

本好きな人ならわかると思うが、本ほど場所ふさぎになるものはない。1冊

ずつの本でも、たくさんになると置き場所にこまるのに、それが何百冊、何千冊もまとめて返品されてくるのだ。

返品された本はしばらく版元の倉庫に置かれているが、売れなければそのうち、処分されてしまう。だいたい、最近の読者は、読みたい本があっても、わざわざ書店に注文して取りよせたりはしないのだ。もし取りよせる気になったとしても、注文してから届くまで数週間かかるのは普通だし、処分されてしまえば **“絶版”** ということになって、**永久に入手は不可能**になる。

ぼくが精根こめて書きあげた本が、数か月後には永久にこの世から消えてなくなってしまうのだ。

ニフティサーブで**〈本と雑誌フォーラム〉**というシスオペをやっているせいか、しばしばネットワーク上で、

「水城さんの著書を教えてください」

ということをいわれる。

教えるのはいいのだが、しかし、ぼくの本はもうほとんど、この世に流通していないのである。しかも、つい数か月前に出たはずの本が、もう書店では見つけられなかったりする。なんてこったい。

本って、そういうものだっただろうか？

*　　　*　　　*

〈本と雑誌フォーラム〉に **「小説工房」** という名前の会議室がある。

その名のとおり、娯楽小説を生みだすためのコーナーである。おおぜいのアマチュア作家が集まって、自分の力作を発表したり、創作のノウハウについて議論しては、日々切磋琢磨しあっている。

毎月、何百篇という小説やエッセイがここに発表され、たがいに感想を書いては刺激しあっている。

作品の中には、もちろん、クズもある。読むに耐えない作品がまったくないかといえば、うそになる。が、ここに参加している人は、小説工房に作品を出すのだという自覚をしっかり持ってくれている人がおおい。つまり、

「人を楽しませるために書く」

「よりよい作品が書けるようになるために書く」

「商業作品として通用するようなレベルの作品をめざして書く」
という明確なコンセプトが、参加者の間では徹底しているのだ。自然、作品レベルは高いものになっていく。

電子ネットワークには創作やエッセイなど、アマチュアが自由に文章を発表できる場がいろいろあるけれど、小説工房ほどレベルの高い場所はないと、ぼくはいいきる自信がある。

ここからはすでにすぐれた作品が数多く生みだされ、一部はすでに書籍版『小説工房』三分冊（星雲社発売）として世に出ているし、小説工房に参加したことを足がかりにしてプロデビューした人も何人かいる。また、ニフティサーブの会員向け情報誌『オンライン・トゥデイ・ジャパン』には**「FBOOK・ワンダーランド通信」**というページがあり、毎月寄せられる小説工房メンバーの作品を厳選して掲載している。

書籍版『小説工房』は、さいわい、版元（青峰社）のご好意で、いまだ絶版扱いにはなっておらず、注文すれば入手することができる。が、書籍版に収録しきれなかったすぐれた作品がまだたくさんあるのだ。ぼくにはこれがもったいなくてしかたがない。

また、非常にすぐれているのに、現在の商業出版のマーケットでは扱えないような作品も数多く発表されている。たとえば、何万人という読者対象が見こめない限られたジャンルの作品がある。こういったものは、大手商業路線の出版社にはなかなか相手にしてもらえず、世間の目に触れる機会もなく、ネットワーク内の膨大なメッセージの中に埋もれていってしまう。

そういった作品をきちんとチェックし、**活字出版**という形は無理としても、電子ネットワーク内にテキストデータの形できちんと集めておき、いつでもだれでもが参照できるようにしておけないか。そういう発想でスタートしたのが、**電脳草子計画**である。

*　　　*　　　*

電脳草子は現在、次のような作品の収録がすすめられている。

(1) 電子ネットワーク上で発表されたすぐれたテキスト作品

(2)すでに活字出版されたものの、絶版などですでに入手不可能になった作品
(3)活字出版と同時に電脳草子に収録される作品
(4)版権の切れた古典作品
(5)電脳草子のための書き下ろし作品

電脳草子はあくまで**デジタルテキストデータ**だが、扱いは一般の書籍と同じである。書店のかわりに電子ネットワーク内のデータライブラリに作品が展示される。読者はライブラリから作品データをダウンロードして、自分のパソコンやワープロで読む。代金はシェアウェアと同じ扱いで、ニフティの送金代行システムを利用できる。

(1)は小説工房に集まる作品ばかりではなく、電子ネットワークに発表されたすぐれたテキストを積極的に収集していく。

(2)は、たとえばぼくのようなプロの作家がすでに発表し、しかし絶版扱いですでに新刊書籍流通の世界では入手できなくなってしまった作品を、もう一度電子ネットワークの中によみがえらせるのだ。

(3)も、プロ作家たちに協力を呼びかけ、本を出版するとき、活字出版の契約書と同時にオンライン出版の契約書も出版社との間にかわすようにしてもらう。それによって、書店に本がならぶのと同時に、オンラインでもその本のデータが入手できるようになるというわけだ。

(4)は、ボランティアの入力者をつのって、入手が困難になってしまった価値あるテキストを電子書籍化していく。大手出版社の文庫本のラインナップというものは常に古典作品を網羅し、絶版にするようなことはあってはならないと、ぼくは思う。しかし実際には、**大手出版社も商業主義一辺倒**で、新刊を毎月次々と出すことに追われ、大切な仕事を放棄してしまっている。いま、大きな書店に行っても、何十年も読みつがれてきたはずの古典文庫作品のかなりの数が、買えなくなってしまっている。そういった作品がデジタルテキストの形で電子ネットワークに登録されていれば、通信端末をとおしてだれでも読むことができるようになる。

(5)だが、将来的に電脳草子になることを最初から目的に書き下ろされるテキストが出てくれるとありがたいと、ぼくは考えている。高等な教育を受け、社会経験を積み、専門知識を持っているような人でも、結婚や育児のために退職してしまったり、地方に在住しているといった理由で知的生産をいちじるしく

制限されている場合が非常に多い。また、身体に障碍を持っているような人も、電子ネットワークを通じて**知的生産ができる**可能性がある。高度な知的テーマを持っている人が、ほかに収入の道がないという理由で単純労働やパートタイムに出ているというのは、一種の損失といえないだろうか。電脳草子では、将来的に、そういう人が知的生産によっていくらかでも収入を得られる道を開きたいと考えている。

このシステムの利点として、次のようなものがある。

(A)絶版がない
(B)作者の取り分（印税率）が多い
(C)改訂作業が容易
(D)ユーザー側の二次加工が簡単

(A)については、説明の必要はないだろう。

(B)だが、一般活字書籍の場合、ほとんどの印税率が10パーセント前後であることはすでに書いた。シェアテキストでは著者がシェア代金のすべてを取ることもできる。ただし、送金代行システムの手数料は引かれる。また、電脳草子では、基金や編集・登録作業者にも分配するために、**著者の取り分は最大50パーセント**に設定してある。それでも一般書籍よりはずっと多い。編集者、出版社、流通、販売といった中間課程をすべて飛び越えるせいだ。

(C)は、ソフトウェアの場合、バージョンアップに相当するだろう。ソフトハウスなどで販売されているソフトウェアに比べて、パソコン通信で流通しているフリーウェアやシェアウェアの有利さは、ユーザーの要望に応じてすばやくなされるバージョンアップのことがしばしば指摘されているが、デジタルテキストについても同じことがいえる。

(D)については、改変しての再配布の危険性など、注意すべき点もあるが、点字訳や拡大写本への利用など視覚障碍者に対する大きな福音になっている。音読ソフトなどを使えば、**ダウンロードしたテキストをそのまま音声で“聞く”**ことも可能で、現に多くの方がその方法で電脳草子を利用していただいている。

いい面ばかりではない。欠点もある。

(イ)シェア代金の送金率が安定しているとはいいがたい
(ロ)編集者、出版社の目が通らないために、質的保証がない
(ハ)読みにくい端末画面で読まなければならない

(イ)について。シェアウェアやシェアテキストの送金率があまりよくないことは、よく知られていることである。ましてや、何度も繰り返して使用するソフトウェアならともかく、一度読んだらそれでおしまいというテキストデータの場合、送金される確率が低くならざるをえない。なんらかの対策を考えなければならないだろう。たとえば、推理小説作品のような場合、**結末部分を伏せて**データライブラリに登録し、送金してくれた人にだけメールで結末部分を送るという方法が試みられている。
(ロ)についても、いろいろな問題がある。電脳草子という一種のブランド名を冠することで、ある程度の質的保証をつけることもできるが、その場合、電脳草子シリーズに収録する作品の選定・編集作業が大きな意味を持ってくることになる。この作業をどのような体制で行なっていくかは、まだ大きな課題として残されている。
(ハ) については、次の項目で述べる。

＊　＊　＊

ソコンで読書ができるか、という議論がある。
ふつうのパソコン／ワープロユーザーならば、
「よいテキストブラウザがあれば……」
とか、
「読みやすいフォントがあれば……」
などといった議論に発展するだろう。
だが、ここに例外がいる。**HP200LX**のユーザーなら、ほとんどすべての人が、**「読書はできる」**と断言するだろう。
200LXでは、テキストデータを画面に表示させ、片手でキーを押してページ送りしながら、楽に読むことができる。場合によっては、**日本語の縦書**

書き表示だって可能だ。通信ログならともかく、小説やエッセイ中心の電脳草子データは、縦書きで読むにかぎる。

電車の中などで吊り革にぶらさがり、片手で200LXを持って縦書き表示された日本語テキストを読むというのは、これはもうまったく、文庫本を読んでいるのとおなじ感覚である。端末のサイズもほぼ文庫本と変わりない。

違うのは、200LXでは中身のデータを次々と差し替えて使うことができるし、メモリが許せば文庫本何十冊分ものデータを入れておいて軽々と持ち運ぶことが可能だということだ。

文庫本1冊分のデータ分量は、内容にもよるが、商業小説本の場合、だいたいが200キロバイトから400キロバイトといったところだろう。仮りに平均300キロバイトとしてみる。すると、20メガのフラッシュパッカーがあれば、文庫本にして実に**60冊以上**ものデータを収容しておくことができるのだ。紙に印刷された本なら、60冊も常時持ち歩いたりはできない。

画面が読みにくいだの、キーボードが小さすぎるといった議論は、200LXの前では意味をなさない。大切なのは、文庫本サイズのテキストブラウザであり、電池の残りを気にすることなく使えるということである。

筆者の書籍とHP200LX

HP100/200LXの登場によって、人々の読書スタイルが劇的に変化すると、ぼくは考えている。

書店にわざわざ出かけることもなくネットワークで気軽に（代価は送金代行システムを利用してカードで決裁）入手できるおもしろテキストデータをダウンロードしては、200LXのフラッシュメモリに突っこんでおく。ちょっとした暇を見つけては、LEなどのテキストブラウザでそれを読む。

データライブラリに登録されたテジタルテキストは、活字書籍のように絶版になることもなければ、たった1週間で店頭から消えてしまうこともない。いつでも都合のいいときにダウンロードすればいいのだ。

これは読者にとっても、そして作者にとっても、大きな救いである。

作者の立場からいわせてもらえれば、いまの書籍の流通販売ルートに自分の心血を注いだ作品を乗せることには、大きなためらいがある。何か月も、場合によっては何年もかかって書きあげた作品が、書店にならんでも1か月足らずで市場から消えていってしまうのだ。

デジタルテキストならその心配はない。たしかに、現在はまだデジタルテキストの利用者は少なく、だれにでも読んでもらえるというわけにはいかない。また送金率も低く、とても採算が合うとはいいがたい。

しかし、近い将来、必ずデジタルテキストが活字本に肩をならべるときがくると思うのだ。

書籍流通の行きづまりや古典作品の採算性の問題などから、大手出版社もようやくデジタルテキストに目を向けはじめていると聞く。おそらくそう遠くない将来、**出版社専用のデータライブラリ**がネットワーク内にできて、旧刊・新刊のデジタル書籍がずらっと販売されるようになることは確実だ。そうなったとき、テキストの書き手には、アマチュアとプロの差というものがなくなってしまう。だれでもが自分の作品を自由に発表できるからだ。手を抜いたプロの作品よりも、力のあるアマチュア作品のほうがたくさんの参照数をかせぎ、**プロよりずっと収入を得る**というようなことも起きるかもしれない。

おそらく、デジタルテキストの流通から生じる利益は、現在の活字出版を越えるほどの規模になるものと思われる。巨大なマーケットが、電子ネットワー

クの世界に忽然と出現するのだ。

ぼくのような売れないもの書きにとって、なんと魅力的なビジョンであることか。

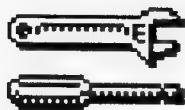
HP200LXタイプの携帯端末も、今後多く出てくるものと思われる。200LXをお手本として、よりすぐれたマシンも出てくるだろう。

そのうち、思い思いのマシンを片手に持ちデジタル読書にいそしむ人々の姿が、通勤電車や横断歩道や、公園のベンチや家庭のキッチンで見られるようになるだろう。

いや、現にぼくや、他の100/200LXユーザーたちは、すでにそのようにして生活しているのである。

Part 8

by Kazumi Takei

禁断のクロックアップに挑戦!

倍速の誘惑に勝てるか?

HP100LXのクロックアップに成功した、という報告が出されたのは、'94年8月のことである。NIFTY-Serveの**FMODEM**でのことだ。

実はそれまでにも、100LXのクロックアップの話があった。これはもう100LXユーザーのバイブルともいえる『**HP100LX徹底活用ブック**』(FMODEM携帯端末研究会著/BNN刊)の中で、すでにクロックアップの報告がある。

パソコンの頭脳部にはCPUが使われていることは知っているだろう。このCPUは、ただしこれだけでは機能しない。CPUとメモリ、さらに外部記憶装置や拡張ボードなどがあり、それらは同時に動作しているのだ。そしてこの各装置のタイミングを合わせているのが、**クロックジェネレータ**である。

このクロックジェネレータには、一般的には**水晶発信器**が使われている。俗にいう水晶とかクロックと呼ばれるものだ。このクロックには、発生させる信号の周波数によって

- **8MHz(800万回/秒)**
- **10MHz(1000万回/秒)**
- **12MHz(1200万回/秒)**

⋮

といったものがある。周波数が高いほど、処理速度が速い。

こんな話は、ちょっとパソコンに詳しい人か、あるいは仕事に必要な人なら別だが、ごくふつうのユーザーには関係ない話。パソコンを購入するときに気にはするが、買ってしまったら自分ではどうしようもないもの。たまにクロックアップを行なった、などという話がパソコン雑誌を賑わせることもあるが、それもマニアの体験談で、パソコンを道具として使うだけのユーザー、とくに文系ユーザーには関係ない話だった。

ところが、今回のクロックアップはちょっと違っていた。これまでクロックアップに興味のあるユーザーも、水晶そのものが手に入らなければ、当然ながらクロックアップなどできはしない。しかも、どんな部品なのか見た

こともないというユーザーが大半だったろう。はっきりいえば、あまりにマニアックだったのだ。

このクロックアップを、100LXで可能にしてしまったのだ。それも、100LX専用にカスタマイズしたクロックを特注し、クロックを交換したために生じる不具合を、正常に機能させるソフトまで発表された。これが今回のクロックアップ、俗にいう「**倍速化**」である。

尽力されたのは、NIFTY-Serveの**FMODEM**を中心に活躍する方々、**AKI**プ氏、**かづひ**氏、**北角権太郎**氏らである。そしてこの特注水晶は、NIFTY-Serveのオンラインショッピングに出店している**マイクロハウス**、**新宿紀伊國屋書店アドホック店**、**秋葉原のLAOX**、**若松通商**などで購入することができた。ソフトのほうは、FMODEMにアップロードされた。

そして、このクロックアップの詳細な手順が、雑誌**PC WAVE**(電波実験社刊)94年9月号に掲載されたのだ。

HP100LXさらに後継機の200LXは、CPUに**8MHz**の**80186**が利用されているのだが、このCPUはひと昔もふた昔も前のCPUだといえる。いまや33MHzの486がノートパソコンにさえ搭載されている時代なのだ。

もちろん、この仕様だからこそ省電力に優れ、単3乾電池2本で何時間も、つまり通常使用なら約1か月も使用できるのだが、いかんせん低速なのだ。とくに日本語で利用しようものなら、この速度がアダとなる。最近のかな漢字変換システム、つまり**日本語FEP**は、高度な変換を実現するために速度を犠牲にしている。どれも486マシン、最低でも386マシンを対象としているのだ。100LXで最も多く利用されているFEPである**WX**II+は、ことに処理が重い。8MHzの80186ではトロトロといった変換・表示になってしまう。

これが倍速化すると、実にキビキビと動くようになる、というのだ。100LXを道具として日常的に利用しているユーザーなればこそ、速くなるといえば文句なしに試してみたくなるではないか。

大改造のための準備

100LXの倍速化は、**クリスタル**を交換するという作業を行なわなければならない。カードを交換したり電池を交換するようなわけにはいかな

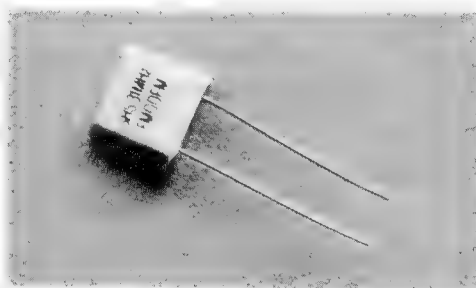
い。蓋を開け、ハンダ付けされたクリスタルをはずし、新たなクリスタルをハンダ付けしなければならないのだ。そのためには、いくつかの道具が必要になる。次のようなものだ。

・HP100LXまたは200LX

当然だが、本体が必要。なお、手を加えた本体は、メーカーの保証が受けられなくなるから、そのつもりで自分の責任の上で改造していただきたい。

・クリスタル

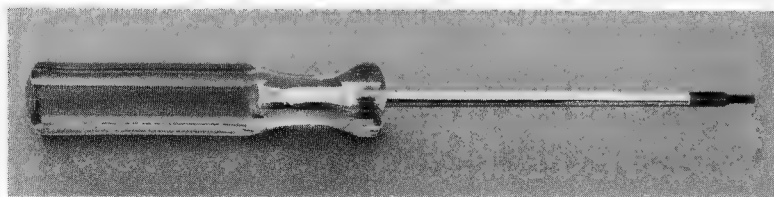
新たにつけ換えるクリスタル。倍速化のためには、**FMODEM特注の31MHz**の専用クリスタルが必要になる。

図8.1 クリスタル

・絶縁チューブ

絶縁のために、クリスタルにかぶせるゴム状のもの。

・トルクスドライバ（6番）

100/200LXのケースは、特殊なネジで閉められている。これを開けるためのドライバだ。精密ドライバや六角レンチでも開けられないことはないが、ネジ山を傷める心配もある。やはり専用のトルクスドライバを用意したい。

図8.2 トルクスドライバ

・ハンダコテ、ハンダ吸い取り線、電子部品用ハンダ

もともとハンダづけされていたクリスタルを取り除き、新たにクリスタルをハンダづけするために、これらの部品をそろえたい。ハンダコテは、なるべく先の細いものがいいだろう。また、クリスタルのはまっていた穴のハンダを除去するために、ハンダ吸い取り線が望ましい。

・ニッパ、ピンセット

他のものでも代用できるが、クリスタルの足を切るためのニッパや、元のクリスタルをはずすときに使用するピンセットも、手元にあったほうがいい。

これらのものをそろえたら、気を落ち着かせて作業にとりかかろう。パソコンにとって重大な改造になるが、作業そのものは文系ユーザーでもまずだいじょうぶ。愛用のマシンを改造するのだから、作業は自分の手でやりとげたい。もし心配なら、電子部品を扱ったことのある人に立ち会ってもらうといい。**FMODEM**では、**倍速化オフ**といった名目で、ユーザーが集まって互いに協力しあいながら倍速化する集まりも開かれている。どうしても心配だという人は、これらのオフに参加するといいだろう。

分解・交換・組み立て…作業は慎重に

準備が整ったところで、早速作業を開始しよう。と、待て。作業を行なう前に**内部RAM**、つまり**Cドライブ**の内容をすべてバックアップしておこう。蓋を開けたら、Cドライブの内容が消えてしまう可能性は高い。いや、作業は当然ながら電池を抜いて行なう。電池を抜けば、Cドライブの内容がどうなるか保証できない。

バックアップがすんだら、まず電池を抜く。電池はメインバッテリーの単3電池、それにバックアップ電源のボタン電池の2つある。どちらもはずす。

電池を抜いたら、本体を裏返してみる。裏の4隅に、ゴム状の足があるはずだ。これは釘のように穴に差し込まれているから、尖端をピンセットなどではさんで上に引っぱりあげて抜く。抜くと、その穴の底にネジが見えるはずだ。この4隅のネジで、蓋が固定されているのである。

4本のネジをトルクスドライバを使ってはずしても、本体はかなりがっちり組み合わさっている。液晶画面を開ける前面のほうにピンセットなどをゆっくり差し込み、少しずつ横にスライドさせていきながらケースを開けるといい。ちょっとしたコツがあるが、このコツが飲み込めるまでけっこう難渋するだろう。

ゆっくりと、無理せずにケースを開ける。電池ケースのバネが本体側の溝にしっかりはまっているので、これもピンセットなどで無理せずにはずす。これで液晶側の蓋と、本体とが開くはずだ。

次は、本体そのものをケースからはずす。これは液晶側から出ている平べったいフレキシブル配線を、コネクタからはずすことになる。コネクタの両端を持ち、ゆっくりと手前に引っ張ると、それにつれてフレキシブル配線もはずれる。くれぐれも無理をしないように。

なお、出来上がってからの組み立ては、これまでとまったく逆の手順で行なうことになる。どこがどう組み合わさっていたか、しっかり覚えておいてほしい。

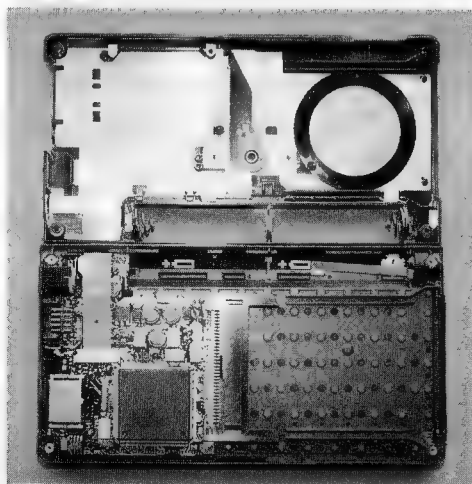
図8.3
HP200LX本体内部

本体基盤を、上に静かに上げると、ケースからはずれる。作業はケースからはずした状態でなければできない。基盤を持つときには、万が一にも静電気に帯電していないよう、身体から静電気を逃しておきたい。

図8.4 HP200LX本体基盤

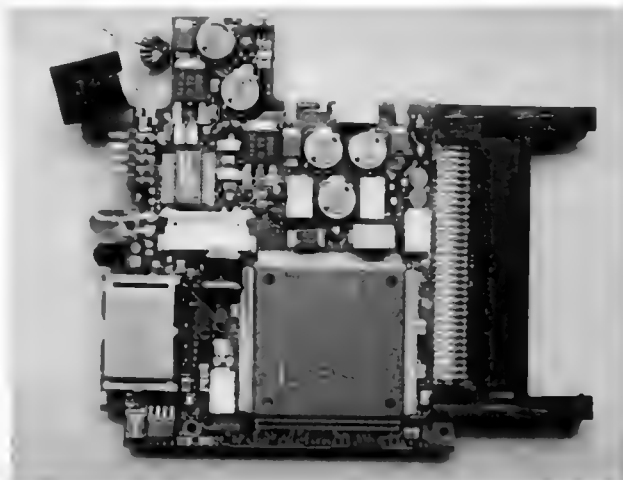
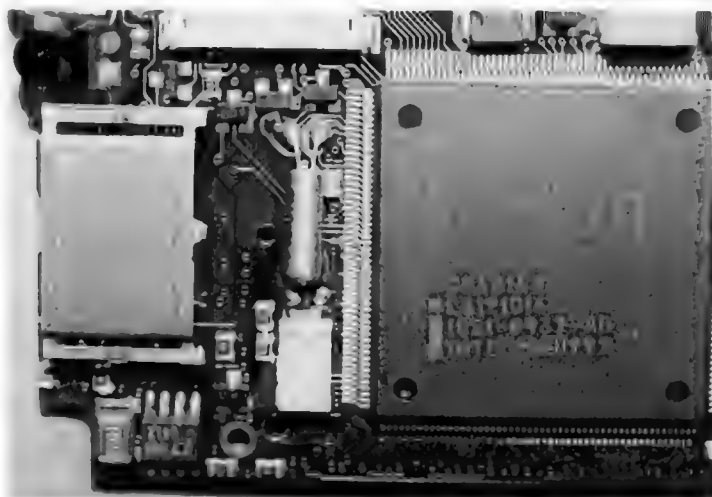



図8.5 CPUの左側にある円筒形状のものがクリスタル

基盤の中央下、最も大きな四角形のものが、本体の頭脳部であるCPUだ。クリスタルは、写真ではこの左側にある小さな円筒形のもの。2本の足と、さらに頭部がハンダづけされていて、かなりがっちりと基盤に取りつけられているのがわかる。このクリスタルを交換するわけだ。

まず、クリスタルをはずす。クリスタルの上のほうをピンセットなどで持ち、

頭部のハンダを熱しながら徐々に力を加えてみる。温度が上がってハンダが溶けると、いっきにプツンといった感じではずれるはずだ。あまり力を入れても意味がない。ハンダが溶けるのを待つ感じで、注意深くコテをあてる。

頭部がはずれたら、今度は足のほうだ。いろいろな方法があるようだが、筆者は基盤を裏返し、逆側からクリスタルをつまんで、足の位置のハンダを熱した。少しずつ力を加えながら接続部を熱していくと、やはりプツンといった感じで足がはずれる。はずれないときは、片側ずつ均等に熱し、ゆっくり少しずつ抜いていく。まさに“抜く”といった感じで力を入れてみるといい。

クリスタルがはずれたら、残っているハンダを吸い取り線を使って除去する。どの程度まで除去すべきなのか、実はわからないのだが、できればきれいに除去しておいたほうがいいのだろう。これもちょっとしたコツがある。

実は筆者は、この作業を行なう前に、不要になったATマシンのボードを使って、ハンダづけやハンダを除去する作業をやって練習してみた。なんといっても、ハンダコテを握るのなど、20年ぶりだったのだ。つまり、まったく経験などなかったといっていい。それでもできたのだから、勇気を出して慎重にやってみていただきたい。

ハンダを除去したら、今度は新しいクリスタルを取りつける。クリスタルには、事前に絶縁チューブを取りつけておく。さらに、取りつける穴に合わせて足を折り曲げておく必要もある。最初についていたクリスタルを見ればわかるように、このスペースに寝かせて入るよう、足を加工する必要があるわけだ。

ただし、クリスタルを寝かせる方向は、最初のものとは反対側にする。写真(図8.7) でいえば、上側に寝かすことになる。

クリスタルを加工したら、取りつけ穴に足を入れ、裏からハンダづけする。コテにハンダを少し乗せ、これを足にからませるのがコツ。ハンダが多いと、足と足がブリッジしてしまうから注意。

きちんとハンダづけができたら、余った足をニッパで切り取ってしまう。できたらブリッジしていないかどうか、ルーペでよく観察したり、テスターで検査してみてもいい。

図8.6 クリスタルを取り除き、ハンダを除去

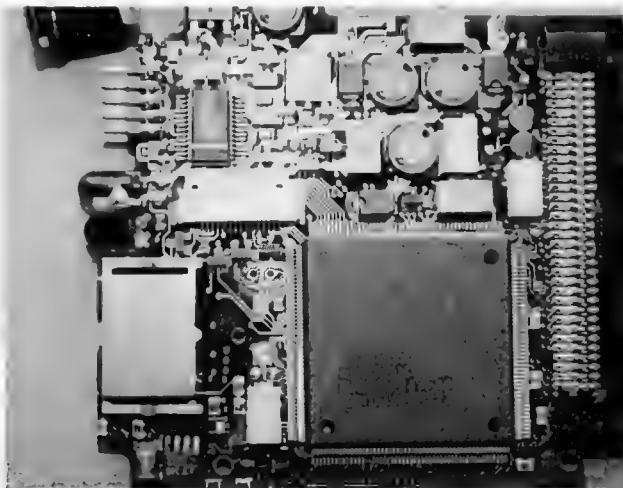
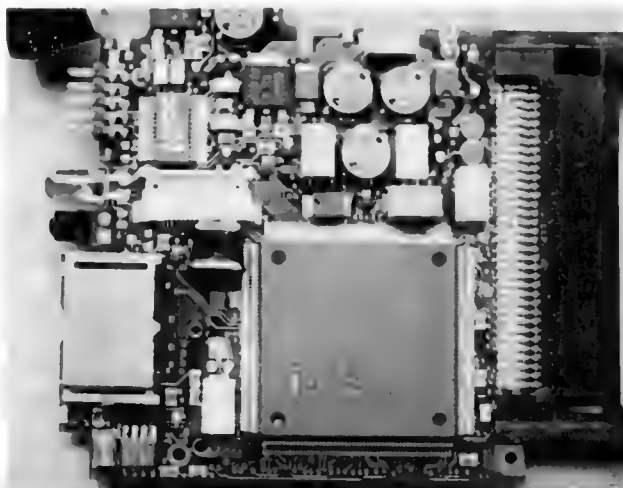



図8.7 新しいクリスタルを取りつけたところ

きちんと新クリスタルがハンダづけできたら、分解とは逆の手順で組み立て直す。基盤の２つの穴を支柱に入れ、きちんとホールドできたら、次にフレキシブル配線をコネクタに取りつける。これはしっかりと奥まで差し込んでおく。

さらに、ACコネクタ部をきちんとケースに合わせ、この状態で裏蓋をセット

する。少し裏蓋を傾けて、電池ケースのバネをセットするのがコツ。きちんと合わさったら、手前部分もカチッと音がするまでしっかり組み立てる。

このとき、PCカードドライブのイジェクト部がはずれていないよう注意すること。ここがひっかかって、あとでカードが抜き差しできなくなることもある。その前に、まずケースがきちんと合わないはずだ。分解したときの手順を思い出しながら、もとどおりきちんと組み合せていただきたい。

ケースが組み上がったら、ネジで閉めるる前にとりあえず電池を入れ、スイッチが入って100/200LXがきちんと起動するかどうか確かめておく。スイッチが入らなかったり、入れても何も起こらないようなときは、組み立てに失敗したか、またはクリスタルがきちんと取りつけられていないか、さらにクリスタルの足のハンダづけがブリッジしていないか、などの検査を行なってみる。基盤裏にはメモリがあるが、これがきちんと組み合わさっていないこともある。

電源が入って画面が表示されるようなら、4隅のネジを閉め、ゴム足を押し込んで改造は終了だ。本体にガタつきがないか、接合部に隙間がないか、何度も裏返したりして確認してほしい。

蓋をはずすときに、ちょっと本体に傷がついたりすることもある。これも倍速化の名誉の勲章だ。やがて愛しい傷になるはず。

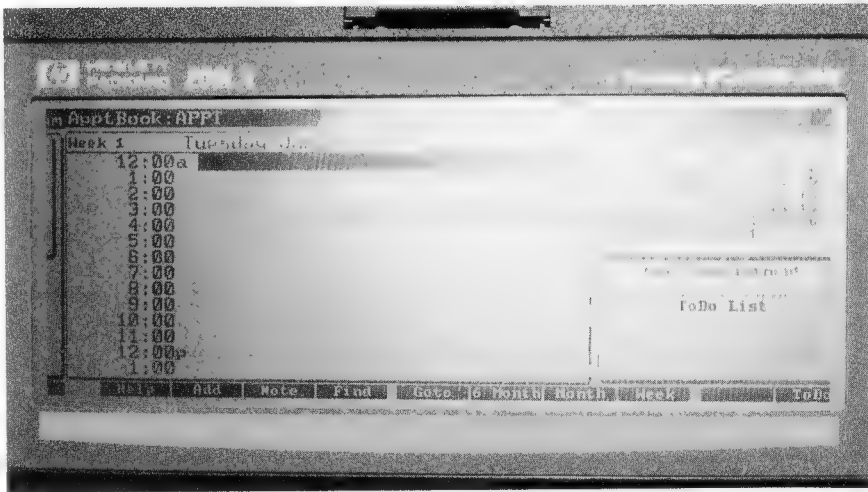
BIOSパッチプログラムを組み込む。

100/200LXの倍速化は、クリスタルを交換するだけでは完全ではない。クリスタルを交換し、倍速化した100/200LXでは、画面が正常に表示されないのだ。左右が少しズレて、右側の何ドット分かが左側に表示されたりする。

さらに倍速クリスタルによって、ビープ音が高くなり、RS232CやIRポートを利用した転送などもおかしくなる。

冒頭に記したように、クリスタルはCPUやメモリ、さらにドライブなどの機器のタイミングを合わせ、それらが正常に動くようにするためのものなのだ。クリスタルだけ倍速化すれば、当然、他の部分に歪みが出てくる。

だが、これを正常にしてくれるソフトがあるのだ。**かづひ氏**が作成した**31MHzクリスタル**でクロックアップした100/200LX用の、**BIOSパッチプログラ**

図8.8 左右のズレがわかる

ム**CLKUP31M.SYS**、**CLKUO31.COM**である。

CLKUP31M.SYSは、デバイスドライバとして**CONFIG.SYS**ファイルの先頭のほうに登録すればいい。具体的には、次のように記述する。

DEVICE=A:¥CLKUP31M.SYS

わずかこれだけだ。もちろん、**CLKUP31M.SYS**ファイルのあるパスは、正確に記述していただきたい。

このデバイスドライバを組み込んでリブートすると、画面のズレが正常に戻っているのがわかるはずだ。もちろん、RS232CやIRポートの不具合も解消される。

CLKUP31.COMのほうは、**常駐型プログラム**になっている。これはCドライブやDドライブから立ちあげたときに、このプログラムを実行すれば不具合が解消されるというものだ。

HP100/200LXの倍速化は、これだけだ。クリスタルの交換とBIOSパッチプログラムの組み込み。慣れない人にとっては大変な作業かもしれない。いや、電子工作に腕に覚えがある人でも、いざ自分の100/200LXのクリスタルを交換するとなると、ちょっとビビるかもしれない。

だが、その効果たるや絶大なのだ。クリスタルを交換した誰もが、もはや元には戻れない、とまでいい切る。ベンチマークテストなどの結果は出さないが、

まさに倍速化の名に恥じない高速化が可能なのだ。可愛かった100/200LXが、ますます愛しくなるはず。後々**メーカー保証が受けられなくなってしまう禁断の倍速化**だが、ノーマルの速度にあきたらない方は、ぜひとも挑戦してみてほしい。

Part 9

by RIN

「こいさん奮戦記」

HP100LXに翻弄された日々

●こいさん奮戦記

はじめに

出張から帰ってくると１通のEメールが届いていました。

差し出し人は「**番頭：omimi氏**」。

「**こいさん奮戦記**」総集編の原稿依頼でした。

ニフティサーブの**FYHPPC**の**14番会議室**で「塵撒き」を自認する私は「ゲッ！うそでしょ？！」とビビリ、ついでオロオロし、最後に「試しに纏めてみよう」とMacちゃんに向かいました。

が、纏まらない！　纏まるどころかドンドン増殖する「奮戦記」。どぉすんだ！

もし、皆様がこの「こいさん奮戦記」をご覧になっているとすれば、それは奇蹟に近いことかもしれません。

それと、14番で幾多の大波にもメゲず「**番頭はん**」として辛抱強いフォローを続けてくださった**omimi**氏の熱意のお陰でしょう。

では、すでにリアルタイムで夜更けに爆笑された方、または未読に埋もれて「伝説のこいさん」を知らなかった方、しばしおつきあいくださいませ。(ハラワタは鍛えてあるかね？>ALL！)

●こいさん奮戦記

プロローグ：好奇心猫を殺す

それは、１冊の本から始まった。大阪梅田の紀伊國屋書店で「単なる好奇心」で手に取った『**100LX徹底活用本**』(通称：百徹本)。

世間ではザウルスやオアポケ３といった「**小さい秘書**」ツールが流行っていた。きっとそんな類のものだろうかねぇ、と。

「好奇心猫を殺す」という言葉がある。

私はこの言葉を実体験するとは……。

(と、いままで何回、好奇心ではまっていったんだ？>私)

1994年6月1日

雑誌で見た、東○パソ×ンの通販で「**100LX-2MB**」を申し込む。

すっかり気分はハイ！　ニフティサーブの旧**FYHP**の**3番会議室**にそのままの勢いで自己紹介をアップする。

その後、数日間14番会議室が「初心者用」に構築されるまで3番会議室で、塵を撒き散らしながら「100LX」の到着を待つ。

が、こいさんRINは、ただ時間を無為に過ごしはしなかった。いや、出来なかった。会議室の話が「わからない」のである。日本語化のためのドキュメントやQ & Aも、肝心のところになると「異国語？」てなもんであった。

DOSの勉強を、ここでいろんな先輩に助けられて始めたのである。

そ・し・て……。

●こいさん奮戦記

今度の土曜日ルンルンルン

やっと、やっとこさ、届きます。何がって？　例のブツ(100LX)ですよぉ～、やぁ～ねぇ～！　バシバシ。たったいま、母親がいきなり起きてきて

母「あ、電話があったよ。なんとかいう所からで、えっと、何か注文してのが入ったので送ります。とか言ってきて、取りあえず、土曜日に着くようにしてくださいって言っといたから」
私「なんとかって？　コンピュータみたいなこと言ってた？」
母「カタカナの名前だった気がするから、そうと違う？」(オイオイ)
私「何故、メモを取ッとかないの？　いっつも“なんとか”やんか」
母「そんなこというのなら、自分で取ったら？　せっかく起きてきて教えたのに。フン！」
私「あのなぁ……」

という親子漫才の後、「うほほほほほほほ～い！(アラレモード)」と喜んでしまいました。

「尾亜歩家屋」の陰謀にもめげず、やっと正規ユーザーになれます。**15番**に書き込むことも出てくるのネ。うるうる。これで「いいなぁ」から卒業だ。へへ

へへ～ん。

もう、妨害はないもんね。テキストも買えたし。全部、そろったもんね。終りよければすべてよしですよ。ホホホホホ。

あ、ケーブル……。Macと繋ぐケーブルがぁぁぁ。待ちなんだ。くそ～っ。ここに来て。明日、ミナミを彷徨っても手に入れてこよう。

う～ん、「尾亜歩家屋」の陰謀は、まだ続くのであった。でも、めげないぞっ！

という書き込みが出来る日がやってきた！

この時点で問題だったケーブルも14番で私の兄を担当してくれている若旦那：物草氏の「ごろごろ転がってたよ」情報で入手完了する。

つ・い・に……。

●こいさん奮戦記

ついに来た！

日銭稼ぎの入力仕事から帰ってくると、来てました。うひょひょひょひょ。

まるで、ソフトのパッケージのような大きさで「この中に納まっているのか。凄いな」とちょっと信じられない気が……。オアポケ２号の時もびっくりしたけど、それ以上にビックリした。

宅急便の袋を開けて箱を取り出し、中を引きずり出して２度目のビックリ！

「玩具みたい...」

が初対面の感想です。**EURO ENGLISH MADE IN SINGAPORE**でした。これってどうなんだろう？

KTRさんが「踏んでも本体は大丈夫だった」と身銭を切っての報告を見たときに思ったことを早速実行。（乗っていませんヨ）

左手の人差し指＆中指と親指で本体を挟む。「ゲッ、へっこむ……」この実験で腹の立っているときは、100LXを触らないことに決めました。

（私は、怒り心頭に達したときは手に持っているモノを片手で破壊してしまいます。ボールペンを何本「バッキッ！」と折ってしまったことか……）

外側ばかりシゲシゲと眺めていても仕方がないので、蓋を開けました。

「うわぁ～、ホントにフルキーボードだ。う～ん、10本指のホームポジションは不可能だわ。これはもう、親指シフトならぬ、『親指入力』しかないなぁ」

あ、電池のセットを忘れてたぞ、とセットする。

もう一度開いたら勝手に何かの画面が出ていまして、「おおぉっ！」（いちいち感動する奴）とすっかり喜んでしまいました。

スタートアップガイドを見て（英語なので勘で）日付と時間と、名前とかを入力すれば各メニューが使えるようになるんだなと、イソイソと『親指入力』でプチプチ。

噂の砂時計が表示されて、プチプチの結果が中央に「デデ〜ン！」と出てきたときは「よし、これくらいで今日はカンベンしたろ」と訳のわからないギャグを一人で飛ばしておりました。

入力仕事で目が疲れすぎているので、今日はホントここまでで止めました。（A4を200枚近く入力したから目は死んでます）

今日から、「こいさんリンの**『HP100LX日本語化への道』**」が始まりです。（いつになったら「**恵梨沙フォント**」にお目にかかれるかは、だぁ〜れも知らないのであった）

必要なソフトをダウンロードして、きちんと組み込んで、ユーザー登録料をビシッと振り込めるまで何日かかるでしょう？　サッカーの「トトカルチョ」より当たる確率は低いかも⁉

●こいさん奮戦記

その1：こいさん魔法の呪文を操る

2日に例のモノが届いてから、「こいさん」リンは大変である。

もう一度、各テキストを見直し、「ほんとの入門」を片手に見知らぬDOSの旅に出かけたまま還ってこられない状態である（チキショウ！）。

諸先輩方の大きな愛情の産物である日本語化テキストのお陰で、Macから必要なソフトを100LXに、信じられないけれど転送できた。この時、私は天才ではなかろうかと、自分自身ビックリしてしまうくらいの出来映えであった。

落ち着いて考えれば、何のことはない、諸先輩方の愛情が深かっただけで、自分はそれに乗ッかってホケホケと「敷かれたレール」を爆走しただけである。

その証拠に……。ディレクトリってどこに書いてどうやって保存するんだ⁉——で、止まっているのである。一応、DOS上でテキストの通り「魔法の呪文」をタイプしていく。たまにエラーメッセージがでたが、タイプミスのようで、

再度タイプすれば何とかなっていた。が、ここからどうやって保存して元の初期画面に還るのか解らないのである。

「ん〜、このままでは終れないゾ。電池だってもったいないし（オロオロ）」

で、やることは CTRL ＋ ALT ＋ DEL と強制終了である。

「こいさん」リンは、強制終了が得意になった。

（多分、いけないことだろう）

手に入れて３日経ったいま、成果はここまでである（情けない）。

ディレクトリの謎を解くまでは、「こいさん」リンは家に還れないのである。親不幸な娘を許してネ、おとっつぁん。

●こいさん奮戦記

その２：日曜日はPCが恋人

７月３日（日）

日曜日だというのに、朝からコンピュータの前に座りこみ、いままでダウンロードした資料をノートをつけながら読んでいく。

まるで、NHKの通信講座のようである（いつも２回で自主休講してしまうが）。

ふと、視線を感じて画面から目を離すと、あきれたような母の顔。

何かをいいたそうだったが、どうせロクでもないことをいわれるだけなので無視する。

とたんに大仰なため息。

「あ〜ぁ、休みの日にコンピュータが友達なんてねぇ」

（おとっつぁん、しばいたって！）

昼までに、ひととおり目を通してしまうつもりが、結局２時頃までかかった。

理由は、２つ。

１つは、私がDOSを知らないために、基本的な操作がわからず、ディレクトリだの**CONFIG.SYS**のコピーだのということが、実際にどういうことをするのかに、なかなか結びつかず、意味が把握しにくかった。

２つめは、各参考文献の方法や、このソフトを使いましょうのソフトがバージョンアップしたり、各作成された方々の事情や好みによって、多少の違いがあり、自分は何を使えばいいのか、読めば読むほど混乱していったことが原因

である。

A4判のノートに「**100LX－日本語化手順**」と題し、『百徹本』から始まり、強敵ディレクトリをすべて書き出した。

ソフトが違ったり、リネームされているので、「魔法の呪文」が若干違っているんだということに気がつくのに、なんと30分もかかってしまったのである。

要は、**SYS**だの**BIN**だのという「**部屋**」を作ってやって、その部屋にソフトを割り当てていれるための「**部屋割表**」やんか。な～んや。『ほんとの入門』にも「**領域**」「**階層**」と書いてあったが、それが何をするのかイマイチあやふやだったのである。

霧が晴れたようで、気分をよくしてしまう（単純）。

使用するソフトは、効率よくダウンロードできるように番号も調べてある。

これは、もう取りかかるしかないでしょう！　と早速ダウンロードの手順を確認。

Mac特有のバイナリーが掛からないように、通信ソフトから外さないといけない。ふむふむ。ダウンロードしてるときに「**Macバイナリ**」と表示されているアレだなとダウンロードはいままで散々Macのライブラリから35分とかの大作をダウンしているので、スムーズにできる。天才だぁ～と、すぐ調子に乗るのもいつものことである。

ダウンロードの間に、英語でも何とかわかるやろうと、ちょっと触ってみる。と、「チ～ン」（ダウン作業終了の音）

えっ？　そんなに呆気なくできたん？　Macのソフトは結構、時間がかかるものが多い（ドロー系統のが多いからでしょう）。

ほぇ～と思いながら、ちゃんとダウンできているか確認する。おぉ、出来てるやん！　ますますご機嫌になる「こいさん」である。

早いのは当たり前。2MBの中に納まるだけの量だ。30分以上もかかるソフトなら、はやりの40MBカード持ってないと多分、「宝の持ち腐れ」なんだろうな、と勝手に納得する。

さて、次は**通信ソフト**の設定である。100のほうは1個しかないし、変更のしようがいまの段階ではないので、迷うことはいくら「こいさん」でもなかった。

ホストのMacちゃんである。**KAORU**氏おすすめのソフトを手持ちの雑誌、フロッピー本、おまけの中から探し出す。一度物凄い時間をかけてダウンしたソフトがその日に買ってきた雑誌のおまけCDについてたことがあって大ショックを受けたのである。

紹介されていた分の前のバージョンだが見つかった（よかった、課金が助かったゼィ）。ますます、上機嫌になる「こいさん」。

このあと、DOSの旅ガラスになってしまうとは、知る由もなかった。

—続く—

●こいさん奮戦記

その3：アクシデントは突然に

Macちゃんと、100LX（『こいさん』と命名済み）を電源落としてからケーブルで繋ぐ。このケーブルを手にいれるのにもすったもんだあったなぁ、と思いながら「破壊癖」のある私は慎重にドッキング作業をする。職場でプリンタのケーブルのコネクタ部分の「留め」の針金を引き千切ってしまったことがあるので（全部外したって後輩がいったから信じてガッと引っ張たら、千切れたんだよぉ～。私は悪くない！）、ケーブル関係は慎重になった。「こいさん」にも『学習機能』はある。

で、必要なソフトと解凍専用のソフトもすべて、無事に100「こいさん」に転送した。こりゃ、下手したら今夜中に出来ちゃうんじゃないの、とホクホク大上機嫌の人間「こいさん」である。

この時、大バカ野郎の第１歩をすでに踏み出していようとは、夢にも思っていなかった。

転送前に、ちゃんと部屋を用意したつもりであったが、なんと**MEMO**で題名を入れていただけであった。ここらあたりがワープロ専用機知識の邪魔というか思い込みである。

（あぁ～、全国から大爆笑の嵐が聞こえてくるぜぃ！）

で、いらないDOCとか、圧縮された元ソフトを削除して、後は、強敵ディレクトリとの対決だ！　と意気込んで、ノートに取ったメモを睨みながら、頑張った。

頑張った。すっごく頑張った。半分めげた。けど、また頑張った。

出来ないのは、終了がキチンとできていないからだ。「これは、途中経過報告を兼ねて先輩にSOS出してみるべ」と。で、こりゃ家だけでやっていても仕方がないと、仕事場にも持っていくことを決意。家を出る時に、母親に見とがめられさえしれなければ大丈夫である。

100「こいさん」はうまく隠れてくれた。が、A4のノートである。私が普段持ち歩いているカバンには入らない。**コンピュータが入るのに、ノートが入らないなんて妙な……。**

母親のちょっと不信そうな目をタタッと潜り抜けて、「こいさん」は「こいさん」を連れて出勤した。カバンは、『ノートを入れるために』白のキャンパス地のB4判のを引っ張り出してきて、ノートといつものカバンを放り込んできた(きっと、母親は気付いているだろう)。

電車はいつもながら、6割くらいの混みようだ。が、私は普段の心がけがいいので、次の駅で座れた。

一瞬、母の渋い顔がよぎったが、5秒後にはノートと「こいさん」を取り出していた。私は、パッと見が「高校生のボク」に見えるので、周囲の反応は『通学でゲームボーイをするバカなガキ』という感じであった。が、前に立っていた少々くたびれた感じのおじさんは「最近の高校生は、電子手帳で勉強するんやなぁ」と感心していた。

おじさんは、**3つの勘違い**をしている。2つは、私の性別と年齢である。そして、「こいさん」は電子手帳ではないのであった。フフフ。

と優越感に浸れるのもわずか。電車の中でディレクトリとのバトルが開始された。

職場では、座り仕事ではないので「こいさん」はカバンの中である。で、私はすっかり忘れていたが、この日、私の「歓迎会」を職場の人がしてくれた。(7月1日付けで転任したのよ)が、私は早く帰って「こいさん」に日本語を教えたくて、上の空状態であった。夜中、23時過ぎ。駅のホームで「こいさん」は「こいさん」と語り合っていた。

「早く、日本語覚えてよ」

「……Bad command or file name……」

こりゃ、ほんとに1年がかりやわ。と、英語状態でも結構遊べるので、あっちこっちボタンを押して、「こいさん」がピープーいうのを聞いていた。

●こいさん奮戦記

その4：100LXの部屋割りに泣く

とりあえず、最終電車で家にたどり着き、NIFTY-Serveにアクセスする。

ありがたいことに、SOSの**Re**がいくつか返ってきている。う～ん。そか。と、一人で納得モードの人間版「こいさん」。

もう一度、ディレクトリをポチポチ打って“100”で終了。

おぉ、『強制終了』しなくても無事に終れた。すばらしい！

いままで、“**EXIT**”でも終らなかったのに。なぜなんだろう？　でも、ちゃんと終ったから気にしない。そのうちわかる日も来るさ、と「こいさん」をリセットして稼働させる。

う～ん、英語しか喋らん。なんでやねん？

で、あっちこっちいじくりまわして、フッと「あること」に気付いた。そうである。部屋がちゃんと用意されていないことに気付いたのである。(**MEMO**で題名を入れていただけというオチ)

「わはははは……。これは悪徳不動産してたぁ～」

と夜中に大声を出して叱られたのは気のせいということにして、**MEMO**でつくった見せかけの部屋を捨てて、DOS上で部屋を作る。「ほんとの入門」ってホントに良本ですね！

次は、その部屋へのお引っ越しである。すべてCドライブの「**_DAT**」内に入居しているソフトを、部屋割りの通り引っ越しをさせる。多分、あっというまに引っ越しをさせる手順があるのだろうが、コピーで一度移して、**C:¥_DAT**内を削除していった。これしか思いつかなかった。

困ったのが、辞書である。欲張ってLサイズにしたので、コピーが

「もう、お腹一杯で入らないよ～」

と英語で拒否する。

「ばかやろ～、根性で頑張れ！　すぐに削除してやるから、少しの間我慢しろ！」

と怒鳴ろうが、すかそうが100「こいさん」はお上品に生まれ付いているのか、「もう、お腹がいっぱいよ」を繰り返すだけである。

「私なんか、『もう、お腹が一杯で入りません』といっても『先輩のついだ飯が喰えないって!?』と無理矢理喰わされたんだぞっ、上品ぶってるんじゃないぞ～！」

という泣き落しも通じなかった。辞書を泣く泣く削除した。

もう一度Macちゃんから転送である。初回は、100内で解凍をするために解凍ソフトを転送した**C:¥_DAT**内にポンポン転送していたが、今度は、ちゃんと作った部屋にダイレクトに収めないといけない。

100側の設定で、数回やりなおした。**SYS**の部屋に設定できないのである。

なぜ？　といままでのLOGや日本語化のマニュアルの内容がグルグルまわる。

ふと、**物草兄様**の『**困った時のENTERキー**』というフレーズが思い浮かび、100の Enter を押してみた。なぁ～んだ、このキーで確定すりゃいいのか、なるほど、さすがは兄様。とますます兄を尊敬してしまうのであった（こんなことで尊敬するなって？）。

（私は『**困った時の14番**』である。この言葉をこれから何回使うかわからないが、多分ここんとこずっと使うと思われる）

無事、転送も済み、「こいさん100」をリセットした。

おお、いつもと表示が違ってる！　**Filer**を選び、**KMEMO**のヘルプを F8 でのぞいた。「こいさん」は日本語を覚えてくれた。感動した。

気がつくと、時計は朝の4時を回っていた。東の空がうっすらと明るくなっていく。

実質、３日３晩の闘いだったが、数年たったような疲れが残った。

この3日間、6月初旬から準備していた日本語化のマニュアル、ケーブルや「ほんとの入門」を探し求めてうろついた日々が凝縮されていたから、「終った」ということでグッタリつかれてしまったのかもしれない。

が、それを押し退けて余りある喜びが、諸先輩方に向けて『ご報告』を私に書かせた。

「『こいさん』家に還る！」である。

起床時刻の７時まで２時間くらい。ここで寝てしまったら辛いので、日本語を覚えた「こいさん」に私の友人、知人、仕事先とスケジュールを教えて過ごした。

「こいさん」はどんどん覚えてくれた。

「なんてスバラシイんだ！」

これで完璧だ！　と感動している私に、すごい現実を突きつけた人物がいる。

皆さんは「母」を覚えているだろうか？

数百人のアドレスが覚えられようとも、元のデータがなければ、「無用の長物」といい切ったり、「ゲームができるなら『さわってもよい』」と100「こいさん」の存在を一応認めたアノ「母」である（「こいさん奮戦記」付録を参照）。

母「できたの？」

私「うん。日本語覚えてくれた」
母「ちょっと貸して」
私「ほら、英語じゃなくて、日本語でしょ？」
　(母の名を入力して見せる)
母「ゲームは？」
私「え？　まだやけど」(ドキッ)
母「じゃあ、出来てないやないの」
　(投げてよこす)
私「……」

日本語化だけで満足しきっていた私は、「ゲームもできる」と母にいったことを忘れていた（後悔の嵐、嵐、嵐……。いうんじゃなかった……)

一応、カードを買わないとゲームができないと説明していまは何とか誤魔化している。

カードはもちろん、**RAMカード**のことだが、母は「スーファミ」のソフトと同じでゲームソフトを買うのだろうと思っている。

これで、１ヵ月は誤魔化せますが、１ヵ月後がちょっと恐い。

一応、Macちゃんに新しいゲームソフトやらお絵描きソフトやらを入れて遊べるようにしてあるのだが……。それでもよくて２週間が限度であろう。

後、１月半、どうするべ～と頭が痛い「こいさん」リンであった。口が立つだけに、子供より始末が悪い「同居人」である。

●こいさん奮戦記

「こいさん」家に還る！

７月６日（水）am4：35

「こいさん」リンは、無事DOSの果てしない旅から還って来ました。

何か、いまとても感動しています。東の空も明けてきました。お正月ではありませんが、「明けましておめでとう」っていう感じです。

私のような、「**ディレクトリって、どう書くの？**」などと皆様の失笑をかうような人間でも、無事に日本語化ができたのは、すべて心優しき諸先輩方のお陰です。

ダァ～～ッとなるような質問に辛抱強く、丁寧に説明をして下さった皆様、本当に有難うございます。

いまは、なんか頭の中がゴチャゴチャしていて、文章も滅茶苦茶ですが、お礼をとにかくしたかったのです。

それと、私でも頑張ったらちゃんと日本語化できる素晴しいソフトを作ってくださった先輩方へ。最初、正直いいまして、素人には扱えないくらいのマニアックなソフトなんだろうなぁ、１年がかりだわ、これは……。と、Macのようにマウスでポンッとインストールされないソフトを少し怖がっていました。

ですから、**NORI**様に「１年位かかるかも、知れません」などと失礼なことをいっていました。が、素晴しいソフトは使用者を選ばないものなのですね。それがよくわかりました。約束事を守ってきちんと設定すれば、どんな働きをしているのかがハッキリ理解できていないのに、ちゃんと動くのです。

この各ソフトのお陰で、私はかなりの勉強をしました。

皆様からご覧になると「バカかよ……」という失敗をたくさん繰り返しました。またやったわ、と自己嫌悪も思いっ切り味わいました。

でも、最後にはきちんと動いてくれました。皆様の作られたソフトには、「よく頑張ったで賞」をあげました。こんな素晴しいソフトを作っていただきまして、本当にありがとうございました。

なんか、本当に滅茶苦茶な文ですね。

お兄様、こんな妹ですみません。

※　　※　　※　　※

以上、1994年7月2日～7月6日までの１週間たらずの「奮戦」でした。が、その闘いの準備にFYHPの諸先輩方を巻き込んでかなりの時間を費やしました。

ライブラリに登録されている、「日本語化」のための各マニュアルだけで、成功される方も多いのに、私は最後まであがきました。未読の山に埋もれながら、必要な情報をノートに書き留め、何がなんだかわからない状態のノートが残りました。

100LX「こいさん」とこのノート、そしてFYHPで知り合った方々は「宝物」です。

ありがとうございました。

こいさん：RIN

おわりに

最近、100LX、200LXに目覚めてぞくぞくやってくるメンバーの書き込みを読んでいて「そんなに出来ないからって落ち込まなくてもいいのに。私なんかもっとおバカだったぞ！」とか思います。

FYHPでは、私は先輩でもPCに関しては、後から加入して来たほとんどの方のほうが「大先輩」です。

NORI氏に、

「RINさんのような人（悪い意味でなく）が100LXをさわるような時代がくるとは……」

といわせてしまうくらい、**「PCオンチ」**なんです。

その私でも頑張ったらできるよ、こんな私でもできることなんだよ、と思い**「こいさん奮戦記」**をまとめました。

少しでも、

「あ、こんな奴でも成功してるんだから、ぼちぼち頑張ろう」

という息抜き材料にしていただければ幸いです。

私は、いっぱい諸先輩方にお世話になりましたが、たまに、笑い話を提供する（？）以外、何の恩返しもできていません。

そこで、一度アップしているので、すでにご存じの方が多いと思いますが、また笑っていただきたく、以下に付録をつけます。

隠れたファンが多い“**「こいさん」vs. 母シリーズ**”です。

お楽しみくださいませ。

付録：「ある日の母娘の会話」

母「また、何か妙なもの買って……」

私「玩具みたいに見えるかも知れないけど、これって凄いんよ」

母「……」

私（得々として特徴をいう）
母「ふ～ん」
私「ね、凄いでしょ？」
母「ま、凄いのはわかったけど、あんたが数百人ものデータを持ってるとは思えないわ。使える人が買ってこそ凄いんと違うの？」（う、スルドイ）
私「何もデータだけで買ったんじゃないって。そういうことも可能だってこと」
母「第一、でっかいの（Macのこと）はどうするの？」
私「あんなの持ち歩かれへんでしょ～が」
母「え～？　これって持ち歩くために買ったの？」
私「そう。当たり前やんか！」
母「で、道ばたで使うの？」（スルドイ！　娘の行動を把握しているのである）
私「道ばたというか、まぁ、暇やったら触れると思うけど」
母「やめなさい！」
私「何で？　新幹線とか結構仕事で使ってはるって」
母「そんなのだったら良いけど、道ばたとか、駅のホームとかでなんて恥ずかしいからやめなさいよ」
（あぁ、KTRさん、うちの母を許して）
私「何で、こんなに小さいからわからないって」
――以下、えんえん続くのであった。
私「これって、ゲームボーイとか、Macみたいにゲームもできるし」
母「ふ～ん。出来るんだったら、触ってあげてもいいわ」
私「あのなぁ～」

スーファミもMacも、買ったときは「そんなムダ遣いして！」と親らしく一応怒る彼女も、自分も触れるゲームがあると知るとその存在を認めてくれるのである。

自分の家の中に、どうしようもないものが存在することが許せないらしい。母曰く「何かあったときに（機械の暴走とか破裂とかを意味するらしい）触れないなんて恐いやないの！」ということらしい。

ゲームができても、機械の故障には対処ができないということに気がつかない。このまま、そっとしておくべきか悩んでいる。

（それと、Macの回りに自分の対戦成績をピタメモで埋め尽くすのは勘弁して欲しい。100LXには蓋に貼付るんだろなぁ）

●こいさん奮戦記

付録2：「久々に質問です」

無事に日本語化が出来たのですが、実は「こいさん」奮戦記に再三登場する母のために（？）100「こいさん」にゲームを覚えさせたいのですが、2MBの本体のみで、そういうことが可能なのでしょうか？

ゲームソフトの容量にもよるのは知っていますが……。

先輩方の書き込みを読んでいる限りでは、やはりカードをお持ちの方が多いので本体だけで、どのくらいまで大丈夫なのか、見当がつかないのです。

ちなみに、DOS/C化はまだです（こうしたら何が便利になるのかわからないので手をつけていないのである)。

あ、母親のできるゲームは単純な「オセロ」とか「さめがめ」とか「ブロック崩し」で、「テトリス」あたりになると“本体をガタガタ揺らす”ので恐くて、一人ではさせられません（違った方向に落ちたブロックを本体を揺することによって何とか自分の思い通りにしようとするらしい。荒業……)。

よって、「シューティング」関係のはMacちゃんには入れていません。たぶん、画面をガシガシ拳固で叩くと思いますから。

スーファミの「マリオ」はいつも身体ごと動かしているので、疲れるそうです。

最近、やっと「落ちたらあかん～～！」という悲鳴を聞かなくなりました。

お絵描きも大好きです。

なんか、親なのか子供なのかわからんようになってきた。ふ～(ため息)。

●こいさん奮戦記

100「こいさん」vs. 母

14番の適切なアドバイスのお陰で、本体のみで遊べるゲームを100「こいさん」に覚えさせ、母と対決をさせました。

が、「画面が見にくい」だの「(解説が）日本語じゃない！」だのとわめく、わめく……。

誰がこんなワガママに育てたんだ？　と田舎の祖母を恨んでいたら、たまたまセットしていたアラームが鳴りました。

蓮沼敏行様のアラーム集の1曲を入れていたのですが、それを聞いた母曰く、

「オルゴールになるね」

と何回もリピートさせて聞いていました。

ゲームはすっかり彼女の頭の中から消え去っているようです。そういう奴なんですよ。うっうっうっ。

で、とうとうえげつないことをいい出しました。

「美空ひばりの『河の流れのように』が聞きたい」

あのなぁ～～！

「宝塚の『すみれの花咲く頃』でもいいわ」

誰かとめてぇ～！

母と「こいさん」はナカナカ相容れないのであった。

こういう奴（母）なんですよ。

●こいさん奮戦記

その後の母と100「こいさん」

FMIDIデータになった曲を、早速「こいさん（100）」に覚えさせ母に聴かせたところ、すっかり気に入って返してくれません。

どうしたもんだべ……。

多分、2～3日で飽きるとは思うのですが……。せっかくデータを頑張って入れたのに、結局今日は、システム手帳を持って出勤しました。何なんだヨウ。

●こいさん奮戦記

返ってきた100「こいさん」

やはり、母の興味期間は1週間が限度であった。100「こいさん」は無事に返されたのである。ただし……、

母「『すみれの花咲く頃』はないの？」

私「ない！」

という会話があったことだけはお伝えしておこう。

●こいさん奮戦記

こいさん「100」の受難

うちの「母」は時たま“ショッカーの回し者”かと思えることを平気でする。

13日土曜日、思い出したように「**オルゴール貸して**」（100LXのこと）というので美空ひばりさんのアラームにセットして貸して、私は風呂場で「暑くてだるい時は“腰湯”だな」と雑誌を持ち込んでヘラヘラ“腰湯”を楽しんで（でも、すっごく汗をかくのでチョット疲れる）上がって来たら、今度は冷や汗をかくはめに陥ろうとは……。

母「オルゴール、壊れたかも知れないよ」
私「そんなことないよ。これって丈夫なことで有名やから。踏んで試した人もいるし」
母「んっと、外じゃなくて、中っていうの？　何かちょっと触ったらビヨンビヨンってなってそれからそのままにしてあるけど」
私「ビヨンビヨン？」（「100LX」が跳ねるなんて聞いたことないな）
母「そう、で、細かい文字がいっぱい出てたよ」
私「細かい文字ィ？」

あぁ～！　こいさん「100」はまた「日本語わっかりませ～ん」状態になってらした。

私「一体なにをしたの？　電池抜いた？」
母「電池なんか抜いてないよ。他の曲を聞こうと思ってノートみて触っただけ」
私「ノートのどこを見たの？」
母「ここ」

ウグッ！　“禁断の SHIFT ＋ CTRL ＋ ON ”と書いてあるところを平然と

指差す母。

私「やったらアカンって書いてあるやろ、ったく！」
母「え？　何か面白そうな気がしたし」
私「で、何で次に書いてあるとおり[N]を押さなかったの？」
母「コンピュータは大抵[Y]でいいっていってたでしょ？」
私「だぁ〜〜！　それはMacでゲームをするときやぁぁ！」
母「もう遅いし、寝るわ」
　(そそくさと退場)

日本語化は、1度やったから別に大丈夫。でも、いままで入れてたデータは？
スケジュールやらアドレスは？
うわぁぁ！　「こいさん奮戦記」の書き直しが消滅してるぅぅ！　憤死を免れたことは、奇蹟でしょう。

—教訓—
母に貸したら、目を離すな！　バックアップをとってから貸そう。

以下、この闘いはえんえん続くものと思われます。合掌。

(編集者omimiより)
このドキュメントの一部は、NIFTY-ServeのFYHP(現FYHPSYS)の会議室より一部転載したものが含まれています。
現在、FYHPPC 6番会議室にて「こいさんvs. 母」が好評連載中です。ぜひ、そちらもあわせて、お楽しみください。

Part 10

by K. Takei & omimi

フリーソフトでパワーアップ

Macもどき画面はいかが?

FYHPPC/LIB15 No.432/MIMAC.LZH
作者:津守正樹氏

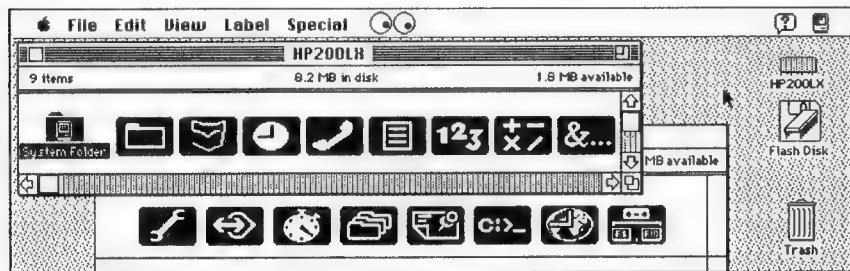
HP100/200LXのシステムマネージャは、よく**Windows**のそれと比較される。アイコンが並んだところは、さしずめWindowsのプログラムマネージャのグループのようなのだ。システムマネージャから実行する**DOSのアイコン**が、まるでWindowsのDOS窓のようなため、これまた100/200LXでも**DOS窓**と呼ばれていたりもする。

そのWindowsの画面は、実は**Macintosh**の画面に似ている。アイコンでプログラムやデータを表示するのは、**Macが元祖**なのだ。100/200LXユーザーにMacユーザーが多いのも、この操作体系に親しみがわくからかもしれない。

しかし、100/200LXのシステムマネージャは、もちろんWindowsやMacなんかじゃない。マウスなんて当然使えないし、使い勝手はいまいちMacにはおよばない。

ところが、これをMac風にしてしまうソフトがあるのだ。**津守正樹氏**のフリーソフト「**MIMAC**」である。

この**MIMAC**、システムマネージャに登録する**EXM**形式のプログラムだか、この**MIMAC**をシステムマネージャに登録し、さらに**みちらんち**氏の作成したMac風**TOPCARD.PCX**を**A:¥SYS**または**C:¥SYS**ディレクトリに入れておくだけで、なんと100/200LXのシステムマネージャがMacのような画面になってしまう。

図10.1 MIMAC

画面が変わるだけじゃない。表示されているマウスポインタだって動くし、ポインタをアイコンに重ねて Enter キーまたは SPACE キーを続けて2度押せば（ダブルクリック）なんと指定したソフトが起動される。これを見た人は、必ず驚くほどだ。100/200LXをMac風に変えて、誰か驚かせてみますか？(武)

面白アイコン集で変身!?

FYHPPC/LIB10 No.49/MICONS01.LZH
作者：Minstrel -吟遊詩人-氏

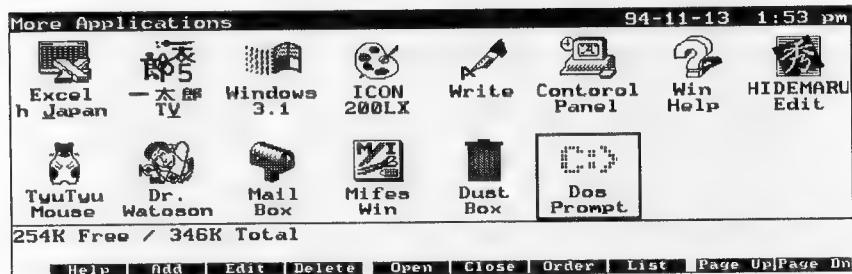
WindowsやMacと同じように、アイコンでソフトを表示する100/200LXのシステムマネージャでは、アイコンを変更するもの楽しい。といっても、アイコンを自作するのはけっこう大変なのだ。

とくにモノクロのアイコンは、それだけでソフトの機能や特長を出そうと思ったら、相当な絵心が必要かもしれない。

それならもっと簡単に、しかも楽しいアイコンデータがあったらどうか。**吟遊詩人**さんの**MICONS01**は、そんな**アイコン集**だ。

ただし、単にアイコンをたくさん集めたというだけではない。**MICONS01**に収録されているアイコンは、あのMacやWindowsの有名どころばかり。それも一太郎やMS WORD、ファイルマネージャ、リンゴマーク、ごみ箱など全部で66個ものアイコンがある。こんな見慣れたアイコンを100/200LXに表示させれば、仕事もぐんと能率アップ間違いなし。

あなたの100/200LXを見た人は、こんな小さなマシンでWindowsが走っているとか、Macの新作だなんて驚くこと必至。

図10.2 アイコン集

なお、収録されているアイコンは、登録しているプログラム名と同じファイル名（拡張子はもちろん**ICO**）にリネームし、同じディレクトリに入れておいて、システムマネージャの**F3**（Edit）を押して**Icon**を変更すればいい。

うれしいことに、こうして登録したアイコンは、実はアイコンファイルそのものを削除してしまっても、システムマネージャはちゃんと覚えていて、登録していたものを表示してくれる。アイコンファイルといっても、わずか**200**バイト。でも、これで少しでもディスクスペースの節約になるぞ（武）。

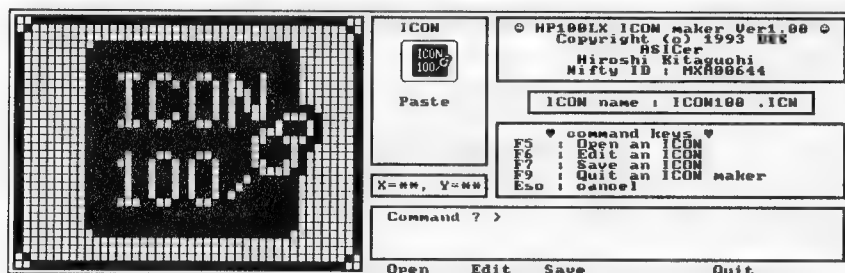
独自アイコンを自作する楽しみ

FYHPPC/LIB15 No.260/ICON100.LZH
作者：ASICer（北口寛）氏

前述の**MICONS01**には、実にたくさんのアイコンが収録されているが、これらのアイコンデータをちょっと自分用に変更したいとか、あるいは自分でアイコンを作成してしまいたいなんてときに利用するといいのが、**ASICer**氏の**ICON100**だ。

ICON100を起動すると、画面に**アイコン作成用のウィンドウ**が表示される。ここですでにあるアイコンファイルを読み込み、これを自分流に変更してみるといい。最初からアイコンを自作するのは、慣れるまでは大変な作業だが、もともとあるものを変更するのは簡単。反転表示させたり、クロ塗りの部分をグレーにしたり、影をつけたり、そんなふうにアイコンを変更することからやってみるといい。

アイコンを作成していくウィンドウの隣に、実際に画面にはどのように表示

図10.3　ICON 100

されるか等倍のアイコンウィンドウも出てくれる。これを見ながら、アイコンを作成していけば、出来上りイメージがよくわかる。

100LXから200LXになって、システムマネージャのアイコンもすごくカッコよくなった。100LXユーザーでも、それを横目で見ていないで、ぜひとも200LXふうのアイコンを作成し、登録してしまおう。それだけで気分は200LXユーザーだ。

なお、200LXにはフリーソフトだったアイコン作成ソフトが、最初からROMに入っている。これを利用するのもいいが、両方使ってみた感じでは、**ICON100**のほうが使い勝手がいいような気がする。

ICON100を利用して、自分だけのアイコンをどんどん作っていただきたい。それも100/200LXの楽しみのひとつなのだから（武）。

テトリスで、気分はすっかりゲームボーイ

FYHPPC/LIB15 No.263/HPTRIS.ZIP
作者：Yann Rousse氏

100/200LXがいくらビジネスに利用できる優れものマシンだといっても、やはりパソコン、**ゲーム**くらいできなくっちゃつまらない。

そんな理由だけじゃないだろうが、200LXにはいくつかのゲームが搭載されている。なかには95LXにあって100LXでは削除され、再度200LXで復活された

図10.4　HPTRIS

ゲームもある。

考えてみるがいい。ポケットに入れてどこにでも持ち運べる100/200LXだからこそ、ちょっとしたゲームが息抜きになるではないか。公園や喫茶店で、ポケットから100/200LXを取り出してゲームを楽しむ。ゲームに飽きたら、仕事の続きだってできる。100/200LXというのは、そういうマシンなのだ。

このマシン用に、というよりも、すでに95LXのころから、あのテトリスによく似たゲームがあった。**HPTRIS**だ。CompuServeにアップロードされていたもので、パブリックドメイン(PDS)のソフト。これが**NIFTY-Serve**の**FYHPPC**に転載されている。

このゲーム、もちろんルールはテトリスと同じ。上から落ちてくるさまざまな形のブロックを、うまく組み合せて消していくゲーム。ロシア生まれで、パソコンゲームからファミコンやゲームボーイなどにも移植され、世界中で大ブームになったから、やったことのある人も多いはず。

このテトリスを100/200LXでやる。気分はもう**ゲームボーイ**だ。ブロックを移動したり回転させるキーを自由に設定できるから、左右の親指の位置で設定すれば、本当にゲームボーイのような操作感が得られる。100/200LXでやるテトリスは、ファミコンやパソコンと違って、ちょっと新鮮なのだ。

ただし、ゲームのやりすぎにはくれぐれも注意(武)。

100/200LX用ペイントソフト・GEDIT

FYHPPC/LIB8 No.51/GEDIT080.LZH
作者:中本伸一氏

あるとき、100LXの**トップカード**に、ちょっと**エッチな画像**を登録するのが流行ったことがある。

トップカードにはいろいろな使いみちがある。地図を表示したり、最近では定規を表示させているユーザーまでいる。トップカードだからって、なにもお仕着せの画像を表示しておく必要はないのだ。

だからというわけでもないが、このトップカードにエッチ画像を表示させてみた。モノクロの、それほど鮮明に映る画像ではないが、自分だけの秘密を持ったみたいで、なんだかウキウキしたものだ。

このトップカードの画像、**PCX形式**のファイルなのだが、これはWindowsに

添付されているペイントブラシで作成することができる。が、100/200LXの画面の大きさに合わせたり、モノクロ2色で作成しなければならなかったりで、けっこう大変。

GEDITは、このトップカードとして表示できるPCX画像を編集・作成するソフトだ。**中本伸一**氏のフリーソフトだが、これが実に簡単に利用できる。しかも、最大16ページもの画像を同時に扱えるマルチページ編集機能まである。また、画像の中に**任意の大きさの文字**を入れたり、**スタンプ機能**や**タイリング機能**といったものまである。

100/200LXでここまで画像編集ができるのかと、**GEDIT**はまさに驚きのソフトなのだ。しかも、これらの機能はまだまだ拡張されるというからうれしい。**GEDIT**で、自分だけのトップカードを作って楽しんでみるといい（武）。

画面をファイル化するキャプチャリング

FYHPPC/LIB7 No.21/CAPLX103.LZH
作者：ひろ．（関谷博之）氏

実は本書に収録した100/200LXの画面は、ひろ．氏の**CAPLX**を利用させていただいて、これぞと思う画面をキャプチャリングして作成した。そう、**CAPLX**は100/200LXの画面のキャプチャリングソフトなのだ。

手の内を明かしてしまうと、まず100LXまたは200LXを立ち上げ、**CAPLX**を起動してメモリに常駐させておく。この状態でDOS/Cのソフトあるいはシステムマネージャを起動する。システムマネージャ内のソフトなどを起動し、あちこちの場面を表示させる。

図10.5 CAPLX

```
Installed.

A:¥>caplx /?
CAPLX v1.02 (C)1994 H.Sekiya
Usage:  CAPLX [-kXXYY] [-pPATH]
        XX   : shift code
        YY   : key code
        PATH : file save path

A:¥>■
```

ここで画面として紹介したいものが映し出されたときは、すかさず ALT ＋ 3 キーを押す。ピッとビープ音がするが、それだけ。

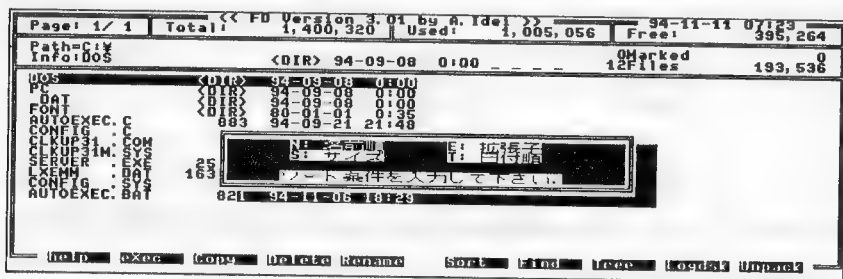
実際にはこのとき、最初に指定しておいたディレクトリ内に、**SCRN0001.PCX**というファイルが作成されている。何度か ALT ＋ 3 を押すと、ファイルも**0001**、**0002**、**0003**……といった形式で、古いものから順に数値がつけられて保存されていく。

こうして保存したファイルを、ATマシンに転送し、こちらのWindows上でBMPファイルに変換して手を加え、これを印字して本書に紹介した画面が出来上がったというわけだ。

本書のような解説書だけでなく、たとえば100/200LXを説明するとき、あるいは素敵なトップカードが作成できたときなど、この手を使って画面としてファイル化してしまうといい。トップカードを自作できないが、ゲームの画面をトップカードにしたい、なんてときにも便利に活用できるはずだ（武）。

ファイル管理の超有名ソフトFD

FGALBT/LIB6 No.813/FDPC_301.LZH
作者：A.Idei氏

図10.6 FD

100/200LXのシステムマネージャには、**Filer**という機能が搭載されている。この**Filer**、その名のとおり**ファイルやディレクトリを管理**するためのソフトだ。ファイルをコピーしたり削除したり、あるいはディレクトリを作成したり、つまりDOSで行なうファイル管理を、**コマンドレス**で行なえるようにしたものだと思えばいい。

実は100/200LXを利用していると、けっこうファイルには気を使う。というのも、いくらフラッシュメモリを搭載しているとはいえ、10MB、20MBといった容量が中心。中には40MBものフラッシュメモリを利用しているユーザーもいるだろうが、それにしてもたかだか40MBだ。Windows全盛のいま、デスクトップなら10倍の400MBでも決して多いほうではない。

そこで、**Filer**の登場となる。あるいはDOSに慣れた人なら、コマンドラインで次々とコマンドを入力して、ファイル管理を行なうかもしれない。でも、**FD**のようなファイル管理ユーティリティがあれば、もっと便利に活用できるのだ。

FDは、**A.Idei**氏が作成している超有名**ファイル管理ツール**だ。機能が豊富なのもさることながら、PC-9800シリーズ用から出発してDOS/V用もある。そのDOS/V用の**FDPC**が、100/200LXで利用できる。日本語モード用の**FD55**も利用できるが、どうせ英語版DOS 5が搭載されている100/200LXだから、英語版用の**FDPC**のほうが面倒がなくて、筆者はお勧めだ。

ファイルを削除したりコピーしたり、また並べ替えたり、属性を変更したり、あるいは圧縮ファイルを解凍したり中身を閲覧したりと、**FD**には使いきれないほどの機能がある。シスマネでは**Filer**を、**DOS/C**なら**FD**を、これで決まり(武)。

VRで100/200LXをペーパーバックスに

CIS HPHAND/LIB11/VR100.ZIP
作者：G. Kohl氏

これまた100/200LXでは超有名ソフトだ。発想の転換といえばいいのだろうか、ともかく面白くてユニークな発想のもとに生まれ便利ソフトなのだ。名前は「**VR**」という。

VRとは、**Vertical Book Reader**の略。垂直にして本が読めるというもので、100/200LXを縦にして表示させた文章を読むというものだ。日本でいえば、さしずめ**縦書きビュワー**といったところ。

画面を見ていただければわかるように、横長の画面に90度回転させた文字を表示させ、縦長に持って文章が読めるのだ。実際に100/200LXを持ってみるとわかるが、片手で持って画面を見ようと思えば、実はこのほうが安定がいい。

また、電車の中や屋外などで、ちょっと文章を読もうなんてときも、片手で

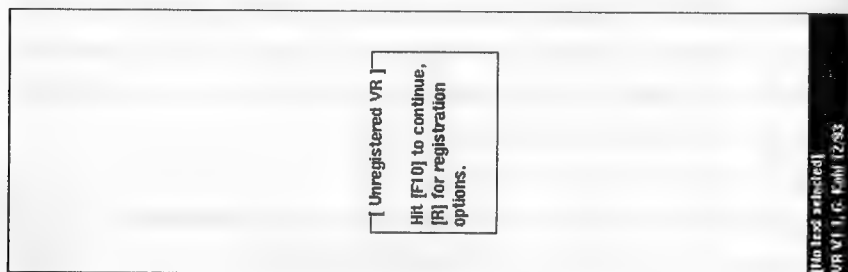
縦に持ったほうが場所もとらないし便利なのだ。**VR**を使って文章を表示させてみると、まるで100/200LXがペーパーバックスになったような気分だ。実にユニークというか、面白くも便利なソフトなのだ。

ユニークだと思っていたら、これの日本語版も出た。**LEの縦書き表示**だが、これについては後述するからそちらを見てほしい。

VRのすごいところは、いくつものフォントを持っていて、気分によってフォントを替えて表示させることができる点だろう。

図10.7 VR

Unregistered VR

Hit [F10] to continue,
[R] for registration
options.

なお、この**VR**はシェアウェアになっている。**CompuServe**の**HPHAND**フォーラムでダウンロードしなければならないが、少しくらい時間と金をかけて入手しても損のないソフトだ。気にいったら、CompuServeの料金代行システムでドネーションを送金することができる（武）。

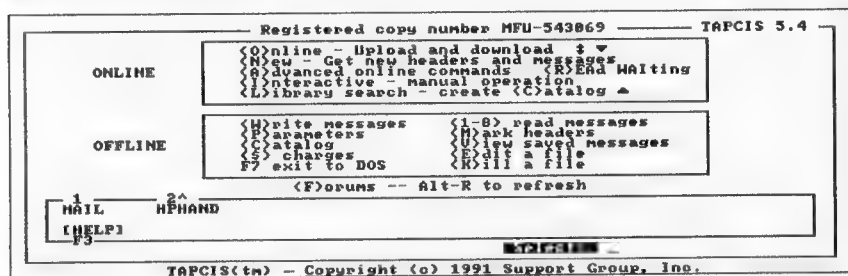
CIS専用ソフトTAPCISで情報収集

FCIS/LIB5 No.42/TAPTRY.EXE

100/200LXの最新情報は、アメリカに集まっている。アメリカ生まれのマシンだから、当然といえば当然なのだ。

このアメリカには情報ばかりでなく、100/200LXで利用できる便利なソフトもたくさんある。そのメッカが、CompuServeの**HPHAND**フォーラムだ。少しでも新しい情報を、便利なソフトを、と追いかけはじめると、CompuServeにまでアクセスすることになる。

NIFTY-ServeとCompuServeのIDを持っていれば、このNIFTYのメニュー内から簡単にCompuServeにアクセスできる。が、広大なCompuServeを自由に、効率よく泳ぎ回るためには、日頃使っている通信ソフトよりももっと便利な**CompuServe専用通信ソフト**がいい。そして、CompuServe専用通信ソフトとして100/200LXでも利用できるものに、シェアウェアの**TAPCIS**がある。アメリカではAT互換機がパソコンの標準。**TAPCIS**はこのATマシン用のソフトなのだ。

図10.8 TAPCIS

TAPCISを簡単にいえば、オフライン（回線接続前）でフォーラムを指定すると勝手にCompuServeにアクセスし、指定したフォーラムの電子会議室の未読メッセージのタイトル一覧をダウンロードして回線を切り、さらにこれを見ながらオフラインで読みたいメッセージを指定すると、再度アクセスして指定したメッセージだけをダウンロードしてくれる、という通信ソフト。

データライブラリの指定もでき、やはりオフラインで指定してやると、指定したものだけを勝手にダウンロードしてくれる。

オフラインとオンラインとをうまく利用して、効率よくCompuServe内を回ってくれるのだ。どこにどんなフォーラムがあるか、フォーラムで使えるコマンドは、ネット内を動き回るコマンドは、ログインしたりログアウトするコマンドは……、といったCompuServeのコマンドや地図は必要ない。すべて自動で、これらのことをやってくれる。ユーザーは行きたいフォーラムを指定するだけ。最初にフォーラムの会議室やライブラリ一覧をダウンロードしてくれるから、見たいところを指定するだけでいい。

アクセスするたけでなく、ダウンロードしたメッセージの**ブラウザ機能**もあるし、発言を指定すれば、コメント形式のメッセージを作成してもくれる。もちろん、電子メールにも対応している。

図10.9　TAPCISで行きたいフォーラムを指定

このソフトがあれば、CompuServeのことをまるで知らなくても自由に情報を収集し、ソフトをダウンロードし、世界中のユーザーとメッセージを交換したりメールのやり取りができる。

このよくできた**TAPCIS**が、100/200LXで動くのだ。これさえあれば、本当にどこにいても世界中の情報を手中にできる。

TAPCISは、いわばCompuServe標準の専用ソフト。シェアウェアだが、**NIFTY**の**FCIS**にも**試用版**がアップロードされている。これをダウンロードして使ってみて、気に入ったら「**登録**」を指定してやると、やはり勝手にCompuServeにアクセスしてユーザー登録してくれる。登録されると、正式版がアメリカから送られてくる。これがバインダー形式のマニュアルに入ったすごいやつなのだ。とてもシェアウェアだなんて思えないほど。市販ソフトに比べ、何ら遜色ないパッケージだ。

パソコン通信によって、情報もソフトも、その流通形態を大きく変えた。いや、100/200LXのようにパソコンの使い方さえも大きく変えた。真のモービラーは、100/200LXを片手に、どこからでも世界にアクセスし、情報を収集するのだ。それが、100/200LXと**TAPCIS**の組み合せで、誰にでも可能になるのである（武）。

タイピングは、格闘技だ!?

FYHPPC/LIB7 No.56/TYPERLX.LZH
作者：Take氏

HP100/200LXのキーボードって、慣れないうちはあまりにも小さいんで打

ちにくかったりする。慣れればなんのストレスもなくなるとはいえ、その慣れるまでが大変だったりするのである。

そこで、タイピングを練習するためにオススメするのが、**TYPER**。

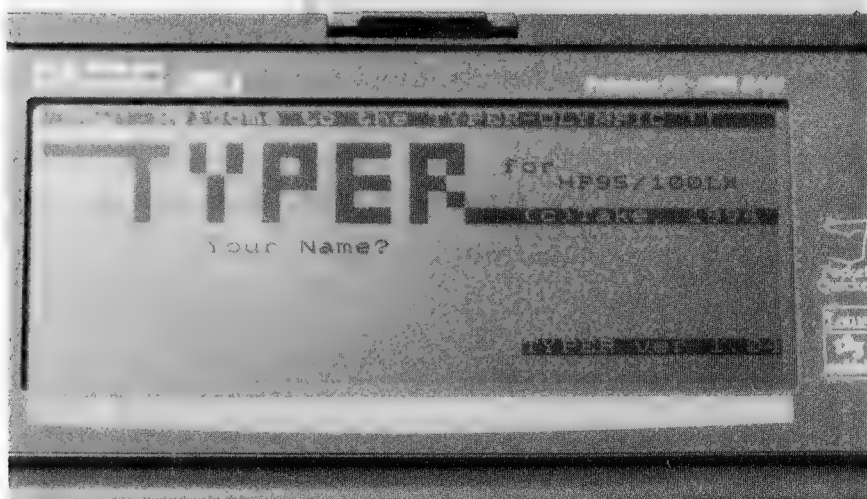
この**TYPER**、そんじょそこらのタイピング練習ソフトとは、趣が違うのだ。ゲーム感覚のタイピング練習ソフトは多いが、「**タイピングはスポーツだ！**」といい切る**TYPER**の感覚はスゴい！

収録されているのは、**2000個あまりの英単語**。表示された英単語を、がむしゃらに打ち込んでみるといい。１分でゲームセット。得点に応じた階級が**TYPER**より認定される。

HP100/200LXを見て、必ずいわれるのが「こんな小さなキーボードじゃ、まともに入力できないよ」という台詞。ついでに「タッチタイプできないんじゃ、オモチャだね」なんてイジワルをいう人もいたりする。余談だが、そーゆー人にかぎって、ノンタッチタイプの人より遅いタッチタイプを実践していたりするのだ。

TYPERで腕を磨いて、「確かに標準的な指使いのタッチタイプは無理だけど、キミよりは早く打てるよ」と見返してあげようじゃないか。

ちなみに、**NIFTY-Serve FYHPPC**のオフでは**TYPER**選手権を開催するのが恒例になっている。オフに参加する前には指慣らしを忘れずに（omimi）。

図10.10　TYPER

エヴァーグリーンガーデン in HP200LX

FYHPPC/LIB7 No.25/TREE110.LZH
作者：Shozo氏

なにやら巷では、観葉植物がブームになっているらしい。その波が、ついに200LXにまで及んできた。

この「**Tree**」は、その名の通り画面上に木を描くという、至極単純なソフトなのだが、これがとっても健気でよいのだ。

Treeには、「**雑木林モード**」と「**並木道モード**」と2種類あるが、omimiは「並木道モード」がお気に入り。

HP200LXは優秀なビジネスツールだが、お仕事ばっかりしないで、缶コーヒーでも片手に、**Tree**で心を休めてみてはいかが？ (omimi)

図10.11 Tree「雑木林モード」

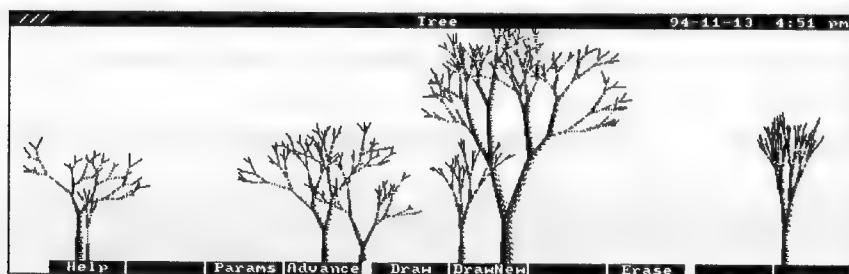



図10.12 Tree「並木道モード」

HP100LXは辞書の夢を見るか？

FYHPPC/LIB7 No.2/E2JM056.LZH
作者：おおはた氏

電子手帳には、もれなく辞書がついてたりする。確かに、日常的に辞書をひくシーンというのは、意外に多いもの。けれども、肝腎なときに手元に辞書が見当たらなかったりするものである。

そこで、肌身離さず持ち歩く200LXに辞書があったら……と思うのが人情というもの。そんな欲求にも、100/200LXユーザーは、応えてくれるのだ。漢字を調べるのはFEPで代用できるということなのか、ライブラリにアップされているのは、英和辞書と和英辞書。この辞書は、ホットキーで起動できるタイプのソフト。シスマネにホットキータイプのソフトは8つまでしか登録できない。登録する前に、アプリケーションマネージャで登録アプリケーションの整理をしておくといいだろう。ちなみに、国際派ビジネスマン御用達の**英英辞典**は、**YHP**から**純正品のカード**が販売されている。スペルチェック機能もついた本格派だ。興味のある方は、販売店で試用させてもらうといい。

余談になるが、CompuServeには、11MBにもなる**JDIC**というアメリカ製の英和/和英辞書もあるそうだ。大容量フラッシュメモリを導入されている方は、話のタネにダウンロードしてみては？ (omimi)

≪辞書本体の在処≫

FYHPPC/LIB7 No.18/J2ED9409.LZH 和英辞書 **94**年**9**月版

FYHPPC/LIB7 No.17/E2JD9409.LZH 英和辞書 **94**年**9**月版

図10.13 E2JM

```
-------------------------- ENG2JAP.EXM Version 0.56 --------------------------
dichromatic
二食化する,二食を有する
dictate
を書き取らせる,口述する,を命令する,命令,指図
dictation                                    ------ キーの使い方 ------
書取り                                        [ESC] 終了 [ ¥ ] 英/和
dictator                                      [F1]  HELP [F2] コピー
独裁者                                              [↑]
dictatorship                                  [←][↓][→]スクロール
独裁政権                                      --------------------------
英 語 : dic
```

200LX新書化計画はLEで!!

FYHPPC/LIB15 No.273/LE055.LZH
作者：Kei.氏

パソコン通信は、情報交換の場として認識されているけれど、小説をはじめとした読み物の発表の場としても、活用されている。

FBOOKC（本と雑誌クリエイターズフォーラム）では、毎日膨大な量の小説がアップされているし、その中の「小説工房」は、なんと本にまでなってたりする（近々、第3弾が発売されるとか）。HP100/200LXの情報の総本山、**FYHPPC**にも、読み物専用のライブラリが用意されている。

そのせいか、各パソコン向けにディスプレイで縦書き表示をするためのソフトが、かなり流通している。そんな事情はHP100/200LXでも同じで、縦書き表示を実現するためのソフトがアップされている。

ネックといえば、200LXを90度回転させなきゃいけないことだが、新書を読んでいるみたいになって、逆に趣が感じられるというもの。

これだけは、電子手帳にもサブノートにも真似できない、HP100/200LXだけの特典ではないかな。ただし、この**LE**だけでなく、他にも必要なソフトがあるから注意（omimi）。

≪ほかに必要なツール≫

FYHPPC LIB15 No.286 LE055a14.lzh FONT.14対応
LIB7 No.328 R_Font14 Ver.1.20 Font14を横倒しに
LIB15 No. 17 FONT14.LZH JMEMO用14Dot Font

図10.14 LE

```
A:\PART03.TXT                          8/ 29  Line :  186   2:27a
●200LX新書化計画

　パソコン通信は、情報交換の場として認識されているけれど、小説をはじめとした読み
物の発表の場としても、活用されている。
　FBOOKC（本と雑誌クリエイターズフォーラム）では、毎日膨大な量の小説がアッ
プされているし、その中の「小説工房」は、なんと本にまでなってたりする（近々、第3
弾が発売されるとか）。HP100/200LXの情報の総本山、FYHPPCにも、読み物専用の
ライブラリが用意されていたりするしね。
　そのせいか、各パソコン向けにディスプレイで縦書き表示をするためのソフトが、かな
```

FAXはビジネスツールの基本デス

FYHPPC/LIB15 No.351/MKFAX100.LZH
作者：中本伸一氏

いまや**FAX**は、ビジネスの必需品となっているが、「パワーレポート」でも書いたとおり、200LXにおいては**プリンタの代用品**としても重要なアイテムでもある。

で、今回ご紹介するのが**MKFAX**。「ホントにフリーソフトでいいのかしら？」というくらい、優秀なソフトだ。

DOS/V用に「**たぬきFAX**」という優秀なシェアウェアがNIFTY-Serveにもアップされているが、こちらは純粋にHP100/200LX用に開発されたソフト。いくらDOS/V用のソフトが動くIBM互換機だとはいっても、やはりちょっと特殊なマシンだから、専用ソフトのほうが安心だ。

FAXをパソコンで受信して、「オレは環境問題にも気をくばってんダゼ」と胸を張るもよし、ファイルをデスクトップに転送してワープロを立ち上げてプリントアウト……、なんて面倒から開放されるもよし。

どなたにも使っていただきたい、ベストツールのひとつなのだ、と胸を張ってお勧めできる。

余談ではあるが、このソフトの作者である**中本**さんは、超優秀なプログラマなのだが、会議室にも実に教養深い発言をアップされている。ぜひ、そちらも読んでいただきたい（omimi)。

図10.15 MKFAX

```
A:¥>mkfax sample.txt
A:¥MKFAX.cfg not found
Font size=32x32  Line/page=57  Linespace=8
Page  1 Line 11
```

≪そのほかのツール≫

FYHPPC/LIB15 No.351/SRFAX101.LZH 100LX用FAX送受信

FYHPPC/LIB15 No.352/FVIEW100.LZH 100LX用FAXビューワ

200LXが歌う！踊る！ 驚異のアニメーション

FYHPPC/LIB8 No.71/EVA200.LZH
作者：でじやま氏

このEVAをはじめて見た時、HP100LXにはじめて日本語が表示されたときと同じような衝撃を受けた。EVAはそれぐらい、とんでもないソフトなのだ。

このソフトは、コマンドラインでの指定が必要なので、Filerから[MENU]→[Option]→[Dos]でDOSプロンプトに降りてから実行する。

```
A:¥>EVA -C100 CAR2
```

こう指定すると再生がはじまる（EVAはクロックアップ済みのマシンで調整されているので、クロックアップしていないマシンの場合は、-C100 のスイッチ指定を忘れないように）。

すると、音楽とともにレースカーが100/200LXの画面の中を走り出すのだ。

ほかにも、画面分割などのオプションも用意されているから、いろいろと遊べるのだ。

図10.16 EVA

アップされているものには、サンプルデータが1つしか付属していないが、作者のでじやまさんにお願いすると、ほかのサンプルデータの配布を受けることが出来る。これがね……またまたスゴいのなんのって。

詳しい内容はお話できないが、200LXを購入して奥さんに責められている方には、娘さんを味方につけることができる究極のツールに**EVA**が「変身」する、とだけお教えしておこう。

ともあれ、「200LXを買ってよかった」と至福に浸れること間違いなし。くれぐれも**EVA**の使いすぎで、電池の浪費には気をつけて。(omimi)。

データベーダー御用達ツール

FYHPPC/LIB7 No.86/L1DB070.LZH
作者：木村睦和氏

200LXのウリのひとつに、強力な**データベース機能**があげられる。ところがこのデータベース、残念ながら市販品とまったく互換性がない。

それをどうにかしちゃおうというのが、この**L1DBCONV**というソフト。**200LX用データベースと、MS-DOSテキストとを相互に変換できる**のがうれしい。

大量のデータをデータベースにしたい場合、まず200LXで基本となるフォーマットを作り、DOSマシンに転送してフィールドデータを抜き出す。そのフォーマットにしたがって、データをテキスト形式で作成する。そのテキストファイルを**L1BDCONV**でデータベース形式に変換という手順が、データベースの達人への近道。

図10.17 L1DB

```
A:¥>l1dbout

 HP 100LX DataBase TEXT out  Ver. 0.60

DataBase  filename? phone.pdb

Text out  filename? tel.txt

     last count =    145
```

やっぱり、200LXのキーボードで数百件も入力なんて、避けたいものだ(omimi)。

≪収録ファイル≫

- **L1DBIN.EXE**
  テキストファイルを100/200LXのデータベース形式に変換。
- **L1DBOUT.EXE**
  100/200LXのデータベース形式のファイルをテキストファイルに変換。
- **L1DBFO.EXE**
  100/200LXのデータベース形式のファイルからフィールド（項目）データを抜き出します。

ああデータベース三昧の日々

FYHPPC/LIB10 ほか
作者：FYHPPC有志のみなさん

何度もいうようだが、HP100/200LXのデータベース機能には素晴らしいものがある。でも、100/200LX初心者はなかなかデータベースの作成まで手が回らなかったりする。市販のデータベースソフトの画面設計の手続きが難しいから、敬遠してしまうというのも理由のひとつではあると思う。しかし、そんな方はぜひ、**FYHPPC**にアップされている「**HP100LX Q&A集　第2版**」の中に**平本成彦**さんによる**データベース入門**が同梱されているから、そちらを参考にしていただきたい。

NIFTY-Serveにも200LXのデータベースに魅せられてしまった人がたくさんいて、自分の入力したデータベースが多数アップされている。

その中の代表的なものをいくつか紹介しよう。どれもこれも、100/200LXの中に入れておきたいものばかりだ（omimi)。

≪おいしいケーキ屋さんDB（データベース)≫

FYHPPC/LIB8 No.60/CAKE.LZH

≪Jリーグ公式戦データー集（データベース）≫

FYHPPC/LIB15 No.278/ Jリーグ公式戦データー集

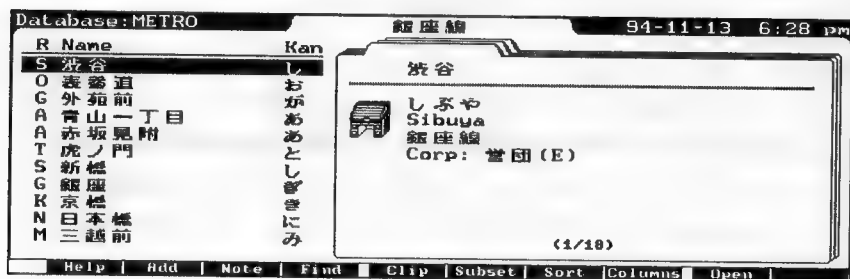
≪日本語の暦（アポイント）≫

FYHPPC/LIB10 No.65/KOYOMI94.LZH

≪新幹線時刻表（データベース）≫

FYHPPC/LIB10 No.3/JRS_9411.LZH

≪東京メトロDB（データベース）≫

FYHPPC/LIB10 No.23/METRO010.LZH

紙面の都合でごく一部しか紹介できなかいが、**FYHPPC**のライブラリには、70以上のデータがアップロードされている。ぜひ、あなたの手でお好みのデータを探し出していただきたい。そして、自分で作ったデータは、先人達に感謝する意味を込めて、ライブラリにアップするのもお忘れなく（omimi）。

作者直伝！　HOLI95.ADBの正しい使い方

FYHPPC/LIB10 No.38/HOLI95.LZH

データベースの項では、**KOYOMI95.ADB**を紹介したが、実はこの祝日・行事データの元祖は、ワタクシの**HOLI93.LZH**なのである。もちろん、95年版も登録済である。

先行作品ゆえ使い勝手の面で後発作品に抜かれてしまったが、執筆者の特権を悪用して、ワタクシの**HOLI95.ADB**を題材に、サンプルデータの活用法を紹介しようと思う。

まずNIFTY-Serveの**FYHPPC**のデータライブラリから、**HOLI95.LZH**をダウンロードしてくる。これを**LHA**で解凍し、200LXに転送する。もちろん、転送してから解凍してもOK。

ファイルを解凍すると、新たに**4つのファイル**が生成されるが、まずは**アポイント**を開いて、［**MENU**］→［**File**］→［**Open**］で**HOLI95.ADB**を開いてみよう。どうかな？　気に入っていただけたかな？

でも、単体で見るだけでは**HOLI95.ADB**の価値は半減。やっぱりいつものアポイントと一緒に表示されなくちゃ。そこで、**マージ**という作業を行なう。まず、いつも使ってるアポイントブック（**APPT.ADB**かな？）を開く。ここで **MENU** → **File** → **Maerge** を選択すると、ファイルの一覧が表示されるから、**HOLI95.ADB**を選ぶ。すると、いつものアポイントブックに**HOLI95.ADB**の内容が挿入される。これでファイルがマージされたわけだ。いつものファイル内に、いくつかのデータがつけ加わっているのを確認してみてほしい。

HOLI95.LZHの中には、ほかにも二十四節季データや年中行事データも同梱されているから、好みに応じてマージするといい。また、これらを「**カレンダー**」として使う方法もあるが、それは超わかりやすいと評判のドキュメントを参考にしていただきたい（omimi）。

図10.18　HOLI95

ApptBook:SEASON95　January 1995　94-11-13 6:32 pm

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
☆元日 1	☆振替休日 2	3	○御用始め 4	5	□小寒 6	○七草 7
8	9	10	11	12	13	14
☆成人の日 ○鏡開き 15	☆振替休日 16	○土用 17	18	19	□大寒 20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	○旧元日 31	1	2	■節分 3	□立春 4

Help | Add | Find | Goto | 6 Month | Week | Appt | ToDo

●私を駅まで連れてって

パソコン上のビジネスツールでヒットしているのが、ヴァル研の「駅すぱあと」。これは、2駅間の経由路線を料金や時間ごとに、最適な経路を探し出してくれるという、とっても便利なツールです。

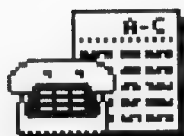
——だとしたら。

史上最強のビジネスツールであるHP200LXでこの駅すぱあとが動いたら、どんなにすごいことかと思うのです。駅の券売機前で経路を検討している人を尻目に、200LXでひょいひょいと最短経路を検索……うん、カッコいいなぁ。

ですから、早く200LX対応駅すぱあとを出してくださいね、ヴァル研さん。

Part 11

by IIYAN

HP100LX/HP200LX
トラブルシューティング

200LXを使うために最初に注意すること

Q：200LXは普通の互換機とどこが違うのですか?

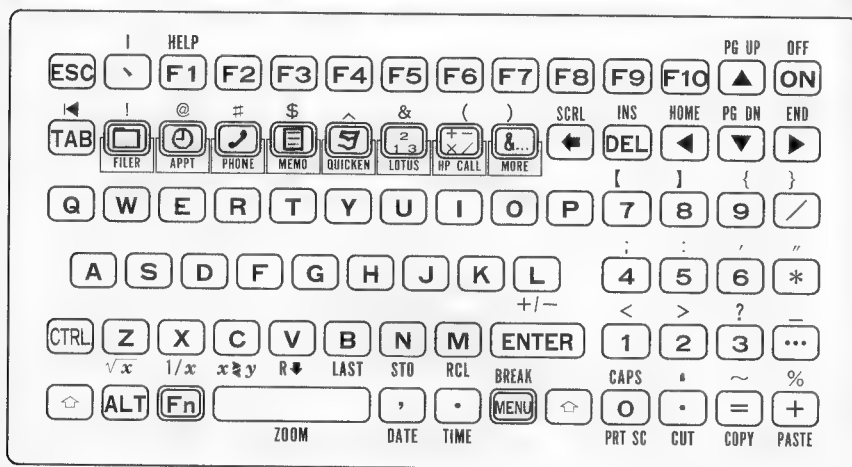
A：200LX は、優秀な **PIM**を搭載した IBM互換機ですが、以下のことを覚えてください。

電源スイッチは、キーボードの右端の上の[ON]というキーです。これを押すことによって電源が入り、再度押すと電源が切れます。

キーボードを見ると[SHIFT]キーが見あたりませんが、これは[↑]キーがそれです。シフトキーは、普通のパソコンとちょっと違うところがありますので注意が必要です。それは、シフトキーを一度押すと手を離しても200LX は記憶してることです。とても便利です。

あと注意する点は、：　などの記号の入力でしょうか。これは、先ほど覚えたシフトキーとの組み合わせで解決できます。まず、[↑]を押して数字の[5]を押してください。この応用で、%などの記号が入力できるようになりす。

以下、最低限覚えて欲しい基本事項を書き上げますので覚えてください。

図11.1　HP200LXキーボード

1. ON＋＝によってSHIFT、ALT、CTRLの表示位置を変えます。
2. ON＋／によって画面のリバース(白黒反転)ができます。
3. ON＋＊によってDOSアプリで、影文字のon、OFFができます。
4. ON＋＋、－によって画面のコントラストの調節ができます。
5. DOS アプリではF11を「Fn＋1」で代用します。
6. 「¥」記号を「／」と間違える方がいますが、「＼」が正解です。

＊　＊　＊

：リセットスイッチはどこですか?

A：リセットする方法は、CTRL＋ALT＋DEL(ソフトリセット)と、CTRL＋SHIFT＋ON（ハードリセット）の2つあります。

ソフトリセットですが、リセットをかけた直後にALTを押すと、起動ドライブを聞いてきますので、好きなドライブから起動できます。

ハードリセットは、リセットをかけると200LX が、

RAMDISKを初期化しますか?(Y/N)

と聞いてきます。この時必ずNを押して、初期化しないよう注意が必要です。

しかし、Nを入力しても時々200LX が勝手に初期化してしまう場合もありますから、注意が必要です。まめにバックアップすることをお勧めします。

最後に、初心者の方でリセットをする場合、電池を抜いて初期状態に戻す方がいますが、これは危険ですのでやめましょうね。

＊　＊　＊

：普通のキーボードは使用できないのですか?

A：実は、**汎用RS-232C**を使うことによって使用できるキーボードがあります。米国の**Key Tronic**という会社から発売されています。残念ながら持ち運びには不向きな大きさですが、自宅で使うことを考えると購入する価値は十分ありそうです。

これで、フラッシュカードの40MBを使えばメインマシンになってしまいますね。

PIMに関する使いこなし

Q：どうすれば内蔵ソフトが動かせるの?

A：はじめに表示されているのはメニューではなくただの絵です。
上から2段目に青いキーがありますよね。それを押すだけで、内蔵アプリが起動します。また、&...を押すとアプリケーション選択画面になりますので、好きなソフトを起動させてください。

図11.2 トップカード

*　　　　　*　　　　　*

Q：ソフトを終了させるには?

A：200LXは疑似マルチタスクなので、通常は終了させる必要はないのですが、MENU→Quitで終了させることができます。

一度にたくさんのソフトを起動すると、何が動いているのかわからない場合があります。こんな時便利な方法は、&...を押してメニューを表示させ、F8 Listを押すのです。これで一目瞭然。動いているソフトがわかります。

ここで不要なソフトを終了したい場合は、F8 Closeを押すと終了してくれます。

：DOS プロンプトに下りるには?

A：内蔵ファイラーが優秀なので、DOS プロンプトは見なくても済みます。空きディスク容量もファイラーに表示されてますしね。どうしてもDIRを打ち込みたい方は次の方法があります。

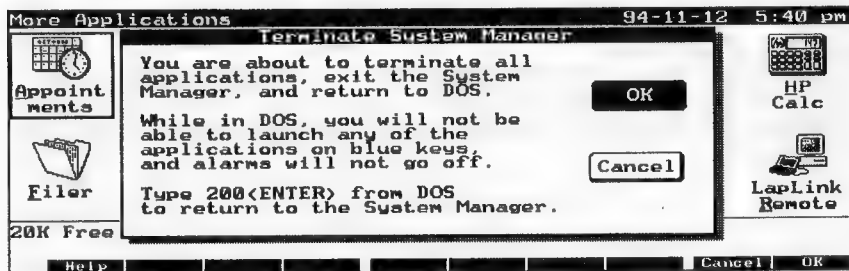
1. Filerから MENU →Option→Dosと入力してください。
2. アプリケーションマネージャからDOS を選でください。
3. CTRL +123 を押してください。これは、どの画面からでもOKです。
   元に戻るには、プロンプトで「EXIT」と入力して ENTER です。

   C>EXIT

4. アプリケーションマネージャを終了して DOSに降ります。
   方法は、 &... → MENU →Application→Terminate Allで、再び立ち上げるには、プロンプトで「200」と入力して ENTER キーを押します。

   C>200

図11.3 PIM終了画面

* * *

：メインマシンからのデータ転送の方法を教えてください。

A：一番簡単なのは、赤外線送受信端子を使ったファイルの転送でしょうが、まだ一般的にはあまり存在していません。

次に考えられるのは、**フラッシュカード**を使った方法でしょう。IBM 互換機ノートか98ノートを所有している方なら、ぜひこれでデータ交換しましょう。ただ、機種によっては、**ドライバ**を組み込む必要がありますので注意してください。

その他多くの方が可能な方法を、次に紹介することにしましょう。

1. **IBM互換機**をお持ちの方は、オプション製品の**コネクティビティパック**をお勧めします。16,000円ほどかかりますが、とても便利です。
2. **上記以外**は、ホストマシンにインストールされている**WTERM**などの通信ソフトを使用し、200LXで内蔵の**Data Comm**を使う方法があります。この方法には、接続用の**クロスケーブル**と**アダプタ**が必要です。ホストマシンによって次の製品を用意してください。

NECやIBM互換機……**接続用クロスケーブルF1015A**と**接続用アダプタF1023A**（アダプタはNECのみ必要）

Macintosh……**接続用クロスケーブルF1016A**

まず、普段使用している機種を**ホスト**として説明します。なお、通信速度は**9,600bps**で行なうものとして説明します。また、**ZMODEM**または**XMODEM**をサポートしているソフトが必要です。

①ホスト側の準備

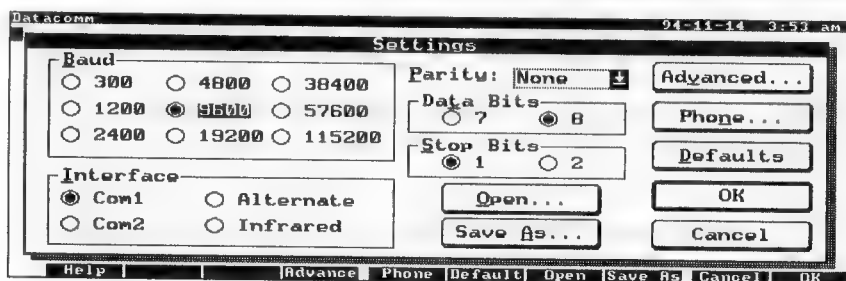
互換機、NECの場合……**WTERM**というソフトをNIFTYからダウンロードします。通信を行なっていない方は、書籍として販売されていますのでどなたでも入手可能です。この機会にパソコン通信を初めてください。まず、ホストの通信ソフトをリバースモードで起動します。**WTERM**であれば「**WTERM -R9600**」で起動します。

Macintoshの場合……**Macintosh**での通信速度は**57,600bps**でも大丈夫ですが、ここでは**9,600bps**で説明します。**Terminal2.1-J4e**という通信ソフトをNIFTY Serveの**FMACPRO**(**LIB 2#307**)からダウンロ

ードしてきます。ソフトを起動し、メニューのOptionsを開きCommunicationを開きます。Portモデムポート、Band 9600、Parity None、Data Bits 8、StopBits 1、Handshake CTS&DTRに設定し、ここでOKを選びます。そして、メニューのOptionsを開き Binary File transferを選び、MacBinary使用しない（チェックを消します）と設定します。

②200LX での準備

200LX側は、[&...]→Data CommでData Commを起動します。そして、[MENU]→[F]→[P]→[Z]→[F10]（OK）と[MENU]→[C]→[S]→Band 9600、Interface Com1、Parity None、Data Bits 8、Stop Bits 1→[F4]→[E]ANSI→Flow RTS-CTS→[F6]収納する所を指定→[F10]（OK）を3回押すと各項目を設定完了です。

図11.4 DataCommの設定

③データの転送（ホストから200LX）

200LX側は、[MENU]→[F]→[P]ZMODEM→[F10]と押し、これでプロトコルをZMODEMに指定しました。そして、[MENU]→[F]→[R]で待機します。

ここで、互換機等側は、WTERMのSUPER版を使用するとファイル入力待ち状態になるので、ファイル名を入力してください。

Macintosh側は、メニューバーを選びFile Transferのウインドウを開きファイルを選択します。

うまくいけば、両方ともグラフが表示され、終わるとグラフが消えます。
グラフが表示されない場合は、設定を確認してください。

④**データの転送(200LXからホスト)**
200LX側は、MENU→F→Sファイル名の入力をして待機します。
ホスト側は、自動的に始まります。
なぜか、この時マックはうまくデータを受信できませんので、**XMODEM**に設定を修正して行なってください。これも、200LX のソフトを違うものにすると**ZMODEM**でデータの転送がうまくいくそうです。

⑤**Macintoshでの注意点**
マックでのデータの転送で気をつけなければいけない点は、**テキストファイルの改行コードの違い**です。意外に改行コードの違いについては、知らないユーザーがいるようです。マニュアルを読んで改行コードを修正してください。
アプリケーションの場合は、圧縮した状態で200LX に送ることです。解凍した状態で転送しないでください。これらを正しく行なわないと後で悩むことになります。

*　　　*　　　*

Q：CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BATの起動ドライブについて教えてください。

A：**CONFIG.SYS**と**AUTOEXEC.BAT**ファイルは、購入した時は**D**ドライブにだけありますので、まず**A**や**C**ドライブにコピーしてください。
フラッシュディスク等を購入された方は、当然Aドライブに置くでしょうね。ただし、AドライブとCドライブに同じファイルがある場合は、当然Aが優先になります。
なお、ソフトリセットをかけた直後にALTを押すと、起動ドライブを聞いてきますので、好きなドライブから起動できます。

図11.5 ドライブ選択

```
     *** Select Default Drive Option ***

Unless changed at this screen, the default drive will be the
the first of drives A, C, and D found to contain a config.sys
file in the root directory.  The options below allow control
controls this reboot only.

   1. Make A default drive; process startup files.
   2. Make C default drive; process startup files.
   3. Make D default drive; process startup files.

   4. Make A default drive; do not process startup files.
   5. Make C default drive; do not process startup files.
   6. Make D default drive; do not process startup files.

   7. Use normal default drive determination.

   Enter selection [7]:
```

*　　　　*　　　　*

Q：間違えてファイルを消してしまいました。どうしましょう?

A：MS-DOSの機能にファイルの復活コマンドがありますが、200LXではFilerで MENU → F → U とすると復活できます。

削除した直後ならかなりの確率で復活できますが、消してから時間が経っていると復活できない可能性が高いので注意が必要です。

*　　　　*　　　　*

Q：Filerで、ひとつ上のディレクトリに移るのが面倒くさいのですが、何かいい方法はありませんか

A：ESC を押せば、カンタンにひとつ上のディレクトリに戻れます。ファイルやディレクトリ、ドライブも**頭文字**を押すだけで移動できますので、使用してみてください。

*　　　　*　　　　*

Q：一番はじめに、好きな絵を表示させたいのですができますか?

A：まず、表示できるファイルは拡張子が＊.**PCX**ファイルだけです。この**PCX**ファイルは、**SetUp**のアプリから MENU →**Option**→**Owner**→ ALT ＋ P で、ファイルを選択するボックスが出てきますので、ここで好きな絵を選択してください。

なお、この時に**C:¥_DAT¥TOPCARD.PCX**（または**D:¥_SYS¥TOPCARD.PCX**）の名前にすると、どんな**PCX**ファイルにも**時間**と**オーナー名**が入ります。

ところで、あなただけのトップカードを作って見ませんか? **PCX形式**のファイルを扱える**ペイントソフト**なら、好きなトップカードが作れます。この画像ファイルは**PCXフォーマット**といわれるもので、WindowsやDOSやMacで編集可能です。WINDOWSなら付属のペイントブラシで図形を作成し、PCXファイル(Picture File)形式で保存します。私はここで、自分の名前等を入れて楽しんでいます。

図11.6　セットアップのオーナー設定画面

Setup　94-11-14　3:56 am
Owner
Name: Kazumi Takei
Title:
Company:
☑ Show Picture
Picture...
OK
Cancel
Help　Picture　Cancel　OK

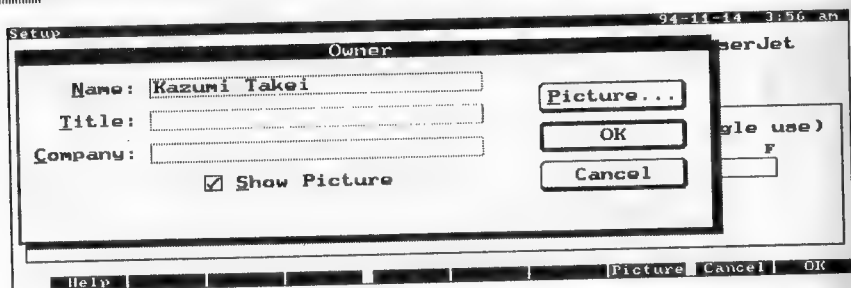
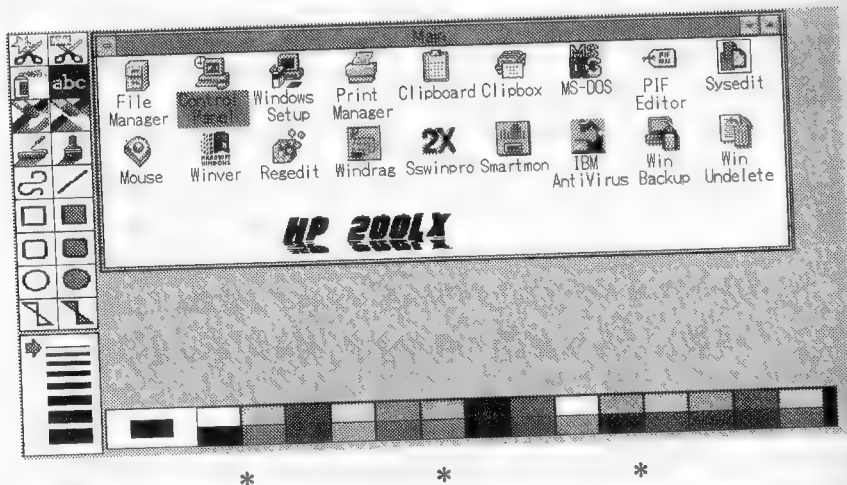



図11.7　WindowsでPCX形式の絵を作成

＊　　＊　　＊

Q：**EXMプログラムの登録個数はいくつですか。**

A：**EXM**プログラムの登録個数は、まず、**Applications Manager**に登録できる個数が、**EXM**以外のプログラムも含め固定の16個に追加22個の

計**38個**です。次に、実行できる個数は**9個**、AドライブとCドライブ併せて9個登録できます。

* * *

Q : System Macrosとはなんでしょう。

A : **System Macros**は、キー入力による一連の操作を記録しておき、1キーで使えるようにするものです。

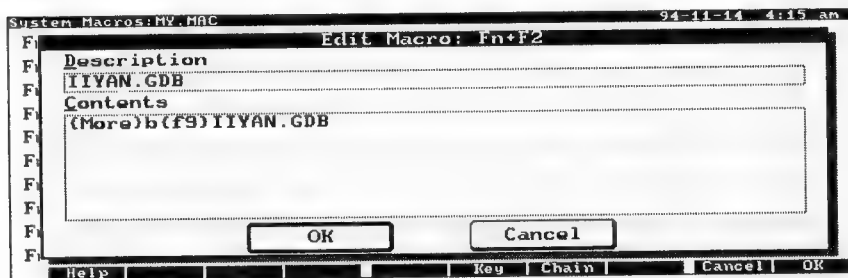
普段200LXをいじっていると、一定の繰り返しをしていることに気づきます。そんな時便利な機能です。

DateBaseで特定のファイルをオープンしたい場合の例で説明しましょう。

1. [&...]→[M]→[F1]～[F10]のいずれかにカーソルを合わせます。
2. **Description**に名前を登録します。ここでは仮に**IIYAN.GDB**とします。
3. **Contents:**のところに一連の操作を次のように書きます。

    {More} b {f9} IIYAN.GDB {Enter}

    入力後[F10]を押し登録を終了します。
4. 全然関係ない画面から[Fn]＋[F1]～[F10]のいずれかで一発起動します。

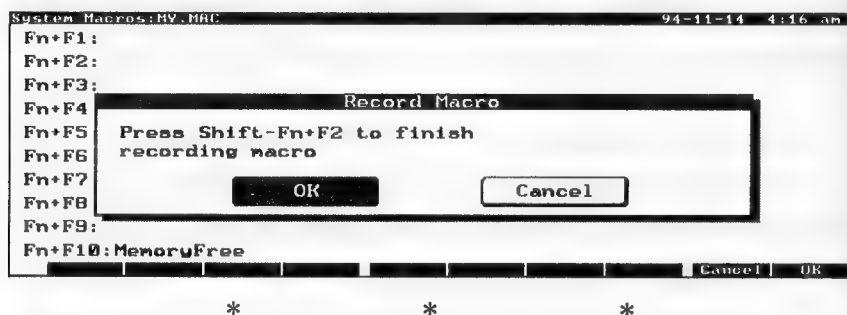
図11.8 システムマクロの作成

これでも難しいと思うあなたに、もっと簡単な方法を教えましょう。200LXで自動登録です。

1. [&...]→[M]→[F1]～[F10]のいずれかにカーソルを合わせます。

2. F8 → F10 これで一連の操作を200LXに覚えさせる準備はOKです。
3. &... → B → F9 →**IIYAN.GDB**を入力→ シフト + Fn + F1 ～ F10
4. この場合**Description**には、**Contents**の内容が自動的に記入されますので、修正してください。

これで、前段入力したことと同じ内容が実行されます。便利なこの機能をぜひ活用してください。

図11.9　システムマクロの記録

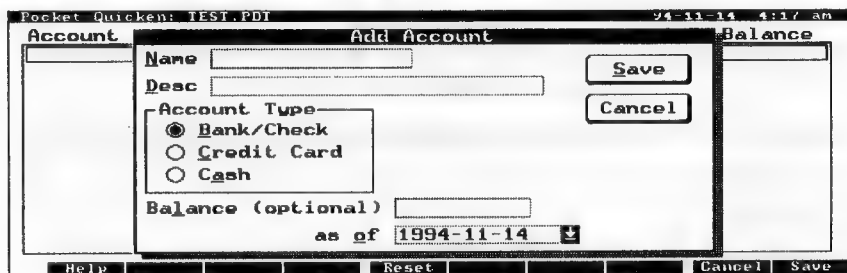
*　　　*　　　*

Q：**Pocket Quickenとは何ですか?**

A：アメリカでの**家計簿ソフト**です。日本人の我々には関係ないような感じがしますが、収支決算のできるお小遣い帳として活躍してくれるソフトです。

1. 当座預金、普通預金、クレジット・カード、キャッシュカードの金銭取引の入力と編集をする。
2. 金銭取引による残高や記録の確認をする。
3. デスクトップ版とデータを共有することができる。

意外に便利なこのソフト是非活用して見てください。

図11.10 ポケットクイッケン

*　　　　　　*　　　　　　*

Q：他人に見られたくないのですが、何か方法はありませんか?

A：パスワードを設定できます。設定方法は2通りあります。各ソフトごとに設定する方法と、電源をオフにするたびにロックがかかる方法です。

・各ソフトごとに設定する方法

1. MENU→F→Wパスワードを入力する。
2. 再度パスワードの入力を求めてきますので、もう一度入力します。

・電源をオフにする都度ロックする方法

1. DOSプロンプトに降ります。
2. **password** ENTER と入力します。
3. **Enter new password:** と表示されますので好きな文字列を入力します。
4. **Verify new password:** と確認を求めてきますので、再度入力します。
5. **Password changed** と表示されたら登録はできました。
6. **password/A** ENTER と入力すると、**Password AUTO-lock enabled** と表示され完了。
7. 解除するには、**password/D** ENTER と入力します。
8. **Enter old password:** と表示されますので現在のパスワードを入力します。
9. **Password deleted** と表示され解除されます。

注意点は、200LX が**大文字と小文字を区別**することです。

パスワードを忘れたら、電池抜きリセットしか方法はありません。電池抜きリセットを行なうと、データも消える場合がありますので気をつけましょう。

図11.11 パスワードの設定

```
A:¥>password
Enter new password:
Verify new password:
Password changed.

A:¥>■
```

* * *

Q：アポイントやPhone Bookなどで新しいデータを入力するには?

A：F2 に**ADD**というメニューが登録されています。これを選択すると、新しいカードが表示されますので、入力してください。

* * *

Q：アポイントやPhone Bookのデータを修正するには?

A：修正したいデータにカーソルを合わせて ENTER を押してください。該当データが表示されて、データの修正ができます。

項目の移動は TAB で、逆移動は、↑＋TAB（Shift＋TAB）です。修正が終わったら、F10 を押して保存します。

* * *

Q：Phone Bookの検索が面倒くさい。「あいうえお」順に並ばないの?

A：きっと、毎回 F4 の**Find**を実行しているのでしょう。実は検索はカンタンです。

例えば、「飯田」という人の電話番号を探したいとき、**Phone Book**の一覧の

画面から、FEPを使って「飯」を入力してください。「飯」のところへJUMPします。

あいうえお順ですが、これは空いている欄に以下のように振り仮名をつけ、並び替えしてください。日本語がコード割りつけされていないのです。半角カナでもだめです。半角カナのコード領域には、他の国でも独自の特殊な記号が割り当てられていて、やはりそれなりのソート順があるので、50音順にはなりません。

```
  A B C D E F G H I J K
1 あかさたなはまやらわん      たとえば「飯田」なら
2 いきしち                    A 2 A 2 D 1 （イイタ）とね(^^；
3 うくす            ———       かなり苦し紛れですけど
4 えけ                        一度おためしください。
5 おこ
```

*　　　　*　　　　*

：Phone Bookをどのように入力していますか?

A：名前は全部英語で入れたり、ローマ字読みを作ったり、頭に英語それに日本語を続けていたりと、サーチが楽になる方法を考えて使ってるみたいです。

*　　　　*　　　　*

Q：Phone BookやDataBaseに F6 Subsetとありますが、何でしょう?

A：登録した情報を項目ごとに問い合わせする機能です。一番利用頻度が高いのは、**Category**の欄を使った方法だと思いますが、設定は、次のようになります。

1. F6 → F2 で入力画面を表示して TAB キーを使い、**Category**の欄まで移動します。
2. **Category**の欄では、すでに登録された情報を入力します。
   私は、この欄に「友人」「仕事」「通信」などと入力していますので、まず

友人と入力します。

3. F10 を押し名前を設定します。この場合私は、同じ「**友人**」と入力し F10 を押します。
4. 登録された一覧表が作成されますので、ここで F10 を入力してください。問い合わせてきていますね。
5. 全員を表示したい場合は、 F6 を押し、画面上一番上の**All Phone Book Iteme**を選んでください。

この**Subset**を使ってドンドン使い込んでください。

図11.12 Subset画面

Define Subset
Name
Phone: Business　Home
Alternate　Fax
Title　Category
Company
Address1
Address2
City　State　Zip
Note
Business
Personal
喫茶
[illegible]信
友人
Help [General] Cancel OK

*　　*　　*

Q : PhoneBookが使いにくいのですが、何とかなりませんか?

A : マニュアルに**DataBase**を使って**PhoneBook**のフォーマットをカスタマイズできると書いてあります。以下に紹介しますのでお好きな方法を試してください。

①**DataBase**で**PhoneBook**用のリストを作成してリネームする。あるいは、
②**Phone.pdb**を**phone.gdb**にリネームして**DataBase**で編集した後にもう一度、**phone.pdb**にリネームしなおして使う。

また、**DataBase**でファイルをOpenすると、デフォルトでは「***.gdb**」になっていますが、これを「***.pdb**」に変えてやると、**Database**で**Phonebook**のファイルを直接オープンできます。

この時の注意点は、**PhoneBook**でファイルをオープンしている時に、同じファイルを同時に開くことができないことです。ご注意ください。

*　　　　*　　　　*

：DataBaseでのフォーマット方法を教えてください。

：フォーマットの方法は、いま現在使用しているものを修正するものと、新しく作りなおすものと2種類あります。

・現在使用中のものを修正する場合

MENU → **F** → **F**

ここで自由に現在の設定を変えることができます。私は、当初英語のままで使用していましたが日本語にすべて変更しました。ここで設定を変更する場合、設定ミスしてもいいようにバックアップだけは必ずとっておいてください。

ここで、ファンクションキーの説明をします。

① **F2** は、項目の追加を行ないます。
② **F3** は、**Size**が表示されていると入力画面の大きさが設定できます。
③ **F3** を一度押し**Move**が表示されていると、自由に配置が変更できます。
④ **F4** は、名前の変更を行ないます。
⑤ **F6** は、項目の削除を行ないます。

図11.13 データベース設定画面

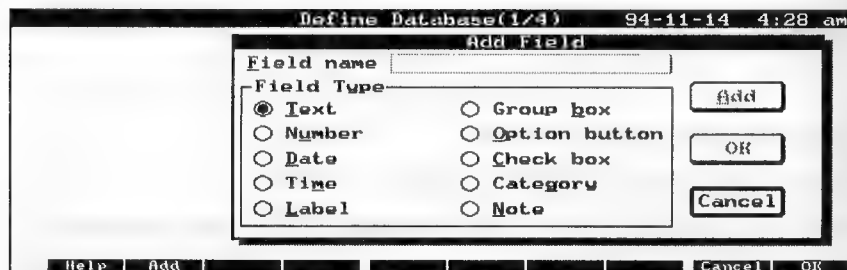
```
Database:RESTR        Modify Database(1/4)     94-11-14  4:27 am
Restaurant
Phone                         Category
Address
Meals                         Food Quality         Cost
☒ Breakfast  ☒ Lunch          ◉ Excellent          ◉ Expensive
☒ Dinner     ☒ Brunch         ◉ Good               ◉ Moderate
☒ All Night                   ◉ Fair               ◉ Inexpensive
☒ Serves Liquor               ☒ Good for Kids      ☒ Vegetarian Menu
Note
Help | Add | Size | Edit |  | Delete |  |  | Cancel | Done
```

・新しいDataBaseを作りなおす場合

MENU → F → D

新しいファイル名を入力して好きな形を作ってください。まず、失敗しながら作ってみる、それが成功への近道です。

図11.14　データベース作成

*　　*　　*

Q：テキストファイルをDatabaseやNote Takerに作り変えたいのですが。

A：DOSマシンでしか作れないので、Macintoshをお使いの方は、200LXで頑張ってください。

1. **FYHPPC**のデータライブラリに木村睦和さんの「**L1DBC060**」という便利なソフトがありますのでそちらをお使いください。
2. 200LX上で**TEST.NDB**を作ります。
   Databaseや**NoteTaker**を開いて MENU →**File**→**New**で新ファイルを作成します。
3. **TEST.NDB**などを作業するマシン（98でもDOS/VでもOKです）に転送します。
4. 98もしくはDOS/V上で、**TEST.TXT**を**TEST_NT.TXT**にしてコピーします。
5. **TEST_NT.TXT**をエディタで編集します。
   まず、必要ない項目を削除しましょう。それから、コンバートするためのテキストに仕上げます。以下にフォーマットを示します（実際には、行番号は必要ありません）。

1： Title
2： Category
3： NOTE
4：　　：
5：　　：
6：　　：
7：¥　(← NOTE フィールドの終わりを示す記号)

※注意※　TITLEは、半角49字以内です。Categoryは、特に設定しなくても結構です。NOTEは何行でもよいのですが、1行50字前後に編集したほうが、見やすくなります。

6. **TEST_NT.TXT**を**TEST_NT.NDB**に変換します。
L1DBIN.EXEを実行します。あとはソフトの指示に従ってください。新しい**TEST_NT.NDB**ができ上がります。それを200LXに転送すればOKです。

＊　　＊　　＊

Q：LapLink Remoteとはなんですか?

A：簡単な操作で、高速にファイルを転送するソフトです。必ずホストマシンにも**LapLink**が必要ですが、なかなか評判のよいソフトです。

＊　　＊　　＊

Q：DataCommでNIFTYにアクセスするにはどうするの?　デフォルトの設定は?

A：まず、M→C→S→**Advanced**→**Emulation**を**ANSI**に設定し、**Flow**を**RTS-CTS**にしてください。そして、F10で**Settings**の画面に戻ったら、F8を押して**NIFTY.DCF**というファイル名でいまの設定を保存しておいたらよいでしょう。最後にF10を押すと設定が有効になります。

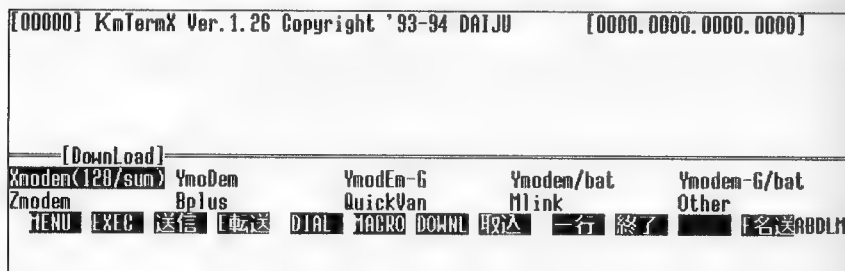
もし、**MNP5**で接続してくれない時は、モデムのマニュアルを読んで手動で**AT**コマンドを送り再設定してください。

それでもダメな場合は、コネクタの向きが間違っている場合があります。冗談のような話ですが、実話です。逆さにコードを差した経験があります。

通信するには、DOS/V 用のソフトを使う方法もあります。内蔵されているソ

フトを使うより機能が充実していて、オートパイロットですべて自動に設定できます。私がお勧めしたいのは**KTX**というソフトで、軽くて早いのでお勧めです。

図11.15 KTX

*　　　*　　　*

Q：ISDN公衆電話で通信するには?

A：まず200LXとモデムを接続し、**DataCom**を起動してモデムに**AT**コマンドが送れるように準備します。

次に、電話機の下のほうにあるスライドカバーを開けて、ジャックを露出させます。「**デジタル**」と「**アナログ**」の二つのジャックがありますが、必ず「**アナログ**」のほうにモジュラージャックを差しこみ、モデムと繋ぎます。オンフックボタンを押してカードを入れ(このとき受話機をはずす必要はありません)、ダイヤルをプッシュし、スタートボタンを押します。

もし話中音が聞こえても、カードを入れなおす必要はありません。リセットボタンを押せば、ダイヤルからやりなおすことができます。ピーゴロゴロという特有の音が聞こえたら、すかさずジャックの横の切り替えボタンを押します。これで音はジャックに切り替えられます。

手動ログインの場合は、ここで**ATD**とタイプします。あとは家からアクセスする場合と変わりはありません。

最新型の灰色のISDN公衆電話の場合は、200LX からダイヤルできるとの情報があります。使い方は公衆電話の右上のヘルプボタンを押すと表示されるそうです。

Q：**ロータス1-2-3とは、何ができるのですか?**

A：日本でも、外国でも有名な表計算ソフトです。書店に行けば必ず解説本がありますので、そちらをご覧ください。

*　　　　*　　　　*

Q：**100の1-2-3でWJ2ファイルが読みたいのだけど、できますか?**

A：直接は無理です。US版の1-2-3は日本語版のことなんか知りません。しかし、日本語版の1-2-3は（2.3J以降）**WK1**ファイルを作れます。方法は日本語版上の1-2-3のファイルコンバータで、**WJ2→WK1**します。**LOTUS.COM**を起動し、ファイル変換を選んでください。次のように指定すればOKですよ。

変換元：1-2-3 R2.1J～R2.3J
変換先：1-2-3 Release 1A

もっと簡単にするなら、ファイル名を拡張子**WK1**と入力して保存すると、自動的に英語版のワークシートに変換して保存してくれます。

この場合の注意点は、**WK1**のファイルを日本語版で見ることができるのは、R2.3J以降だということです。Windows版は、日本語が化けてしまいます。このほか、意外なことに**アシストカルク**で読み込めるという情報があります。

*　　　　*　　　　*

Q：**200LXの1-2-3 と日本語版の相違点は?**

A：日本語版R2.4J のマニュアルには英語版との相違点が書かれていますが、ロータスのサポートに確認したところ英語版とほとんど変わらないので、それを参考にして欲しいと連絡がありました。

*　　　　*　　　　*

Q：**HP Calcとは?**

A ：この**HP Calc**は、本当はすごい機能を持った金融電卓です。電子手帳や小型パソコンとして200LX を購入した人は必要ないかもしれませんが、使ってみることをお勧めします。

単純計算は当然ですが、科学技術計算、通貨計算、金利計算など機能満載です。ただ、私のような人間には、普通の計算機としての使い道しかないので残念です。

図11.16　HPカルク

```
Calculator              Business Percentages            94-11-14   4:31 am

Old value.............................. OLD     =   0.00000
New value.............................. NEW     =   0.00000
Percent change......................... %CHG    =   0.00000

Total amount........................... TOTAL   =   0.00000
Part of total.......................... PART    =   0.00000
Percent of total....................... %TOTAL  =   0.00000

                                                    0.00000
  Help |      | OLD | NEW | %CHG |      | TOTAL | PART | %TOTAL | More
```

＊　　　＊　　　＊

Q ：CC:Mailとは?

A ：LOTUS社の**LAN**用電子メールソフトですが、ホストマシンで**CC:Mail**が必要になります。

日本ではあまり普及していませんが、これからが楽しみなソフトです。

＊　　　＊　　　＊

Q ：Memoとは?

A ：**アウトライナ付メモ・エディタ**です。このソフト使ってみると意外に賢いのです。

直前に編集したモノは覚えていますし、ファイルのオープンやセーブがファンクションキーについています。私は、**CONFIG.SYS**などの書き換えに使用していますが、ホントに便利です。

図11.17 MEMO

*　　　*　　　*

Q：世界時計とストップウォッチの使い道は?

A：滅多に使うことのないこの二つは、おまけだと考えましょう。ストップウォッチは、海外旅行に行くその日まで時間を計る。そして世界時計は、海外に行ったことを夢見るために使いましょう。こんな使い方、私だけです。

*　　　*　　　*

Q：ApptBookのデータが大きくなりすぎて困ります。どうしましょう。

A：**ApptBook**を半年ぐらい使っていくと、かなりファイルが大きくなってきます。それにともなって、**ApptBook**の起動も時間がかかるようになっていきます。これを解決するいちばん簡単な方法は、**ApptBook**を常に起動しておくことですが、そうすると**ApptBook**の日付や時間が自動的に進まなくなる問題が発生します。

そこで、半年を目安に**ApptBook**を2つに分けて、古いものを保存します

(例) **1995年1月1日より前のデータを切離して保存する。**

ApptBookを起動して[MENU]→[F]→[R]→[TAB] **1995-01-01**を入力する。次に、[TAB]→[SPACE]→[TAB]→[DEL] **1994.ADB**を入力して[ENTER]でOK。

少し時間がかかりますが、ハングアップしたわけではありません。**C:¥_DAT**に**1994.DAT**が作成されます。

保存したデータを見たいときは、MENU→F→O→TABで見たいファイルにカーソルを合わせます。

すべてのPIMに関係することですが、動きが遅くなったときはデータが大きすぎるときです。十分注意してデータを管理しましょう。

＊　　＊　　＊

Q：2つのファイルを結合させることができますか?

A：MENU→F→Mで結合したいファイルを選択します。このときの注意点ですが、大きなファイルを結合すると全体的に動きが遅くなりますので、無闇にファイルの結合をせずに必要最小限で行ないましょう。

＊　　＊　　＊

Q：スケジュールのコピーできますか?

A：1日単位のスケジュールを表示する画面にして、コピーしたいタイトルにカーソルを合わせて**CUT**または**COPY**で取り込みます。同じことが、**Week**画面でもできます。

Week画面では、目的のアポイント部分を反転させてから行ないます。この方法では、違う時間にPASTEすれば、予定時間を変えることができます。また、**Week**画面でCOPYしたものを、**Month**画面でPASTEすることもできます。この場合は時間は同じになりますので注意してください。

どの方法でも、Fn＋**CUT(COPY、PASTE)**が使えますし、**Month**画面や**Week**

図11.18　スケジュールの繰り返し

ApptBook:1994　Appointment/Event　94-11-12　5:32 pm
Monthly Repeat Options
○ No Repeat　○ Daily　○ Weekly　◉ Monthly　○ Yearly　○ Custom
Frequency
Repeat every 1 month(s)
Duration
Starting: 1994-11-12
Ending: 1999-11-12
OK
Cancel
Monthly Repeat Type
◉ By Day Number　12
○ By Day Position　2nd　Saturday
Help　Cancel　OK

画面に切り替えながらできます。

同じ内容の仕事が続く場合は、最初の予定を入力する段階で、**Consecutive Days**で繰り返す日数を入力します。

*　　　　　*　　　　　*

Q：ApptBookの設定でBeepの音をCustomにする項目がありますが、どうやって設定したらいいのでしょうか?

A：初期設定での**Alarm**を**Enabled**して鳴る音は、「ピピ」という味気ない物です。ところが、**ApptBook**上で［**MENU**］→［**O**］→［**B**］と入力すれば、**Volume**と**Sound**を切り替られます。

そこで、**Sound**を**Custom**にして、**C:¥_dat¥alarm.snd**に設定します。すると、200LX が曲を演奏します。必ずサウンドデータが必要です。NIFTY-Serveの**FYHPPC**にありますのでダウンロードしてください。

*　　　　　*　　　　　*

Q：MEMOで_DATを見てしまってファイルを壊してしまった……。

A：対処の方法ですが、次のようにします。

1. **_dat**上のデータファイルを別のディレクトリにコピーする。
2. **_dat**を削除する。
3. ソフトリセットをする。
4. 初期画面になるので、購入時と同様に入力する。
5. システムを起動したら、別に保存してあったデータファイルを**_dat**にコピー。

これで大丈夫です。しかし、これで**ApptBook**などのファイルが開けなければ、データファイルが壊れています。

そんな場合、次の方法で対処します。

1. ［**Ctrl**］+［**Alt**］+［**Del**］でリセットする。
2. 画面に「**Press Alt for Boot Options...**」と表示されているうちに［**Alt**］キーを押す。

3. 画面に「**Enter selection:**」と表示されたら、**6**を選択すると日付や時間を聞いてきますが、気にせずに**ENTER**を押してください。すると、**D**と表示されます。その後以下のように入力していってください。

```
C:
CD C:¥
MD BAK
D:¥DOS¥ATTRIB -R C:¥_DAT¥*.*
COPY _DAT BAK
DEL _DAT
```

ここで、次のメッセージが表示されますが、**Y**を入力してください。

```
All files in directory will be deleted!
Are you sure (Y/N)?
DEL _BAK¥*.ENV
DEL _BAK¥APPMGR.DAT
```

この後リセットしてください。すると、購入時と同じ画面になるはずなので、同じように入力してください。

シスマネが起動したら、**C:¥BAK**のファイルを**C:¥_DAT**にコピーしてください。これでだめならば、データファイルが壊れています。

以下のファイルが、デフォルトのデータファイルです。

APPT.ADB	アポイントメントのデータ
NOTES.NDB	ノートテイカーのデータ
PHONE.PDB	フォンブックのデータ
RESTR.GDB	データベースのデータ

＊　　　＊　　　＊

：Filer の解放でメモリを節約できると聞いたのですが。

A：そのようです。ちなみに**Filer**のメモリを解放するには、**D:¥DOS**に入っている**DEBUG.EXE**というプログラムを利用します。
次のように入力していきます。

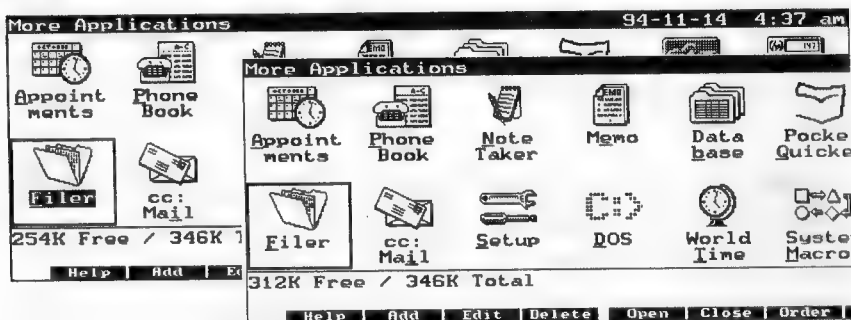
C:¥_DAT>copy appmgr.dat *.org	現在の状況を保存します。
C:¥_DAT>debug appmgr.dat	debugで編集します。
-s 100,2246 11 0 0 0 '&Filer'	Filerの登録されている位置を検索します。
xxxx:yyyy	見つかった位置が表示されます。
-e yyyy 01	yyyyは上で表示された値です。
-w	書き込みます。
-q	終了
C:¥_DAT>	

このように**appmgr.dat**を書き換えます。後は、シスマネを起動して青キーの**Filer**で**Filer**を起動し、この状態で**&...**でメニューを起動します。**Filer**のアイコンにカーソルを合わせます。**F6**で**Close**。これで**Filer**のメモリを解放できます。

なお、この後リセットをかければメモリの解放が有効となります。

実際にメモリが解放されたか確認するには、**F8**の**List**で確認してください。**Filer**が起動していないと、メモリの解放は行なわれないので注意が必要です。

この書き換えは一度するだけでかまいません。なお、この次に**Filer**を起動するには2回続けてキーを押さないと起動しません。

図11.19 メモリ比較

Q：電源を入れてもピッと鳴るだけで、画面に何も表示されません。何が原因なのでしょうか?

A：この症状は、電池がないときにあらわれます。電池を交換してみてください。**PIM**の**Setup**画面で電池の目盛が半分ぐらいあっても、ちょっとした間に急になくなることがよくあります。

＊　　　＊　　　＊

Q：200LXのファイルのバックアップは?

A：私は、**FILMTN＋LHMTN**などを使ってバックアップしていますが、**LHA**で説明します。

1. LapLinkなどのソフトでパソコンとリンク。サーバは200LX。
2. バックアップするファイル名を「**LXxxxx.LZH**」とし、CドライブがF:にアサインされているとすると、パソコン側で次のように指定します。

LHA A -R -X -A LXxxxx F:¥＊.＊

これでいけます。リストアするときは、

LHA X LXxxxx F:¥

でOK。ディレクトリ構造まで再現されます。

オールリセットなどで日付の情報まで失われてしまったときは、200LXの日付設定をバックアップファイルの日付より古くするのがポイントです。

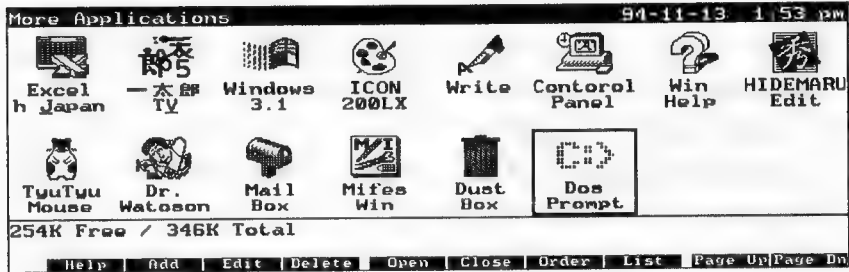
XCOPYでのバックアップに比べて遅いですが、1個のファイルになってしまうので管理が容易です。

＊　　　＊　　　＊

Q：ファイル管理ソフトFDなどのアイコンが欲しいのですが。

A：自分で作成する方法もあるのですが、**FYHPPC**のライブラリにたくさん登録されてます。登録された方に感謝して使いましょう。

図11.20 アイコンいろいろ

*　　　　　*　　　　　*

Q：200LX を静かな所で使っていると、"ジリジリ"というノイズが液晶の付近から聞こえてきます。けっこう、回りが静かだと気になります。

A：200LX というよりは、フラッシュディスクのほうからでています。これは、フラッシュディスクにアクセスする時にノイズがでているようです。

ただし、静かにしてないと聞こえませんよ。

*　　　　　*　　　　　*

Q：電池がすぐ消耗するのですが?

A：単3アルカリ電池2個で2カ月動作との報告を見たことがありますが、電池の品質によってかなり差があります。

私の経験では、20時間から30時間ぐらいでした。外からの通信でFAXモデムカード等を使用すると、電池の消耗が早まりますので注意してください。

*　　　　　*　　　　　*

Q：HP 200LX のACアダプタの代用品教えて?

A：**純正品**が発売されていますので、そちらを使用してください。入手が難しい方は、代用品として一番お勧めしやすいのが、**ファミコン用ACアダプタ**です。形が一致しておりお勧めです。ただし、個人の責任で使用し

てください。

なお、**User's Manual**には、ACアダプタの使用条件が書かれています。

プラグの極性　：真ん中がマイナス極、周囲がプラス極のタイプ。
最低使用可能電圧：　9.6V
定格出力電圧　：12.0V
最高使用可能電圧：14.4V
最大電流　：750 mA

これによると、プラグの極性や形が一致して、出力側の電圧が9.6〜14.4Vの範囲にあり、出力電流の定格が750mA以上なら100LX/200LXのACアダプタとして代用できるようです。

*　*　*

Q：Charging ON の状態にしていると、電源がOFF にできないのです。

A：ACアダプタを使用して、 **Charging ON**の設定にするとOFFにはできなくなります。**Charging OFF**にしていれば、電源OFFにできます。

あと、NiCdを使用していて**Battery Low**がでたら、充電をするようしてください。

このときスクリーンセーバーがあると楽しいので、**FYHPPC**に**NORI**氏作の**FLYICON.EXM**を使用してはどうでしょう。

*　*　*

Q：アダプタを接続したまま電池を外してみたら、メインバッテリーローのサインが出てしまい、調べましたが、一応電気は来てるみたいです。また、未充電のニッカド蓄電池を入れてチャージを選択して見ましたが、ちゃんと充電されるみたいです。ACアダプタだけでは、動かないのでしょうか?

A：200LX のACアダプタと電池の関係は、テープレコーダーなどのようにACアダプタをつなぐと電池の配線が切れるのとは違い、ACアダプタで使用中も電池の電圧は常に監視されています。**MAIN BATTERY LOW**のサインはあくまで電池の電圧を監視して表示しているので、ACアダプタで使用

中も電池が入っていなかったり電圧が低ければ、表示が出ます。

しかし、このときでも200LX 自体はACアダプタからの電気で動いています。

同様に、コンセントに差さっていないACアダプタをつないでおいても電池が入って入れば動作するのも、テープレコーダーとの違いのようです。

アダプタをコンセントに差し込んだままにしておくと200LXを接続してなくても電力は少しは消費します。これは、すべてのACアダプタに共通ですから、使わないときは抜いておきましょうね。

* * *

Q：200LX のヒンジ(折れ曲がる部分)が、使用していると固定されなくなるのですが、どうしたらいいでしょう。

A：私の経験では、1ヶ月でフニャニャになりましたが、これは構造上の問題でどうすることもできないようです。

しかし、一部マニアの間ではこれを克服するために、日夜研究されているようです。

* * *

Q：200LX のケースありますか?

A：私は、どこでも手に入る電子手帳用皮ケース(エレコム製：2,500円)を使用しています。

そのほか国産品では、プラスのミニ6穴システム手帳「ポケットラウンド」(型番：34-321･9800円)がお勧めです。これは、ファスナーを開けて中のさしこみ式の手帳本体をとっぱらえば、なんと200LX がピタリと収まります。内側にはペン差しとカードホルダがついていますので、カードホルダはフラッシュカードに使えそうです。

外国製では、**E&B Company**の**Futura 100** (Futura 100は3種類ある)という製品があるそうです。これは、HP200LX の四隅をマジックテープで固定するようになっていて、1cm四方程のマジックテープが4個ケースに添付されています。本体を入れるとあとあまり余裕はないようですが、予備の電池、筆記道具等を入れておくことができます。日本円で約¥8,500～¥9,000ぐらいです。

上記以外に、私が最近鞄屋で衝動買いした製品がありますので紹介します。それは、ジーンズメーカEDWINからでているベルトホルダタイプのものです。

価格は4,000円前後で色が茶色でオーダーメイドのような製品です。あなたも、町に出かけて200LXのケースを探して見ましょう。

*　　　　　　*　　　　　　*

Q：200LX でゲームがしたいのですが?

A：200LXには、２種類のゲームがありますが、200LXでまだまだゲームができます。

しかし、若干の基礎知識とある程度の覚悟が必要なので、失敗はすべて自分にあると考えてチャレンジしてください。必ずデータのバックアップを。

ゲームはCGA対応用のものであれば、ほとんど動くと思います。市販されていたソフトはTETRIS、Prince of Persiaなどがあり、市販されている以外にもフリーウェアのソフトでも結構あるので、ぜひ試して見てください。

*　　　　　　*　　　　　　*

Q：100Buddyとは何ですか?

A：100LXに常駐し、そのままでも使いやすいPIMをさらに使いやすく拡張するソフトです。**Filer**とアプリケーションを連携して、データファイルをダブルクリックすることで、アプリケーションが自動的に開く、優れもののソフトです。

使用した感想は、とにかくキーを入力する回数が減り、かゆいところに手が届くような印象を受けました。

しかし、残念ながら現在200LX用はありません。きっと対応してくれるハズ

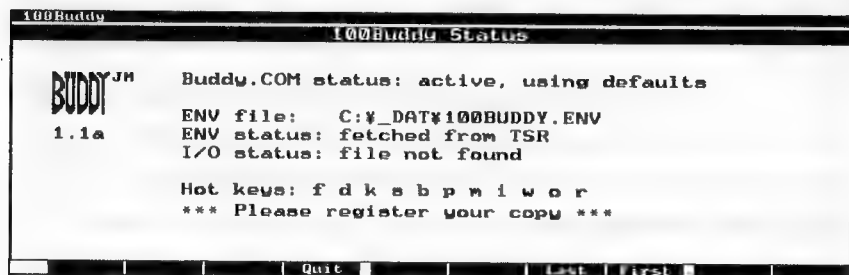
図11.21　100Buddy

```
100Buddy
                      100Buddy Status

 BUDDY JM    Buddy.COM status: active, using defaults

             ENV file:    C:¥_DAT¥100BUDDY.ENV
 1.1a        ENV status: fetched from TSR
             I/O status: file not found

             Hot keys: f d k s b p m i w o r
             *** Please register your copy ***

                   Quit                  Last  First
```

ですから、ライブラリのチェックを忘れないでください。なお、このソフトはシェアウェアですので、継続使用の場合は送金をお忘れなく。

*　　　*　　　*

Q：CompuServeとは何でしょうか。

A：パソコン通信ネットワーク会社で、**CompuServe Information Service**（CIS）を運営しています。CISはNIFTYと提携していますので、相互に行き来ができます。

CISには、**HPHAND**というフォーラムがあり、情報交換が盛んです。英語が得意な方は通信費用が余分にかかりますが、ぜひ参加してみてください。

*　　　*　　　*

Q：200LX 関連の雑誌ありませんか。

A：**Thaddeus Computing,Inc**社発行の**Palmtop Paper**があります。英語版ですが読む価値は十分あります。年間**$39＋$18**（送料）です。200LXを購入すると葉書がついてきますので、ご確認ください。

≪連絡先≫**P.O BOX 869 FAIRFIELD,IOWA 52556**
FAX 515-472-1879

申し込み後3週間以上はかかるそうです。

*　　　*　　　*

Q：手軽に200LXを速くする方法はないでしょうか?

A　**autoexec.bat**の中に、次の1行を追加してください。

```
mode con rate=32 delay=1
```

これは、キーリピートしたときの繰り返し文字が入力される速度と、キーリピートしたときの文字の反復を始めるまでに経過する時間を設定するものです。これで体感速度を上げることができます。これはとても便利ですので、試してみてください。もし不具合が発生したら、RATE＝20にして試してください。

購入についてのアドバイス

購入に当たって注意するする点は、しっかりした販売店から購入することです。東京では、**新宿紀伊國屋書店アドホック店**がお勧めですが、東京以外の方は、店員さんの基礎知識を十分確認してから購入しましょう。

私は北海道なので、**札幌DEPOツクモ店**から購入しました。品物が入荷しずらかったり、外国に知人がいるようでしたら、個人輸入する方法もあります。個人輸入で買った方の情報では、１週間程度で品物が届いているようです。

ただし、価格は個人輸入も国内の販売店で購入してもあまり変わりませんので、ご注意ください。

購入するに当たって、もう一つ注意する点があります。それは、200LXの1MBを購入するか、2MBを購入するかです。実売価格で１万円程度の価格差ですので、私は2MB版を購入することを勧めます。理由は、200LXで日本語を表示するためのフォントをCドライブに置くことができたり、EMSを多く取ることができるからです。

また、フォントをCドライブに置くと変換速度を若干早くできますから、ストレスを感じないで漢字変換できます。

しかし、200LXは、発売当初に品薄状態でしたので、入手し易さから考えると1MB版を購入するほうがよいという方もいますので、状況を判断して購入してください。

購入するための基本構成を、下記に示しましょう。

(1) 2MB版＋10MBメモリカード

もっとも基本的な購入構成です。

(2) 2MB版のみ

英語だけで使うなら問題ありません。

(3) 2MB版＋20MBメモリカード＋ポケットモデム（またはカードモデム）

通信端末としての構成です。

(4) 2MB版＋40MBメモリーカード

めざせパワーユーザー。

私が友人に聞かれたら、間違いなく1 番を勧めます。しかし、メモリカードに関しては、価格が安くなっていることと**PCMCIA 2.0対応**のハードディスクが発売されるとのウワサもあるので、予算のある限り大きな物を購入することをお勧めします。

Part 12

by omimi & K. Takei

使い勝手が200%向上する

HP200LX周辺機器あ・ら・カルト

付：海外通販で優れもの輸入

＊価格は変更されることがありますので、購入時にはご注意ください。

HP200LXは、立派なパソコンです。ということは、周辺機器を接続して、パワーアップできる、ということでもあります。

そこで、200LXを使うために必須のアクセサリから、使い勝手が200%向上するゴキゲンな周辺機器まで紹介してみたいと思います。

〈これは絶対必需品！〉編

200LX本体だけでは、電子手帳に毛がはえた程度の機能の割には値段の高い、融通の効かない機械でしかありません。200LXは、パソコンとリンクして使ってこそ、はじめて威力を発揮する！　……というのは、いうまでもないですよね。

そこで手始めに、YHPから発売されている純正品のご紹介。

コネクティビティ・パック(F1021B) ……………………………¥ 16,000

DOS/V用の200LXのシステムマネージャ・エミュレーションソフトと、ケーブル（F1015AとF1023A）のセットです。

このソフト、英語モードでしか起動しないのですが、100LX用のフリーソフト（DSP14）を使うと、あら不思議。ちゃんと日本語が使えてしまうのです。

DOS/Vマシンを使っているなら、迷わずに200LX本体と同時に購入していただきたいomimiイチオシのアクセサリです。

コネクティビティ・パック FD版（F1021-60001）　…………¥　9,700

上のコネクティビティ・パックのソフトのみのバージョンです。ケーブル類は調達済みという方は、こちらをどうぞ。

IBM PC/AT互換機用接続ケーブル(F1015A) ……………………¥　3,200

200LXのRS232Cポートから、ほかのパソコンへ接続するために必要なケーブルです。

終端は、IMB PC用の小さいサイズの9ピンの232Cポート。98ユーザーの方は、次の変換コネクターキットも忘れずに購入しましょう。

変換コネクタキット(F1023A) ……………………………………¥　3,200

このキットに含まれるコネクタは、次の4つです。

①F1015A←→25ピン232Cオス（ストレート）……98の232Cに接続
②F1015A←→25ピン232Cメス（ストレート）……ストレートケーブルに接続
③F1015A←→25ピン232C（オス）　……モデムに接続
④F1015A←→F1015A　……200LX同士のケーブルでの転送に使用

Mac用接続ケーブル(F1016A) ……………………………………¥　3,200

Macユーザー&オーナーの方は、こちらのケーブルをどうぞ。結線はリバースですので、オムロンモデムには使えません。

ACアダプタ(F1011A #ABA) ……………………………………¥　5,500

大量のファイル転送時には欠かせない、ACアダプタ。もちろんこれで、ニッカド電池の充電も行なえます。

ACアダプタとしては割高ですが、収納がスマートなので、携帯には便利です。

フラッシュカード 5MB〜20MB ……………………¥ 59,000 〜 ¥155,000

これぞ究極のコレクターズアイテム。YHPに恨みはないのですが、フラッシュメモリなら、EPSONのFRASH PAKERのほうが割安の上、優秀なソフトつきですしね。

でも、HPのフラッシュメモリのデザインは、カッコイイ！(ワタシ、5MBを200LXと同時に買ってしまいました)

STACKERという、ドライブ圧縮ソフトつき（日本では、効果は低い)。

19B II・28S用革ケース（92169B） ……………………………¥　3,200

知る人ぞ知る、HP純正200LX用革ケース。ホントは電卓用のケースなのですが、なんと200LXにピッタリなのだな、コレが。

私は95LXの時代から、このケースを愛用しています。封筒型で、200LXの出し入れはちょっと面倒ですが、クッションも抜群で、なによりHPのロゴがうれしい！

ちなみに色は、黒です。

〈予算があれば揃えてみたい〉編

HP100/200LXというのは、アメリカ・ヨーロッパでダントツの人気のPDA。当然、周辺機器のラインナップも充実しています。

そこで、オススメの周辺機器を４点、紹介したいと思います。

ほかにはどんな周辺機器があるのか興味を持った方は、200LX本体のパッケージに添付されているハガキで「**HPパームトップペーパー**」を申し込んでみてください。きっとあなた好みの周辺機器に出会えるはずです。

DATA VIZ MACLINK PLUS ……………………………………¥ 19,800

カタログには「マッキントッシュ用コネクティビティ・パック」とありますが、システムマネージャのエミュレーションではありません。Macに付属の「ファイルエクスチェンジャ」と似た操作方法で、200LXのファイルをMacに転送できます。

Macユーザーの悩みのひとつに、ファイル転送をどうするかというのがあったのですが、それも**MACLINK PLUS**を使えば解決です。

Leather Case ……………………………………………¥ 12,800

システム手帳感覚の200LX専用革ケース。パッと開けばすぐに200LXが使え

る親切設計です。ほかにもメモパッド、ペンホルダーやカードホルダーもあって、ビジネスはこれさえあれば安心、という感じですね。

Sparcom Print Station ……………………………………………¥ 29,800

200LXをこのプリントステーションの上にドッキングさせるだけで、プリンタポートが増えてしまうという、ドックです。

プリントステーションに装備されているのは、シリアルインタフェースポートと、パラレルインタフェースポート。

大抵のプリンタは、パラレルポートですから、これさえあれば200LXからのプリントアウトもOK！

（ソフトとプリンタがESC/Pをサポートしていなければダメです）

Drive100 ……………………………………………………………¥ 49,800

HP100/200LX専用の3.5インチ外付けフロッピーディスクドライブです。

データの転送をRS232Cで行なうので、一般の外付けFDDより転送速度は落ちますが、それでも11,500bpsのHP100/200LXの最高スピード。

9600bps（一部機種は38600bps）が最高の98と、どちらの転送が早いかは、なかなか興味のあるところではあります。そして、このDrive100の偉いところは、充電池内蔵で携帯して使える、ということ。

RS232Cケーブルでの転送がどうも慣れない、という向きにぜひオススメしたい周辺機器です。フォーマットは、1.44MBと720KBをサポートしています。

以上、駆け足でHP100/200LXの周辺機器をご紹介してきましたが、いかがでしたでしょうか。お気に入りの周辺機器は、見つかりましたか？

このほかにも、まだまだたくさんの周辺機器があるはずです。

この先はぜひ、あなたの手で、魅力的な周辺機器を探してみてください。

面白そうなものが見つかったら、ぜひ個人輸入にチャレンジしてみてくださいね。いまはもう、FAX 1枚で注文できるんですから。面白グッズが見つかったら、ついでにomimiまで御一報いただけると、とってもうれしいです（笑）

※輸入品の価格は、日本の輸入代理店の希望小売価格です。個人輸入を利用する場合には、価格が異なりますので御注意ください。

海外通販で優れもの輸入

《HPPPで情報収集》

HP200LXが発表されたとき、ぼくがもっとも驚いたのは、日本での発売がアメリカより1か月遅れるという点だった。

なに、パソコンのソフトじゃ常識じゃないか、なんてしたり顔にいわないでほしい。100LX、これは**ユーロバージョン**だったが、ヨーロッパで販売さているものと寸分違わぬ製品が、日本でも販売されていたのだ。200LXはUSバージョンになるが、これが日本語化されてDOSやPIMが日本語で利用できるならともかく、**USバージョン**そのもの、まったく同じ製品が、なぜ日本ではアメリカよりも1か月も遅れての発売なのか？

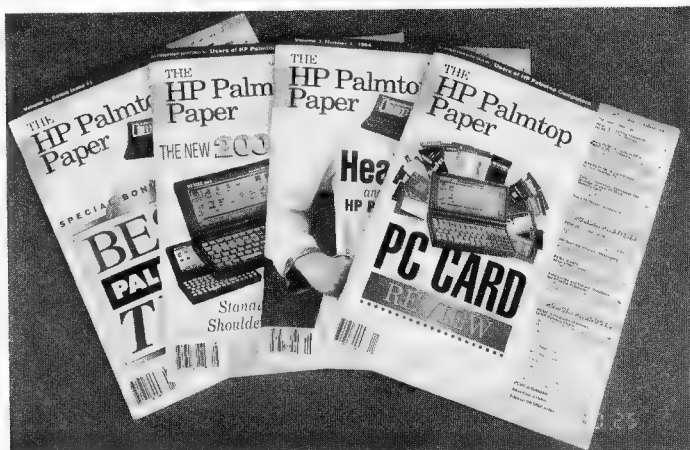
もちろん、メーカーの販売戦略だってあるだろう。製品の流通問題だってある。大量の販売台数が見込めるアメリカでまず発売し、ひと息ついたところで日本の店頭に並ぶ、ということだったかもしれない。もともと**HEWLETT PACKERD**はアメリカの企業なのだ。

だが、なにか釈然としない。200LXが発売され、同時に95/100LXが製造中止になる。米CompuServeで、200LXを入手したという書き込みを目にするたびに、何とか1日も早く入手する方法はないものか、と頭をひねったのだ。

200LX本体は、しかし前述したように、発売と同時にアメリカでも大人気で、しかもアメリカから取り寄せても値段的には日本で購入した場合とほとんど変わりないことがわかり、個人輸入はあきらめた。そう、まっ先に思いついたのは、**アメリカからの個人輸入**だったのだ。

個人輸入などというと、なんとも胡散臭くて嫌がる人も少なくない。また、輸入実務を行なうほど英語力がないとか、税関手続きが面倒だろうなどという先入観もある。実は、ぼくもそうだったのだ。

ところが、たとえば海外のパソコン雑誌などを見るにつけ、日本との価格差はいかんともしがたいものがあった。ことにここ数年のDOS/Vブーム、それにつながるATマシンブームで、国産マシンからATマシンへと主力機を移行したぼくにとって、海外のマシンは安くて速くて美味しいという三拍子そろった吉

図12.1 HPPP誌

野屋の牛丼のようなものだったのだ。

100LXを購入したとき、「**HP Permtop Paper**」という雑誌の購入申込書が添付されていた。

この雑誌、HP100LX専門の月刊誌で、年2回はフリーソフトなどを集めたフロッピーディスクも添付されるという。CompuServeにアクセスして、100LXの情報やソフトをダウンロードしている身にとっては、なんともうれてい雑誌ではないか。

そこで、**定期購読**を申し込んだ。定期購読といっても、添付されていたハガキに名前と住所を記入し、購読料を引き落とすためのクレジットカードの番号を書き、切手を貼って投函しただけだ。

それからひと月もたたないうちに、最初の**HPPP誌**（HP Permtop Paper）がやってきた。翌月のクレジットカード明細に、ちゃんと申込書に書かれていた購読料と送料分が請求されていて、きっちり引き落されたのは当然だが。

いやあ、実に簡単ではないか。クレジットカードさえあれば、世界中から欲しいものが取り寄せられるのだ。そして欲しいものが、このHPPP誌にたくさん掲載されているのだ。200LXも、このHPPP誌にあったし、FAXカードモデムや100/200LXの皮ケース、アプリケーションソフト、フラッシュカードといったものもたくさん載っている。

HPPP誌に限らず、ちょっと大きな書店に行けば、海外の雑誌が並んでいる。これらの雑誌には、必ずといっていいほど通信販売業者が広告を出しているの

だ。この広告が、個人輸入の情報源にうってつけなのである。

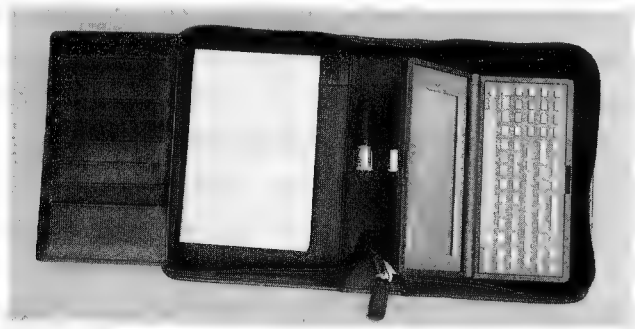
《個人輸入はこんなに手軽！》

まず最初に輸入したのは、HPPP誌に載っていた100LX用の皮ケースだった。100LXがすっぽりとおさまり、しかもPCカードを収納するポケットがついた黒い皮ケースだ。おまけにメモパッドまでついている。これで約6000円。

皮がどの程度のものか心配だったが、けっこう評判のケースだった。実際にケースに100LXが入った写真も掲載されており、まあまあかなという感じだ。たとえ交渉や輸入に失敗しても、最初の授業料としては、そう高くもない。

そこで、掲載されていた電話番号に国際電話をかけ……、といいたいところだが、そんなことはしない。第一、電話をかけたって満足に話ができるわけじゃない。

広告には、フリーダイヤルの電話番号とともに、注文用のFAX番号が掲載されていた。実は、海外通販の業者は、最近ではどこもこの形式になりつつあるようなのだ。注文は、電話でもFAXでもOK。しかも電話はフリーダイヤルときている。もっとも、日本からはこのフリーダイヤルにつながらなかったりするため、どちらにしても電話をかけるのはあまりメリットがない。

図12.2　まず最初の個人輸入品：皮ケース

FAXはどうか。欲しい品物が決っていて、しかも支払い方法（たいていクレジットカードでの支払いになる）が決っていれば、直接注文のFAXを送ってしまえばいい。

FAXがない？　だいじょうぶ。たとえばNIFTY-ServeのようなFAX配信サ

ービスのあるネットに入っていれば、電子メールを送るのとまったく同じ要領で、海外にだってFAXが送れてしまう。

文面はどうするか？　そんなものは、注文品さえ相手に通じればいいのだ。送り先と引き落し用のカード番号が伝わればいい。文面なんて、ひどく簡潔なものでかまわないのだ。

書店に行き、**個人輸入ガイド**といったタイトルの本を１冊購入してくれれば、注文用の文面など嫌というほど載っている。その１つを、アレンジして書き直せばいい。もし同じようなものがあれば、宛先と送信先と品物名の欄だけ書き換えるだけでもいい。

たとえばこんな具合だ。

図12.3　オーダーシートの例

(Sample)

Tarou Yamada
1-1-1 Ootemachi,
Chiyoda-ku, Tokyo
JAPAN
tel .(JAPAN)011-81-3-3333-xxxx
fax.(JAPAN)011-81-3-3334-xxxx

ACE Technologies, Inc.
592 Weddell Drive #6,
Sunnyvale, California, 94089
U.S.A.

Dec 25, 1994

Dear Sirs,
I would like to order as follows.
Please arrange as early as possible

< Order Items >
1. Leather Case　Item No. C-101
2. HP 200LX(2MB)　Item No. A-20xx
< Pay by VISA >
Card#　: 1234 56789 01234 5678
Exp.date : July. 1997
Ship to (by Air)

In terms of the color, I appreciate your arranging black.
Please note that I will have to cancel this order should any other colors be used.
And, I would like to receive a copy of your latest catalog sent to my address.

Best regards,

Tarou Yamada
山田太郎

こうして夜中にFAXを送った。ファクシミリもあるが、ネットのサービスのほうが手軽だから、そちらを利用した。夜中に送ったのは、先方が営業時間中だからだ。休日や営業時間外に送付されるのでは心配だから、現地との時差を確認したほうがいい。これは100/200LXの**WorldTime**を利用すればいい。

FAXを送って待つこと5日。なんとたった5日で、日本から注文した品物がアメリカから届いてしまった。あいにく小包が届いた日に留守にしていて、郵便局に持って帰られてしまい、翌日でなければ引き取れなかったが、それでも6日で、注文した品物を手にできたのだ。

英語で話をするわけでもない、面倒な英文を書くわけでもなし。支払いが大変なわけでもない。

それからまた5日ほどして、**Invoice**（送付状）がFAXされてきた。翌月のカード明細書には、指定されていた代金と送料が、きちんと請求されていた。何の失敗もなかった。心配するほどの、何事も起こらなかったのだ。

ただ、ひとつだけ計算外のことがあった。これをきっかけに、個人輸入の味をしめてしまったのだ。こんなに手軽だから、つい注文を出してしまい、翌月の請求書は女房に見せられない。

一度味をしめると、もう止まらない。ことパソコン関連の製品ときたら、海外のほうがまず日本より安いのだ。最近では日本でも安くなってきたが、それでも自分で輸入するのと、業者が輸入して販売するのとでは、やはり価格差がある。

もちろん、その価格差だけのデメリットもあるだろう。たとえば、マシンが初期不良だったらどうすればいいか。注文したのにいつまでも品物が届かなかったらどうか。不正に高額の請求がきたらどうしよう……。

だが、まず心配いらない。日本にも輸入されて販売されているような、ちゃんとした雑誌に掲載されている業者なら、広告を掲載する前に雑誌社が調査しているのがふつうだ。ひどい業者は、この時点で省かれている。

また、通信販売が発達しているアメリカでは、きちんと商品を届け、不正な請求など行なわないことで信用が成り立っている。たとえ日本からの注文でも同じこと。

では、初期不良だったら？　考えてみてほしい。国内で購入したマシンなどで、初期不良で交換した経験のある人はどのくらいいるだろう。もちろん、中にはこういう不良品にばかり当たってしまうという人もいるだろう。が、多くの人はそんな経験などないだろう。もし不良品に当たってしまったら、それこ

そいい経験ではないか。FAXを出し、英文で文句を書き連ね、ときには電話をかけ、返品する――そんな経験は、頼んだってできるものじゃない。

そして、そんな経験が一度でもあれば、もう怖いものなどないではないか。もはや個人輸入のエキスパートにさえなれる。

100LX用に購入した皮ケースに味をしめ、次に200LX用の皮ケースも輸入した。200LXに内蔵されていた**PocketQuicken**の100LX用ソフトも購入した。FAXモデムカードにいたっては、国内の半値だった。PCカードが次々に出てくる現在は、次にどのカードを買おうか楽しみにもしている。

200LXの次は250LXか300LXか――。今度こそ、1日も早く輸入してやるぞと、いまから楽しみでさえある。

図12.4 こんなケースも輸入した

<本書紹介のフリーソフト・シェアウェア最新版所在一覧>

ソフト	所在	内容
・KDISP200.COM	FYHOOC/LIB 11/ 1	KDSPN072.LZH kdisp200.com Version 0.72
・恵梨沙フォント	FYHPPC/LIB 15/359	ELISA090.LZH 恵梨沙フォント Ver.0.90
・FEP100	FYHPPC/LIB 11/ 5	FEPHSORC.LZH FEP100.EXM(2.11++) SOURCE
・JISHOS	FYHPPC/LIB 15/187	JISYOS.LZH 単漢字辞書(KMEMO,FEP,FEP100,
・JISHOL	FYHPPC/LIB 15/240	JISYOLL.LZH JMEMO用辞書(改^3)版
・FEPSET	FYHPPC/LIB 15/176	FEPSET11.LZH FEPSET&READAPP
・FONTMAN.EXE	FYHPPC/LIB 7/ 77	FMAN12A .LZH fontman 1.2.9
・YADC	FYHPPC/LIB 7/ 85	YADC09C .LZH yadc 0.9.6
・JPKHN14X	FYHPPC/LIB 15/293	JPKHN14X.LZH
・H2FONT	FYHPPC/LIB 15/170	h2font.lzh DOS/C 半角フォント修正版
・FONT14	FYHPPC/LIB 15/ 17	FONT14.LZH JMEMO用14Dot Font
・PANSI.SYS	FYHPPC/LIB 7/ 84	PANSI094.LZH ANSI.SYS代用品 (SYS & COM)
・EVA	FYHPPC/LIB 8/ 71	EVA200 .LZH 音の出るEVA完成 サンプル付き
・RDISK	FYHPPC/LIB 7/ 71	RDISK500.LZH Remote-Disk Version 5.00
・WTERM	FGALWT/LIB 3/310	WD226SP .LZH WTERM-J AX・DOS/V 2.26 SUPER
・KTX	FGALTM/LIB 9/ 7	KTXV126 .LZH KTX(DOS/V版) v1.26 full set
・MKFAX	FYHPPC/LIB 8/ 5	MKFAX100.LZH コンパクトFAX送受信IBM/98
・SRFAX	FYHPPC/LIB 15/365	SRFAX101.LZH 100LX用FAX送受信V1.1
・LE	FYHPPC/LIB 8/ 18	LE065 .LZH 100LX用VIEWER 暫定版 Ver0.65
・LE14	FYHPPC/LIB 15/286	LE055a14.lzh FONT.14対応
・CLKUP31M.SYS	FMODEM/LIB 8/ 12	CLKUP003.LZH 100LX BIOS Patch for 31MHz
・CLKUP31.COM	FMODEM/LIB 8/ 12	CLKUP003.LZH 100LX BIOS Patch for 31MHz
・MIMAC.LZH	FYHPPC/LIB 15/432	MIMAC .LZH 100LXがMacの真似
・MICONS01.LZH	FYHPPC/LIB 10/ 49	MICONS01.LZH WIN,MAC,有名アプリ アイコン大集
・ICON100.LZH	FYHPPC/LIB 15/260	ICON100.COM Ver1.00 アイコン作成 正式リリース
・HPTRIS.ZIP	FYHPPC/LIB 15/263	HPTRIS.ZIP - TETRIS GAME
・GEDIT080.LZH	FYHPPC/LIB 8/ 51	GEDIT080.LZH PCXエディタ
・CAPLX103.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 21	CAPLX103.LZH 100LX/200LX画面キャプチャーTSR
・FDPC301.LZH	FGALBT/LIB 6/813	FDPC301.LZH FDPC v3.01 IBM英語メッセージ版
・TAPTRY.EXE	FCIS /LIB 5/ 42	TAPTRY.EXE TAPCIS試用フルパックセット
・TYPERLX.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 56	TYPERLX .LZH 95/100/200LX 炎のタイピング
・TREE110.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 25	TREE110 .LZH 森林浴はいかがですか(EXM版)
・E2JM056.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 2	E2JM056 .LZH 和英英和辞典eng2jap.exm0.56
・J2ED9409.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 18	J2ED9409.LZH 和英辞書 94年9月版
・E2JD9409.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 17	E2JD9409.LZH 英和辞書 94年9月版
・L1DB70.LZH	FYHPPC/LIB 7/ 86	L1DB070 .LZH データベース<->テキスト変換
・CAKE.LZH	FYHPPC/LIB 8/ 60	CAKE .LZH おいしいケーキ屋さんDB
・Jリーグ公式戦データー集	FYHPPC/LIB 15/278	Jリーグ公式戦データー集

- **KOYOMI94.LZH** FYHPPC/LIB 8/ 52 KOYOMI95.LZH 24節気＋6輝ADB形式データ新版
- **JRS9411.LZH** FYHPPC/LIB 10/ 3 JRS9411.LZH 新幹線時刻表94年11月まで
- **METRO010.LZH** FYHPPC/LIB 10/ 61 METRO030.LZH GDB: 東京メトロDB Ver. 0.30
- **HOLI95.LZH** FYHPPC/LIB 10/ 38 HOLI95 .LZH 祝日data 95年版
- **TURBO.ZIP** CIS/HPHAND TURBO.ZIP
- **RC.ZIP** CIS/HPHAND RC.ZIP
- **VR100.ZIP** CIS/HPHAND VR100.ZIP

あとがき

HP100LXというのは、実にセンセーショナルなマシンだった。新書程度のサイズでありながら、ちゃんとしたIBM PCで、DOS/V用のソフトが使えて、文字もモードを変更すれば見やすい大きさになる。しかも内蔵ソフトの機能がすごい。長年愛用してきた手帳がかすんで見えるほどに優秀で、しかも扱えるデータの量は基本的にパソコンだから桁違い。機能が優秀なアメリカ製のマシンは、たいていデザインがイマイチだったりするのだけれども、100LXはオシャレなのだ。そんなHP100LXの製造中止のウワサを聞いたのが、94年7月。同時に後継機種のウワサも聞いたけれども……。いやな、予感がした。いままでHP100LXというのは、ユーザーが育ててきたマシンだ。発売メーカーのサポートセンターでさえ、「詳しい販売店でお尋ねください」「NIFTY-Serveでお尋ねください」と答えていた程なのだ。だが、100LXの成功、そして新機種発売を期に、いろんなものが商業ベースで動き始めるはずだ。そしてその予感は、日本語化キットの発売という形で、的中した。たしかに、いままでかわいがっていたマシンがメジャーになるのは、とてもうれしい。けれども、自分の手のひらにあったHP100LXというマシンが、どこか遠くの存在になってしまうような、一抹の寂しさもあって……。そういった感情から、NIFTY-Serveで「HP100LX 大フィナーレプロジェクト」なるものを呼び掛けたところ、「そのプロジェクト、出版しませんか?」とのお誘いがあって、この本が世に出ることとなった。

出版する以上、オンライン向けのプロジェクトをそのまま本に焼き直すことは出来なかったが、HP100LXへの想いや携帯端末が実現する新しい生活を描くことはできたのではないかと思う。マーケティング至上主義の現代において、ユーザーがゼロから育てたHP100LXという歴史的事実、ユーザーの熱い想い、そしてHP100/200LXというマシンの面白さを感じていただければ、幸いである。願わくば、HP200LXを手にとるきっかけになれば、これ以上の喜びはない。

最後に、この本を出版するにあたり、多数の方のご協力をいただいた。YHP広報室の関川さん、EPSON販売の宮坂さん・田中さん、パームトレーディングの橋本さん、NIFTY-Serve FYHPのSYSOP三橋さん、紀伊國屋書店アドホック店と事務機担当の植木さん、そしてNIFTY-Serveで「HP100LX 大フィナーレプロジェクト推進委員会HP」に参加していただいたみなさんに、この場をお借りして感謝の意を表したいと思う。

omimi

編者あとがき——鉄腕アトム世代の言い訳

21世紀には、なにもかもコンピュータによって制御され、ロボットが動きまわり、自家用車が空を飛ぶ——手塚治虫の鉄腕アトムで育った世代は、そんな夢を子どものころから見続けてきた。ぼくもアトム世代なのだ。そのアトム世代が中年にさしかかろうとしているいま、21世紀までほんの数年と迫ったいま、夢のいくつかは実現しただろうか? たしかに、ぼくらはコンピュータに囲まれ、あまつさえパソコンを扱い、電話回線を通じて日本中、いや世界中の見知らぬ人々と交信さえしている。だが、なんだかちょっと違うぞ。鉄腕アトムを見ながら描いていた21世紀とは、かなり隔たりがある。

そんなことを感じはじめたころ、HP100LXが出現した。驚きだった。パソコンに馴染んでいるはずだったのに、手のひらにのるこのパームトップパソコンを手にしただけで、心が弾み、うきうきしてくるのだ。公園や喫茶店に出かけてパソコン通信のログを閲覧したり、ゲームを楽しんだり、リモコンソフトでテレビをつけたり、そして公衆電話につないでパソコン通信をやったり、ときにはこの小さなパソコンで原稿を書いたり……。 忘れかけていた夢を、21世紀の夢を、この小さなパソコンが再びぼくに呼び覚ましてくれたのだ。

100LX購入の顚末を、NIFTY-Serveの「本と雑誌フォーラム」に掲載した。それに呼応するように、さまざまな使い方や利用法が出てきた。そして、読者のなかから実況文学という新しい文学も出てきた。この、きわめて文科系的パソコン利用法を、なんとか広く紹介したいと思っていた矢先、200LX発売の報が届いた。100LXユーザーと、そして新たな200LXユーザーと、そしてまだ手にしていない文科系ユーザーに、この夢にあふれるパソコンとその個人的利用法を紹介したいと、omimiさんにお願いしてできあがったのが本書である。

各原稿の根底に流れているものは、きわめて個人的な100/200LXの利用法だ。が、それこそがパソコンの神髄——その個人的な利用法をのぞき見ることで、実は逆に21世紀の人類の生活がかいま見られるといっても過言ではない。

本書は、NIFTY-ServeのFBOOKC、FYHPPCに掲載されたメッセージに加筆したもの、本書のために改めて起草したものなどを、パソコン通信を利用してまとめた。本作りもそんな時代になったのだと、鉄腕アトム世代はなんだか感慨深い。

94年11月　　　　武井一巳

<著者紹介>

武井一巳(QGA00010)

ジャーナリスト、テクニカルライター。HP100/200LXに惚れぬいて、ついに書籍化を実現。肌身離さず200LXを持ち歩いているものの、これで原稿を書くことはない。それほど大切にしてるのだ。

omimi(KFB01374)
超駆け出しのフリーライター。ほかにアルバイト編集者・フリーシステムオペレーター・オンライン作家などの肩書きを持つ（フリーターとも言う（笑))。95LX、100LX、そして200LXとパームトップPCシリーズをこよなく愛する好青年(!?)。

西東万里(PXK04604)
フリーライター。NIFTY-Serve・FBOOKC（本と雑誌・クリエイターズフォーラム）のSUB-SYSを務める。東京都杉並区在住。

水城 雄(SDI00751)
作家。NIFTY-Serve・FBOOK（本と雑誌フォーラム）のSYSOP。NIFTYではオンライン小説も連載。その成果である小説「赤日の曠野」は高い評価を得ている。「小説工房」を主宰し、電脳草子を推進する活動派。福井在住。

SS1(PFG02720)
アクティブ・ネットワーカー。アクティブとして、シェアードされた発言を目指し、焼き鳥ウェアを提唱している。現在、ニフティ・サーブのFYHPPCフォーラムでサブシスとして会議室を運用している。

RIN(MXF03212)
RINです。PCの事など全く「トンチンカン」でしたが、FYHPの皆様のご尽力で無事100LXを使っております。鍛えて頂いたお陰で日商認定ワープロマスターやってます。母も元気です(困るくらい……)。

IIYAN(GFB01667)
1963年4月5日生まれ、31歳。北海道で生まれ北海道で育つ北海道人。HP100LXが発売され、その魅力に取り付かれる。パソコン通信を通じてomimi氏を初めとするパワーユーザーと知り合えたのが、100LXにはまった原因である。いつからか、omimi氏とQ&A集をまとめ、フォーラムのライブラリにアップするようになっていた。私は、今思う100LXと巡り会えたことが、妻と知り合えたと同じぐらい価値があったと……。

文科系ユーザーのための
HP100LX/200LX活用ハンドブック

編　　者	武井一巳
発 行 者	佐藤和男
発 行 所	株式会社 メディア・テック出版 〒102 東京都千代田区富士見2-7-17 富士合金第2ビル5階 電　話　03 (3237) 7536
印 刷 所	有限会社三光デジプロ 〒350-11 埼玉県川越市今福1024-17

ISBN4-944080-22-0

ISBN4-944080-22-0 C0055 P2200E

HP200LXへの長い道のり　武井一巳
HP200LXパワーレポート　omimi
HP200LX日本語化キットのインストール　武井一巳
HP100LXと暮らすプライベートライフ　西東万里
ドキュメント「HP100LX最期の日——紀伊國屋書店アドホック店'94/7/31」　omimi
HP100LXの神々たち　SS1
電子ネットワークの世界で具体化する「電脳草子」計画とは?　水城　雄
禁断のクロップアップに挑戦!　武井一巳
こいさん奮戦記　RIN
フリーソフトでパワーアップ
HP100LX/200LXトラブルシューティング　IIYAN
HP200LX周辺機器アラカルト　omimi

メディア・テック出版
定価2,200円(本体2,136円)